

東関東自動車道(千葉・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 1

－ 市原市海保野口遺跡 －

平成10年 3月

日 本 道 路 公 団
財団法人 千葉県文化財センター

東関東自動車道(千葉・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 1

いちばら かいほ の ぐち
— 市原市海保野口遺跡 —



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第335集として、日本道路公団の東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴って実施した市原市海保野口遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、多量の縄文土器や大珠型土製品が出土するなど、この地域の縄文時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人 千葉県文化財センター
理 事 長 中 村 好 成

凡 例

- 1 本書は、日本道路公団による東関東自動車道（千葉・富津線）建設に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県市原市海保字野口1、193-1ほかに所在する海保野口遺跡（遺跡コード219-038）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、第3章の貝層の部分を副所長川島利道が、第2章の縄文時代の石器と第3章の集落の部分を主任技師新田浩三が担当し、残りを研究員森本和男が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、日本道路公団、市原市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「千葉、姉崎」
 - 第2図 国土地理院発行 1/50,000地形図「姉崎、木更津」
 - 第5図 市原市役所発行 1/2,500市原基本図「H-4」
 - 第6図、第269図 国土地理院発行 1/25,000地形図「姉崎」
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和43年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	東関東自動車道（千葉・富津線）関係遺跡調査の経緯	1
2	東関東自動車道（千葉・富津線）関係遺跡の調査概要	1
3	海保野口遺跡調査の経緯	1
4	海保野口遺跡の調査方法	5
第2節	海保野口遺跡の位置と環境	6
1	遺跡周辺の地形	6
2	周辺の遺跡	10
第2章	遺構と遺物	11
第1節	旧石器時代	11
第2節	縄文時代	30
1	縄文時代早期の炉穴	30
2	炉穴出土土器	90
3	縄文時代中期の遺構	144
4	縄文時代中期の遺構出土土器	181
5	遺構出土の石器	225
6	縄文時代の包含層出土遺物	232
第3節	奈良・平安時代	283
第4節	中近世	290
第3章	まとめ	305
第1節	旧石器時代の石器群	305
第2節	海保野口遺跡出土の縄文土器について	305
第3節	海保野口遺跡における縄文時代早期の集落形成	306
1	縄文時代早期条痕文期の集落の概要	306
2	海保野口遺跡における礫群形成	306
第4節	海保野口遺跡における縄文時代中期の集落形成	310
1	縄文時代中期加曾利E式期の集落の概要	310
2	石器の再生加工	316
3	集落の形態	316
第5節	海保野口遺跡検出の貝層ブロックについて	318
1	貝層ブロックの調査方法と概要	318
2	貝層ブロックの整理方法と概要	318
3	まとめ	321
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	東関東自動車道(千葉・富津線) 関係の遺跡1(1/50,000).....	2	第31図	炉穴(3).....	36
第2図	東関東自動車道(千葉・富津線) 関係の遺跡2(1/50,000).....	3	第32図	炉穴(4).....	37
第3図	年度別発掘調査範囲.....	5	第33図	炉穴(5).....	38
第4図	調査グリッド配置図.....	6	第34図	炉穴(6).....	39
第5図	海保野口遺跡周辺の地形.....	7	第35図	炉穴(7).....	40
第6図	海保野口遺跡の位置と周辺の遺跡 (姉崎、1/25,000).....	8	第36図	炉穴(8).....	42
第7図	旧石器確認グリッド配置、 旧石器出土範囲図.....	12	第37図	炉穴分布図(4、中央部).....	43
第8図	土層断面図.....	12	第38図	炉穴(9).....	45
第9図	第1ブロック遺物分布図.....	13	第39図	炉穴(10).....	46
第10図	第2ブロック遺物分布図.....	14	第40図	炉穴(11).....	47
第11図	第3ブロック遺物分布図.....	15	第41図	炉穴(12).....	48
第12図	第5ブロック遺物分布図.....	16	第42図	炉穴(13).....	49
第13図	第6ブロック遺物分布図.....	17	第43図	炉穴(14).....	51
第14図	第7ブロック遺物分布図.....	18	第44図	炉穴(15).....	52
第15図	第8ブロック遺物分布図.....	19	第45図	炉穴(16).....	53
第16図	第9ブロック遺物分布図.....	20	第46図	炉穴(17).....	54
第17図	第10ブロック遺物分布図.....	21	第47図	炉穴(18).....	56
第18図	第11ブロック遺物分布図.....	22	第48図	炉穴(19).....	57
第19図	第13ブロック遺物分布図.....	23	第49図	炉穴(20).....	58
第20図	第14ブロック遺物分布図.....	24	第50図	炉穴(21).....	60
第21図	第15ブロック遺物分布図.....	25	第51図	炉穴(22).....	61
第22図	旧石器(1).....	26	第52図	炉穴(23).....	62
第23図	旧石器(2).....	27	第53図	炉穴(24).....	64
第24図	旧石器(3).....	28	第54図	炉穴(25).....	65
第25図	旧石器(4).....	29	第55図	炉穴(26).....	66
第26図	炉穴分布図(1、1/1,000).....	31	第56図	炉穴(27).....	68
第27図	炉穴分布図(2、1/1,000).....	32	第57図	炉穴(28).....	69
第28図	炉穴分布図(3、北部).....	33	第58図	炉穴(29).....	71
第29図	炉穴(1).....	34	第59図	炉穴(30).....	72
第30図	炉穴(2).....	35	第60図	炉穴分布図(5、南部).....	73
			第61図	炉穴(31).....	74
			第62図	炉穴(32).....	75
			第63図	炉穴(33).....	76
			第64図	炉穴(34).....	77

第65図 炉穴 (35)	79	第102図 炉穴出土土器 (29)	116
第66図 炉穴 (36)	80	第103図 炉穴出土土器 (30)	117
第67図 炉穴 (37)	81	第104図 炉穴出土土器 (31)	118
第68図 炉穴 (38)	83	第105図 炉穴出土土器 (32)	119
第69図 炉穴 (39)	84	第106図 炉穴出土土器 (33)	120
第70図 炉穴 (40)	85	第107図 炉穴出土土器 (34)	120
第71図 炉穴 (41)	86	第108図 炉穴出土土器 (35)	121
第72図 炉穴分布図 (6、南端部)	87	第109図 炉穴出土土器 (36)	122
第73図 炉穴 (42)	88	第110図 炉穴出土土器 (37)	123
第74図 炉穴出土土器 (1)	89	第111図 炉穴出土土器 (38)	124
第75図 炉穴出土土器 (2)	90	第112図 炉穴出土土器 (39)	125
第76図 炉穴出土土器 (3)	90	第113図 炉穴出土土器 (40)	126
第77図 炉穴出土土器 (4)	91	第114図 炉穴出土土器 (41)	127
第78図 炉穴出土土器 (5)	92	第115図 炉穴出土土器 (42)	128
第79図 炉穴出土土器 (6)	93	第116図 炉穴出土土器 (43)	129
第80図 炉穴出土土器 (7)	94	第117図 炉穴出土土器 (44)	130
第81図 炉穴出土土器 (8)	95	第118図 炉穴出土土器 (45)	131
第82図 炉穴出土土器 (9)	96	第119図 炉穴出土土器 (46)	132
第83図 炉穴出土土器 (10)	97	第120図 炉穴出土土器 (47)	133
第84図 炉穴出土土器 (11)	98	第121図 炉穴出土土器 (48)	134
第85図 炉穴出土土器 (12)	99	第122図 炉穴出土土器 (49)	135
第86図 炉穴出土土器 (13)	100	第123図 炉穴出土土器 (50)	136
第87図 炉穴出土土器 (14)	101	第124図 炉穴出土土器 (51)	137
第88図 炉穴出土土器 (15)	102	第125図 炉穴出土土器 (52)	138
第89図 炉穴出土土器 (16)	103	第126図 炉穴出土土器 (53)	139
第90図 炉穴出土土器 (17)	104	第127図 炉穴出土土器 (54)	140
第91図 炉穴出土土器 (18)	105	第128図 炉穴出土土器 (55)	141
第92図 炉穴出土土器 (19)	106	第129図 炉穴出土土器 (56)	142
第93図 炉穴出土土器 (20)	107	第130図 炉穴出土土器 (57)	143
第94図 炉穴出土土器 (21)	108	第131図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図 (1、1/1,000)	145
第95図 炉穴出土土器 (22)	109	第132図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図 (2、1/1,000)	146
第96図 炉穴出土土器 (23)	110	第133図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図 (3、北部)	147
第97図 炉穴出土土器 (24)	111	第134図 127住居跡	148
第98図 炉穴出土土器 (25)	112	第135図 126住居跡	149
第99図 炉穴出土土器 (26)	113		
第100図 炉穴出土土器 (27)	114		
第101図 炉穴出土土器 (28)	115		

第136図	125、128住居跡	150	第170図	123住居跡出土土器	189
第137図	123住居跡	151	第171図	124住居跡出土土器(1)	190
第138図	124A、B住居跡(1)	152	第172図	124住居跡出土土器(2)	191
第139図	124A、B住居跡(2)	153	第173図	122住居跡、121貯蔵穴出土土器(1)	192
第140図	122住居跡、121貯蔵穴	154	第174図	122住居跡出土土器	193
第141図	120、198住居跡	155	第175図	121貯蔵穴出土土器(2)	194
第142図	埋壘	156	第176図	120住居跡出土土器(1)	195
第143図	貯蔵穴、土坑(1)	158	第177図	120住居跡出土土器(2)	196
第144図	貯蔵穴、土坑(2)	159	第178図	120住居跡出土土器(3)	197
第145図	炉穴以外の縄文時代の遺構分布図 (4、中央部)	161	第179図	120住居跡出土土器(4)	198
第146図	014住居跡	162	第180図	198住居跡出土土器(1)	199
第147図	015、117住居跡	163	第181図	198住居跡出土土器(2)	200
第148図	003住居跡	164	第182図	埋壘(1)	201
第149図	002住居跡	165	第183図	埋壘(2)	202
第150図	貯蔵穴、土坑(3)	166	第184図	埋壘(3)	203
第151図	貯蔵穴、土坑(4)	167	第185図	埋壘(4)	204
第152図	貯蔵穴、土坑(5)	169	第186図	貯蔵穴、土坑出土土器(1)	205
第153図	貯蔵穴、土坑(6)	170	第187図	貯蔵穴、土坑出土土器(2)	206
第154図	貯蔵穴、土坑(7)	171	第188図	貯蔵穴、土坑出土土器(3)	207
第155図	貯蔵穴、土坑(8)	172	第189図	貯蔵穴、土坑出土土器(4)	208
第156図	炉穴以外の縄文時代の遺構分布図 (5、南部)	173	第190図	014住居跡出土土器(1)	209
第157図	216住居跡	174	第191図	014住居跡出土土器(2)	210
第158図	貯蔵穴、土坑(9)	176	第192図	014住居跡出土土器(3)	210
第159図	貯蔵穴、土坑(10)	177	第193図	014住居跡出土土器(4)	211
第160図	貯蔵穴、土坑(11)	178	第194図	015住居跡出土土器(1)	212
第161図	貯蔵穴、土坑(12)	179	第195図	015住居跡出土土器(2)	213
第162図	炉穴以外の縄文時代の遺構分布図 (6、南端部)	180	第196図	117住居跡出土土器	214
第163図	127住居跡出土土器(1)	182	第197図	003住居跡出土土器	215
第164図	127住居跡出土土器(2)	183	第198図	002住居跡出土土器(1)	216
第165図	127住居跡出土土器(3)	184	第199図	002住居跡出土土器(2)	217
第166図	127住居跡出土土器(4)	185	第200図	貯蔵穴、土坑出土土器(5)	218
第167図	126住居跡出土土器(1)	186	第201図	貯蔵穴、土坑出土土器(6)	219
第168図	126住居跡出土土器(2)	187	第202図	貯蔵穴、土坑出土土器(7)	220
第169図	125、128住居跡出土土器	188	第203図	貯蔵穴、土坑出土土器(8)	220
			第204図	貯蔵穴、土坑出土土器(9)	221
			第205図	貯蔵穴、土坑出土土器(10)	222
			第206図	貯蔵穴、土坑出土土器(11)	223

第207図	貯蔵穴、土坑出土土器 (12) ……………	224	第241図	グリッド出土土器 (4) ……………	261
第208図	貯蔵穴、土坑出土土器 (13) ……………	225	第242図	グリッド出土土器 (5) ……………	262
第209図	炉穴出土土器……………	226	第243図	グリッド出土土器 (6) ……………	263
第210図	住居跡出土土器 (1) ……………	227	第244図	グリッド出土土器 (7) ……………	264
第211図	住居跡出土土器 (2) ……………	228	第245図	グリッド出土土器 (8) ……………	265
第212図	住居跡出土土器 (3) ……………	229	第246図	グリッド出土土器 (9) ……………	266
第213図	住居跡出土土器 (4) ……………	230	第247図	グリッド出土土器 (10) ……………	268
第214図	住居跡出土土器 (5) ……………	231	第248図	グリッド出土土器 (11) ……………	269
第215図	住居跡、貯蔵穴出土土器……………	232	第249図	グリッド出土土器 (12) ……………	270
第216図	土器分布図 (大グリッド) ……………	233	第250図	グリッド出土土器 (13) ……………	271
第217図	調査区北側土器分布図 (小グリッド) ……	234	第251図	グリッド出土土器 (14) ……………	272
第218図	グリッド出土土器 (1) ……………	235	第252図	グリッド出土土器 (15) ……………	273
第219図	グリッド出土土器 (2) ……………	236	第253図	グリッド出土土器 (16) ……………	274
第220図	グリッド出土土器 (3) ……………	237	第254図	グリッド出土土器 (17) ……………	275
第221図	グリッド出土土器 (4) ……………	238	第255図	グリッド出土土器 (18) ……………	276
第222図	グリッド出土土器 (5) ……………	239	第256図	グリッド出土土器 (19) ……………	277
第223図	グリッド出土土器 (6) ……………	241	第257図	グリッド出土土器 (20) ……………	278
第224図	グリッド出土土器 (7) ……………	243	第258図	グリッド出土土器 (21) ……………	279
第225図	グリッド出土土器 (8) ……………	244	第259図	グリッド出土土器 (22) ……………	280
第226図	グリッド出土土器 (9) ……………	245	第260図	グリッド出土土器 (23) ……………	281
第227図	グリッド出土土器 (10) ……………	246	第261図	203方形周溝状遺構、001塚出土土器…	282
第228図	グリッド出土土器 (11) ……………	247	第262図	歴史時代、中近世の遺構分布図…	284
第229図	グリッド出土土器 (12) ……………	248	第263図	206方形周溝状遺構 ……………	285
第230図	グリッド出土土器 (13) ……………	249	第264図	203方形周溝状遺構 ……………	286
第231図	グリッド出土土器 (14) ……………	250	第265図	203方形周溝状遺構土層断面図 ……	287
第232図	203方形周溝状遺構出土土器 ……………	251	第266図	方形周溝状遺構……………	288
第233図	001塚出土土器 ……………	252	第267図	001塚 ……………	289
第234図	剝片・剝片石器分布図 (大グリッド) ……	253	第268図	001塚土層断面図 ……………	290
第235図	調査区北側剝片・剝片石器分布図 (小グリッド) ……………	254	第269図	遺跡立地推定復元図……………	307
第236図	礫・礫石器分布図 (大グリッド) ……	255	第270図	遺跡立地鳥瞰図……………	309
第237図	調査区北側礫・礫石器分布図 (小グリッド) ……………	256	第271図	縄文時代早期の推定集落……………	311
第238図	グリッド出土土器 (1) ……………	257	第272図	縄文時代中期の推定集落……………	312
第239図	グリッド出土土器 (2) ……………	258	第273図	石鏃の再生加工……………	313
第240図	グリッド出土土器 (3) ……………	260	第274図	磨製石斧の再生加工過程……………	314
			第275図	打製石斧の再生加工過程……………	315
			第276図	貝層ブロック出土軟体動物出現量…	320

表 目 次

第1表 東関東自動車道(千葉・富津線)関係の遺跡概要……………4	第6表 グリッド出土石器属性表……………302
第2表 周辺の遺跡一覧表……………9	第7表 203方形周溝状遺構、001塚出土石器属性表……………304
第3表 遺構一覧表……………291	第8表 貝層ブロック内容物組成(1)……………319
第4表 旧石器一覧表……………296	第9表 貝層ブロック内容物組成(2)……………319
第5表 遺構出土石器属性表……………301	第10表 貝層ブロック軟体動物出土量……………319

図版目次

海保野口遺跡周辺航空写真(1967年撮影、1/13,000)	図版23 炉穴出土土器(6)
図版1 調査前風景、旧石器出土状況(1)	図版24 炉穴出土土器(7)
図版2 旧石器出土状況(2)	図版25 炉穴出土土器(8)
図版3 炉穴(1)	図版26 炉穴出土土器(9)
図版4 炉穴(2)	図版27 炉穴出土土器(10)
図版5 炉穴(3)	図版28 炉穴出土土器(11)
図版6 炉穴(4)	図版29 炉穴出土土器(12)
図版7 炉穴(5)	図版30 炉穴出土土器(13)
図版8 炉穴(6)	図版31 炉穴出土土器(14)
図版9 炉穴(7)	図版32 炉穴出土土器(15)
図版10 住居跡(1)	図版33 炉穴出土土器(16)
図版11 住居跡(2)、貯蔵穴、土坑(1)	図版34 炉穴出土土器(17)
図版12 住居跡(3)、貯蔵穴、土坑(2)、埋塞	図版35 炉穴出土土器(18)
図版13 住居跡(4)、貯蔵穴、土坑(3)	図版36 炉穴出土土器(19)
図版14 貯蔵穴、土坑(4)	図版37 炉穴出土土器(20)
図版15 方形周溝状遺構、塚	図版38 炉穴出土土器(21)
図版16 旧石器(1)	図版39 炉穴出土土器(22)
図版17 旧石器(2)	図版40 炉穴出土土器(23)
図版18 炉穴出土土器(1)	図版41 炉穴出土土器(24)
図版19 炉穴出土土器(2)	図版42 炉穴出土土器(25)、127住居跡出土土器(1)
図版20 炉穴出土土器(3)	図版43 127住居跡出土土器(2)
図版21 炉穴出土土器(4)	図版44 127住居跡出土土器(3)
図版22 炉穴出土土器(5)	図版45 126住居跡出土土器

- 図版46 125、126住居跡出土土器
図版47 123、124住居跡出土土器
図版48 122、124住居跡出土土器
図版49 122住居跡、121貯蔵穴出土土器（1）
図版50 121貯蔵穴出土土器（2）
図版51 120住居跡出土土器（1）
図版52 120住居跡出土土器（2）
図版53 120住居跡出土土器（3）
図版54 198住居跡出土土器（1）
図版55 198住居跡出土土器（2）
図版56 198住居跡出土土器（3）
図版57 埋壙（1）
図版58 埋壙（2）
図版59 埋壙（3）
図版60 貯蔵穴、土坑出土土器（1）
図版61 貯蔵穴、土坑出土土器（2）
図版62 014住居跡出土土器（1）
図版63 014住居跡出土土器（2）
図版64 015住居跡出土土器
図版65 003、117住居跡出土土器
図版66 002住居跡出土土器（1）
図版67 002住居跡出土土器（2）
図版68 貯蔵穴、土坑出土土器（3）
図版69 貯蔵穴、土坑出土土器（4）
図版70 貯蔵穴、土坑出土土器（5）
図版71 貯蔵穴、土坑出土土器（6）、203方形周溝
状遺構出土土器
図版72 001塚出土土器、グリッド出土土器（1）
図版73 グリッド出土土器（2）
図版74 グリッド出土土器（3）
図版75 グリッド出土土器（4）
図版76 グリッド出土土器（5）
図版77 グリッド出土土器（6）
図版78 グリッド出土土器（7）
図版79 グリッド出土土器（8）、132埋壙
図版80 石鏃の再生加工
図版81 磨製石斧の再生加工
図版82 打製石斧の再生加工
図版83 貝層ブロック出土の自然遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 東関東自動車道（千葉・富津線）関係遺跡調査の経緯

日本道路公団によって、東関東自動車道（千葉・富津線）の建設事業が計画された。対象区域内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて千葉県教育委員会と協議の結果、現状保存の困難な部分についてはやむを得ず発掘調査による記録保存を行うこととなり、当文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施した。

2 東関東自動車道（千葉・富津線）関係遺跡の調査概要

東関東自動車道（千葉・富津線）関係の遺跡調査は、北は千葉市から南は木更津市まで約35kmにおよび、平成元年1月から平成6年6月まで5年5カ月にわたり27遺跡を数えた。その概要は第1表にゆずるが、このうち市原条里制遺跡294,750㎡と村上遺跡群135,500㎡については別事業で実施され、東関東自動車道（千葉・富津線）として実施したのは23遺跡300,100㎡である（第1、2図、第1表）。時代別に概観すれば、旧石器時代では市原市ヤジ山遺跡や袖ヶ浦市関畑遺跡等の第2黒色帯下部から良好な石器群が出土した。縄文時代では市原市海保野口遺跡や同市大作頭遺跡を筆頭に早期条痕文期の多数の炉穴群を検出した。弥生時代では木更津市山神遺跡から集落と墓域、同市芝野遺跡から小区画水田を検出した。古墳時代では袖ヶ浦市台山遺跡から100軒を超える集落を検出し、木更津市椿古墳群中の前期の方墳から銅鉄等の副葬品、同市中越遺跡の前期住居跡から小銅鐸が出土した。奈良・平安時代では市原市今富遺跡から集落、木更津市堀ノ内台遺跡から墓域を検出した。中世では木更津市笹子城跡から空堀、曲輪等の遺構や陶磁器、石塔等の遺物を多数検出し、袖ヶ浦市山谷遺跡から市跡や街道跡を検出した。

3 海保野口遺跡調査の経緯

海保野口遺跡の発掘調査は、昭和63年度から平成元年度にかけて実施した。上層は18,500㎡と塚1基、下層は1,840㎡を本調査した（第3図）。整理作業は、平成5年度から平成9年度にかけて実施した。なお、各担当職員は下記のとおりである。

昭和63年度発掘調査

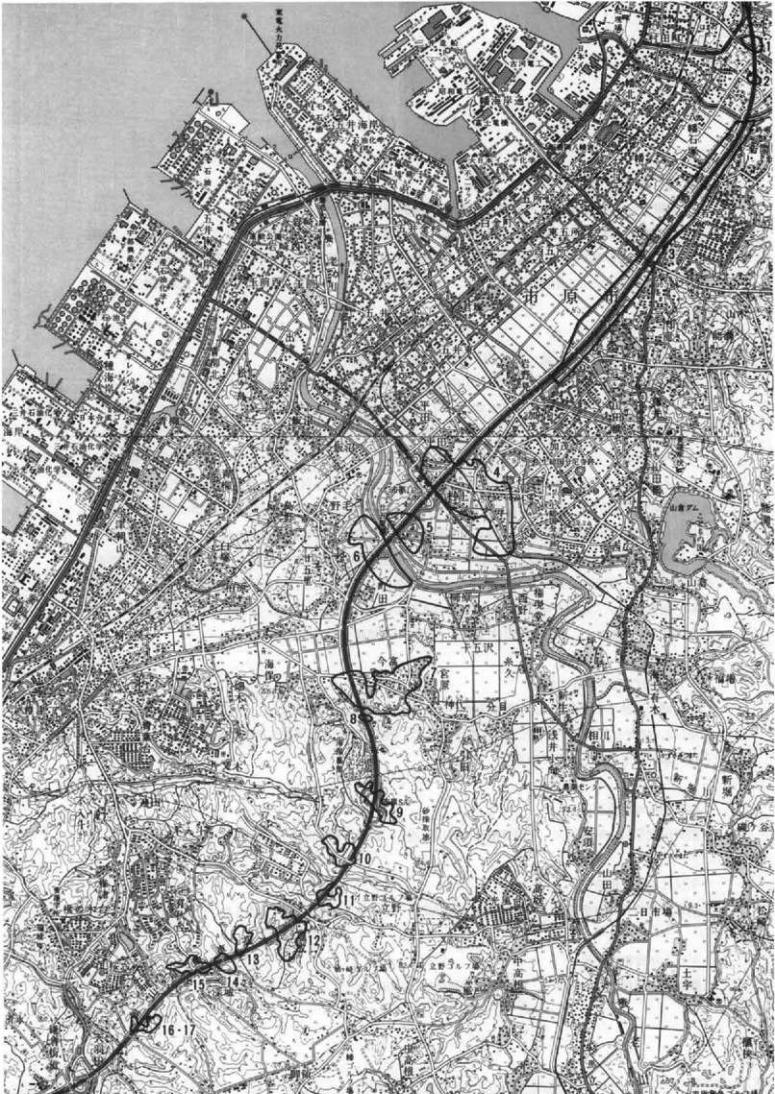
調査研究部長 堀部昭夫 部長補佐 岡川宏道 班長 佐久間豊 担当者 川島利道

平成元年度発掘調査

調査研究部長 堀部昭夫 部長補佐 阪田正一 班長 佐久間豊 担当者 川島利道

平成5年度整理作業

調査研究部長 高木博彦 市原調査事務所長 石田広美 担当者 西川博孝



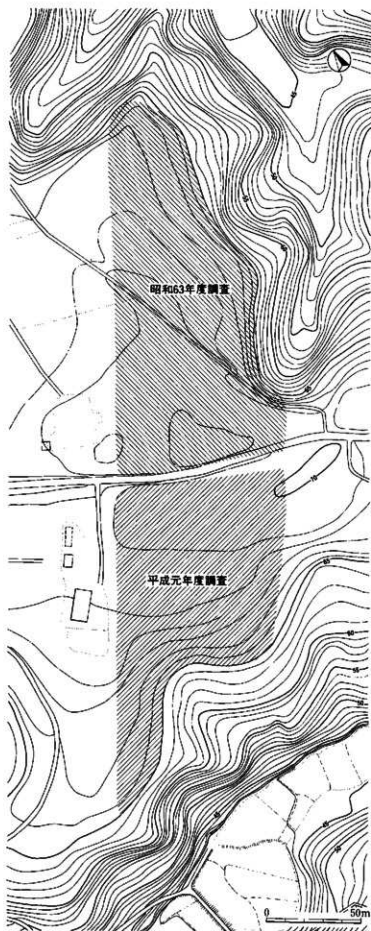
第1図 東関東自動車道(千葉・富津線)関係の遺跡1 (1/50,000)



第2図 東関東自動車道(千葉・富津線)関係の遺跡2 (1/50,000)

No	遺跡名	規模	調査期間	遺跡の内容	備考
1	古市場(1)	18,700㎡	H. 2. 1～H. 4. 6	古墳時代及び中世の遺構・遺物を検出。	
2	古市場(2)	6,800㎡	H. 2. 10～H. 2. 11	奈良・平安時代から中世の遺構・遺物を検出。木材集中箇所を検出。	
3	市原桑屋敷	294,750㎡	S. 63. 1～H. 5. 9	河川の低位段丘面に所在する遺跡で、縄文時代から中世までの遺構・遺物を検出。特に縄文時代中期後半から後期前半の貝塚、弥生時代の水田跡、奈良・平安時代の官道と考えられる古道跡の検出。下駄、曲物と多数の木製品の出土は注目される。	
4	村上	135,500㎡	H. 2. 4～H. 6. 5	河川の低位段丘面に所在する遺跡で、古墳時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出。特に奈良・平安時代の独立柱建物跡が多数発見され、遺跡の立地条件や出土遺物から当時の役割的な性格をもった遺跡と考えられる。	3遺跡合わせて「市原市村上遺跡群」として平成8年度に報告書刊行済
5	村上山王前				
6	廿五至十三割				
7	今富	25,100㎡	H. 元. 2～H. 3. 2	古墳時代から奈良・平安時代の遺構・遺物を検出。特に古墳時代後期から平安時代までの住居跡、独立柱建物跡を多数検出。	
8	今富新山	5,500㎡	H. 元. 5～H. 2. 2	旧石器時代から古墳時代までの遺構・遺物を検出。特に弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡を多数検出。	
9	大作頭	46,700㎡	H. 元. 3～H. 2. 11	旧石器時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出。特に縄文時代早期の炉穴跡を多数検出。灰皿も多量に出土。	
10	海保野口	21,900㎡	S. 63. 5～H. 2. 3	旧石器時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出。特に縄文時代早期の炉穴跡、中期の住居跡を多数検出。	本報告書
11	中伊沢	6,000㎡	H. 2. 4～H. 2. 5	縄文時代早期の土坑及び遺物を検出。	
12	百目木	12,700㎡	H. 3. 4～H. 3. 7	縄文時代早期の遺構・遺物を検出。	
13	下摩木	3,800㎡	H. 3. 1～H. 3. 2	旧石器時代から縄文時代早期の遺構・遺物を検出。	
14	志保地	7,000㎡	H. 2. 11～H. 3. 1	旧石器時代から縄文時代早期の遺構・遺物を検出。	
15	ヤジ山	17,700㎡	H. 2. 1～H. 3. 12	旧石器時代から縄文時代早期の遺構・遺物を検出。特に旧石器時代の石器集積地帯、縄文時代早期の炉穴跡を多数検出。	
16	廻山(1)	3,800㎡	H. 2. 11～H. 3. 1	旧石器時代の遺構・遺物を検出。	
17	廻山(2)	8,000㎡	H. 2. 11～H. 3. 3	旧石器時代から縄文時代の遺構・遺物を検出。	
18	台山	9,800㎡	H. 4. 11～H. 5. 3	旧石器時代から古墳時代の遺構・遺物を検出。特に弥生時代終末から古墳時代前期の住居跡を多数検出。	
19	山谷	20,100㎡	H. 4. 1～H. 6. 6	旧石器時代から中世の遺構・遺物を検出。特に14世紀から15世紀の街道跡と市跡は注目される。	
20	関畑	43,700㎡	H. 3. 4～H. 5. 3	旧石器時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出。特に旧石器時代の石器集積地帯を多数検出。	
21	芝野	8,100㎡	H. 元. 4～H. 3. 11	小櫃川北岸の自然掘防上に所在する遺跡で、弥生時代から中世の遺構・遺物を検出。特に弥生時代の小区画水田跡は注目される。	
22	榑古墳群	4,000㎡ 古墳1基	H. 3. 1～H. 4. 7	弥生時代後期から古墳時代の遺構・遺物を検出。古墳の主体部はすべて木棺直葬。直刀、刀子、網鏃、鉄鏃、耳環、玉環が出土。	
23	笹子城跡	9,900㎡	H. 3. 4～H. 5. 2	中世城郭に関する遺構・遺物を検出。特に空堀跡、独立柱建物跡、虎口跡、曲輪、土坑等を多数検出。中世海磁器も多量に出土。	
24	金二矢台	7,800㎡	H. 3. 7～H. 4. 7	旧石器時代から中世の遺構・遺物を検出。特に縄文時代前期の土坑を伴う集石群を検出。	
25	廻ノ内台	1,300㎡	H. 4. 2～H. 4. 3	旧石器時代から奈良・平安時代の遺構・遺物を検出。奈良・平安時代には火葬墓を主体とした墓域と考えられる。	
26	山神	8,200㎡	H. 5. 3～H. 5. 10	旧石器時代から奈良・平安時代の遺構・遺物を検出。弥生時代の集石群と墓域跡が明確に分離して検出。	
27	中越	3,500㎡	H. 6. 1～H. 6. 5	旧石器時代から奈良・平安時代までの遺構・遺物を検出。古墳時代前期の住居跡から小銅鐸が出土。	

第1表 東関東自動車道(千葉・富津線)関係の遺跡概要



第3図 年度別発掘調査範囲

平成6年度整理作業
 調査研究部長 西山太郎
 市原調査事務所長 石田広美
 担当者 野口行雄、城田義友

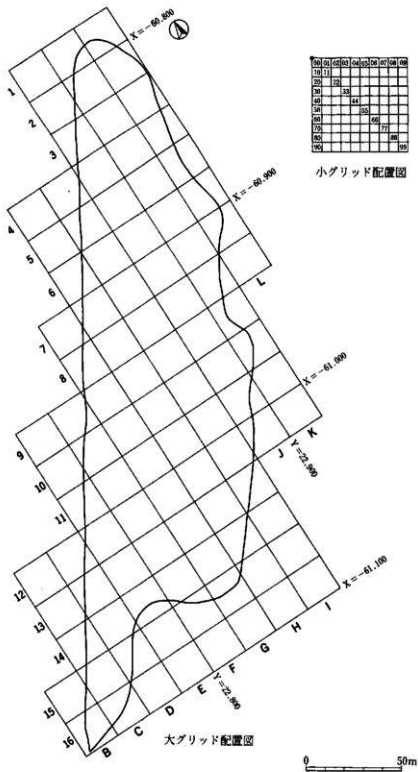
平成7年度整理作業
 調査研究部長 西山太郎
 市原調査事務所長 森尚登
 担当者 森本和男

平成8年度整理作業
 調査研究部長 西山太郎
 南部調査事務所長 高田博
 担当者 森本和男

平成9年度整理作業
 調査研究部長 西山太郎
 南部調査事務所長 高田博
 担当者 川島利道、森本和男、
 新田浩三

4 海保野口遺跡の調査方法

調査の方法は、発掘調査の開始に際して、対象となる区域を包含するよう国土地理院の国土座標を基準とした発掘区の設定を行った。この発掘区は基本的に20×20mの方眼を大グリッドとして設定し、20mを単位に西からB、C、D、…、L、北から1、2、3、…、16と呼称し、さらにその大グリッドを2×2mの小グリッドに100分割した。本調査の前に、上層10%、下層4%の確認調査を行い、その結果を考慮して本調査範囲を決定して全面調査を実施した(第4図)。

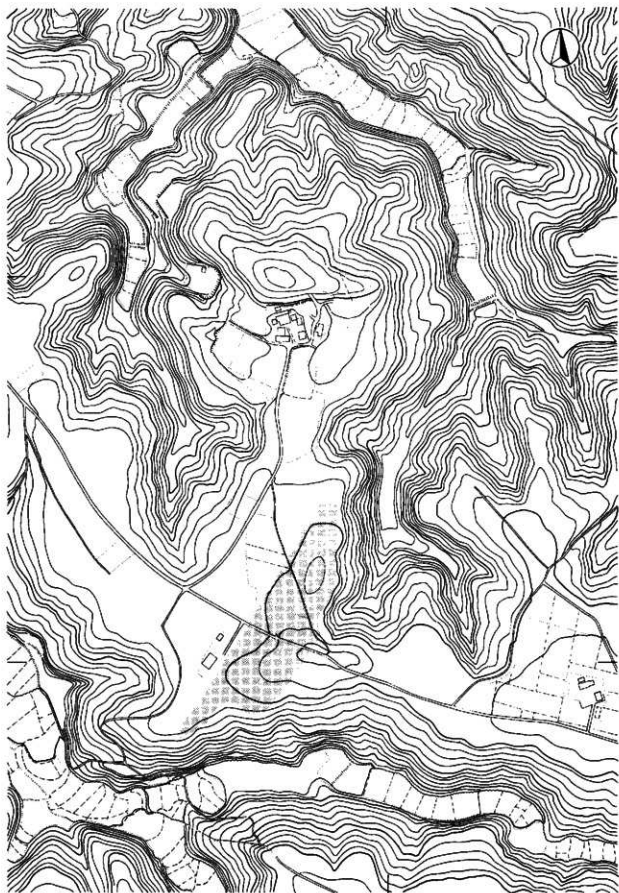


第4図 調査グリッド配置図

第2節 海保野口遺跡の位置と環境

1 遺跡周辺の地形

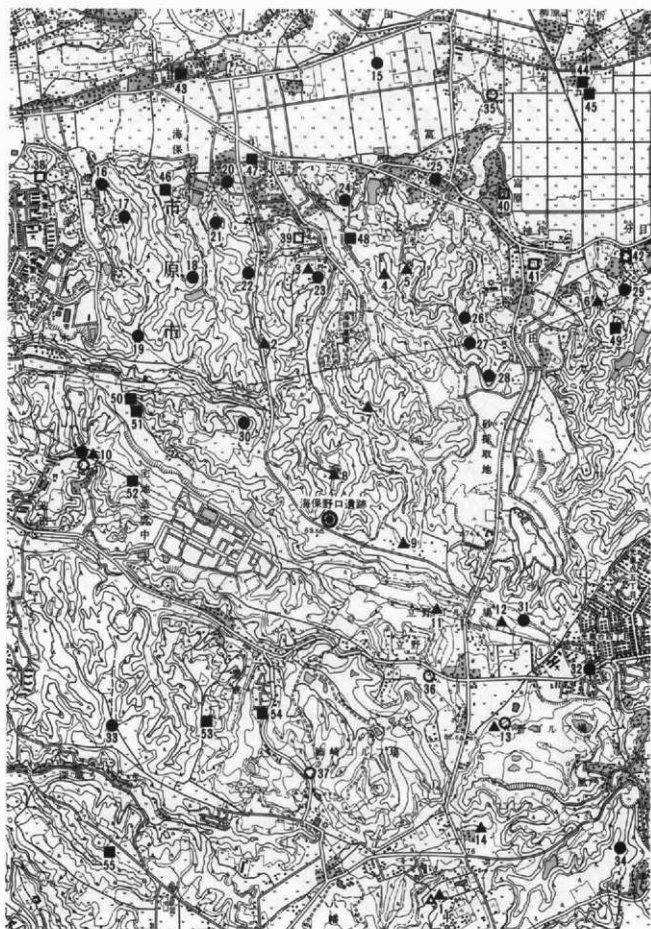
海保野口遺跡の地籍は、市原市海保字野口1、193-1他である。房総半島の北部には洪積世台地(下総



調査範囲

0 250m

第5図 海保野口遺跡周辺の地形



▲旧石器時代 ▲縄文時代 ●古墳時代 ○歴史時代 □中世 ■近世

第6図 海保野口遺跡の位置と周辺の遺跡 (姉崎、1/25,000)

台地)がひろがり、その中央を南東から北西へ養老川が流れている、また、その南側、房総半島の中央を東から西へ小櫃川が流れている。海保野口遺跡は、この二つの河川にはさまれた台地上にあり、標高は約70mであった。遺跡周辺の地形は、東京湾、もしくは養老川に注ぐ大小の谷が樹枝状に刻まれている。

遺跡から東京湾の旧海岸線までは、直線距離にして約5kmである。東京湾に流れ込む小さい川、椎津川の支流によって開析された狭い谷が遺跡の南側に隣接している。また遺跡の北側にも、養老川に注ぐ支流によって開析された狭い谷がある。海保野口遺跡は、そのような狭い開析谷に挟まれた比較的小さい台地の一角に位置する。台地は幅約200mで南北に伸び、台地と谷との標高差は南側で約30m、北側で40mであった。今回の発掘調査は、東関東自動車道の道路予定地内だけの調査であったが、遺跡の範囲は台地全域に広がると考えられる(第5図、図版1)。

	時代	遺跡名		時代	遺跡名
1	旧石器時代	南原	31	古墳時代	山見塚古墳
			32		中高根古墳群
1	縄文時代	南原	33		上椎木古墳
2		彌宜台	34		山の上古墳群
3		八幡台		歴史時代	片又木
4		本山	10		風戸外迎山
5		今富峰ノ下	13		今富庵寺
6		堂谷台	35		金出台
7		大作頭	36		永作
8		諸久蔵	37		
9		大道			中世
10		片又木	38	海保城跡	
11		立野唐沢	39	宮原御所	
12		立野山見塚	40	神代城	
13		風戸外迎山	41	分目城跡	
14		堀込	42		
10	古墳時代	片又木	43	近世	中ノ谷富貝塚塚
15		佐敷戸古墳	44		十五沢上人塚
16		大塚古墳	45		十五沢花やしき
17		小谷古墳	46		海保大塚
18		小谷作古墳群	47		北小谷塚
19		竹谷古墳群	48		弥兵衛塚
20		公家谷古墳群	49		弥兵衛塚
21		海保吉谷前古墳	50		片又木供養塚
22		海保古墳群	51		片又木伯供養塚
23		海保神社古墳	52		大高台塚群
24		今富文蔵古墳	53		豊成供養塚
25	今富塚山	54	立野供養塚		
26	浅間山古墳群	55	深城供養塚		
27	東野古墳群				
28	引田寺山古墳群				
29	分目古墳群				
30	尾沢古墳				

第2表 周辺の遺跡一覧表

2 周辺の遺跡

養老川をのぞむ台地縁辺部に遺跡が数多く分布し、台地奥部ではその分布がやや希薄である（第6図、第2表）。縄文時代の遺跡は、台地内部の比較的狭い高台に存在する。海保野口遺跡周辺北側の小さい台地上にも縄文時代の遺跡が散在するが、海保野口遺跡に南接する開析谷を境にして、南側の台地には縄文時代の遺跡がほとんど分布しない。これらの中で調査された遺跡は少ない。古墳時代の遺跡として、養老川をのぞむ台地縁辺部に多数の古墳が分布している。これらの古墳は、下流の姉崎から今富までの左岸台地縁辺に存在する姉崎古墳群の一部を形成し、古代の海上国造の系列につながる首長墓と推定されている。台地奥部に古墳はほとんど分布しない。いくつかの台地上で土師器採集の報告がなされているので、台地上における集落遺跡の存在が考えられるが、調査例は少ない。奈良・平安時代の遺跡である今富廃寺遺跡が、養老川流域の平野部にある。今富廃寺は7世紀末に海上評（郡）の評（郡）寺として建立された。また、その西方約800mの所に、海上郡の郡衙推定地である西野遺跡があり、付近一帯は古代の時期に地方行政の要衝であった。その他にも、生産遺跡の所在が台地上からも報告されているので、付近に集落が営まれたと思われるが、発掘調査された遺跡は少ない。中世の館、もしくは城跡が川をのぞむ台地縁辺に距離をおいて点在する。時代が下って近世になると、塚が平野部と台地上に、偏在することなく分布している。

海とのかかわり合いが深かった縄文時代には、狭い開析谷に囲まれた台地上で人々の生活が営まれた。古墳時代になると、養老川流域の平野部に生産基盤が移行した。その平野を見下ろすようにして、台地縁辺部に古墳が造営された。この時代にも台地上で集落が営まれたと思われるが、実体はまだ不明である。歴史時代になると、平野部に養老川流域における地方行政の中心地がおかれた。さらに中世になると、その平野部を監視、あるいは防御するかのようにして、館あるいは城が築造されたのである。

海保野口遺跡は、そのような歴史の流れの中で、河川流域の平野部よりも、むしろ海や台地との関係が深かった頃の、人間の生活痕跡を留めた遺跡である。

第2章 遺構と遺物

海保野口遺跡の主な遺構として、旧石器時代のブロック15ヵ所、縄文時代の炉穴166基、竪穴住居跡16軒、貯蔵穴28基、埋甕7基、土坑39基、奈良・平安時代の方形周溝状遺構5基、近世の塚1基が検出された。

第1節 旧石器時代

海保野口遺跡では、確認調査の結果、15ヵ所の地点から石器が出土し、そのうち13ヵ所が石器集中地点で、残りの2ヵ所が石器単独出土地点であった(第7図)。調査範囲は台地の周辺部であるが、遺物の出土状態から台地上の調査区域外にも、旧石器時代の遺物が分布すると思われる。

基本層序

本遺跡における立川ローム層の基本層序は以下のとおりである(第8図)。

III層 黄褐色軟質ローム層。いわゆるソフトローム層。

IV層 黄褐色のハード・ローム層。赤色のスコリアを少量、黒色スコリアを中程度含む。

V層 褐色土層。立川ローム層第1黒色帯に相当する。赤色のスコリアを少量、黒色スコリアを中程度含む。上下の層よりも粘性強い。

VI層 黄褐色の硬質ローム。A T火山灰が混在する。

VII層 褐色土層。第2黒色帯上部に相当する。

VIII層 黄褐色土層。若干軟質のロームで、上下の層より粘性弱い。第2黒色帯の間層。

IX層 褐色土層。第2黒色帯の下部で、赤色スコリアを多量に含む。粘性は強い。

X層 黄褐色のハード・ローム層。黒色スコリア粒を多量に含み、赤色スコリアは微量、色調はやや灰褐色を帯びる。粘性は強い。

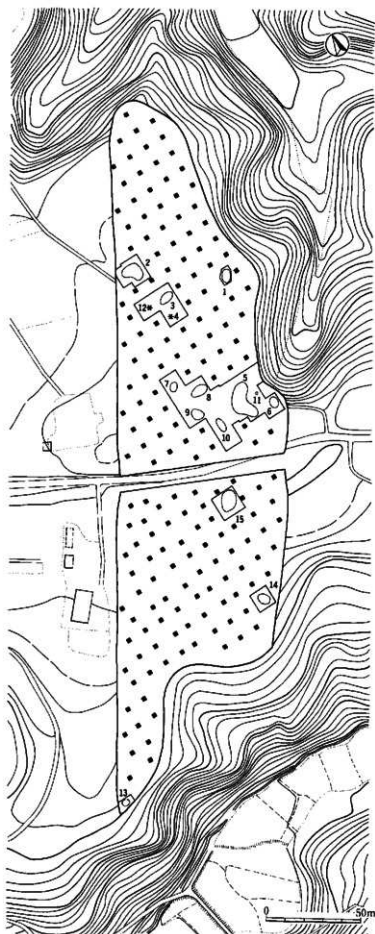
XI層 灰褐色ローム層。やや軟質で粘性が強い。黒色スコリアを微量に含む。立川ローム層と武蔵野ローム層の境に相当すると考えられる。

第1ブロック(第9図、図版1)

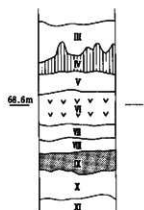
第1ブロックは調査区北側の台地縁辺に位置し、主に7K-68~7K-79のグリッドに、南北6m、東西4mの範囲にやや楕円形状に分布していた。出土層位はIII層であった。出土点数は38点で、そのうち2点ずつ3組の石器と、5点の石器1組が接合できた。

石器の石材は、チャート製が10点、砂岩製が8点、石英斑岩製が8点、メノウ製が6点、黒曜石製が3点、安山岩製が2点、細粒凝灰岩製が1点あった。各石材ごとに石器が偏在することなく散在していた。チャート製とメノウ製の石器には剥片と破片が多く、また、砂岩製、石英斑岩製、安山岩製の石器には、敲石、磨石の石器が多かった。また、ブロックの南側に敲石、磨石が多く分布していた。

第2ブロック(第10図、図版1)



第7図 旧石器確認グリッド配置、旧石器出土範囲図

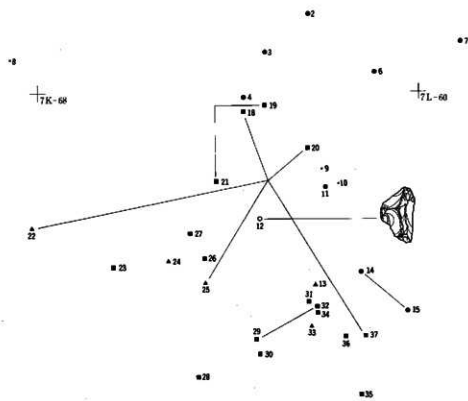
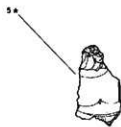


第8図 土層断面図

石層ブロック
● 単独出土地点

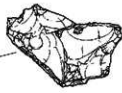


- ◆ ナイフ形石器
- 使用痕のある剥片
- 石核
- 燧石、麻石
- ▲ 礫
- 剥片
- ・ 砕片

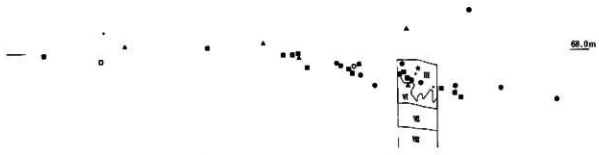


●17

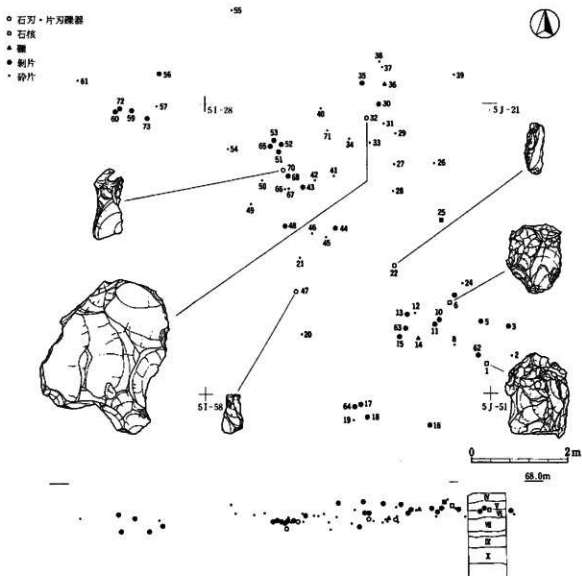
7K-68



7L-60



第9図 第1ブロック遺物分布図



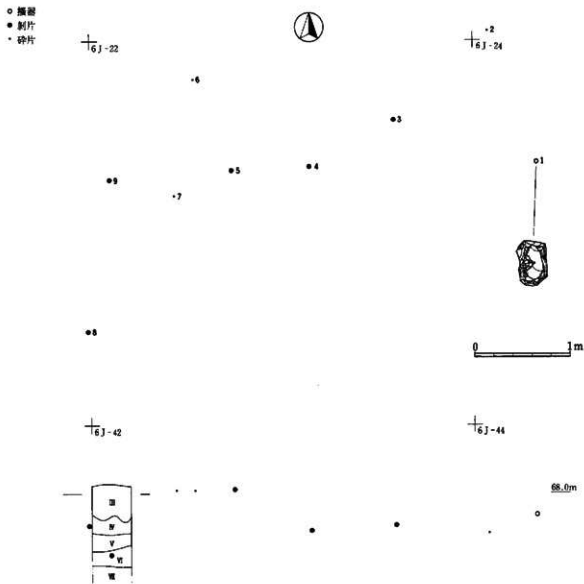
第10図 第2ブロック遺物分布図

第2ブロックは調査区北側の台地中央に位置し、主に5I-28～5J-40のグリッドに、長軸10m、短軸6mのやや楕円形状に分布していた。出土層位は、IV～VI層でやや散漫な垂直分布であった。出土点数は68点であった。

石器の石材は、チャート製が43点、凝灰質頁岩が15点、黒曜石が5点、砂岩が2点、頁岩が2点、珪質頁岩が1点であった。半分以上がチャート製の石器で、ほぼブロック全体に分布していた。凝灰質頁岩は南西側に、そして少数の黒曜石が中央付近に集中していた。中央付近に石刃、片刃礫器が、またやや周辺から石核が出土した。

第3ブロック (第11図)

第3ブロックは調査区北側の台地中央に位置し、主に6J-22～6J-33のグリッドにやや直線上に分



第11図 第3ブロック遺物分布図

布していた。出土層位はIV層が主体である。出土点数は9点であった。

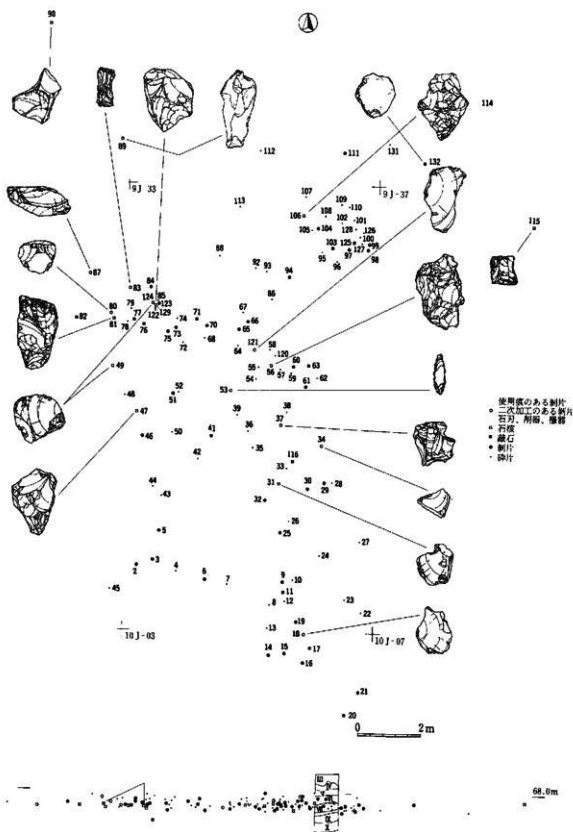
石器の石材は、チャート製が6点、頁岩が3点で、2種類の石材しかなかった。大半が剥片か、もしくは剥片で、掘器がやや離れた地点から出土している。

第4ブロック

第4ブロックは、第3ブロックの南約7mの地点からチャート製の剥片が1点出土した。

第5ブロック（第12図、図版1）

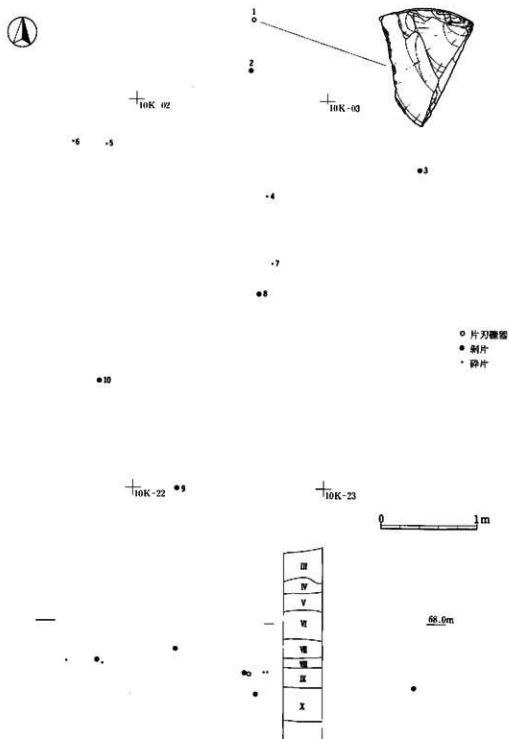
第5ブロックは、調査区北側の台地縁辺に位置し、主に9J-33~10J-06のグリッドに、南北18m、東西10mの楕円形状に分布していた。出土層位は、VI~VII層が主体であった。出土点数は129点で、そのうち



第12図 第5ブロック遺物分布図

ち2点のみ接合した。

石器の石材は、チャート製が56点、安山岩製が55点、凝灰質頁岩製が4点、珪質頁岩製が4点、黒曜石製が3点、砂岩製が2点、石英岩製が2点、細粒凝灰岩製が1点、泥岩製が1点、流紋岩製が1点であった。大半がチャート製と安山岩製の石器であるが、分布には偏在がなく両者は混在していた。西北部に使用痕のある石器、撻器、削器、石核がやや集中している。

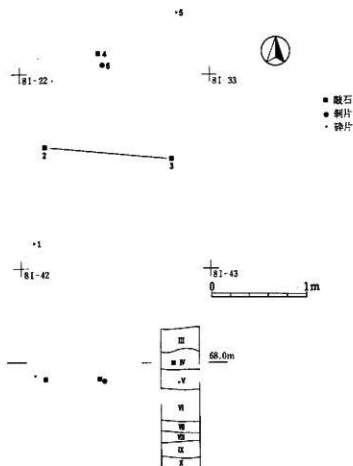


第13図 第6ブロック遺物分布図

第6ブロック (第13図、図版1)

第6ブロックは、調査区北側の台地縁辺に位置し、主に10K-01～10K-02のグリッドに分布していた。出土層位はⅧ～Ⅸ層が主体であった。出土点数は10点で、顕著に集中した分布状態ではなかった。

石器の石材は、安山岩製が5点、チャート製が4点、黒曜石製が1点であった。大半の石器は剥片か、砕片であり、また、石材による分布の偏在は見られなかった。



第14図 第7ブロック遺物分布図

第7ブロック (第14図、図版2)

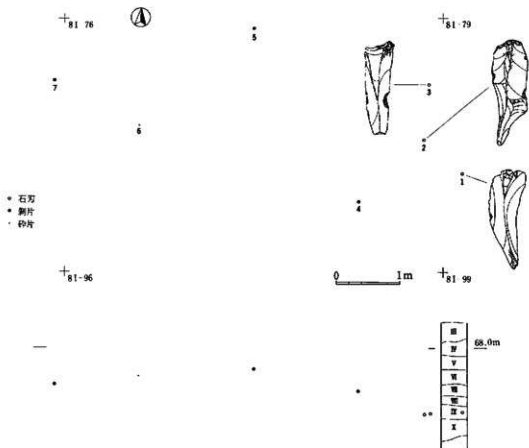
第7ブロックは、調査区北側の台地中央に位置し、8 I-12～8 I-22のグリッドに分布していた。出土層位は、V層が主体である。出土点数は6点で、そのうち2点が接合した。

石器の石材は、凝灰岩製が3点、チャート製が2点、メノウ製が1点であった。凝灰岩製の石器はすべて燧石であった。

第8ブロック (第15図、図版2)

第8ブロックは、調査区北側の台地中央に位置し、8 I-75～8 I-98のグリッドに分布していた。出土層位はⅦ～Ⅸ層であった。出土点数は7点で、顕著に集中した分布状態ではなかった。

石器の石材は、チャート製が2点、珪質頁岩製が2点、泥岩製が2点、安山岩製が1点であった。東側の第Ⅸ層から石刃が3点出土している。



第15図 第8ブロック遺物分布図

第9ブロック (第16図)

第9ブロックは、調査区北側の台地上に位置し、第8ブロックの南西約10mの地点にある。出土層位はVII層が主体である。出土点数は4点であった。

石器の石材は、チャート製が2点、泥岩製が1点、蛇紋岩製が1点で、蛇紋岩製の石器は局部磨製石斧であった。

第10ブロック (第17図)

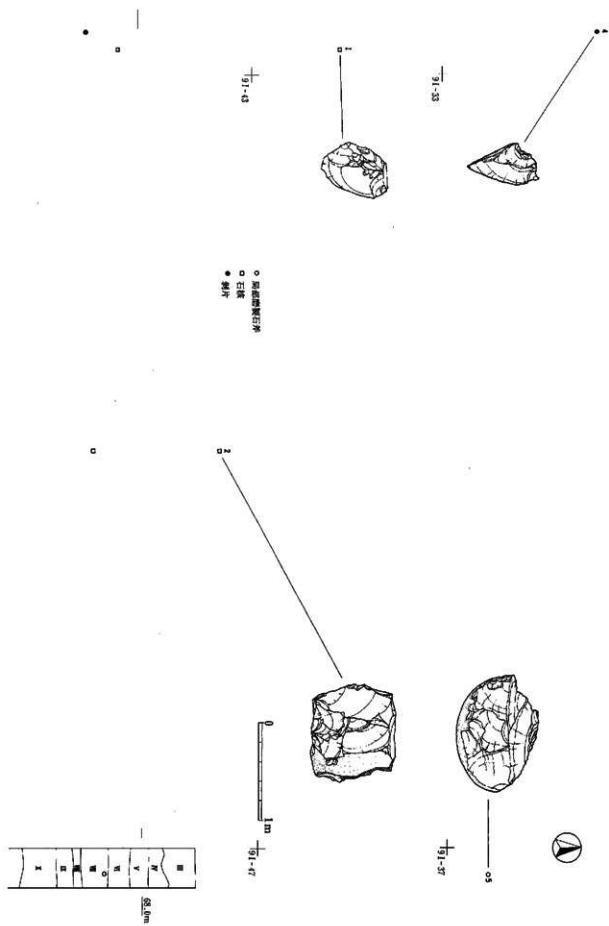
第10ブロックは、調査区北側の台地上に位置し、第9ブロックの南東約10mの地点、主に10 I-27~10 I-48のグリッドに分布していた。出土点数は4点で、出土層位はVII層であった。

石器の石材は、安山岩製が3点、頁岩製が1点で、主に剥片であった。

第11ブロック (第18図)

第11ブロックは、調査区北側の台地縁辺に位置し、第5ブロックの東側に分布する。出土点数は2点で、出土層位はV層とVI層のちょうど接する層位から出土した。

石器の石材は凝灰岩製とチャート製で、ともに礫であった。



第16図 第9ブロック遺物分布図

101-27



101-29

-5

●3

●2



●1

101-57



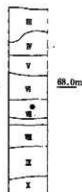
101-59

● 剥片
● 碎片

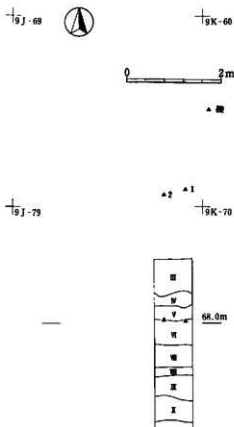
— ●

— ●

— ●



第17図 第10ブロック遺物分布図



第18図 第11ブロック遺物分布図

第12ブロック

第12ブロックは、調査区北側、第3ブロック西側5m付近から、凝灰岩製の礫が1点出土した。

第13ブロック（第19図、図版2）

第13ブロックは、調査区南端、台地縁辺部の16B-35～16B-46のグリッドから出土した。出土点数は4点で、出土層位はVII～IX層であった。台地縁辺部なので黒色帯の間層である第VIII層は存在しなかった。石器の石材は、頁岩製が2点、泥岩製、チャート製が各1点で、すべて剝片であった。

第14ブロック（第20図、図版2）

第14ブロックは、調査区南側の台地縁辺部に位置し、主に14H-21～14H-32のグリッドに分布していた。出土層位はVI層が主体で、出土点数は、9点であった。

石器の石材は、黒曜石製が5点、メノウ製、安山岩製、泥岩製、砂岩製が各1点であった。

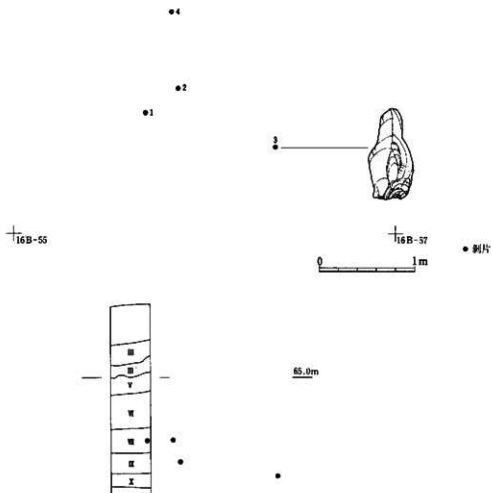
第15ブロック（第21図、図版2）

第15ブロックは、調査区南側の台地上に、11H-66～11H-77グリッドを中心に、長軸11m、短軸4mの楕円形状に分布していた。出土層位は主にVII～VIII層であった。出土点数は18点であった。

16B-35



16B-37

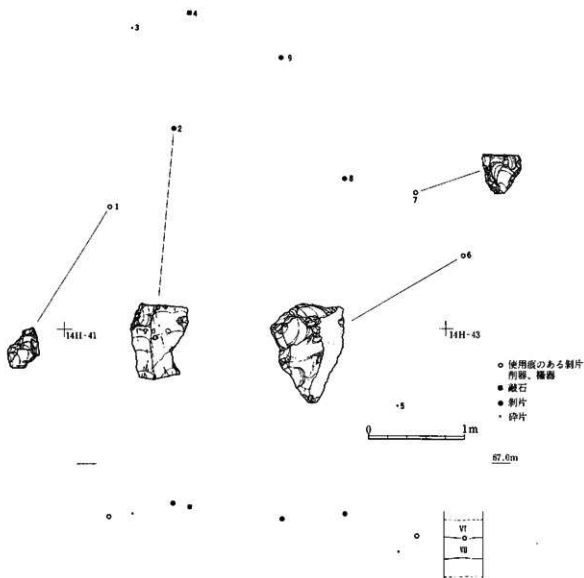


第19図 第13ブロック遺物分布図

石器の石材は、チャート製が14点、安山岩製、砂岩製、細粒凝灰岩製、頁岩製が各1点であった。大半がチャート製の石器で、チャート製以外の石器が西南隅に集中し、また、その器種はナイフ形石器、石刃、敲石であった。

遺物 (第22～25図、図版16～17)

第1ブロックから第15ブロックまで出土した石器の総点数は311点で、そのうち54点を図示した。1-16(第1ブロックの遺物番号16)はチャート製の石核であるが、第1ブロックにチャート製の不定形剥片、碎片



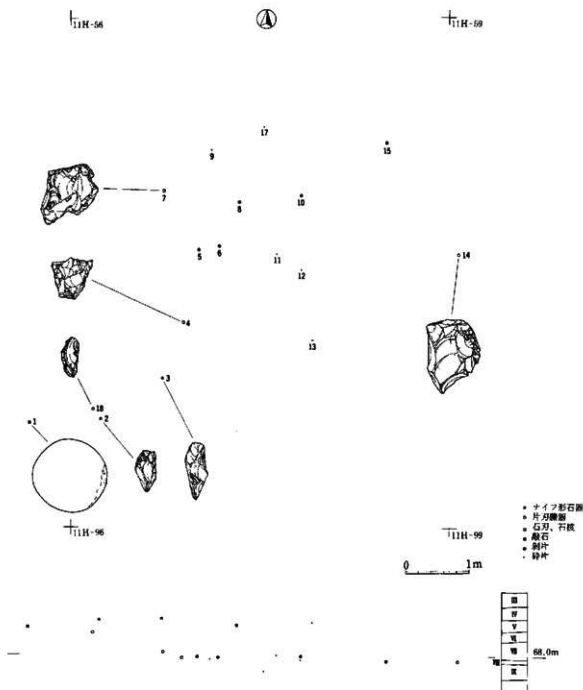
第20図 第14ブロック遺物分布図

の点数は少ない。1-12は黒曜石製の使用痕のある剥片で、不定形剥片の右側縁に使用痕が認められた。

2-32は頁岩製の片刃礫器で左側縁に調整をしている。2-47はチャート製の石刃で使用痕はない。2-22はチャート製の石刃で、左側縁下部に使用痕がある。2-1と2-6はチャート製の石核で、2-1については原石面が残っている。2-72は頁岩製、2-73はチャート製の剥片である。

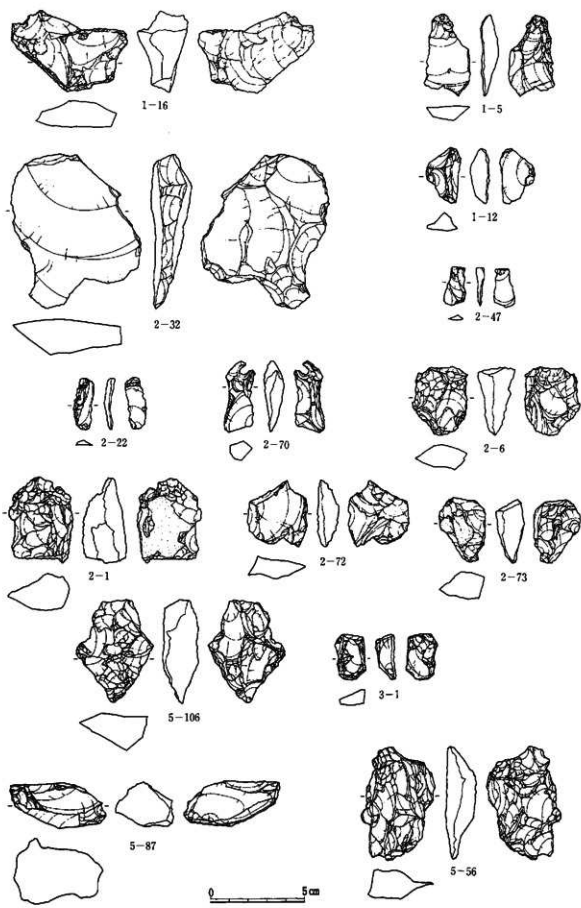
3-1はチャート製の極器で左側縁下部に微細な調整をしている。

5-106、5-87、5-56はチャート製の石核である。5-53は、チャート製の石刃で、両側縁に微細な調整を施し、原石面が一部残っている。5-83はチャート製の使用痕のある剥片で、右側縁の一部に微細

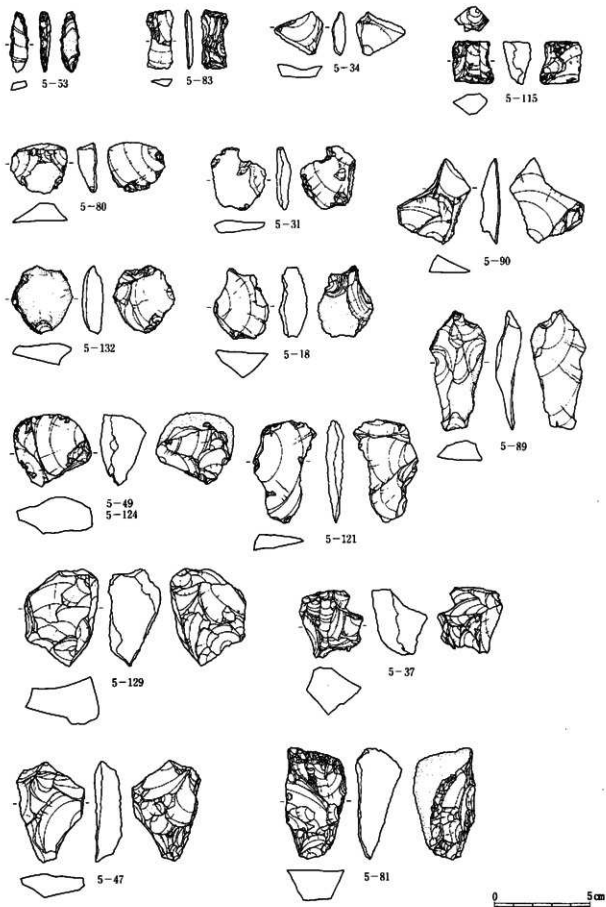


第21図 第15ブロック遺物分布図

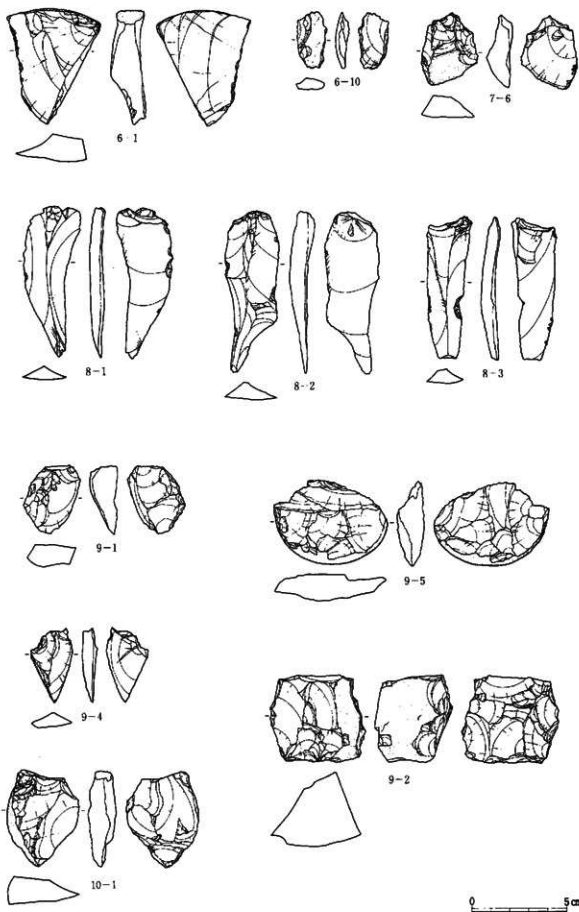
な使用痕が残っている。5-34は安山岩製の2次加工のある剥片で、左側縁一部に微細な加工痕がある。5-80と5-132はチャート製の撚器で、原石面が残っている。5-31は安山岩製の2次加工のある剥片で、両側縁に調整痕がある。5-90、5-18、5-89、5-121も同じく安山岩製で、使用痕のある剥片である。5-18には原石面が残っていた。5-49と5-124はチャート製の原石面を残した接合資料で、5-49は石核、5-124は削器である。5-129、5-37、5-47、5-81は石核で、5-129のみ安山岩製で、他はチ



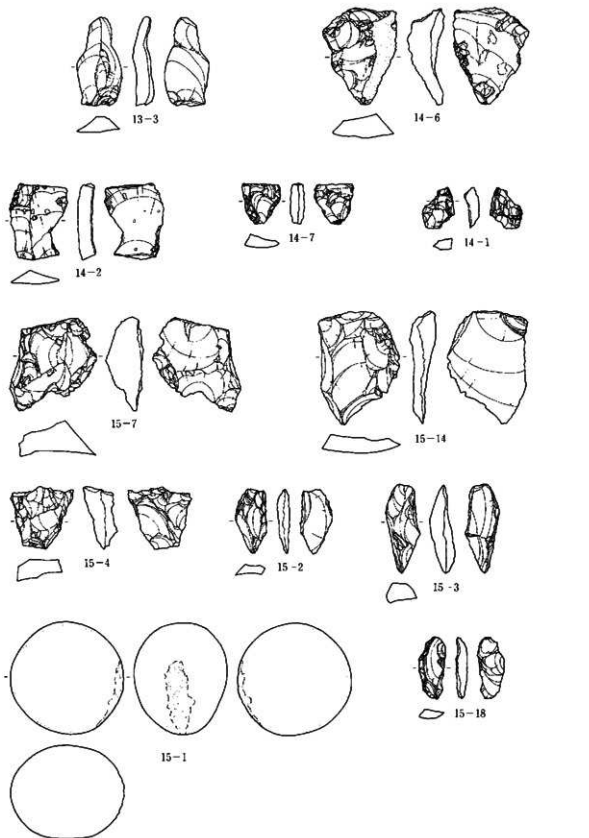
第22图 旧石器 (1)



第23图 旧石器 (2)



第24图 旧石器 (3)



第25图 旧石器(4)

ャート製である。5-37と5-81には原石面が残っている。

6-1は安山岩製の片刃礫器で、左側縁の両面に使用痕が見られる。

7-6はメノウ製の不定形剥片で、原石面を残している。

8-1、8-2、8-3は石刃で、8-1がチャート製で、後の2点は珪質頁岩である。8-1には左側縁上部に使用痕があり、8-2、8-3の両側縁の一部に使用痕がある。

9-1と9-2はチャート製の石核で、9-2には原石面が一部残っている。9-5は蛇紋岩製の局部磨製石斧である。同質の素材の石器は、この遺跡からは他に1点も出土していない。

10-1、13-3は剥片で、10-1は安山岩製、13-1は頁岩製である。

14-6はメノウ製の使用痕のある剥片である。右側縁に使用痕があり、原石面を残している。14-2は黒曜石製の削器、14-7、14-1は黒曜石製の播器である。

15-7と15-4はチャート製の石核で、15-14は頁岩製の片刃礫器である。15-2と15-3はナイフ型石器で15-2安山岩製、15-3は細粒凝灰岩製である。15-18はチャート製の石刃である。15-1は砂岩製の敲石で、強く敲いた痕跡を残している。

第2節 縄文時代

海保野口遺跡の縄文時代の遺構として、早期の炉穴と中期の住居址、貯蔵穴等がある。これらの遺構は調査区全体に分布していた。

1 縄文時代早期の炉穴

縄文時代早期の炉穴は台地周辺よりも台地中央に多く分布している(第26、27図)。調査区北側の北半分にはさほど分布しておらず(第28図)、中央部分に多く分布していた。

155炉穴(第29図) 調査区北側2 K24に位置する楕円形状の炉穴で、長さ1.72m、幅0.9mあった。北西-南東方向に主軸を持つ。北側底面に火床部があった。波状口縁の土器が覆土から出土した。

152炉穴(第29図) 調査区北側2 K90に位置する楕円形状の炉穴で、長さ2.49m、幅1.04mあった。ほぼ東-西に主軸を持つ。東側底部に火床部があった。覆土から土器片が少量出土した。

129炉穴(第29図、図版3) 調査区北側、4 J04、05、14、15に位置する円形状の炉穴で、長さ3.2m、幅2.84mあった。北側底部2ヵ所に火床部があった。覆土から条痕文系土器が出土した。

139炉穴(第30図、図版3) 調査区北側、4 K32、33、34、41、42、43、44、45、51、52、53に位置し、長さ7.87m、幅3.21mの、やや長大な炉穴である。主軸は東-西であった。内部に5ヵ所の小炉穴があり、全部で6ヵ所の火床部が検出された。覆土から主に条痕文系土器が出土した。

157炉穴(第31図) 調査区北側、4 K82、83に位置し、楕円形状である。長さ1.98m、幅0.94mであった。西南-東北に主軸を持つ。底部に火床部があった。擦痕のある土器が少量覆土から出土した。

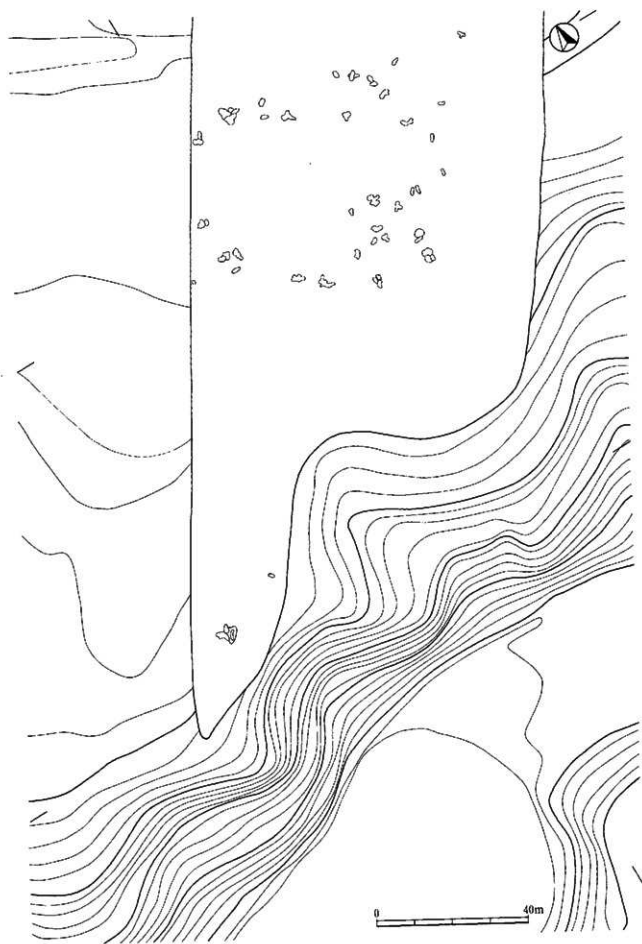
138炉穴(第31図) 調査区北側、4 J33、34に位置し、楕円形状であった。長さ2.56m、幅1.03mであった。東北-西南に主軸を持ち、底面両端に火床部があった。覆土中から土器片が少量出土した。

140炉穴(第31図、図版3) 調査区北側、4 J58、67、68に位置し、長さ3.87m、幅2.22mであった。西南-東北に主軸があり、火床部が3ヵ所あった。少量の土器片が覆土中から出土した。

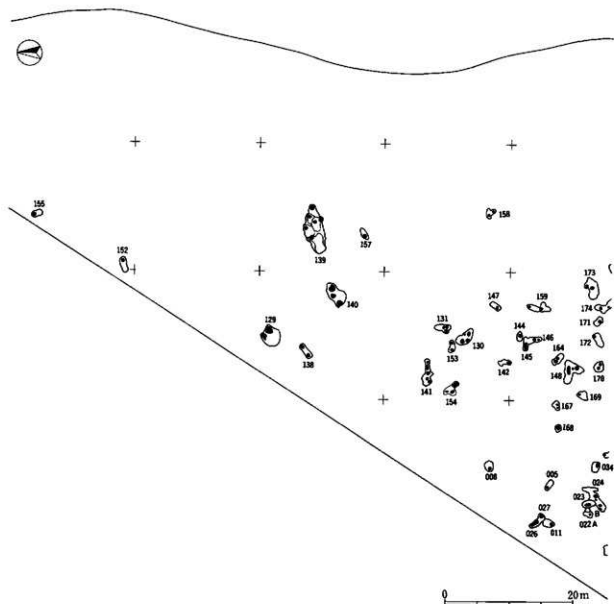
131炉穴(第32図、図版3) 調査区北側、5 J45、55に位置し、長さ2.59m、幅1.35mの楕円形状をし



第26图 炉穴分布图 (1、1/1,000)



第27图 炉穴分布图 (2、1/1,000)



第28図 炉穴分布図（3、北部）

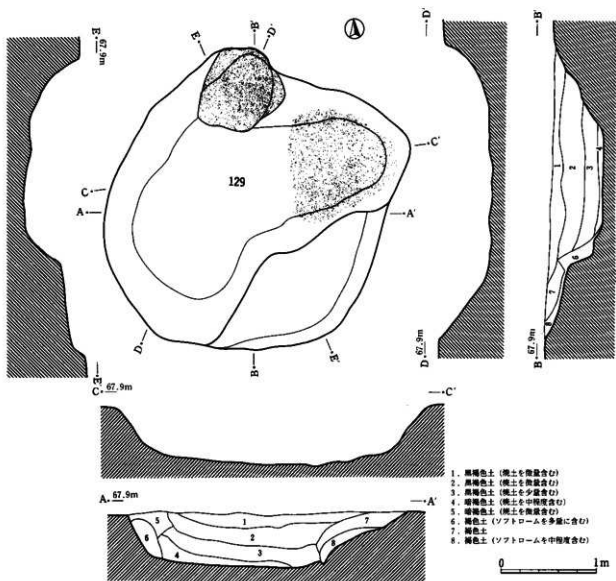
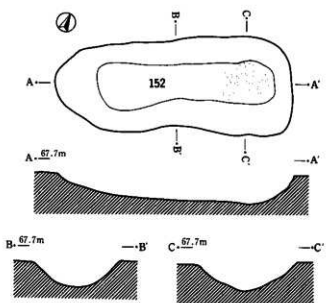
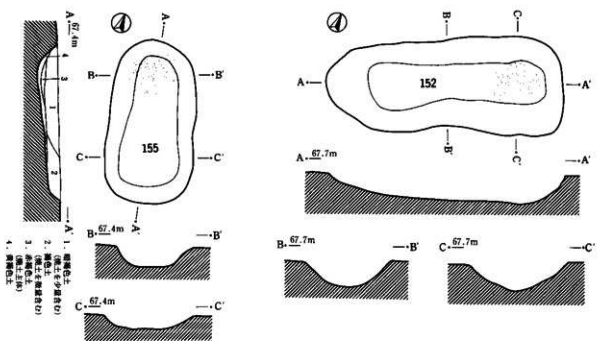
ている。主軸は南-北であった。底面の南側に火床部が3カ所あった。条痕系土器が少量覆土から出土した。

153炉穴（第32図） 調査区北側、5 J 54に位置し、すぐそばに130炉穴がある。長さ1.79m、幅0.89mで、楕円形状をしていた。主軸は東-西であった。底面両端に火床部があった。少量の土器が出土した。

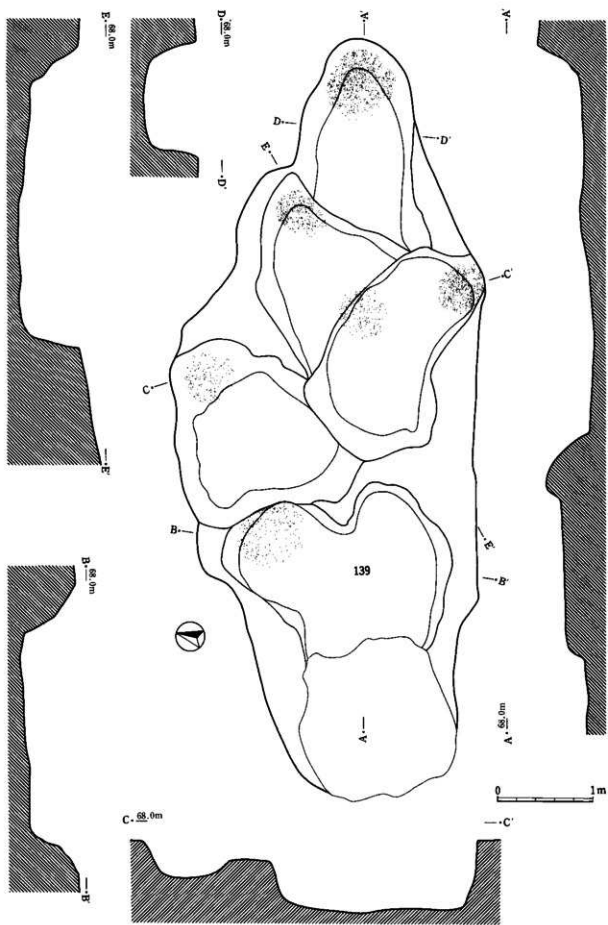
130炉穴（第32図、図版3） 調査区北側、5 J 64、65に位置し、長さ3.24m、幅1.8mある。主軸は西北-東南で、底面に4カ所の火床部があった。覆土から条痕文系土器が多数出土した。

141炉穴（第33図、図版3） 調査区北側、5 J 31,32に位置し、長さ4.42m、幅1.65mの細長い炉穴であった。主軸は東-西を向いている。火床部が、底部のほぼ全面に広がるようにして、5カ所あった。覆土から擦痕のある土器片が出土している。

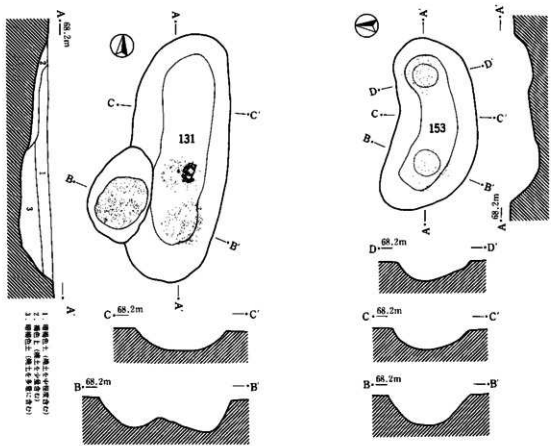
154炉穴（第33図、図版3） 調査区北側、5 J 50、51に位置し、長さ2.85m、幅1.62mであった。主軸



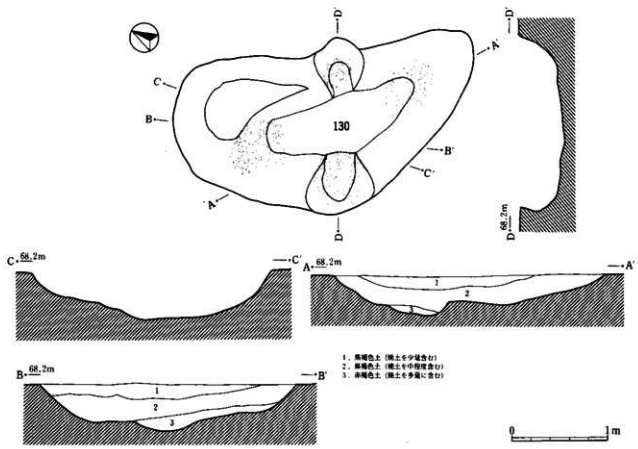
第29図 炉穴 (1)



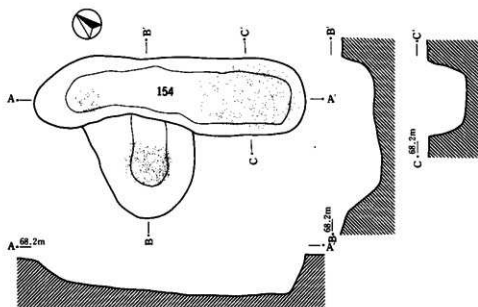
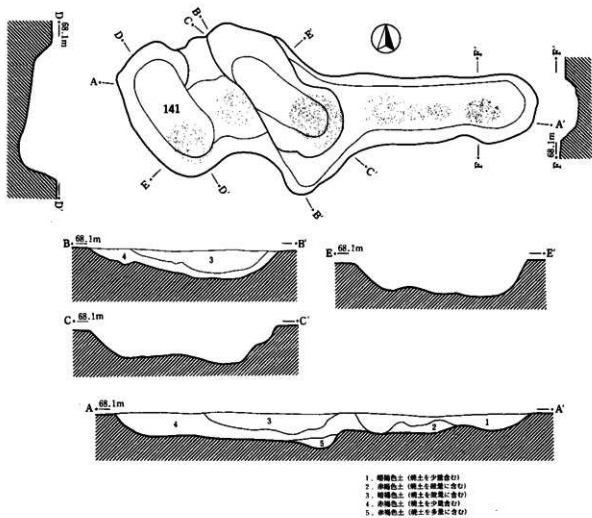
第30图 炉穴 (2)



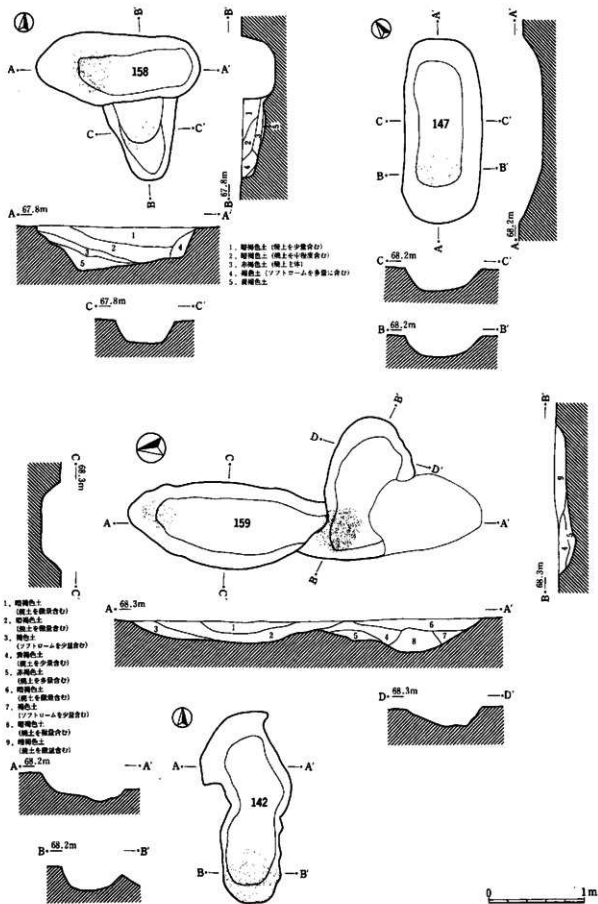
(1) 灰褐色土 (黄土中少量磁石)
 (2) 黄褐色土 (黄土中少量磁石)
 (3) 赤褐色土 (黄土中少量磁石)



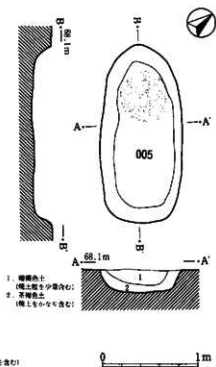
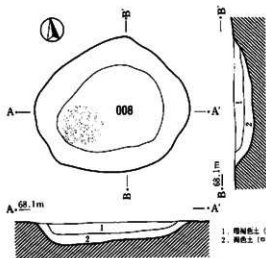
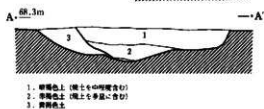
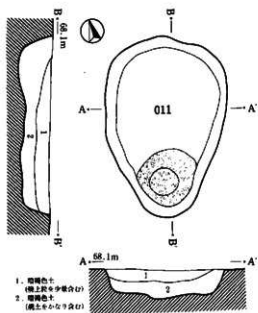
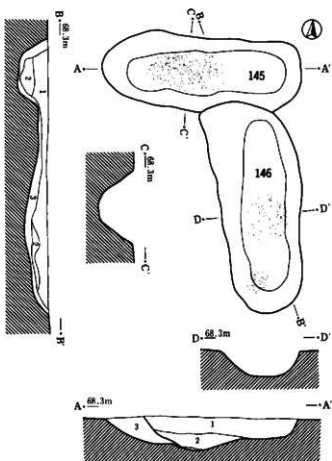
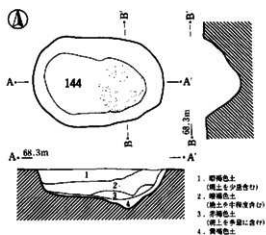
第32图 炉穴 (4)



第33圖 炉穴 (5)



第34図 炉穴 (6)



第35図 炉穴 (7)

は東南-西北で、底部に3ヵ所の火床部があった。擦痕のある土器が、少量覆土から出土した。

158炉穴(第34図、図版3) 調査区北側、5 K84に位置し、他の炉穴から孤立している。長さ1.7m、幅1.5mで、2基の炉穴が合体したような形状であった。底部に2ヵ所火床部があった。土器片が少量出土している。

147炉穴(第34図、図版3) 調査区北側、5 J87、97に位置し、長さ1.92m、幅0.8mの楕円形状をしていた。主軸は西南-東北を向いていた。底面端部に1ヵ所火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

159炉穴(第34図、図版4) 調査区北側、6 J17、27に位置し、長さ3.7m、幅1.46mある。2基の炉穴が隣接していて、底部に2ヵ所の火床部があった。主軸は北-南を向く。覆土から条痕文系土器がわずかに出土した。

142炉穴(第34図) 調査区北側、5 J92、93に位置し、長さ1.99m、幅0.9mあった。楕円形状をしていて、主軸が南-北にある。南側の底面から壁面にかけて火床部があった。擦痕のある土器片がわずかに出土した。

144炉穴(第35図、図版4) 調査区北側、6 J04、05に位置し、すぐ南側に145、146炉穴がある。長さ1.36m、幅0.85mの楕円形状であった。主軸は東-西であり、東側底部に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

145、146炉穴(第35図、図版4) 調査区北側、6 J14、24に位置し、楕円形状の炉穴が2基、直行するように隣接していた。145は長さ2.08m、幅0.7mで、146は長さ2.24m、幅0.88mであった。両者の底面中央付近に火床部があり、146の南側壁面にもう1ヵ所火床部があった。146からは主に条痕文系の土器片が多数出土したが、145からはわずかにしか土器片が出土しなかった。

011炉穴(第35図) 調査区北側、6 I30に位置し、北側に026、027炉穴が位置する。やや幅広い楕円形状をしていて、長さ1.86m、幅1.26mであった。主軸は南-北を向き、南側の底面に火床部がある。条痕文系の土器片が出土した。

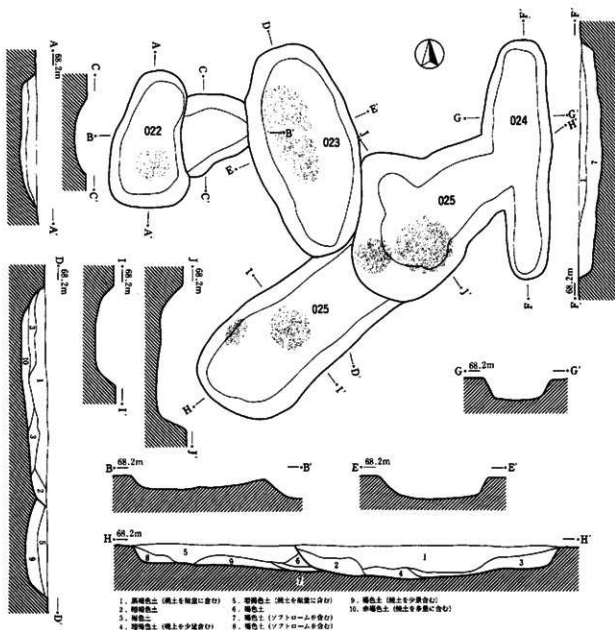
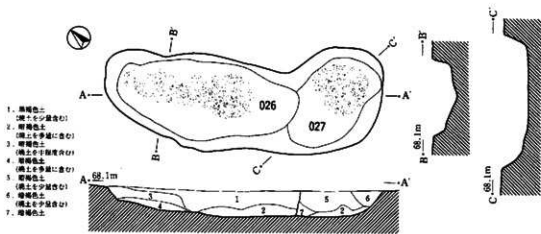
008炉穴(第35図) 調査区北側、5 I84、85に位置し、長さ1.62m、幅1.4mの円形状をしていた。西側底部に火床部があった。条痕文系の土器片が出土している。

005炉穴(第35図、図版4) 調査区北側、6 I33に位置し、長さ1.85m、幅0.85である。楕円形状をしていて、主軸が西北-東南を向く。西北の底面に火床部があった。少量の土器片が出土した。

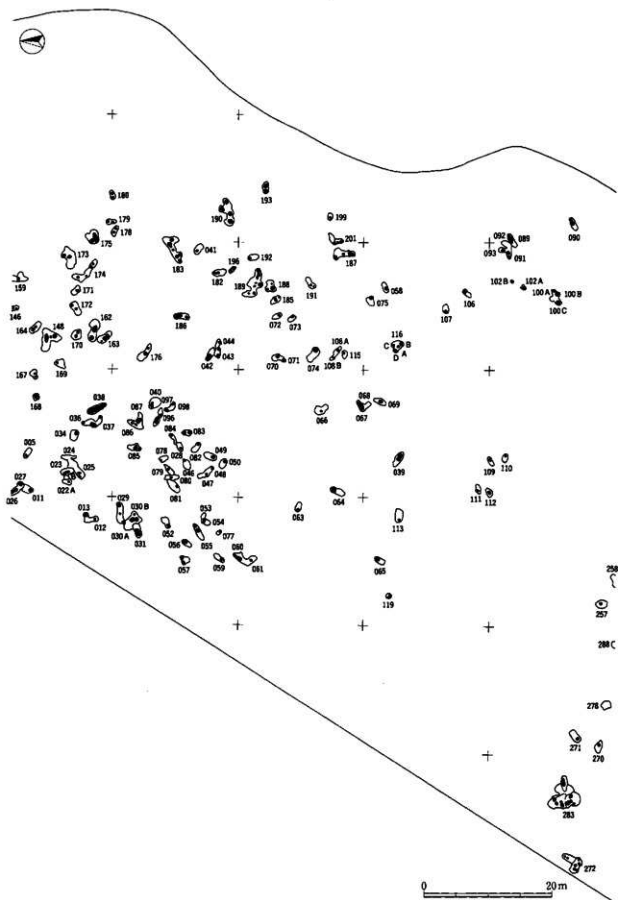
026、027炉穴(第36図) 調査区北側、6 I20に位置し、楕円形状の026と円形状の027が接していた。両者あわせて計測すると全長2.93m、幅1.09mであった。主軸は西北-東南を向く。026の底面、027の東側底面に火床部があった。少量の土器片が出土した。

022、023、024、025炉穴(第36図、図版4) 調査区北側、6 I61、62、63、71、72に位置し、複数の炉穴が接していた。最長の025の長さは4.0m、幅1.5m、最小の022の長さは1.41m、幅0.71mであった。主軸は、025が西南-東北、023が北-南、022が南-北であった。022、023の底面にそれぞれ火床部が1ヵ所あり、025の底面と壁面に火床部が4ヵ所あった。024には火床が検出されなかった。022、023、024から、条痕文系の土器片を含め、少量の土器片が出土した。025からは、条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。

調査区北側の中央部分では炉穴が密集していた。単純にランダムに密集するのではなく、円形状の分布



第36図 炉穴 (8)



第37图 炉穴分布图(4、中央部)

が数カ所認められる(第37図)。

164炉穴(第38図、図版4) 調査区北側、6 J 33、34に位置し、すぐ西南に炉穴148がある。長さ2.32m、幅1.18mであった。楕円形状をしていて、主軸が西北-東南を向く。底面中央と北側の2カ所に火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

148炉穴(第38図、図版4) 調査区北側、6 J 41、42、43、52に位置し、すぐ北西に164炉穴がある。2、3基の炉穴が結合して、V字状をしている。長さ3.69m、幅3.25mであった。底面の中央3カ所に火床部があった。条痕文系土器が多量に出土した。

167炉穴(第39図) 調査区北側、6 I 39に位置し、長さ1.45m、幅1.35mであった。三角形形状をしていて、南側底部の2カ所に火床部があった。条痕文系の土器がわずかに出土した。

169炉穴(第39図) 調査区北側、6 J 50、60に位置し、長さ1.83m、幅1.32mであった。三角形形状をしていて、北側の底面から壁面にかけて火床部があった。土器片がわずかに出土した。

034炉穴(第39図、図版4) 調査区北側、6 I 64、65、74、75に位置し、長さ1.62m、幅1.24mであった。円形に近い楕円形状をしていて、主軸は東-西を向く。東側底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

168炉穴(第39図) 調査区北側、6 I 37に位置し、長さ0.99m、幅0.97mであった。円形形状で、底面全体が火床部となっていた。条痕文系の土器片がわずかに出土した。

036、037炉穴(第39図、図版4) 調査区北側、036は6 I 75、85、86に位置し、長さ2.24m、幅0.71mであった。037は6 I 85、95、96に位置し、長さ2.04m、幅0.71mであった。両者ともに楕円形状をしており、端部で接していた。主軸は北-南を向き、端部および接合部に火床部があった。036からは土器片と石器がわずかに出土し、037からは条痕文系の土器片が出土した。

038炉穴(第39図、図版4) 調査区北側、6 I 86、87、97に位置し、長さ3.25m、幅1.06mあった。楕円形状をしていて、主軸は西北-東南を向く。底面全体が火床部であった。少量の土器片が出土した。

180炉穴(第40図) 調査区北側、6 K 93、7 K 03に位置し、長さ1.58m、幅0.76mであった。楕円形状をして、主軸を西-東に向け、底面の2カ所に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

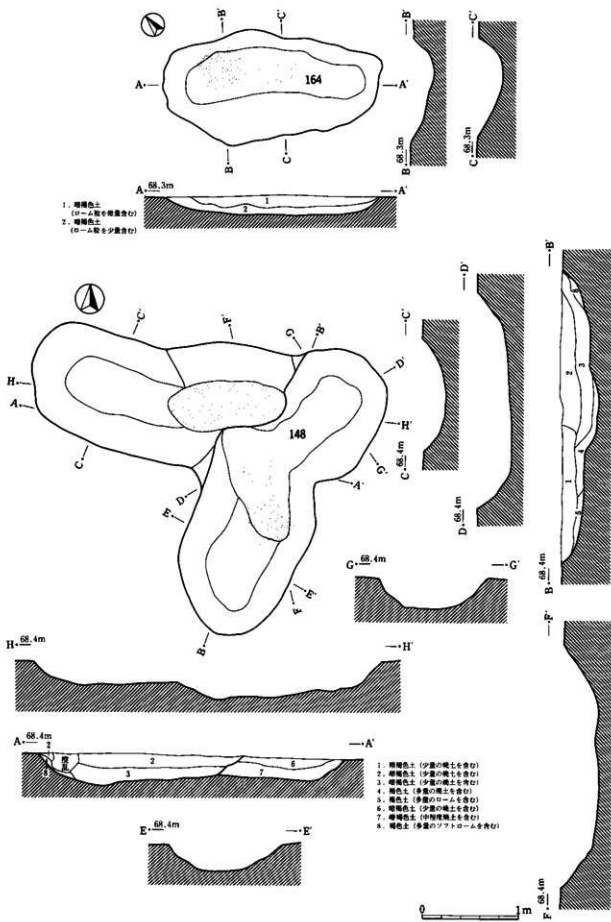
179炉穴(第40図、図版4) 調査区北側、6 K 91、7 K 01に位置し、すぐ西側に178炉穴がある。楕円形状で、長さ1.56m、幅0.86mあった。主軸は北-南を向く。北側の壁面と南側の底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

178炉穴(第40図、図版4) 調査区北側、7 K 00、01に位置し、すぐ東側に179炉穴がある。楕円形状で、長さ1.7m、幅0.81mあった。主軸は東南-西北を向く。底面の2カ所に火床部があった。条痕文系の土器と擦痕のある土器片が少量出土した。

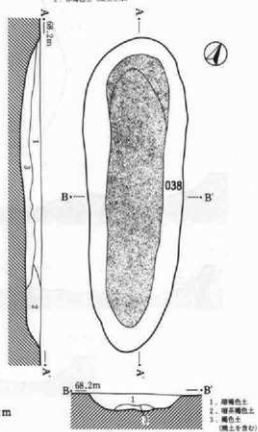
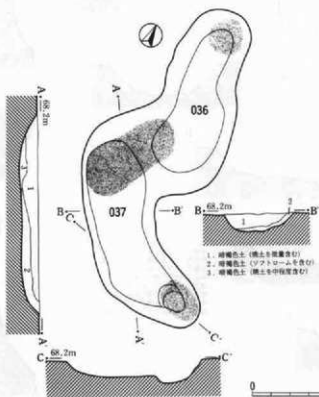
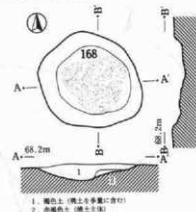
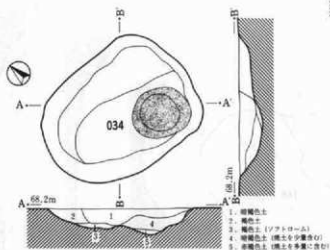
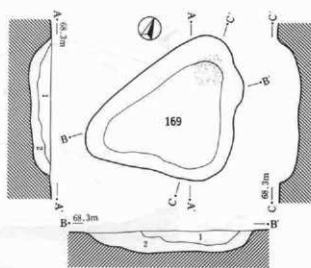
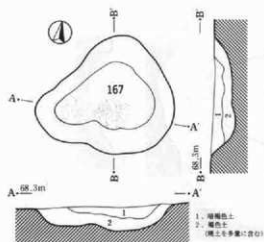
175炉穴(第40図、図版4) 調査区北側、6 K 80に位置する。ほぼ円形で、長さ2.2m、幅1.99mであった。底面にV字形の火床部があった。条痕文系の土器片が多量に出土した。

173炉穴(第41図、図版5) 調査区北側、6 J 68、69に位置し、数基の炉穴が接するような形状をしていた。長さ3.58m、幅1.54mで、主軸は西-東を向く。中央の底面から壁面にかけて火床部が2カ所あった。条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が覆土から出土した。

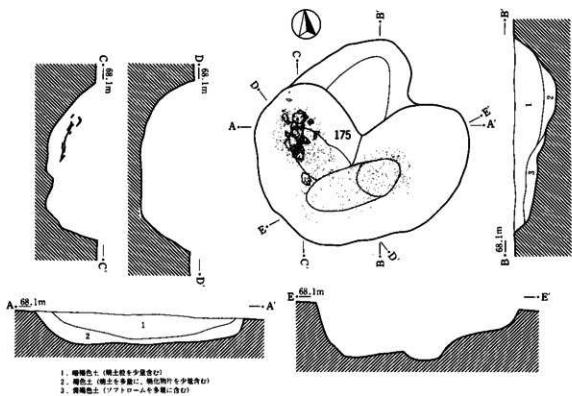
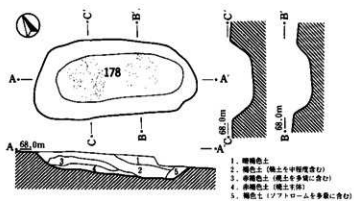
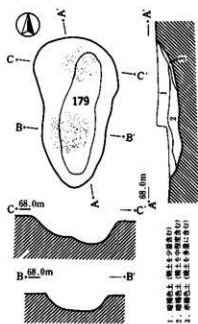
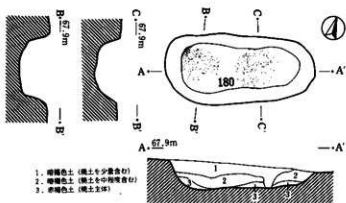
174炉穴(第41図、図版5) 調査区北側、6 J 77、87、88に位置し、すぐそばに173、171炉穴がある。3基の炉穴が連続して、長さ4.38m、幅0.96mの長大な形状となった。主軸は東南-西北を向く。底面に



第38図 伊穴 (9)

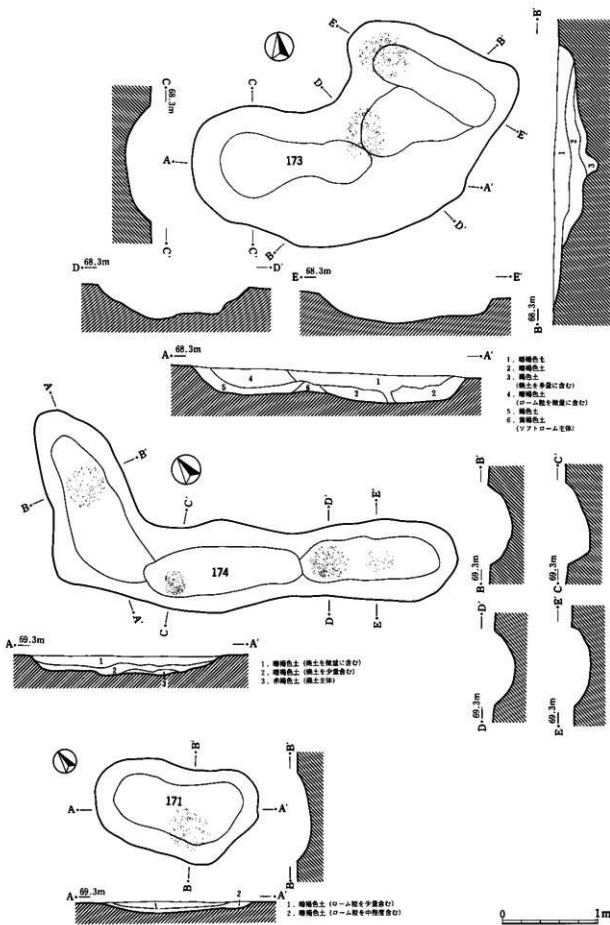


第39図 炉穴 (10)

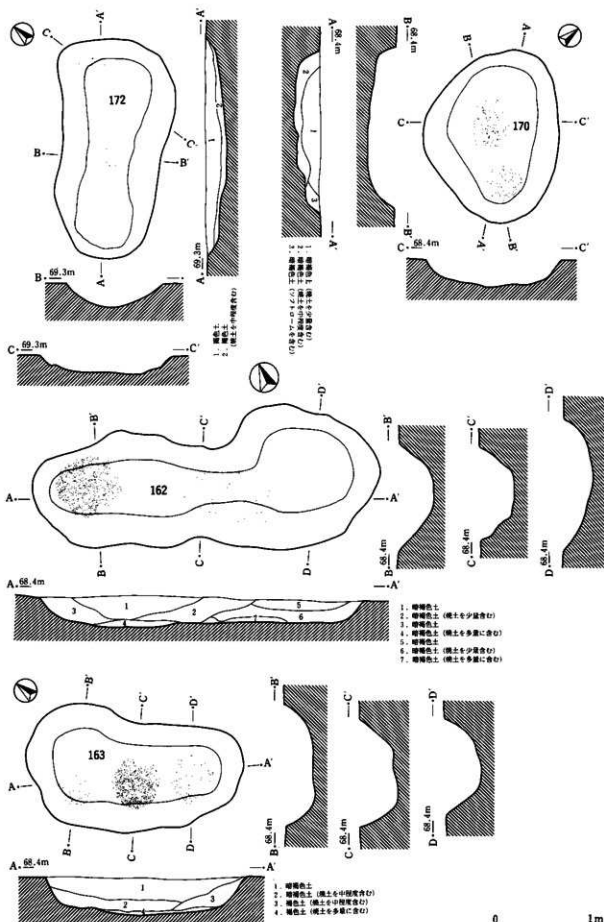


0 1m

第40図 炉穴 (11)



第41図 炉穴 (12)



第42図 炉穴 (13)

火床部が4ヵ所あった。擦痕のある土器片が覆土から出土した。

171炉穴(第41図、図版5) 調査区北側、6J76に位置して、すぐ西側に174炉穴がある。楕円形状で長さ1.71m、幅0.96mであった。底面中央に火床部があった。覆土から条痕文系の土器片が多数出土した。

172炉穴(第42図、図版5) 調査区北側、6J74、75に位置し、長さ2.3m、幅1.18mであった。楕円形状をしていて、主軸は東北-西南を向く。底面中央と東北端の壁面に火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

170炉穴(第42図、図版5) 調査区北側、6J72に位置し、三角形に近い。長さ1.8m、幅1.41mで、底面中央と端部に火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

162炉穴(第42図、図版5) 調査区北側、6J82、83に位置し、すぐ南に163炉穴がある。楕円形状で長さ3.63m、幅1.48mあり、主軸は西-東を向く。底面中央と西側端部に火床部があった。覆土から土器片が少量出土した。

163炉穴(第42図、図版5) 調査区北側、6J92に位置し、すぐ北に162炉穴がある。楕円形状で長さ2.26m、幅1.26mであった。主軸は東南-西北を向く。底面中央、両端部に火床部があった。擦痕のある土器片、条痕文系の土器片が少量出土した。

193炉穴(第43図) 調査区北側、8K24に位置し、やや孤立した存在である。楕円形状で、長さ1.84m、幅1mであった。主軸は西-東を向く。底面の両端に火床部があった。遺物は出土していない。

041炉穴(第43図) 調査区北側、7J69に位置し、長さ1.85m、幅0.98mであった。楕円形状で、主軸が西北-東南を向く。西北の底面に火床部があった。覆土から土器片がわずかに出土した。

190炉穴(第43図、図版5) 調査区北側、7K82、91、92、93に位置し、数基の炉穴が結合したような形状をしていた。長さ4.32m、幅2.06mで、主軸は東-西を向く。底面から壁面にかけて火床部が4ヵ所あった。覆土から条痕文系の土器が多量に出土した。

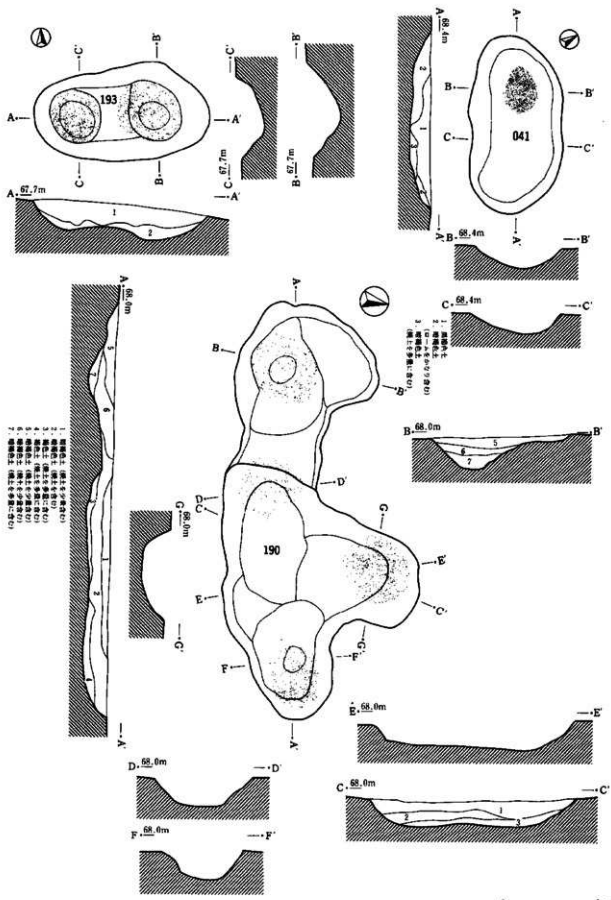
183炉穴(第44図、図版5) 調査区北側、7J49、58、59、7K41、51に位置する。長さ4.85m、幅2.11mで、数基の炉穴が結合したような形状をしている。主軸は西南-東北を向き、底面に火床部が6ヵ所あった。条痕文系の土器と擦痕のある土器が出土した。

182炉穴(第44図) 調査区北側、7J87に位置し、すぐ南に196炉穴がある。長さ2.22m、幅1.5mの楕円形状をしていた。主軸は北-南を向き、北側の底面に火床部が2ヵ所あった。土器片がわずかに出土した。

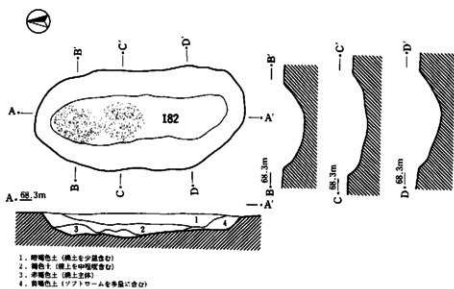
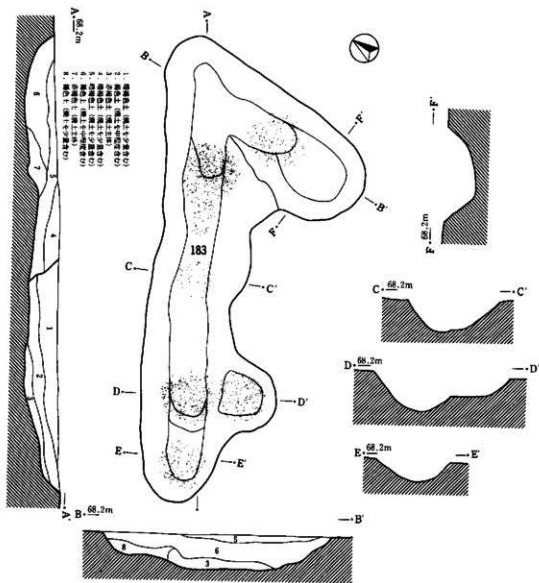
176炉穴(第45図、図版5) 調査区北側、7J20、21に位置し、長さ3.14m、幅1.2mであった。楕円形状をしていて、主軸は東南-西北を向く。底面の中央と東南側に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

186炉穴(第45図) 調査区北側、7J54に位置し、長さ2.43m、幅0.91mであった。楕円形状をしていて、主軸は北-南を向く。両端の底面から壁面にかけて、火床部があった。土器片がわずかに出土した。

042、043、044炉穴(第45図、図版5) 調査区北側、7J70、71、81、82に位置し、3基の楕円形状の炉穴が接していた。主軸は西北-東南を向く。042は長さ2.27m、幅0.89mであった。043は長さ1.65、幅1.03mであった。044は長さ1.4m、幅0.7mであった。火床部は、042の西北端、043の両端、044の東南端にあった。042からは条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土したが、043と044からはほとんど遺物が出土しなかった。



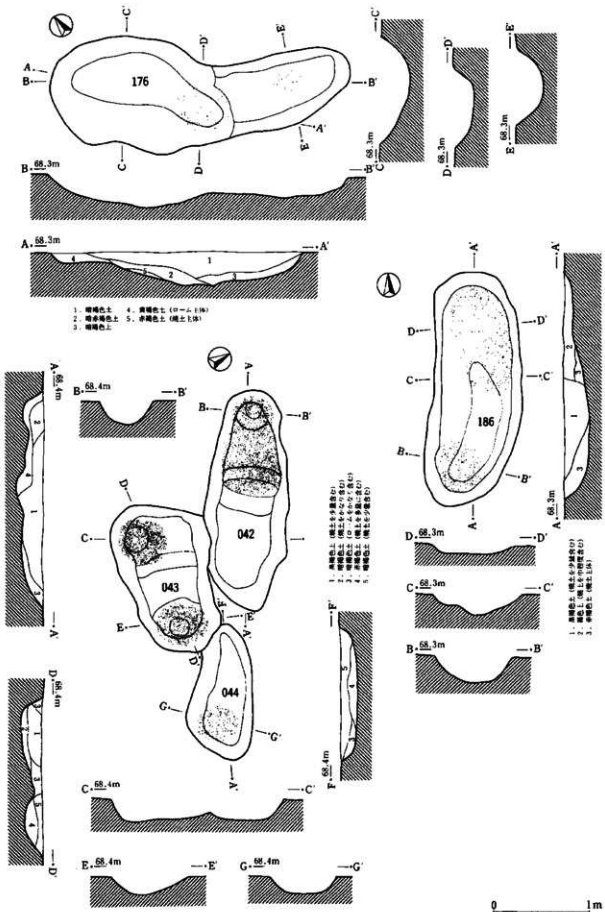
第43圖 炉穴 (14)



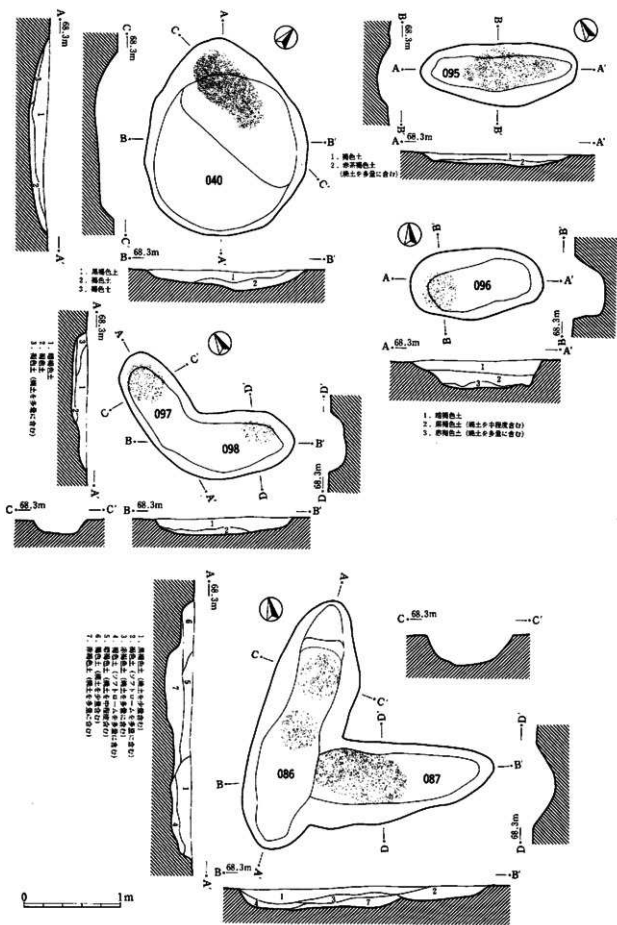
1. 赤褐色土 (壁上を少し厚く含む)
2. 黒色土 (壁上を中程度含む)
3. 赤褐色土 (壁上を少し含む)
4. 赤褐色土 (ツツトマー-Aを多く含む)

0 1 m

第44図 炉穴 (15)



第45圖 炉穴 (16)



第46図 炉穴 (17)

040炉穴(第46図、図版5) 調査区北側、7 I 37に位置し、すぐ西に096、097炉穴がある。ほぼ円形状で、長さ2.05m、幅1.72mであった。西北の底面から壁面にかけて火床部があった。擦痕のある土器片がわずかに出土した。

095炉穴(第46図) 調査区北側、7 I 35、36に位置し、すぐ東に096炉穴がある。長さ1.65m、幅0.66mの楕円形状をしていて、主軸は東南-西北を向く。底面中央に火床部があった。条痕文系の土器片がわずかに出土した。

096炉穴(第46図) 調査区北側、7 I 36に位置し、すぐ西に095炉穴、東に040炉穴がある。長さ1.39m、幅0.73mの楕円形状をしていて、主軸は西-東を向く。底面西側に火床部があった。擦痕のある土器が少量出土した。

097、098炉穴(第46図、図版6) 調査区北側、7 I 46、47に位置し、すぐ北に096炉穴がある。長さ1.97m、幅0.59mで、楕円形状の炉穴が2基結合したような形状をしている。両端の底面から壁面にかけて火床部があった。097から条痕形の土器片と擦痕のある土器片が出土した。

086、087炉穴(第46図、図版6) 調査区北側、7 I 15、25、26に位置し、楕円形状の炉穴が2基、V字状に接していた。086は長さ2.65m、幅0.91mで、087は長さ1.9m、幅0.94mであった。それぞれの底面の中央に火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

012、013炉穴(第47図) 調査区北側、6 H 78、88に位置し、楕円形状の炉穴が2基結合して、鉤形をしていた。長さ2.3m、幅1.5mであった。両端の底面から壁面にかけて火床部があった。土器片が少量出土した。

085炉穴(第47図) 調査区北側、7 I 13、14に位置し、長さ2.06m、幅1.15mであった。楕円形状をしていて、主軸は南-北であった。底面の中央と南側に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

084炉穴(第152図) 調査区北側、7 I 44に位置し、007貯蔵穴と重複している。楕円形状で、長さ1.92m、幅0.54mであった。主軸は、東北-西南を向く。東北端の底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

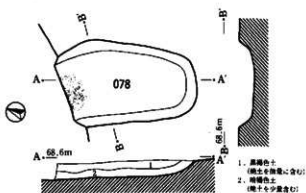
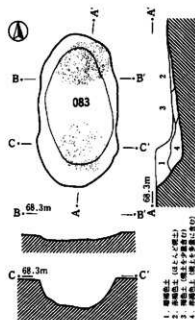
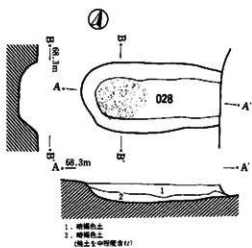
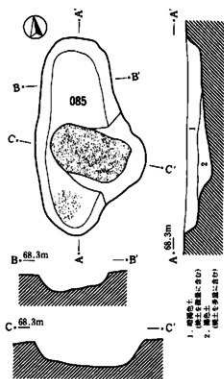
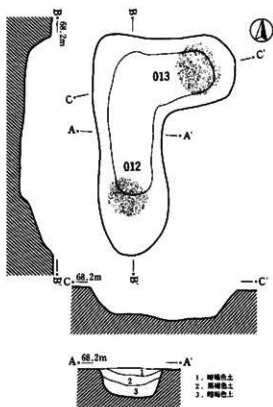
028炉穴(第47図) 調査区北側、7 I 53、54に位置する楕円形状の炉穴で、一端が015住居跡によって破壊されている。長さ1.45m、幅0.72mで、主軸は西-東を向く。西側の底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

083炉穴(第47図) 調査区北側、7 I 55、65に位置し、015住居跡によって一部破壊されていた。長さ1.56m、幅0.85mであった。楕円形状をしていて、主軸は南-北であった。両端の底面から壁面にかけて火床部があった。土器片がわずかに出土した。

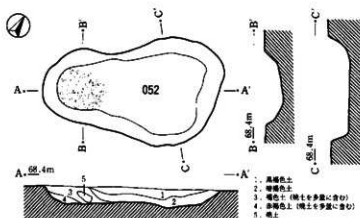
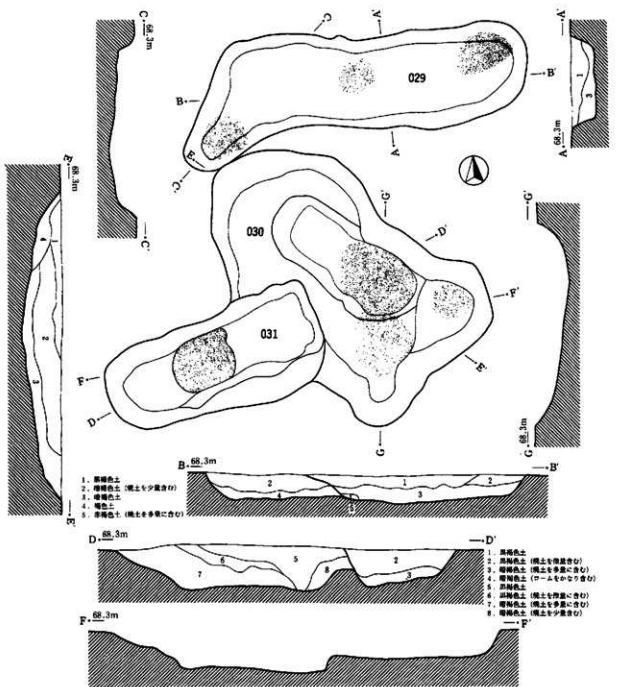
078炉穴(第47図) 調査区北側、7 I 42、43に位置し、014住居跡によって一端が破壊されていた。楕円形状をしていて、長さ1.44m、幅0.89mであった。主軸は北-南を向く。北側底面に火床部があった。条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が少量出土した。

029炉穴(第48図、図版6) 調査区北側、7 H 08、09に位置し、すぐ南に030炉穴を接している。長さ3.55m、幅1.05mの細長い炉穴である。主軸は東-西を向く。底面の中央および両端に火床部があった。条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が覆土から出土した。

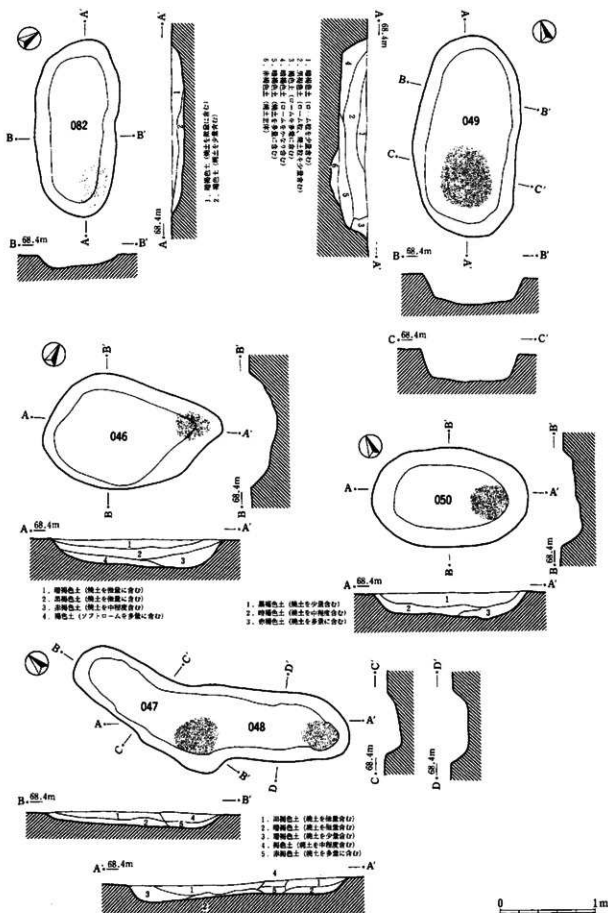
030、031炉穴(第48図、図版6) 調査区北側、7 H 17、18、27、28に位置し、すぐ北に029炉穴がある。030と031は重複している。030は長さ3.21m、幅1.84mで、長方形に似た形状をしている。主軸は西北-東



第47図 炉穴 (18)



第48図 炉穴 (19)



第49図 炉穴 (20)

南を向き、東南側の底面に火床部が3ヵ所あった。031は楕円形状で長さ2.32m、幅1.11mであった。底面中央に火床部があった。覆土から条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。

052炉穴(第48図) 調査区北側、7H47、48に位置し、長さ1.9m、幅1.1mであった。楕円形状をしていて、主軸は西-東を向く。西側の底面から壁面にかけて火床部があった。土器片がわずかに出土した。

082炉穴(第49図) 調査区北側、7I63、64に位置し、長さ1.85m、幅0.89mであった。楕円形状で主軸は東南-西北を向く。東南端の底面から壁面にかけて火床部があった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

049炉穴(第49図) 調査区北側、7I73、83に位置し、すぐ南側に050炉穴、西側に048炉穴がある。楕円形状で、長さ2.1m、幅1.1mであった。楕円形状で主軸は南-北を向く。南側底面に火床部があった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

046炉穴(第49図) 調査区北側、7I52、62に位置し、長さ1.87m、幅1.19mであった。菱形をしていて主軸は東-西を向く。東端の底面から壁面にかけて火床部があった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

050炉穴(第49図) 調査区北側、7I82、92に位置し、すぐ北側に049、048炉穴がある。楕円形状をしていて、長さ1.64m、幅1.02mであった。主軸は東南-西北を向く。東南端の底面に火床部があった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

047、048炉穴(第49図、図版6) 調査区北側、7I71、72に位置し、すぐ東側に049炉穴、南側に050炉穴がある。楕円形状の炉穴が2基結合したような形をしていた。全長2.96m、幅0.92mであった。主軸は南-北、東南-西北を向く。南側の底面2ヵ所に火床部があった。

079炉穴(第50図、図版6) 調査区北側、7I41、42に位置し、014住居跡に北側を破壊されている。080、081炉穴と3基接するように位置する。楕円形状で長さ2.37m、幅0.74mであった。主軸は西南-東北を向き、底面中央に火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

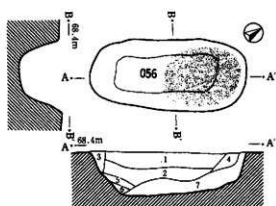
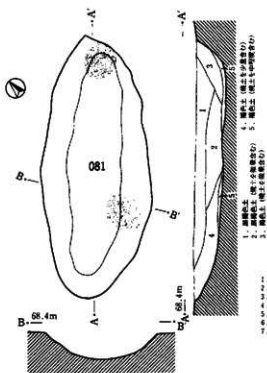
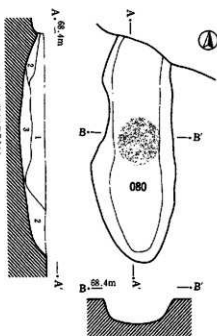
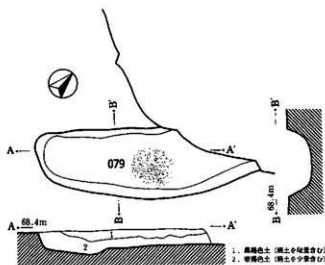
080炉穴(第50図、図版6) 調査区北側、7I41、51に位置し、北側を014住居跡によって破壊されている。079、081炉穴と3基接するように位置する。楕円形状で長さ2.3m、幅0.89mであった。主軸は南-北を向く。底面中央に火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

081炉穴(第50図、図版6) 調査区北側、7I40、41、50に位置し、080炉穴と北側で接し、079、080炉穴と3基接するように位置する。楕円形状で長さ2.71m、幅1.14mであった。主軸は東北-西南を向く。中央の底面から壁面にかけて、また東北端の底面から壁面にかけて火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

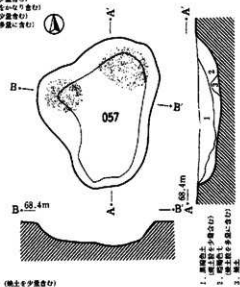
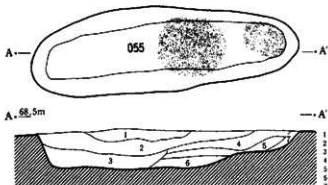
056炉穴(第50図) 調査区北側、7H56、66に位置し、長さ1.64m、幅0.74mであった。楕円形状で、主軸は東北-西南を向く。東北側に底面から壁面にかけて火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

055炉穴(第50図、図版6) 調査区北側、7H67、76、77に位置し、長さ2.82m、幅0.88mであった。楕円形状で、主軸は東北-西南を向く。中央底面と東北端底面に火床部があった。擦痕のある土器片が覆土から出土した。

057炉穴(第50図、図版6) 調査区北側、7H54、55に位置し、長さ1.59m、幅1.21mであった。三角形形状をしていて、2ヵ所の頂点に底面から壁面にかけて火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土し

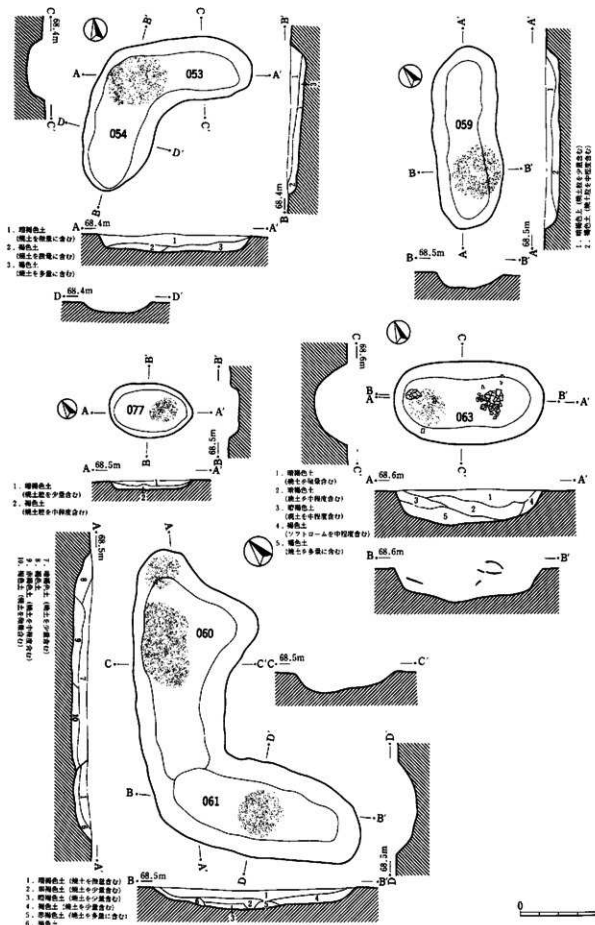


④



0 1m

第50図 炉穴 (21)



第51図 炉穴 (22)

た。

053、054炉穴(第51図、図版6) 調査区北側、7 H78に位置し、長さ2.07m、幅1.04mであった。ブーメラン形をしていて、中央底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

059炉穴(第51図) 調査区北側、7 H85に位置し、長さ1.91m、幅0.66mであった。楕円形状をしていて、主軸は西南-東北を向く。西南側の底面に火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

077炉穴(第51図) 調査区北側、7 H87に位置し、長さ0.85m、幅0.56mであった。小さい楕円形状で、主軸は東南-西北を向く。東南側の底面に火床部があった。条痕文系の土器片が覆土から出土した。

063炉穴(第51図) 調査区北側、8 H49に位置し、周辺に他の炉穴がなく、孤立した状態であった。楕円形状をしていて、長さ1.56m、幅0.85mであった。主軸は西-東を向き、西側底面に火床部があった。土器片が覆土上部から出土した。

060、061炉穴(第51図、図版7) 調査区北側、8 H04、05、14、15に位置し、楕円形状の炉穴が2基ほぼ直行するような形をしていた。060は長さ2.31m、幅1.31mで、061は長さ2.26m、幅0.99mであった。060の主軸は東北-西南、061は西北-東南を向く。060の東北側底面の2ヵ所に、061の底面中央に火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

189炉穴(第52図、図版7) 調査区北側、8 J05、06、15、16、17に位置し、南側に188炉穴があった。数基の炉穴が結合したような長大な形状をしていた。長さは4.5m、幅2.44mで、主軸は東-西を向く。底面に火床部が8ヵ所あった。条痕文系の土器片が覆土から出土した。

192炉穴(第52図) 調査区北側、8 J08、18に位置し、長さ1.65m、幅0.9mであった。楕円形状をして、主軸は北-南を向く。北側底面から壁面にかけて火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

196炉穴(第52図) 調査区北側、7 J97に位置し、長さ1.21m、幅0.59mであった。楕円形状をして、主軸は東南-北西を向く。底面に火床部が2ヵ所あった。遺物は出土しなかった。

188炉穴(第53図) 調査区北側、8 J26に2基の炉穴が交差したような形状をしていた。長さ2.01m、幅1.69mであった。底面に火床部が3ヵ所あった。覆土から条痕文系の土器片が少量出土した。

185炉穴(第53図) 調査区北側、8 J25、35に位置し、長さ1.95m、幅0.99mであった。楕円形状をして、主軸が東南-西北を向く。底面中央と東南端に火床部があった。条痕文系の土器片が少量出土した。

073炉穴(第53図) 調査区北側、8 J43、44に位置し、長さ1.4m、幅0.82mであった。楕円形状をしていて、主軸が東南-西北を向く。底面の東南側に火床部がある。条痕文系の土器片が少量出土した。

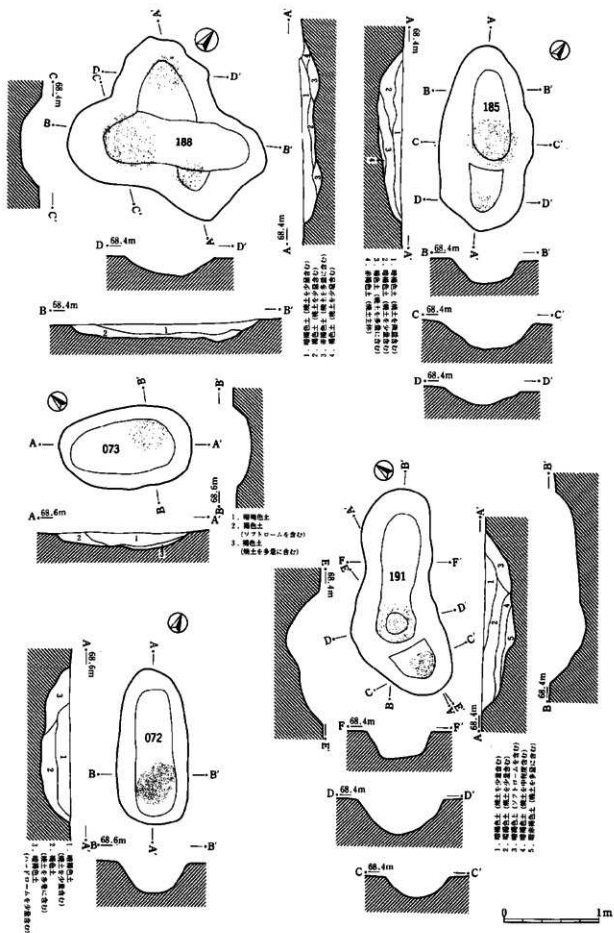
072炉穴(第53図) 調査区北側、8 J24、34に位置し、長さ1.6m、幅0.74mであった。楕円形状をして、主軸は東南-西北を向く。底面の東南側に火床部があった。覆土から土器片がわずかに出土した。

191炉穴(第53図、図版7) 調査区北側、8 J56、57に位置し、長さ2.15m、幅0.94mであった。楕円形状をしていて、主軸は西南-東北を向く。底面の西南側2ヵ所に火床部があった。擦痕のある土器片が覆土から出土した。

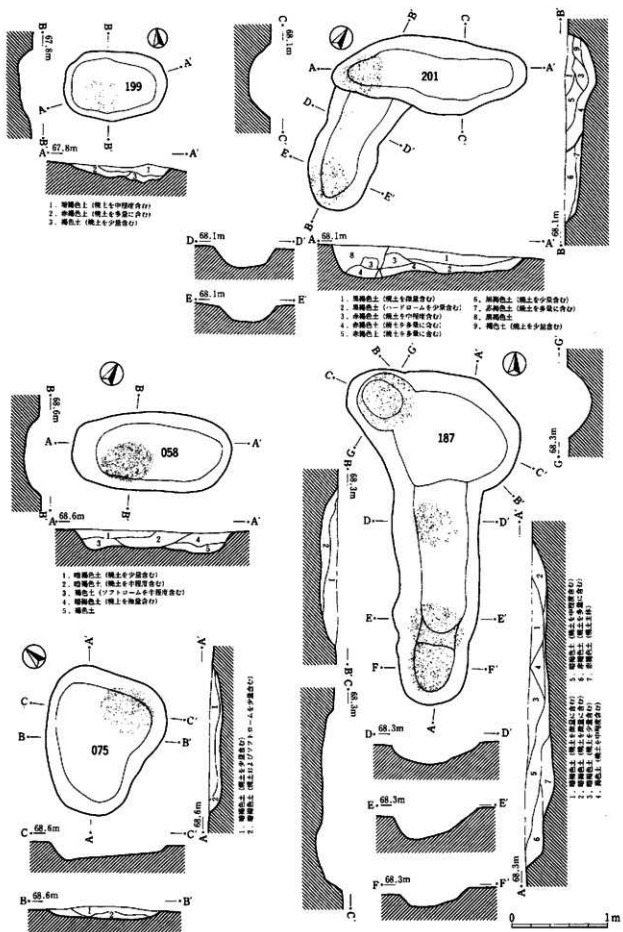
199炉穴(第54図、図版7) 調査区北側、8 K71、72に位置し、長さ1.08m、幅0.74mであった。小さい楕円形状をしていて、主軸は西-東を向く。底面西側に火床部がある。土器片がわずかに出土した。

201炉穴(第54図、図版7) 調査区北側、8 K70、80に位置し、楕円形状の炉穴が2基結合したような形状をしていた。長さ2.6m、幅0.8mであった。底面に火床部が3ヵ所あった。出土遺物はなかった。

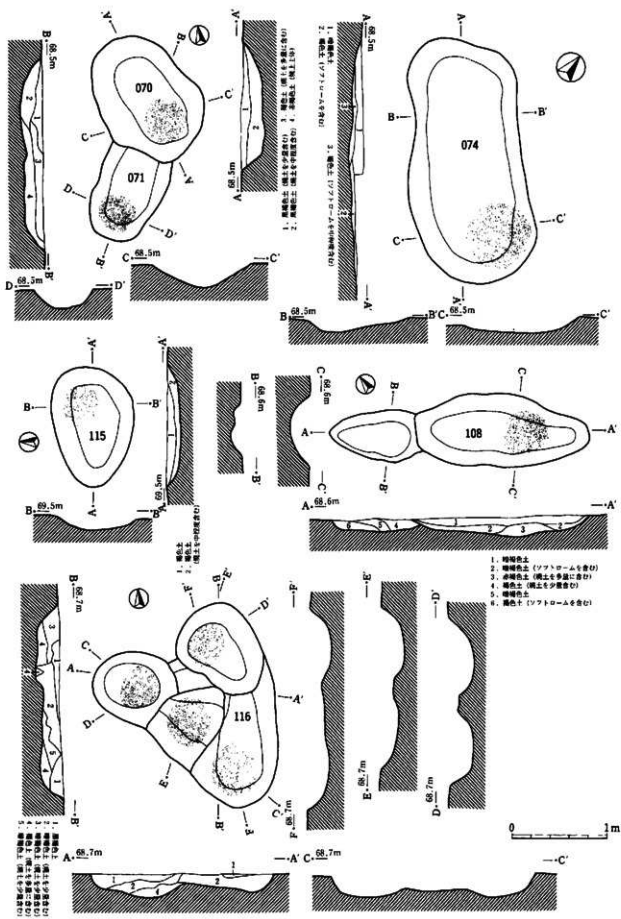
058炉穴(第54図) 調査区北側、9 J16に位置し、長さ1.65m、幅0.81mであった。楕円形状をしてい



第53図 炉穴 (24)



第54図 炉穴 (25)



第55図 炉穴 (26)

て、主軸が西-東を向く。土器片がわずかに出土した。

075炉穴(第54図) 調査区北側、9 J 05に位置する。長さ1.53m、幅1.24mで、三角形をしていて、東南端に火床部があった。条痕文系の土器片がわずかに出土した。

187炉穴(第54図、図版7) 調査区北側、8 J 78、79、89、99に位置し、2基の炉穴が結合したような形状をしていた。長さ3.45m、幅1.38mで、主軸は南-北を向く。底面中央、北側、南側に火床部があった。条痕文系の土器片が出土した。

070、071炉穴(第55図) 調査区北側、8 J 20、21、30、31に位置し、楕円形状の小さな炉穴が2基結合したような形をしていた。長さ2.12m、幅1.1mで、主軸は南-北を向く。南側の底面から壁面にかけて火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

074炉穴(第55図) 調査区北側、8 J 50、51、60、61に位置し、長さ2.6m、幅1.25mであった。楕円形状をして、主軸は東南-西北であった。底面東南側に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

115炉穴(第55図) 調査区北側、8 J 80、81に位置し、北側に108炉穴がある。卵形状をして長さ1.24m、幅0.85mであった。主軸は東-西を向く。東側底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

108炉穴(第55図、図版7) 調査区北側、8 J 70、71、81に位置し、南に115炉穴がある。細長い炉穴が2基結合したような形状をしていて、長さ2.74m、幅0.76mであった。主軸は東南-西北を向く。条痕文系の土器片が覆土から出土した。

116炉穴(第55図、図版7) 調査区北側、9 J 21、22、31、32に位置し、小さい炉穴が数基結合したような形状をいていた。長さ2.19m、幅1.74mであった。底面に火床部が4ヵ所あった。土器片がわずかに出土した。

066炉穴(第56図) 調査区北側、8 I 66、67、76、77に位置し、長さ2.3m、幅1.5mであった。変則的な形状をしていて、主軸は南-北を向く。底面中央に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

067、068炉穴(第56図、図版7) 調査区北側、8 I 96、97、9 I 06、07に位置し、すぐ南に069炉穴がある。楕円形状の炉穴が2基、鉤形に結合したような形をしていた。長さ2.23m、幅0.85mであった。東-西に向いている067の底面全体に火床が広がっていた。067から条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が少量出土した。

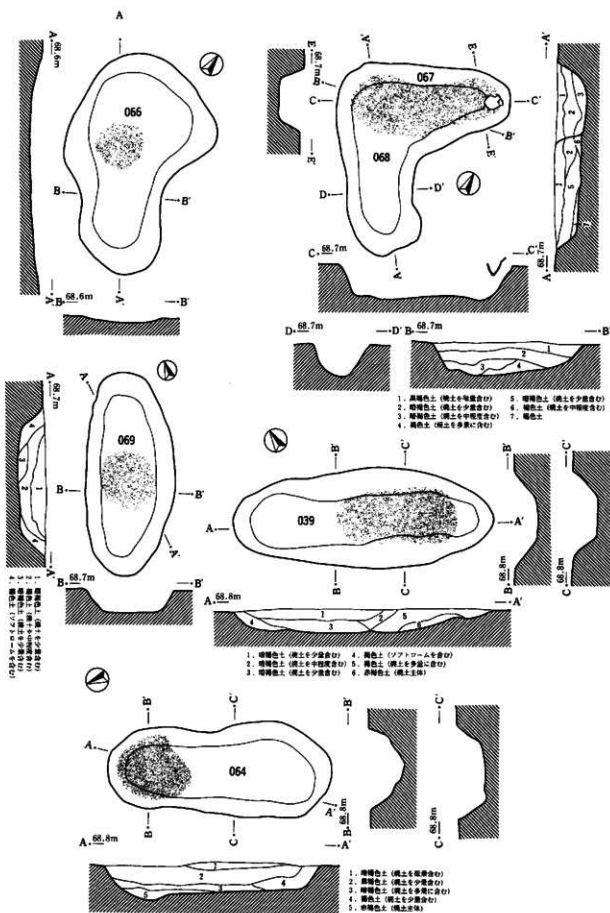
069炉穴(第56図) 調査区北側、9 I 17に位置し、すぐ北に067、068炉穴がある。楕円形状をして、長さ2.1m、幅0.92mであった。主軸は北-南を向く。底面中央に火床部があった。条痕文系の土器片と擦痕のある土器片が少量出土した。

039炉穴(第56図) 調査区北側、9 I 22、23、33に位置し、長さ2.75m、幅1.04mであった。楕円形をしていて、主軸は東南-西北を向く。底面中央に火床部があった。条痕文系の土器片が出土している。

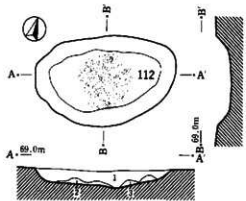
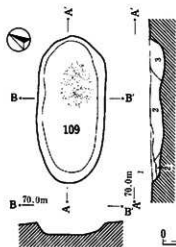
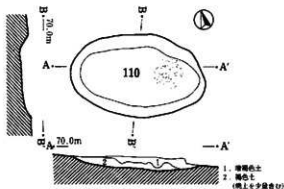
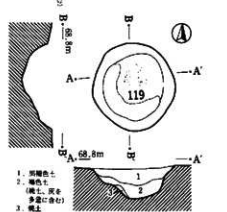
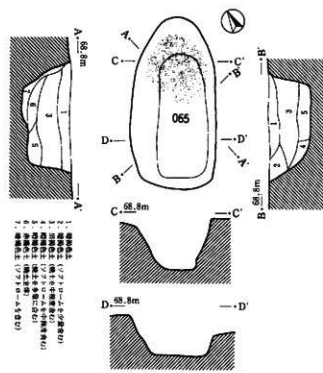
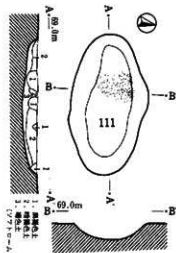
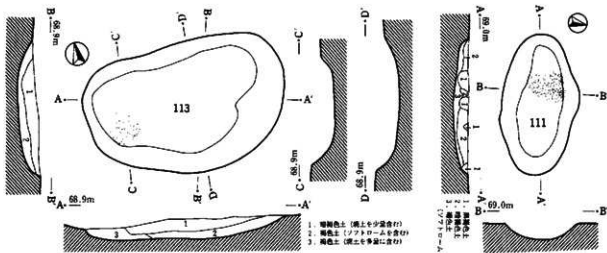
064炉穴(第56図) 調査区北側、8 I 70、80に位置し、長さ2.36m、幅0.99mであった。主軸は北-南を向き、北側の底面に火床部があった。条痕文系の土器片と擦痕のある土器片が出土した。

113炉穴(第57図、図版8) 調査区北側、9 H 28、38に位置し、変則的な形状をしていた。長さ2.1m、幅0.7mで、主軸は西-東を向く。西端底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

111炉穴(第57図、図版8) 調査区北側、9 I 90に位置し、南側に112炉穴がある。楕円形状をして、長さ1.46m、幅0.8mであった。主軸は西-東を向く。底面の西側に火床部がある。石器がわずかに出土した。



第56図 炉穴 (27)



0 1m

第57図 炉穴 (28)

065炉穴(第57図、図版8) 調査区北側、9 H14、15に位置し、長さ1.28m、幅0.8mであった。楕円形状をしていて、主軸は東北-西南を向く。東北側の底面に火床部があった。擦痕のある土器片が少量出土した。

119炉穴(第57図) 調査区北側、9 H22に位置する円形の小さな炉穴である。長さ0.9m、幅0.7mであった。底面中央に火床部があった。土器片が少量出土した。

110炉穴(第57図、図版8) 調査区北側、10 I 12、13に位置し、北側に109炉穴がある。楕円形状をして、長さ1.4m、0.8mであった。主軸は東-西を向く。東側底面に火床部があった。出土遺物はなかった。

109炉穴(第57図、図版8) 調査区北側、10 I 02、03に位置し、南側に110炉穴がある。楕円形状をして、長さ1.5m、幅0.7mであった。主軸は東-西を向く。東側底面に火床部があった。出土遺物はなかった。

112炉穴(第57図、図版8) 調査区北側、9 I 90、10 I 00に位置し、北側に111炉穴がある。楕円形状をして、長さ1.45m、幅0.7mであった。主軸は東-西を向く。底面中央に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

090炉穴(第58図、図版8) 調査区北側、10 K61に位置し、周囲に炉穴がなく、やや孤立している。楕円形状で、長さ2.09m、幅0.81mであった。主軸は東北-西南を向く。中央と東北側の底面に火床部があった。条痕文系の土器が少数出土した。

089炉穴(第58図、図版8) 調査区北側、10 J 19、10 K10に位置し、西側の092炉穴と接する。楕円形状で、長さ2.42m、幅0.9mであった。主軸は東北-西南を向く。底面中央から東北側にかけて、火床部が広がっていた。擦痕のある土器片が出土した。

091、092、093炉穴(第58図、図版8) 調査区北側、10 J 09、18、19に位置し、楕円形状の炉穴が3基結合したような形をしている。092の東側で089炉穴と接していた。長さ2.93m、幅1.95mであった。093には1カ所、091には2カ所の火床部があった。それぞれから土器片が少量出土した。

107炉穴(第59図) 調査区北側、9 J 64に位置し、長さ1.51m、幅0.95mであった。楕円形状で、主軸は西-東を向く。底面の西側に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

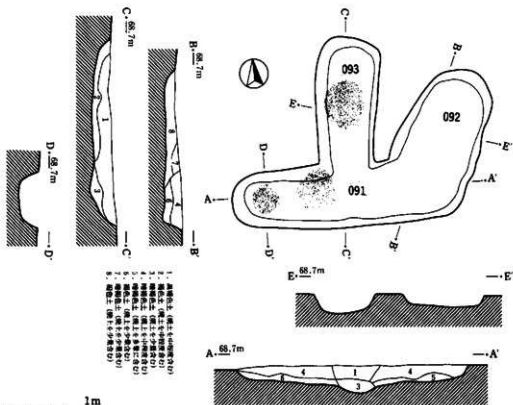
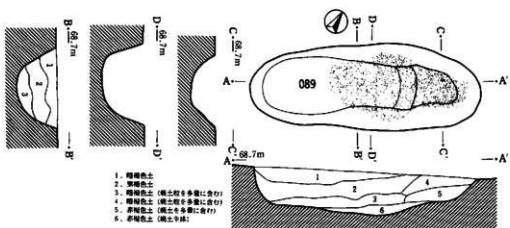
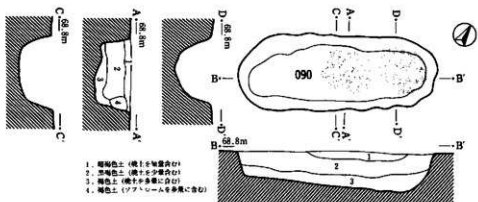
106炉穴(第59図) 調査区北側、9 J 85、86に位置し、長さ1.55m、幅0.72mであった。楕円形状をして、主軸は東北-西南を向く。東北側の底面から壁面にかけて、火床部があった。遺物は出土しなかった。

102炉穴(第59図、図版8) 調査区北側、10 J 16、26に位置し、中央部分を101貯蔵穴によって破壊されていた。長さ2.81m、幅0.58mあり、元来、楕円形状であったと思われる。主軸は東北-西南を向く。両端の底面に火床部があった。わずかに土器片が出土した。

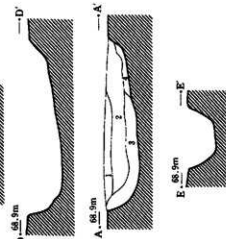
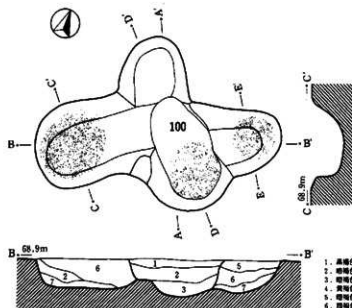
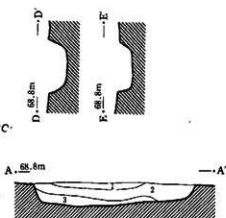
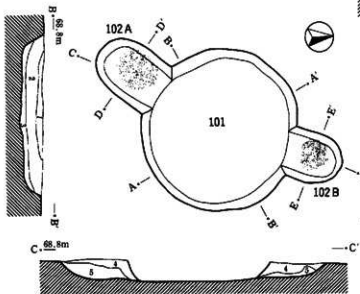
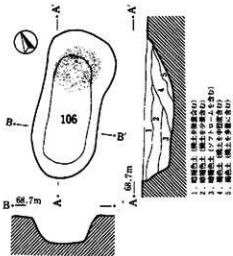
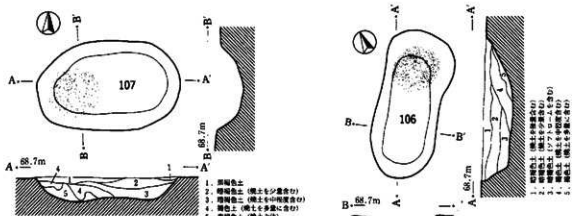
100炉穴(第59図、図版8) 調査区北側、10 J 45、55、56に位置し、数個の炉穴が結合したような形状をしていた。長さ2.59m、幅1.82mであった。主軸は東-西を向く。底面の中央、東西両端に火床部があった。擦痕のある土器片と条痕文系の土器片が出土した。

調査区南側では、長径60m、短径50mの楕円形状に炉穴が分布し、分布内の空間地帯が、あたかも広場であったかのようである(第60図)。

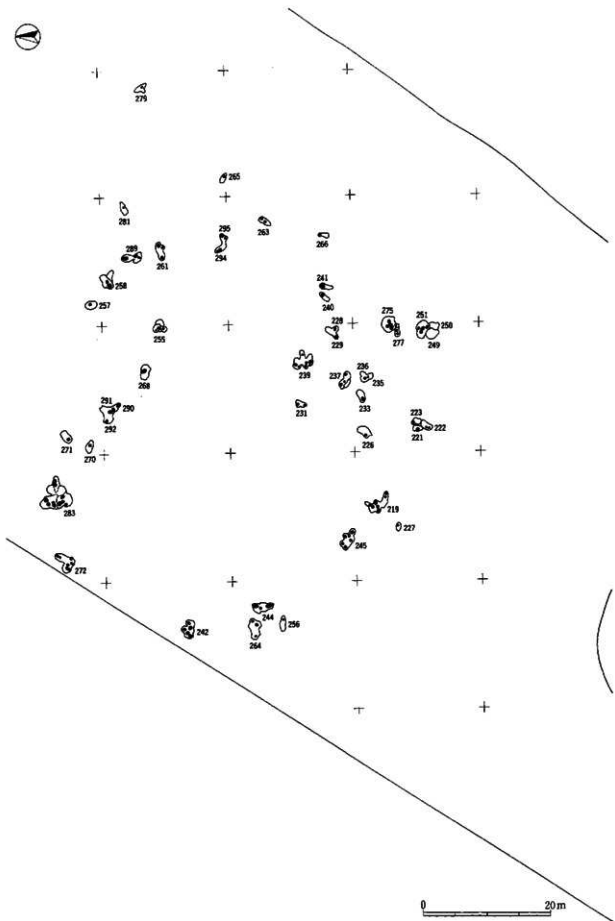
283炉穴(第61図、図版9) 調査区南側、10 F 55、56、57、65、66、67、76に位置し、数基の炉穴が結合して複雑な形状をしていた。長さ5.3m、幅5.09mであった。底面に火床部が9カ所あった。条痕文系の土器片が覆土から多数出土した。



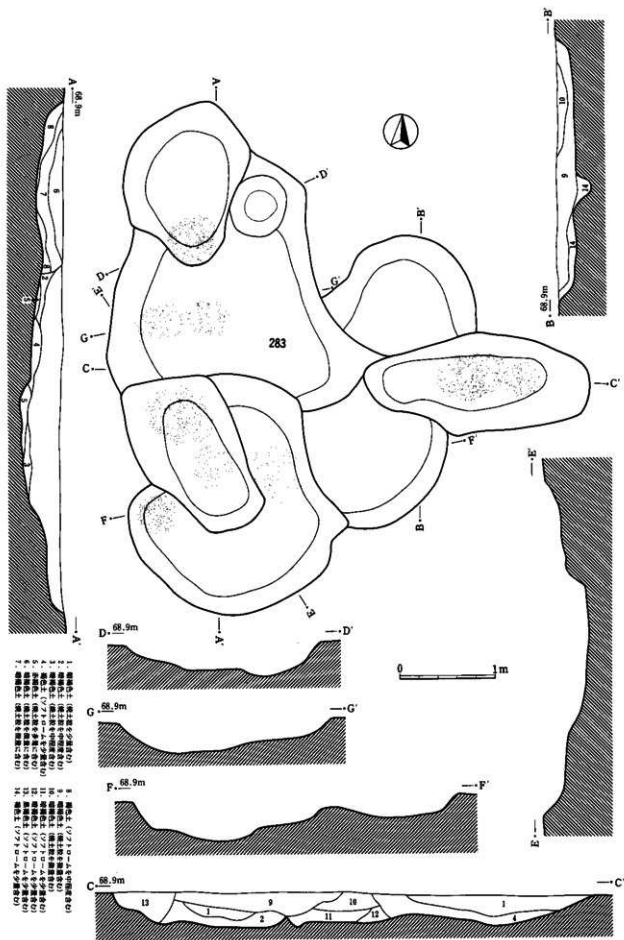
第58図 伊穴 (29)



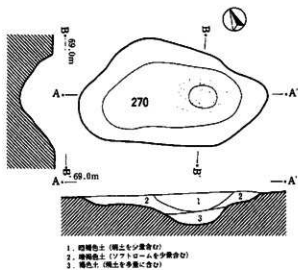
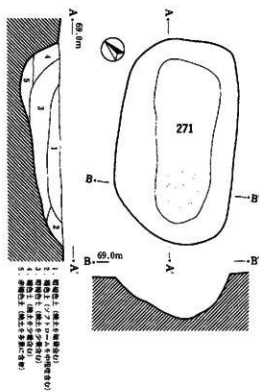
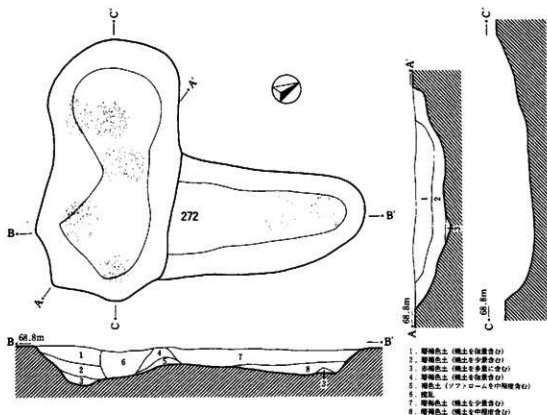
第59図 炉穴 (30)



第60图 炉穴分布图（5、南部）

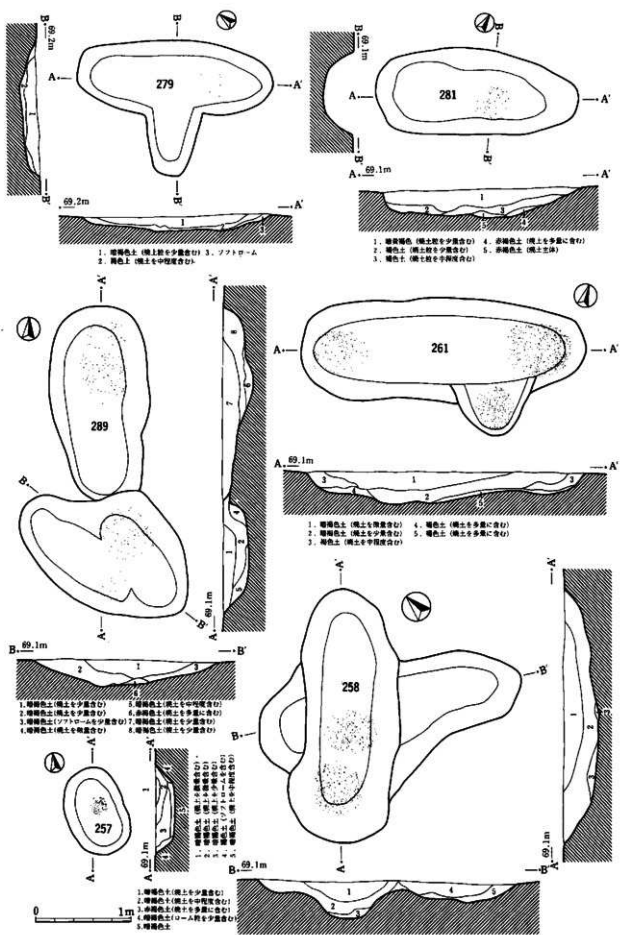


第61圖 炉穴 (31)



0 1m

第62図 炉穴 (32)



第64図 炉穴 (34)

272炉穴(第62図) 調査区南側、10F60、61、62、70、71に位置し、楕円形状の炉穴が2基直行するよ
うな形状をしていた。長さ3.45m、幅2.72mあった。底面に7ヵ所の火床部があり、南側に多く分布して
いた。覆土から条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が少量出土した。

271炉穴(第62図) 調査区南側、10G61、71に位置し、長さ1.71m、幅1.23mであった。楕円形状をし
ていて、主軸は西南-東北を向く。西南端の底面に火床部があった。わずかに遺物が出土した。

270炉穴(第62図) 調査区南側、10G80、90に位置して、長さ1.98m、幅1.08mであった。楕円形状を
して、主軸は東南-西北を向く。東南端の底面に火床部があった。わずかに遺物が出土した。

290、291、292炉穴(第63図、図版9) 調査区南側、11G02、03、13に位置し、278貯蔵穴、206方形周
溝状遺構に一部破壊されている。楕円形状の炉穴が数基結合したような形状をしていた。290、292が西北-
東南の直線上に並び、291がそれに直行するように位置する。290、292は合せて長さ3.74mあり、291は長
さおよそ2.3mであった。290、292の底面に火床部が数基あった。土器片が少量出土した。

268炉穴(第63図) 調査区南側、11G35、36に位置し、長さ2.4m、幅1.34mであった。楕円形状をし
て、主軸は東-西であった。底面中央に火床部があった。覆土から条痕文系の土器片、擦痕のある土器片
が出土した。

279炉穴(第64図) 調査区南側、11I28、38に位置し、他の炉穴からやや孤立している。T字形をし
て、長さ2.04m、幅1.42mであった。長軸が東南-西北を向く。底面中央付近に火床部があった。わず
かに遺物が出土した。

281炉穴(第64図) 調査区南側、11H18、19に位置し、長さ2.12m、幅0.91mであった。楕円形状をし
て、主軸は東-西を向く。底面中央付近に火床部がある。土器片がわずかに出土した。

289炉穴(第64図) 調査区南側、11H15、25に位置し、楕円形状の炉穴が2基結合したような形状をし
ていた。長さ3.19m、幅1.64mで、主軸は北-南を向く。3ヵ所に底面から壁面にかけて火床部があった。
条痕文系の土器片がわずかに出土した。

261炉穴(第64図) 調査区南側、11H45、46に位置し、長さ2.98m、幅1.39mであった。楕円形状をし
て、主軸は東-西を向く。底面から壁面にかけてのびる火床部が3ヵ所あった。条痕文系の土器片、擦痕
のある土器片が少量出土した。

257炉穴(第64図) 調査区南側、10H81、91に位置し、長さ0.9m、幅0.62mであった。小さい楕円形
状をしていて、主軸は南-北を向く。底面中央付近に火床部があった。土器片が少量出土した。

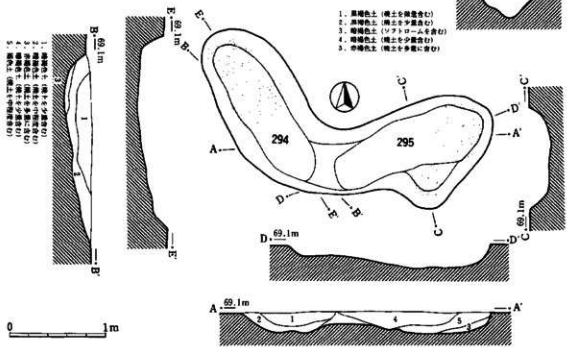
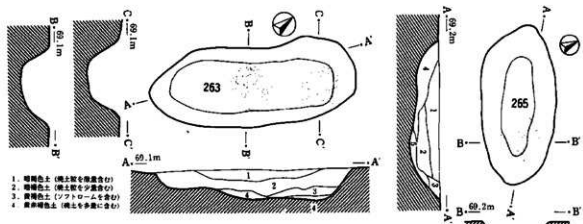
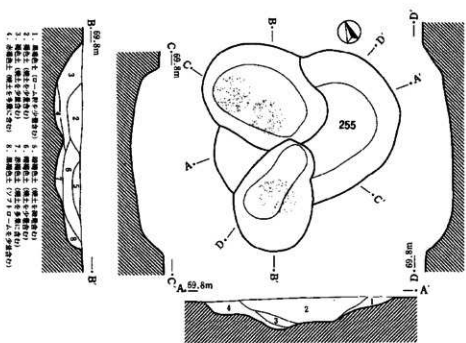
258炉穴(第64図、図版9) 調査区南側、11H03、04に位置し、2基の楕円形状の炉穴が、交差するよ
うな形状であった。長さ2.8mで、幅1.64mであった。西-東を向く底面の西側に火床部が2ヵ所あった。
遺物は出土しなかった。

255炉穴(第65図、図版9) 調査区南側、11G49、11H40に位置し、数基の炉穴が結合して円形に近い
形状であった。長さ2.19m、幅2.1mであった。底面3ヵ所に火床部があった。土器片が少量出土した。

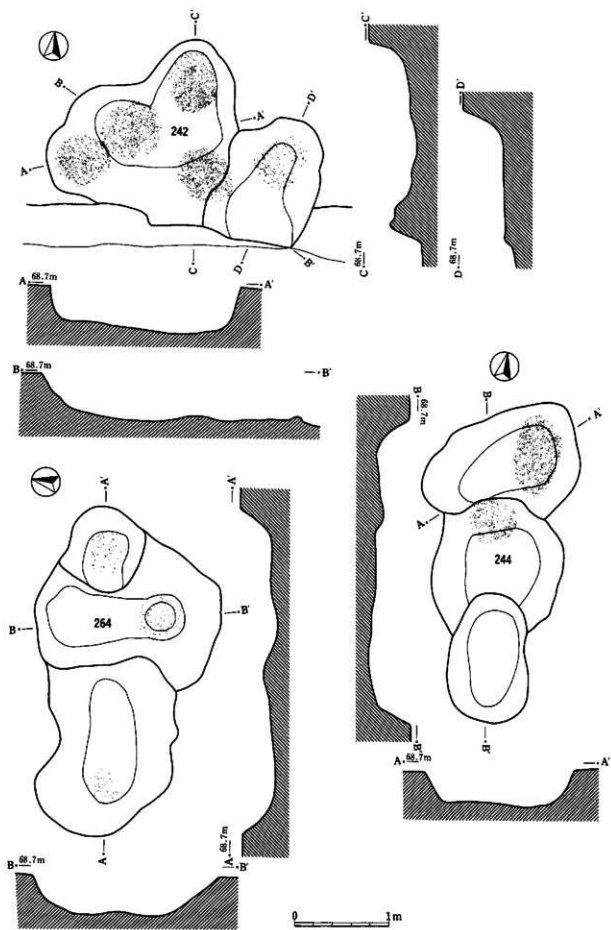
263炉穴(第65図) 調査区南側、12H27、28、37、38に位置し、長さ2.17m、幅0.86mであった。楕円
形状をして、主軸は東北-西南を向く。底面中央と東北端に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

265炉穴(第65図) 調査区南側、11I91に位置し、長さ1.65m、幅0.17mであった。楕円形状をして、
主軸は東南-西北を向く。東南端の底面から壁面にかけて火床部があった。遺物は出土しなかった。

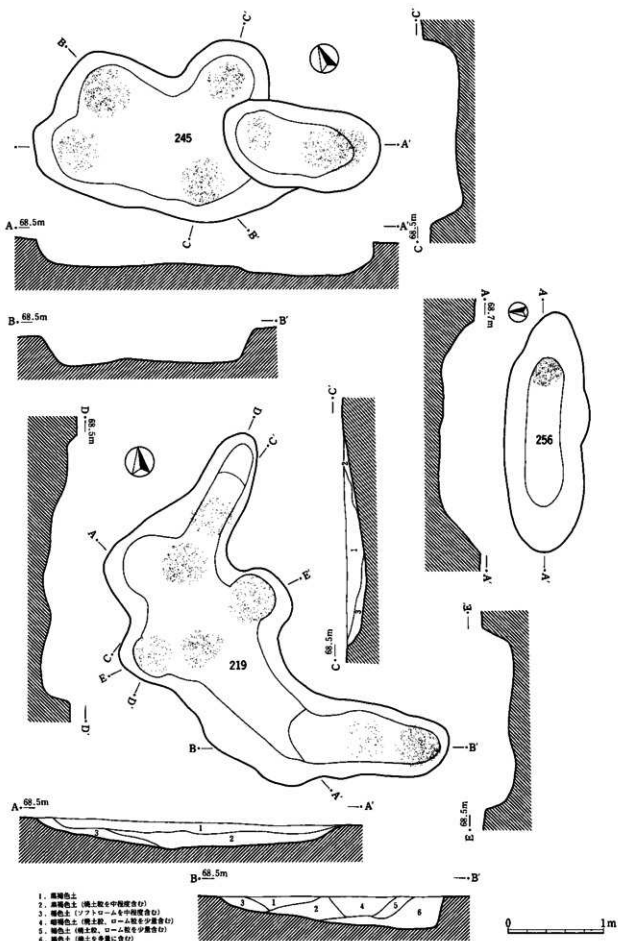
294、295炉穴(第65図、図版9) 調査区南側、11H95、96に位置し、楕円形状の炉穴が2基結合した



第65図 炉穴 (35)



第66圖 炉穴 (36)



第67図 炉穴 (37)

ような形状をしていた。294の長さは2.0m、幅0.87mで、295の長さは2.12m、幅1.08mであった。294の主軸は西北-東南を向き、底面中央から西北側に火床部があった。295の主軸は東-西を向き、東端と南壁側に火床部があった。土器片が少量出土した。

242炉穴(第66図) 調査区南側、11E65、66に位置し、203方形周溝状遺構と一部重複していた。複数の炉穴が結合したような形状をしていた。主軸は東-西を向き、長さ2.7m、幅1.95mであった。底面に火床部が5ヵ所あった。少量の土器片が出土した。

244炉穴(第66図) 調査区南側、12E17、18、27、28、38に位置し、西側に264炉穴がある。3基の炉穴が結合したような形状をしていた。長さ3.34m、幅1.65mで、主軸は北-南を向く。底面中央と北側に火床部があった。条痕文系の土器片が出土した。

264炉穴(第66図) 調査区南側、12E15、16、25、26に位置し、東側に244炉穴がある。3基の炉穴が結合したような形状をしていて、長さ3.4m、幅1.95mであった。主軸は西-東を向く。底面の中央、両端に火床部があった。条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。

245炉穴(第67図) 調査区南側、12F82、92、93に位置し、複数の炉穴が重複したような形状をしていた。長さ3.64m、幅1.93mで、主軸は東南-西北を向く。底面に6ヵ所の火床部があった。少量の土器片が出土した。

256炉穴(第67図) 調査区南側、12E36、37、46、47に位置し、長さ2.48m、幅0.89mであった。楕円形状をしていて、主軸は東-西を向く。底面の東端に火床部があった。条痕文系の土器片が多数出土した。

219炉穴(第67図、図版9) 調査区南側、13F05、15、16、25、26に位置し、複数の炉穴が重複して複雑な形状をしていた。長さ4.02m、幅1.86mであった。底面に火床部が7ヵ所あった。覆土から条痕文系の土器片が出土した。

241炉穴(第68図、図版9) 調査区南側、12H72、82に位置し、西側に炉穴240がある。楕円形状をしていて、長さ2.28m、幅0.81mであった。主軸は北-南を向く。北端の底面から壁面にかけて火床部があった。条痕文系の土器片が出土した。

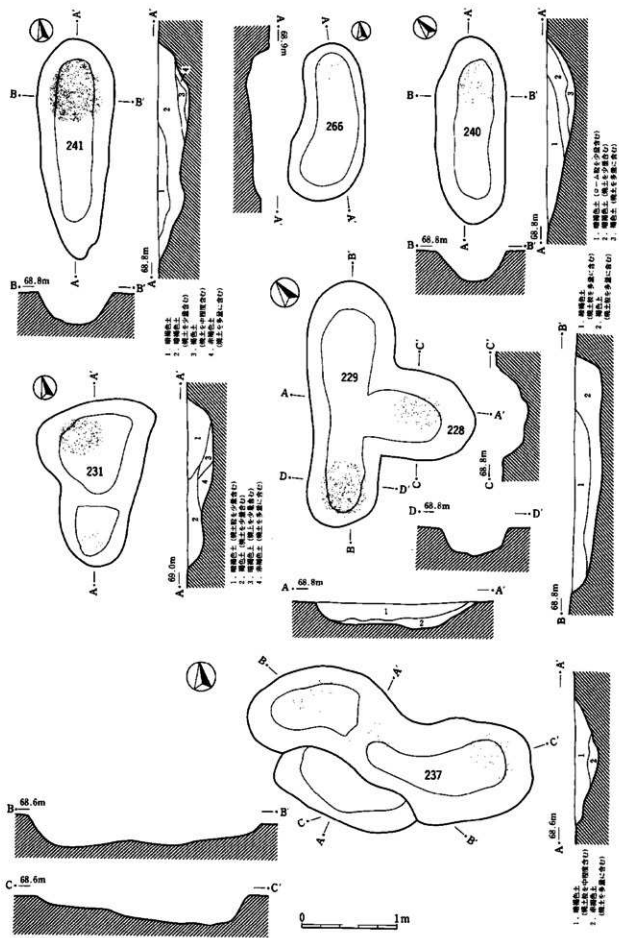
266炉穴(第68図) 調査区南側、12H76、77に位置し、やや孤立している。楕円形状をしていて、長さ1.64m、幅0.78mであった。主軸は北-南を向く。底面の北端に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

240炉穴(第68図、図版9) 調査区南側、12H71、72に位置し、東側に炉穴241がある。楕円形状をしていて、長さ1.95m、幅0.74mであった。主軸は東北-西南を向く。東北端の底面に火床部があった。条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。

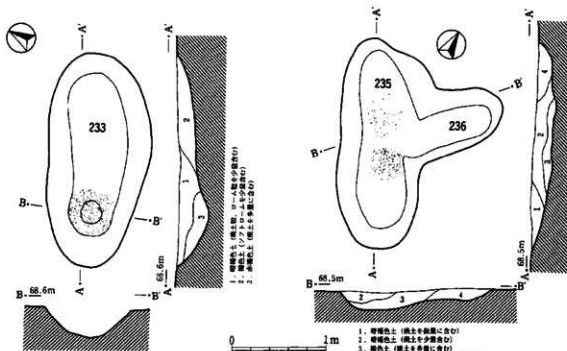
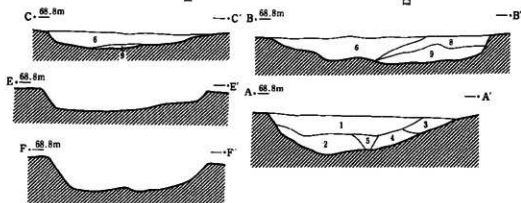
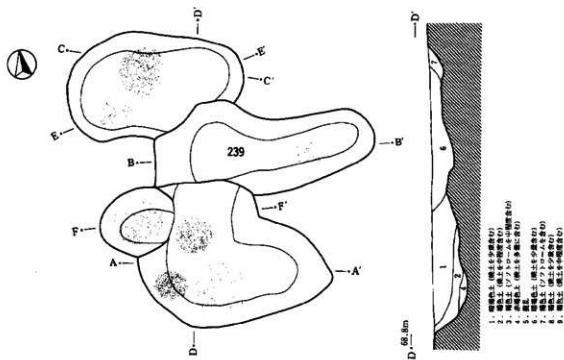
231炉穴(第68図) 調査区南側、12G53に位置し、長さ1.74m、幅0.78mであった。底面の2ヵ所に火床部があった。条痕文系の土器片が出土した。

228、229炉穴(第68図、図版9) 調査区南側、12G79、88、89に位置し、T字形をしていた。主軸は西南-東北を向き、長さ2.54m、幅1.74mであった。南側の底面両端に火床部がある。土器片が少量出土した。

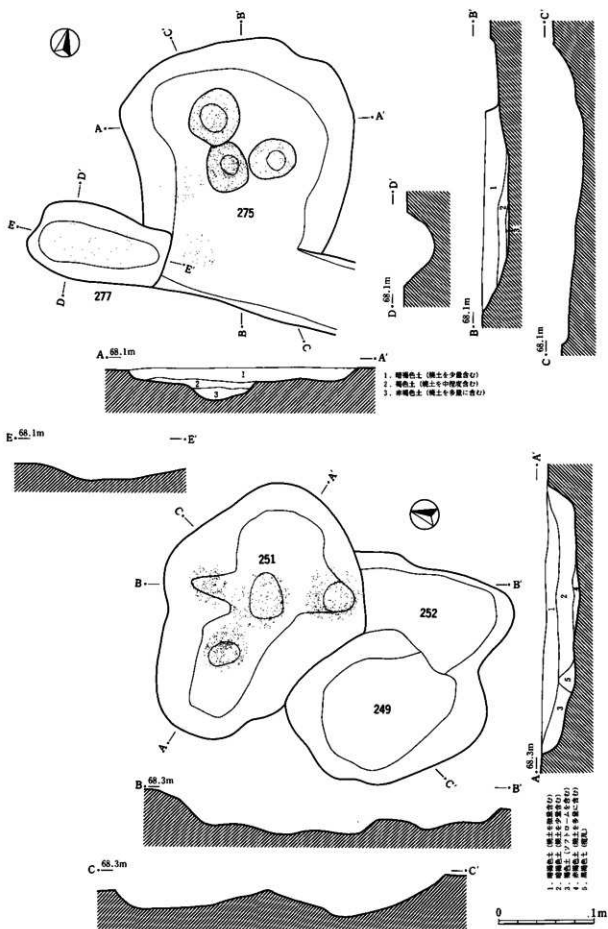
237炉穴(第68図) 調査区南側、12G85、95、96に位置し、南側に233、235炉穴がある。緩やかなS字状をしていて、長さ3.06m、幅1.46mであった。主軸は東-西を向く。底面の中央と両側に火床部があった。擦痕のある土器片が出土した。



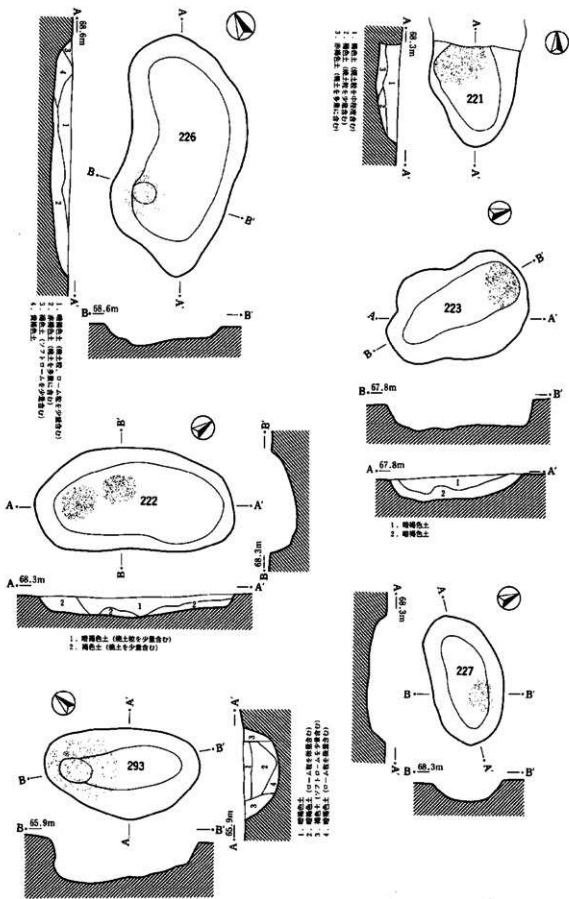
第68图 炉穴 (38)



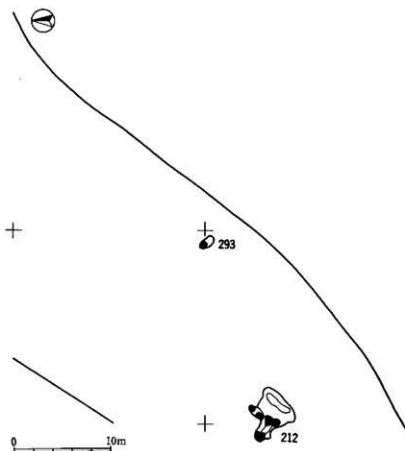
第69図 炉穴 (39)



第70図 炉穴 (40)



第71図 炉穴 (41)



第72図 炉穴分布図（6、南端部）

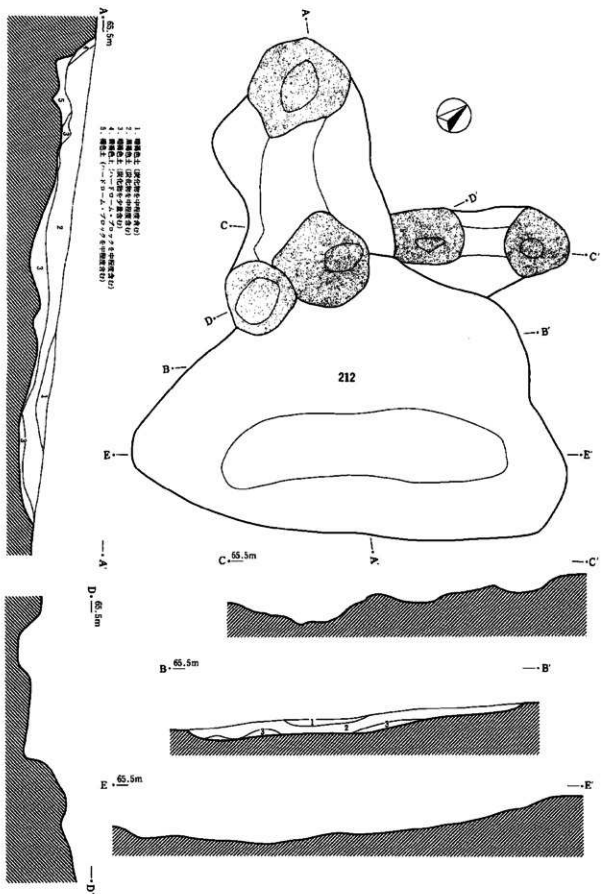
239炉穴（第69図） 調査区南側、12G56、57、66、67に位置し、数基の炉穴が重複して複雑な形状をしていた。長さ3.29m、幅2.35mであった。底面の7ヵ所に火床部があった。条痕文系の土器片が出土した。

233炉穴（第69図） 調査区南側、13G04に位置し、北側に237炉穴、東側に235、236炉穴がある。楕円形状をして、長さ2.2m、幅1.07mであった。主軸は西-東を向く。西端の底面に火床部があった。土器片がわずかに出土した。

235、236炉穴（第69図） 調査区南側、13G05、06、15、16に位置し、北側に237炉穴、西側に233炉穴がある。T字形をしていて、長さ2.16m、幅1.72mであった。主軸は西北-東南を向く。底面中央付近に火床部が2ヵ所あった。擦痕のある土器片が出土した。

275、277炉穴（第70図） 調査区南側、13G29、39、13H20に位置し、207方形周溝状遺構に一部破壊されている。方形の275に楕円形状の277が結合したような形状をしていた。275の長さは2.7m、幅2.44mで、277は長さ1.43m、幅0.79mであった。275の底面5ヵ所に火床部があり、277の底面のほぼ全面に火床部が広がっていた。少量の土器が275から出土した。

249、251、252炉穴（第70図） 調査区南側、13G59、69、13H50に位置し、207方形周溝状遺構に一部破壊されている。1基の炉穴に2基の土坑が結合したような形状をしている。249と252を合わせた長さは2.61m、幅は1.61mであった。251の長さは2.79m、幅2.17mで、主軸は西-東を向く。251の底面および壁面にかけて火床部が4ヵ所あった。それぞれの遺構から条痕文系の土器片が出土した。



第73圖 炉穴 (42)

226炉穴(第71図) 調査区南側、13G01に位置し、長さ2.52m、幅1.2mであった。楕円形状をして、主軸が南-北を向く。西側壁面に火床部が1ヵ所あった。条痕文系の土器片が出土した。

221炉穴(第71図) 調査区南側、13G41、51に位置し、東側に223炉穴、南側に222炉穴がある。北半分が攪乱によって破壊されているが、元来楕円形状であったと思われる。長さ1.06m、幅0.92mで、主軸は南-北を向く。底面に1ヵ所火床部があった。土器片がわずかに出土した。

222炉穴(第71図) 調査区南側、13G51、52に位置し、北側に221、223炉穴がある。楕円形状をして、長さ2.09m、幅1.04mであった。主軸は南-北を向く。南側の底面に火床部が2ヵ所あった。土器片がわずかに出土した。

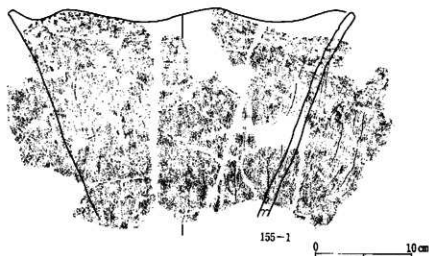
223炉穴(第71図) 調査区南側、13G42、52に位置し、西側に221炉穴、南側に222炉穴があった。楕円形状をしていて、長さ1.54m、幅1mであった。主軸は北-南を向く。北側の底面から壁面にかけて、火床部が1ヵ所あった。土器片がわずかに出土した。

227炉穴(第71図) 調査区南側、13F34に位置し、長さ1.34m、幅0.76mであった。楕円形状をしていて、主軸は東-西を向く。東側の底面から壁面にかけて、火床部が1ヵ所あった。覆土から土器片が出土した。

台地の縁辺部である調査区南端から2基の炉穴が検出された(第72図)。密集するような分布ではなく、他の炉穴から孤立している。

293炉穴(第71図) 調査区南端、15C99、16C09に位置し、長さ1.63m、幅0.94mであった。楕円形状をしていて、主軸は西北-東南を向く。西北側の底面から壁面にかけて火床部があった。土器片がわずかに出土した。

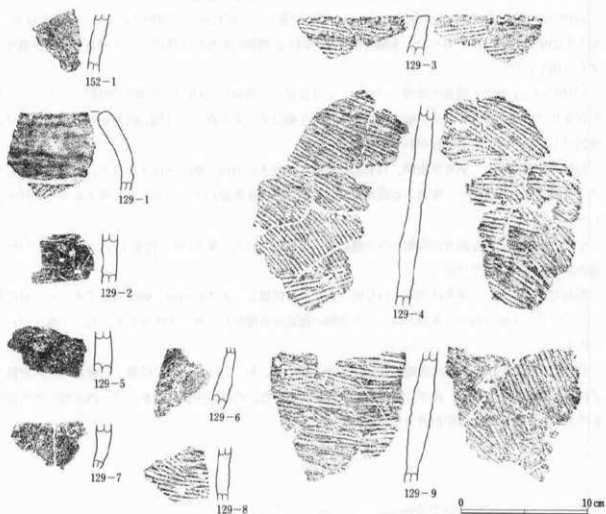
212炉穴(第73図) 調査区南端、16B29、39、16C20、30、31、40、41に位置し、数基の炉穴が結合して複雑な形状をしていた。長さ5.31m、幅3.67mであった。台地の中央に向かって、西北側に火床部が5ヵ所あった。少量の土器片が出土した。



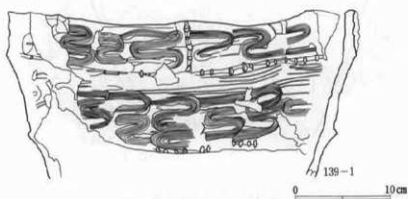
第74図 炉穴出土土器(1)

2 炉穴出土土器

炉穴からは、主に土器片が多く出土し、ごくまれに石器が出土した。大半の土器片は小片で、炉穴内で使用された状態としてではなく、炉穴の廃棄後に混入したものと考えられる。条痕文系の土器が大半を占める。



第75図 炉穴出土土器 (2)

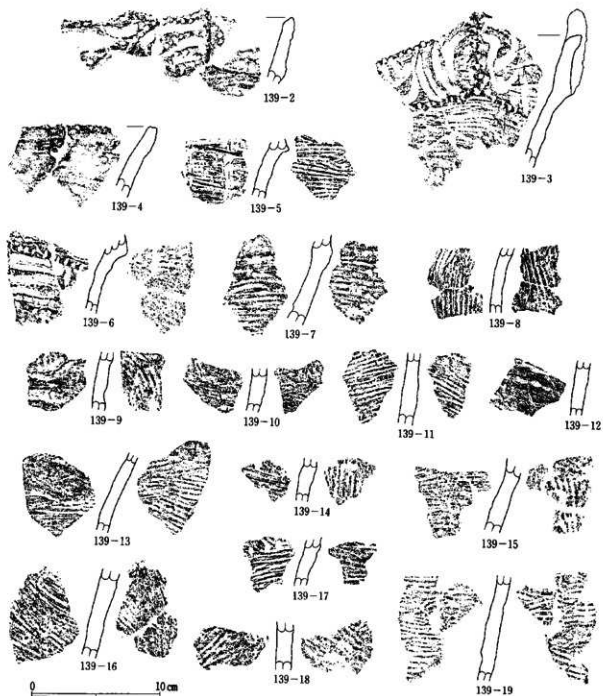


第76図 炉穴出土土器 (3)

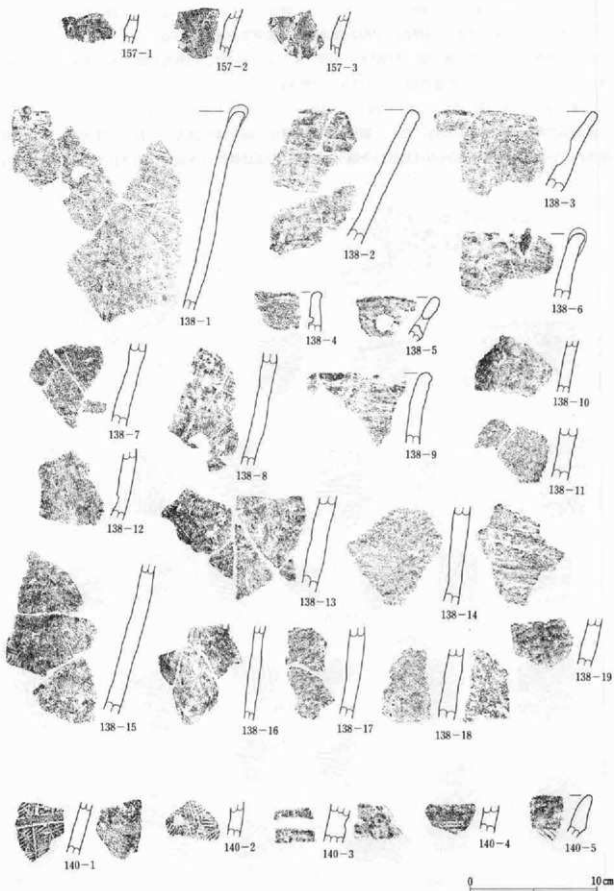
155炉穴出土土器(第74図、図版18) 155-1は、擦痕の上にていねいなナデが施されている。波状口縁で口径12.2cmに復原され、口唇部に貝殻の腹縁による刺突文を施している。

152、129炉穴出土土器(第75図、図版18) 129-3、4、9には、内外面に横方向、斜め方向の条痕が残っている。129-3の口唇部外縁には、刻み目が施されている。

139炉穴出土土器(第76図、77図、図版19) 139-1の口縁は小波状で、波頂部から貼付線が垂下し、口縁下部で横位の隆起線が巡る。さらに頸部付近にも横位の隆起線が巡る。これらの隆起線には刺突文が施されている。隆起線の区画内は波状の条線がまわる。内面は横位の条痕文が施されている。鶺鴒島台式



第77図 炉穴出土土器(4)



第78图 伊穴出土土器 (5)

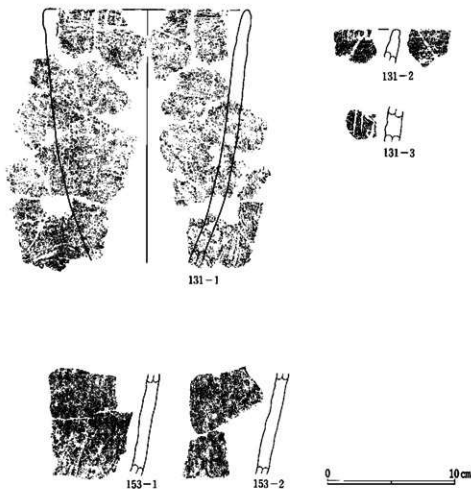
付近の土器である。139-2、3、4、5、6は鶴ヶ島台式の土器片で、139-2は波状口縁で、波頂部から隆起線が垂下し、口縁下部で横位の隆起線が巡る。隆起線の区画内を竹管で横位に刺突して、横になでている。139-3も波状口縁で、波頂部から隆起線が垂下し、口縁下部で横位の隆起線が巡る。口唇部と隆起線に竹管の刺突文が施されている。横位の条痕文の後に、隆起線の区画内を弧状になでている。139-4の口縁部外面は、いねいになでてあり、口唇部に刺突文がある。139-5は横位に隆起線が巡り、縦に半截竹管の刺突列がある。139-9は横位に隆起線が巡り、その隆起線に刺突文が施されている。139-7に横位に隆起線が巡り、その上部に竹管による浅い刺突がなされている。その他の土器片の内外面には、横位もしくは斜めの条痕文がある。

157、138、140炉穴出土土器(第78図、図版20) ほとんどの土器は、内外面に擦痕のある土器片である。138-1の口縁部には、小さい瘤を貼り付けている。138-5の口縁下部に補修孔が穿たれている。

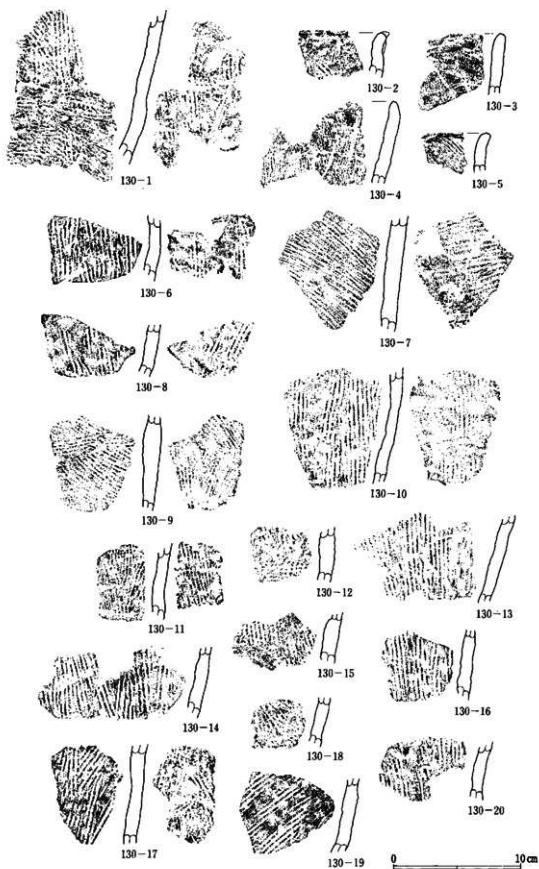
131、153炉穴出土土器(第79図、図版20) いずれも、内外面に擦痕のある土器である。131-1、2の口唇部に縦の細沈線文がほぼ等間隔に施されている。

130炉穴出土土器(第80図、図版21) ほとんどの土器が、内外面に条痕文のある土器片である。130-5の口縁部外面は、いねいになでてある。

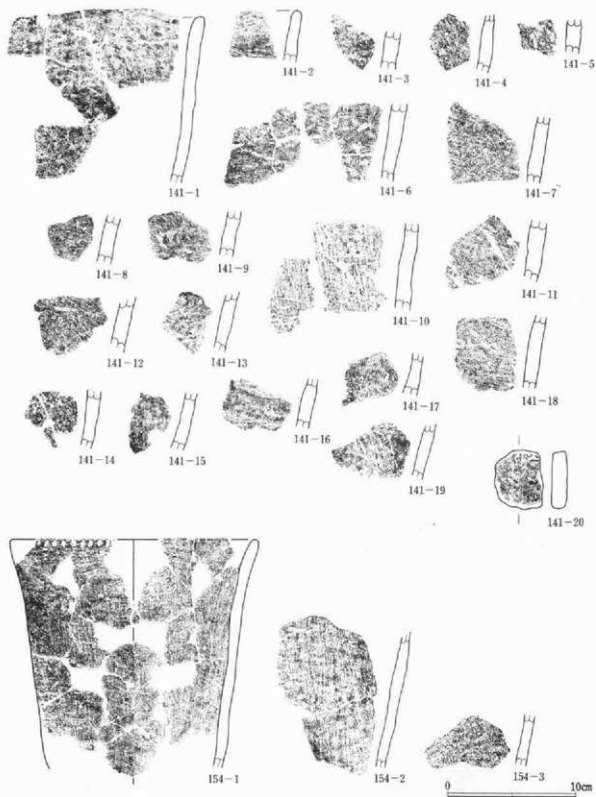
141、154炉穴出土土器(第81図、図版21) ほとんどの土器が、擦痕のある土器片である。141-1は小波状の口縁で、擦痕を、いねいになでてある。154-1の口唇部には、貝殻の腹縁による刺突文を施してい



第79図 炉穴出土土器(6)



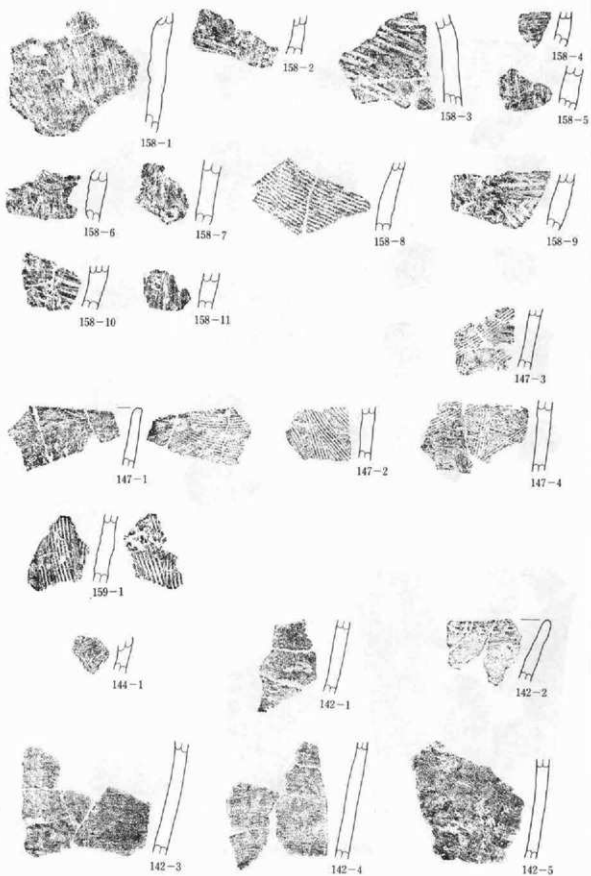
第80圖 炉穴出土土器 (7)



第81図 伊穴出土土器 (8)

る。141-20は土器片を利用した錘である。

158、147、159、144、142伊穴出土土器(第82図、図版22) ほとんどの土器は、条痕文のある土器片も

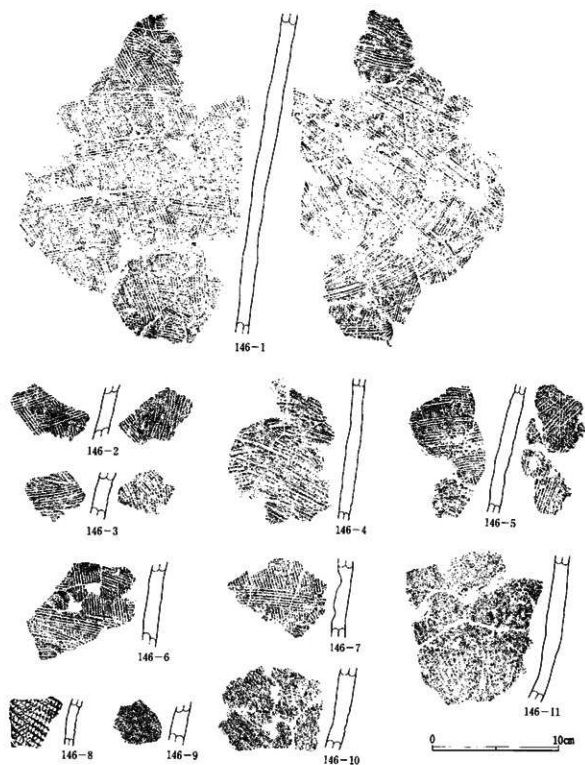


0 10cm

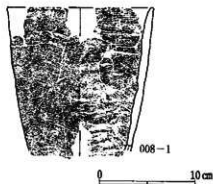
第82圖 伊穴出土土器(9)

しくは擦痕のある土器片である。158-8は縄文を施文してある。147-1の口縁外部はていねいになでである。142-2の口唇部には、半裁竹管文が巡らされている。

146 戸穴出土土器 (第83図、図版23) ほとんどの土器が、条痕文系の土器片、もしくは擦痕のある土器片である。146-8には縄文が施文されている。



第83図 戸穴出土土器 (10)



第84図 炉穴出土土器 (11)

011、008、145、005炉穴出土土器 (第84、85図、図版22) 条痕文系の土器片が多い。011-2、008-2、5の口唇部には刺突文が施されている。005-1の口縁部には横位に貼付線が巡らされ、そこに刺突文が施されている。008-15は土器片を利用した鏝である。

026、027、022、023、024、025炉穴出土土器 (第86、87図、図版23、24) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体を占める。27-1、022-4の口縁部には刺突文が巡る。また、023-2、3の口縁部には半裁竹管による刺突文が巡る。023-4の口縁下部には縦に線刻がされている。

164、148炉穴出土土器 (第88図、図版24) 条痕文系の土器片が主体をなす。164-1は、条痕文が縦と斜めに交差している。

167、168、169、034、168、036、037、038炉穴出土土器 (第89図、図版25) 条痕文系の土器片が主体をなし、内外面に条痕文が施されているものが多い。167-1の口唇部には貝殻の腹縁による刺突文が施されている。167-5、6は条痕文が縦位と横位に交差している。167-3は土器片を利用した鏝である。168-3は沈線で区画された中を、条線文を施してある。038-2の口唇部および口縁下部に刺突文を施している。

180、179、178炉穴出土土器 (第90図、図版25) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。178-8は底部で、擦痕をなでている。

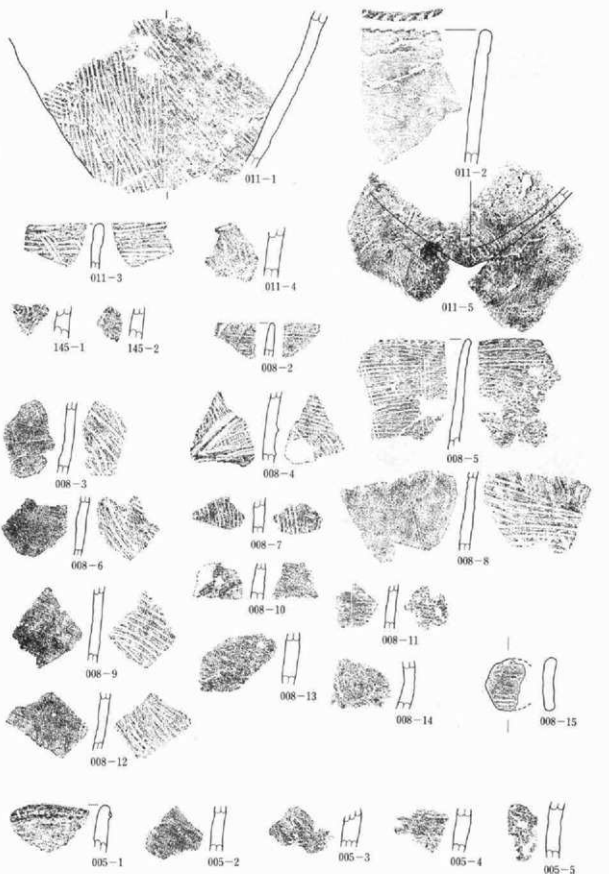
175炉穴出土土器 (第91図、図版26) 条痕文系の土器が主体をなす。175-1の口縁部内面および口唇部は、条痕文を施した後になでている。175-2の口唇部には、刺突文が施されている。175-3の口唇部には、貝殻の腹縁による刺突文が巡っている。

173、174炉穴出土土器 (第92図、図版26) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。173-1の口唇部には、貝殻の腹縁による刺突文が巡る。173-2の口縁下部にも、貝殻の腹縁による小さい刺突文が巡る。173-5は、条痕文が横位と斜めに交差し、173-11は縦位と横位に交差している。174-1、2の口唇部には、貝殻の腹縁による刺突文が巡る。

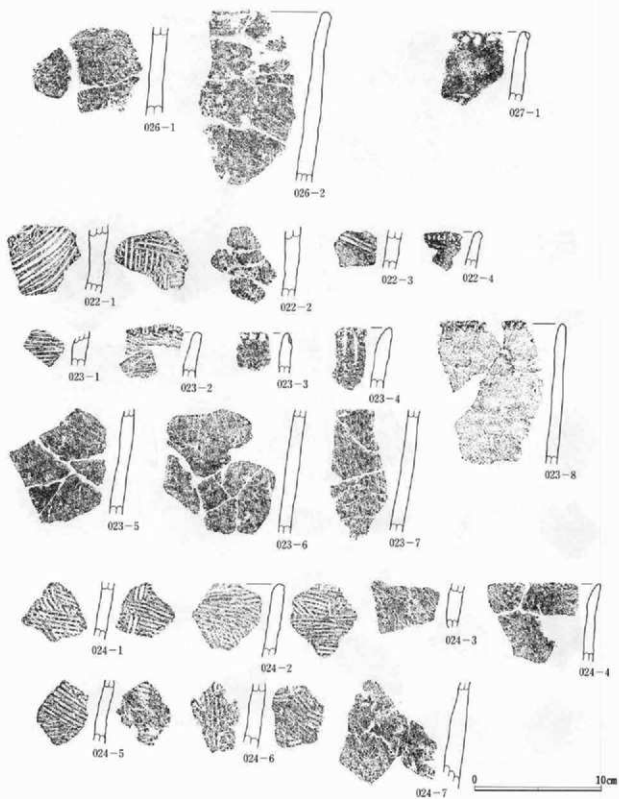
171、172、170炉穴出土土器 (第93図、図版27) 条痕文系の土器片が主体をなす。171-2の外面には横位の条痕文が施され、内面には縦位と斜めの条痕文があり、部分的になでられている。

162、163炉穴出土土器 (第94図、図版27) 擦痕のある土器片が主体をなす。162-4の口唇部には、貝殻の腹縁による刺突文が巡る。162-3、8は縄文時代中期の土器片で、たまたま覆土に混入したのであろう。163-1は縦位の、また、2、5は横位の条痕文がある。

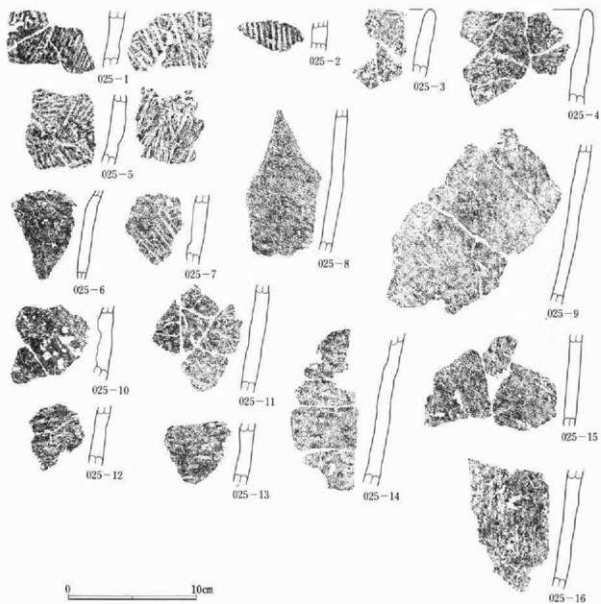
041、190炉穴出土土器 (第95、96図、図版28) 条痕文のある土器片が主体をなす。19-1、2、3は小波状口縁で、3の口唇部には刺突文が巡る。190-12は、貼付線で区画された中を、条線文で装飾している。190-19、20、21、22は土器片を利用した鏝である。



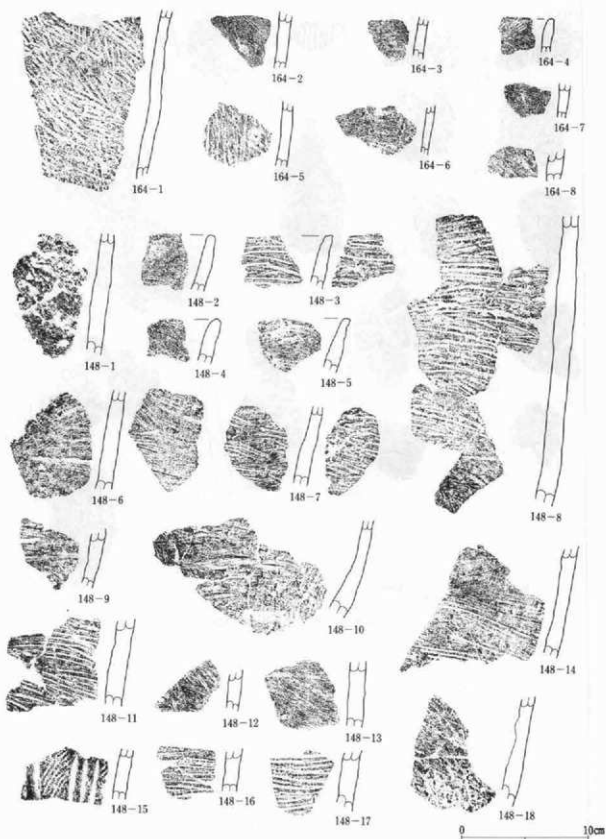
第85圖 伊穴出土土器 (12)



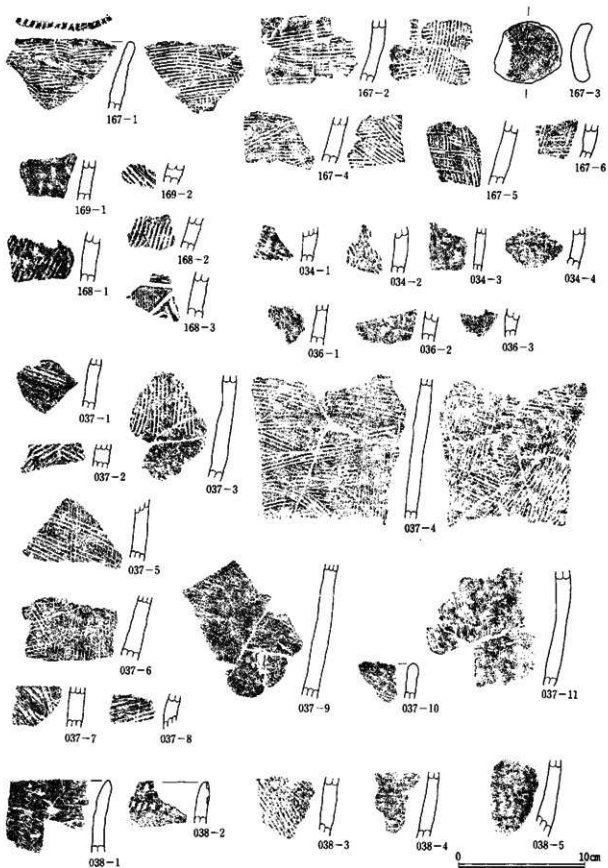
第86圖 炉穴出土土器 (13)



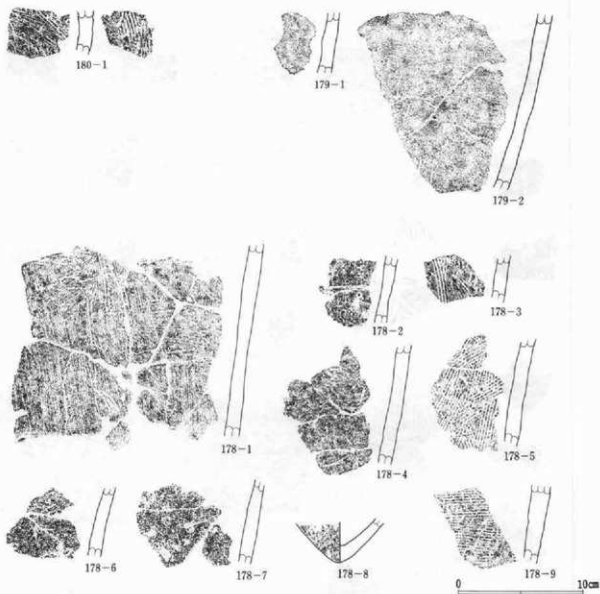
第87图 灰穴出土土器 (14)



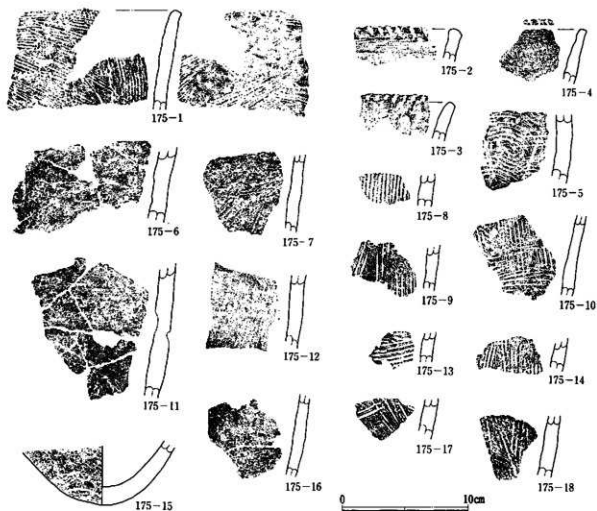
第88图 灰穴出土土器 (15)



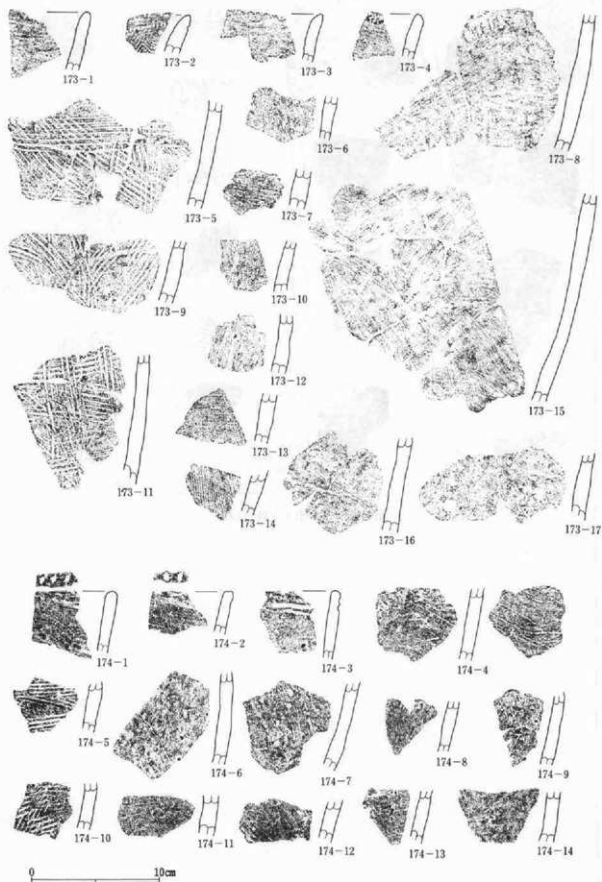
第89图 炉穴出土土器 (16)



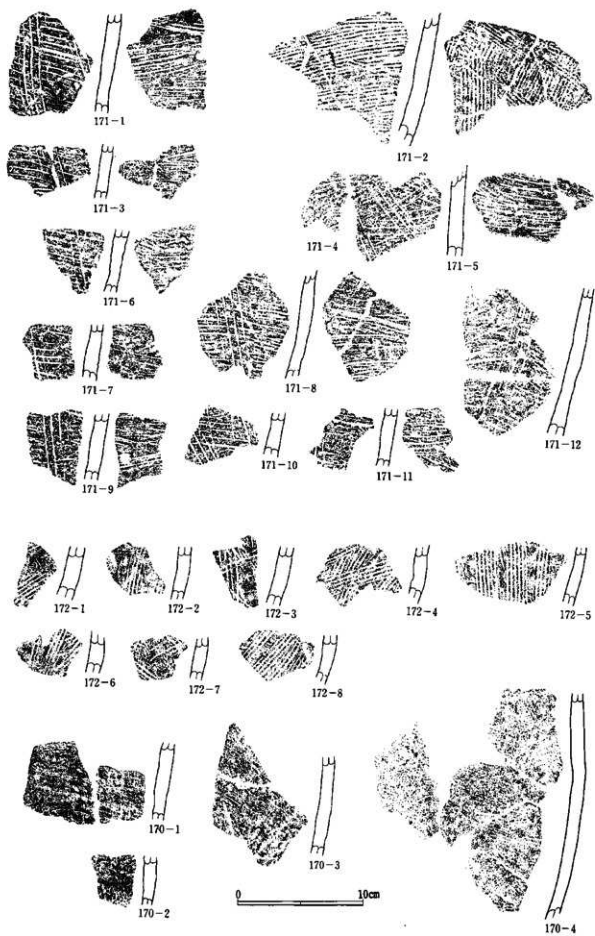
第90图 炉穴出土土器 (17)



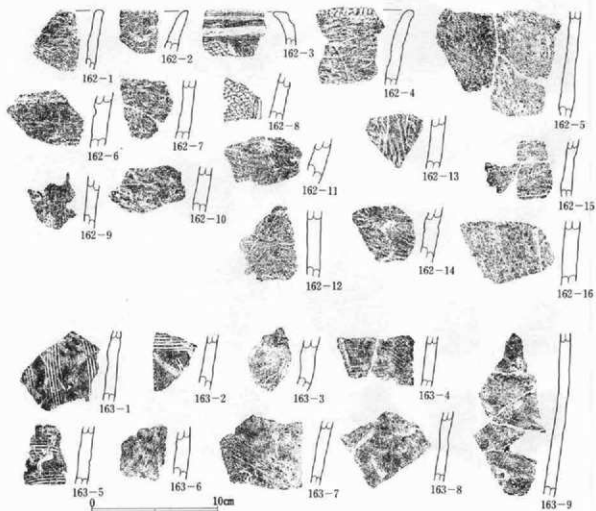
第91圖 炉穴出土土器 (18)



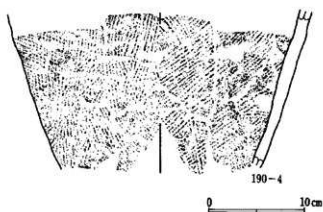
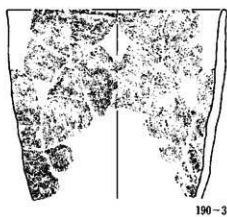
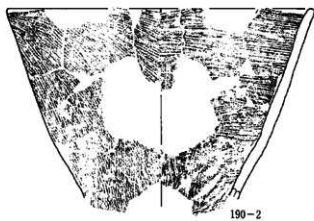
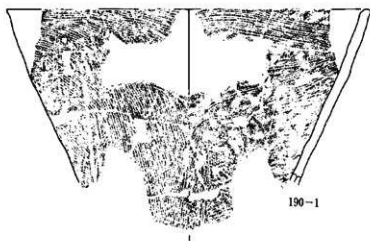
第92圖 炉穴出土土器 (19)



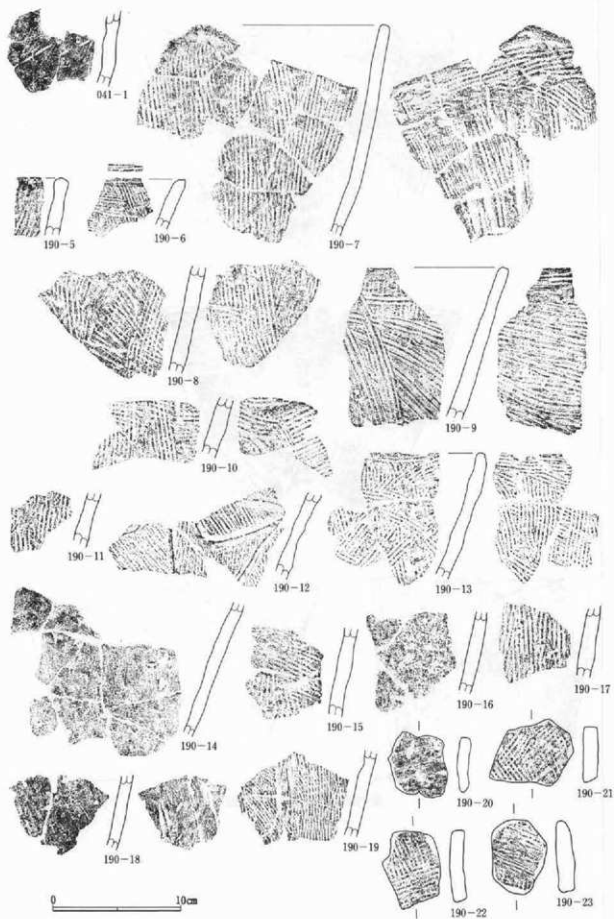
第93圖 炉穴出土土器 (20)



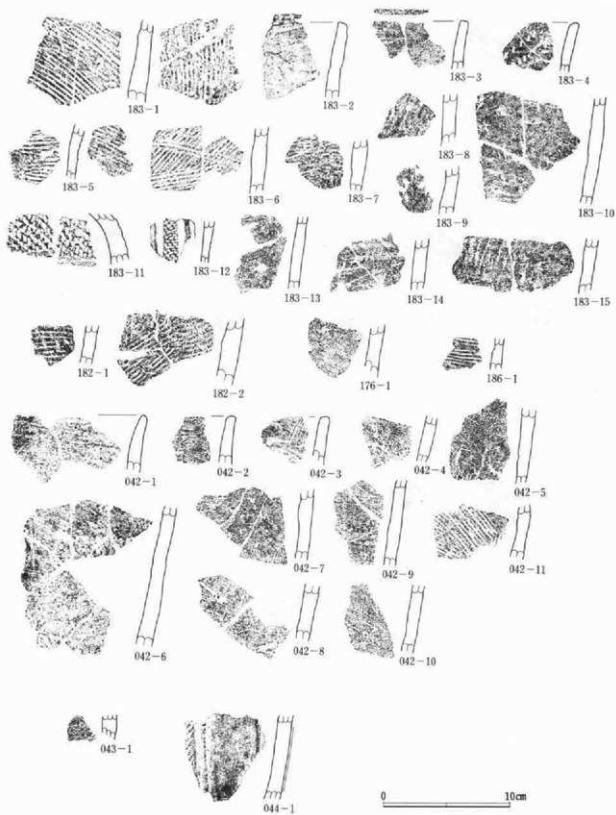
第94图 炉穴出土土器 (21)



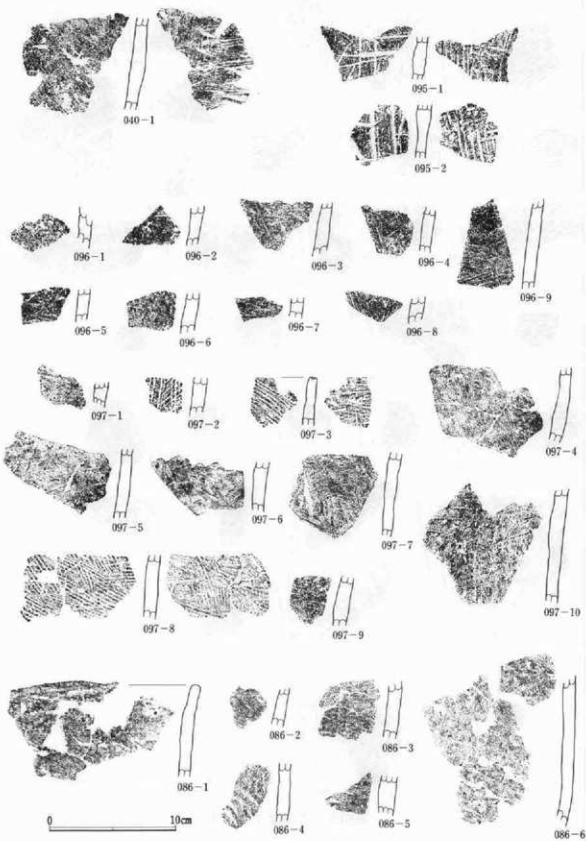
第95图 炉穴出土土器 (22)



第96圖 伊穴出土土器 (23)



第97图 炉穴出土土器 (24)



第98圖 炉穴出土土器 (25)

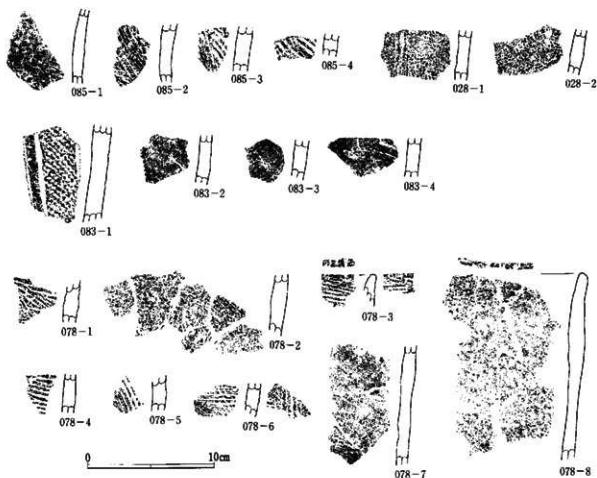
183、182、176、186、042、043、044 炉穴出土土器 (第97図、図版28) 183-2の口唇部には刺突文が巡らされている。183-4の口縁部には連続する刺突文が斜めに施されている。183-11、12、044-1は、沈線の区画内に縄文が施された縄文時代中期の土器片である。

040、095、096、097、086 炉穴出土土器 (第98図、図版29) 擦痕のある土器片が主体をなす。095-1、2、097-3、8の内外面は、条痕文が施されている。086-1は小波状口縁で、口縁部の外面は擦痕をていねいになでである。

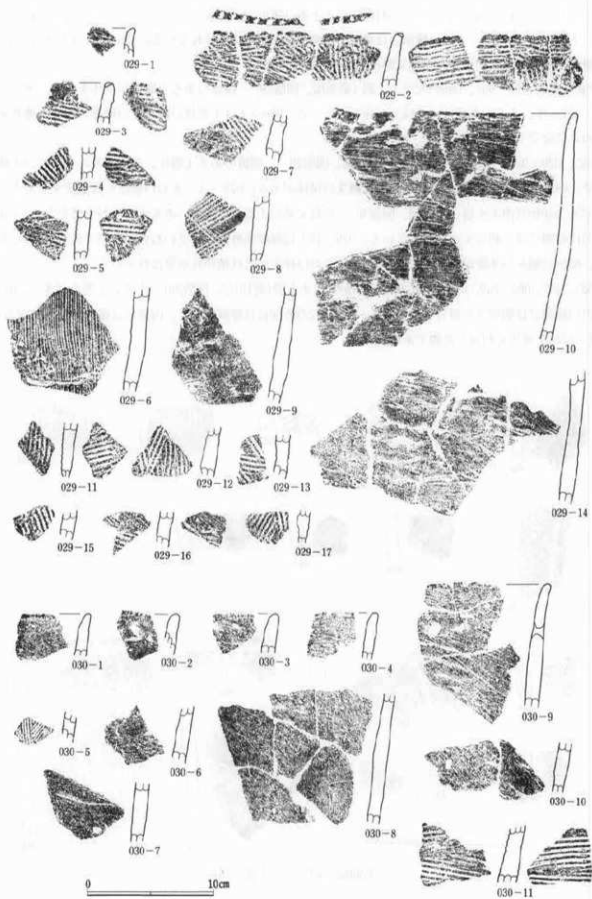
085、028、083、078 炉穴出土土器 (第99図、図版29) 擦痕のある土器片、条痕文系の土器片が主体をなす。083-1は、沈線で区画された中に縄文の模様がある。078-3、8の口唇部には刺突文がある。

029、030 炉穴出土土器 (第100図、図版30) 条痕文系の土器片と擦痕のある土器片が主体をなす。029-2の口唇部には、刺突文が施されている。029-10の口縁部内外面は、ていねいになでである。029-6には、縦位に細かい条線が施されている。030-9の口縁下部には補修孔が穿たれている。

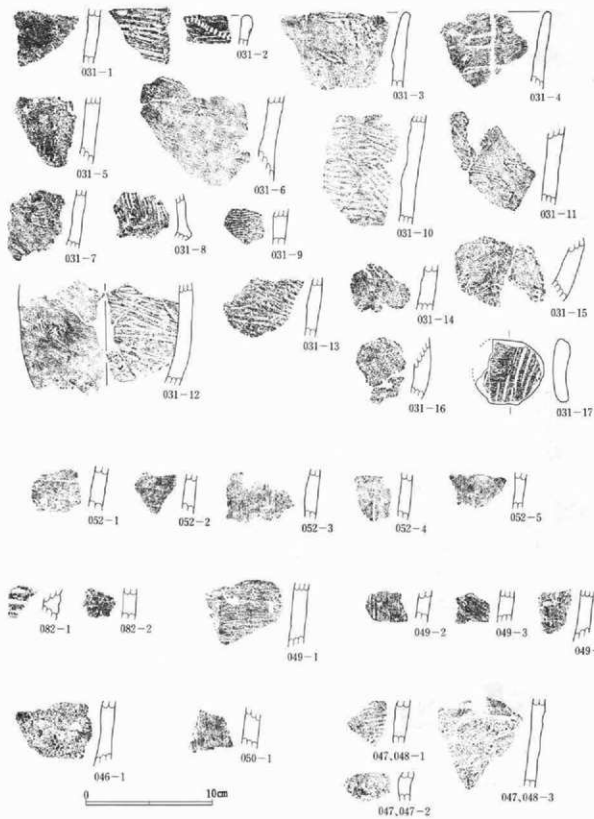
031、052、082、049、046、050、047、048 炉穴出土土器 (第101図、図版30) 小さい土器片が多い。031-2の口唇部には刺突文が巡らされている。031-12の外面には擦痕があり、内面には横位の条痕文がある。031-17は土器片を利用した鍾である。



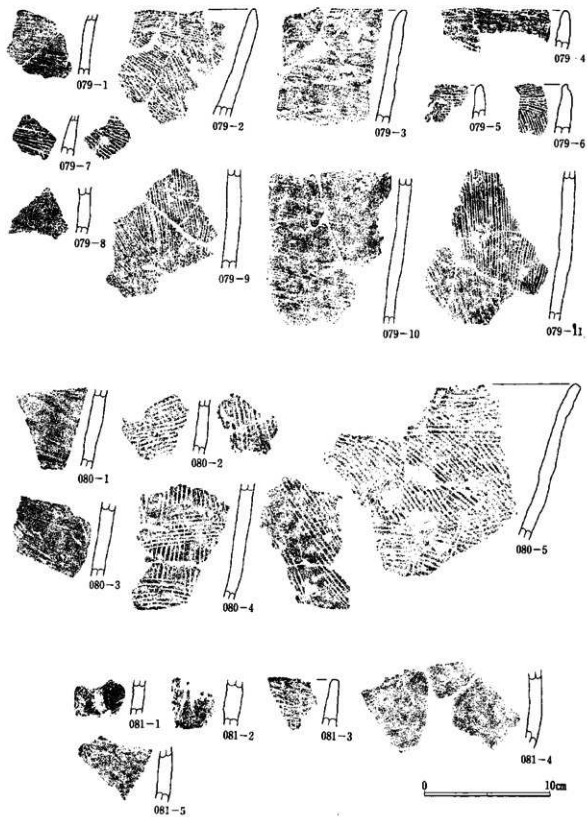
第99図 炉穴出土土器 (26)



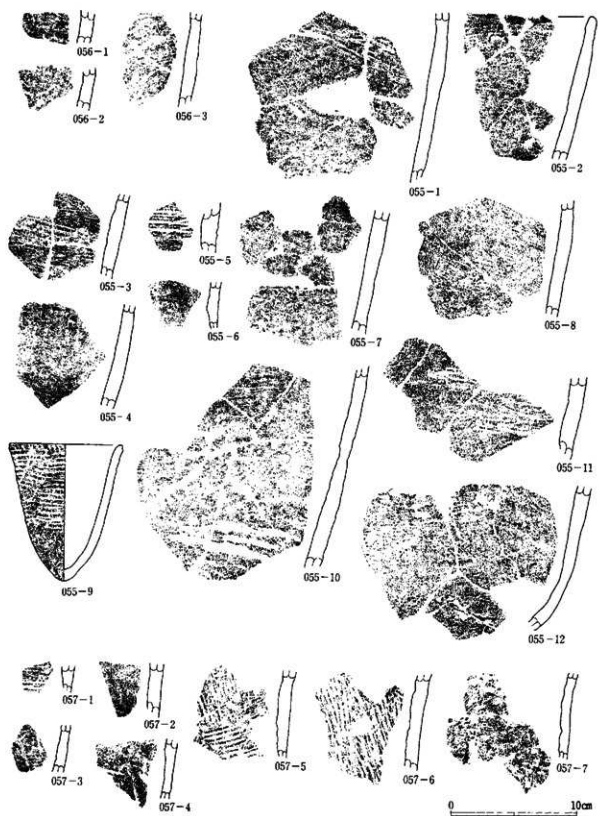
第100圖 炉穴出土土器 (27)



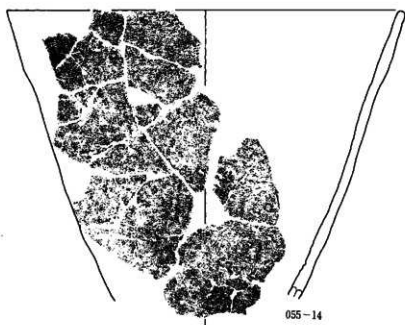
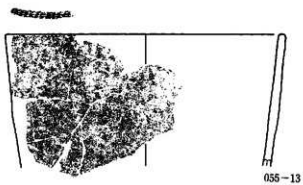
第101图 伊穴出土土器 (28)



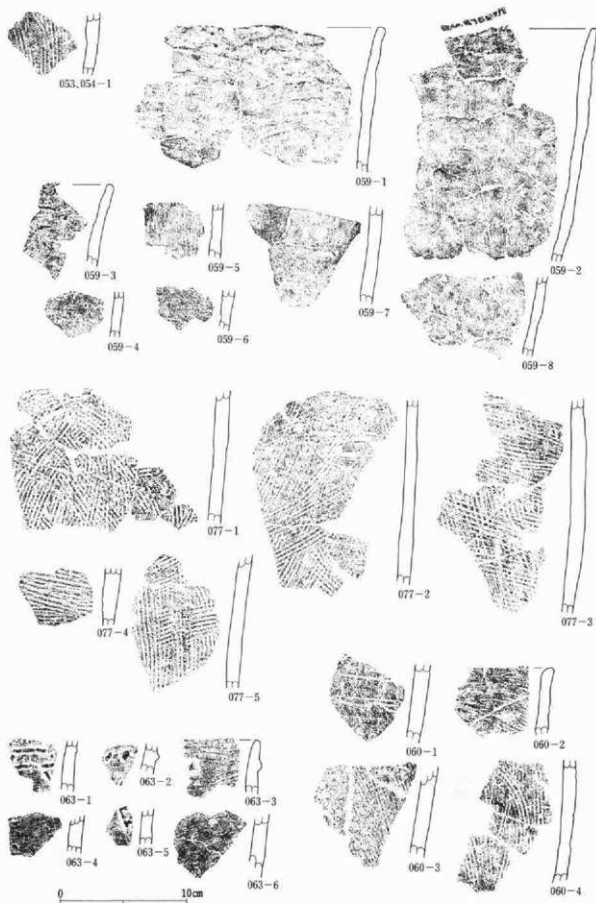
第102图 炉穴出土土器 (29)



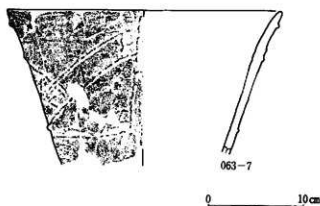
第103圖 炉穴出土土器 (30)



第104图 炉穴出土土器 (31)



第105图 炉穴出土土器 (32)



第106図 炉穴出土土器 (33)

079、080、081炉穴出土土器(第102図、図版31) 条痕文系の土器片が多い。079-2、3は小波状口縁で、2の外面には条痕文が、3の外面には擦痕がある。080-5の口縁部外面には横位の条痕文が、口縁下部には斜めと横位の条痕文が交差している。

056、055、057炉穴出土土器(第103、104図、図版31) 擦痕のある土器片が主体をなす。055-9はミニチュアの壺で、口唇部に斜位の刺突文が巡り、口縁部から胴部にかけて条痕文がある。底部は尖底で無文である。内面はていねいになでている。055-13の口唇部には細い襷糸の絡条体で圧痕を施している。内外面はていねいになでている。055-14も内外面をていねいになでている。

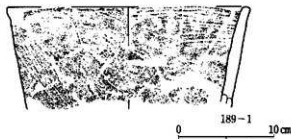
053、054、059、077、063、060炉穴出土土器(第105、106図、図版32) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。059-1は小波状口縁で、口唇部には斜位の刺突文が巡る。059-2も小波状口縁で、口唇部に刺突文が施文してある。063-1、5は野島式の土器で貼付線が施され、063-2の胴部、3の口縁下部に豆粒文が施されている。063-7は野島式の土器で、貼付線が円弧状、直線状に施され、その区画された部分に豆粒文が配置されている。



第107図 炉穴出土土器 (34)

061炉穴出土土器(第107図、図版32) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。

189、192炉穴出土土器(第108、109図、図版32) 189-1の外面には擦痕があるが、内面には条痕文が施されている。189-5の外面には横位の条痕文が施されている。189-13、14、16の外面には縦位、横位、斜位の条痕文が施されている。192-2の口縁部外面には竹管文、内面には条痕文がある。



第108図 炉穴出土土器(35)

188、185、073、072、191炉穴出土土器(第110図、図版33) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体を占める。185-5は内外面ともに条痕文が施されている。191-4、5は外面をていねいになでていた。

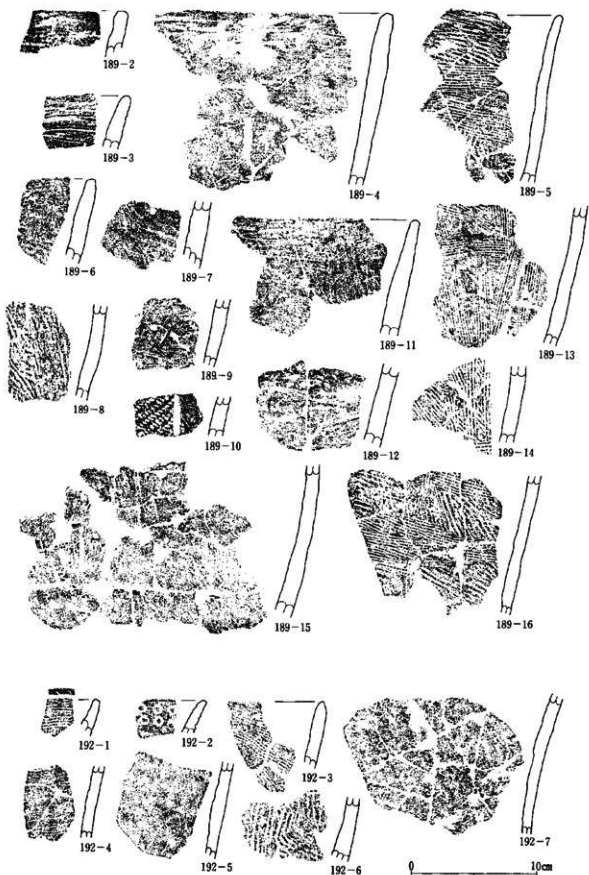
075、187炉穴出土土器(第111図、図版33) 条痕文系の土器片が主体をなす。075-3は小波状口縁で、外面に横位と斜位の条痕文が施されている。187-2、5の口唇部には、太い縄文の絡条体疋痕文が巡る。

070、071、074、115、108、116炉穴出土土器(第112図、図版34) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。108-1、2の口唇部には斜位の沈線文、108-3の口唇部には縦位の沈線文が巡っている。

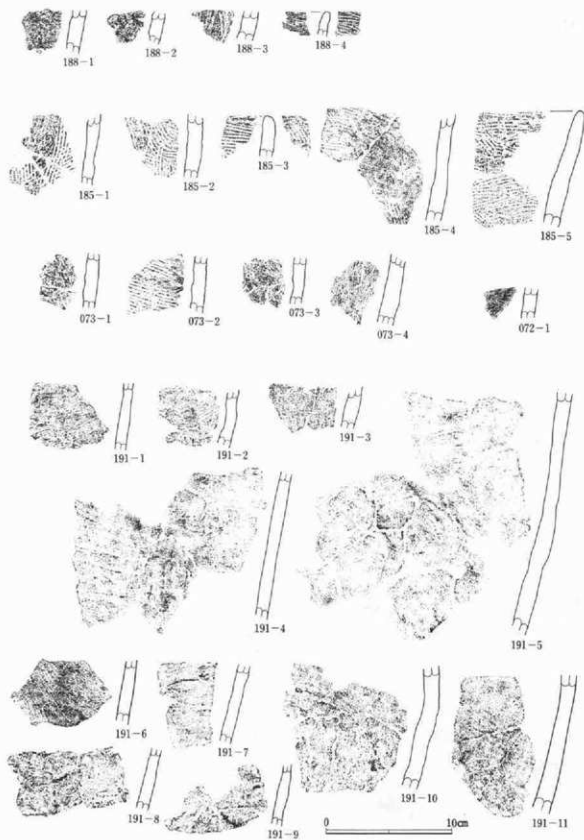
067、069、039炉穴出土土器(第113、114図、図版34) 擦痕のある土器片、条痕文系の土器片が主体をなす。067-3の口唇部には斜位の沈線文が施されている。067-4の口唇部には半截竹管文が巡り、口縁下部に補修孔が穿たれている。069-1の口唇部には半截竹管文が巡る。069-3は小波状口縁である。069-5は土器片を利用した鍾である。039-4、7の口唇部には半截竹管文が巡っている。

064、065、119炉穴出土土器(第115図、図版35) 064、065炉穴からは条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が多く出土したが、119炉穴からは縄文時代中期の土器片が多く出土した。064-1の口唇部には貝殻の腹縁による刺突文が巡る。064-6の外面には斜位と横位の、内面には縦位の条痕文が施されている。065-3の口唇部には小把手を貼り付け、口唇部には刺突文が巡る。119-2の口縁下部にはR-Lの縄文が施されている。119-9は突帯に区画された中を、R-Lの縄文を施文している。119炉穴から出土した土器片は縄文時代中期のものが多く、遺構の年代は、他の炉穴同様に縄文時代早期と考えたい。

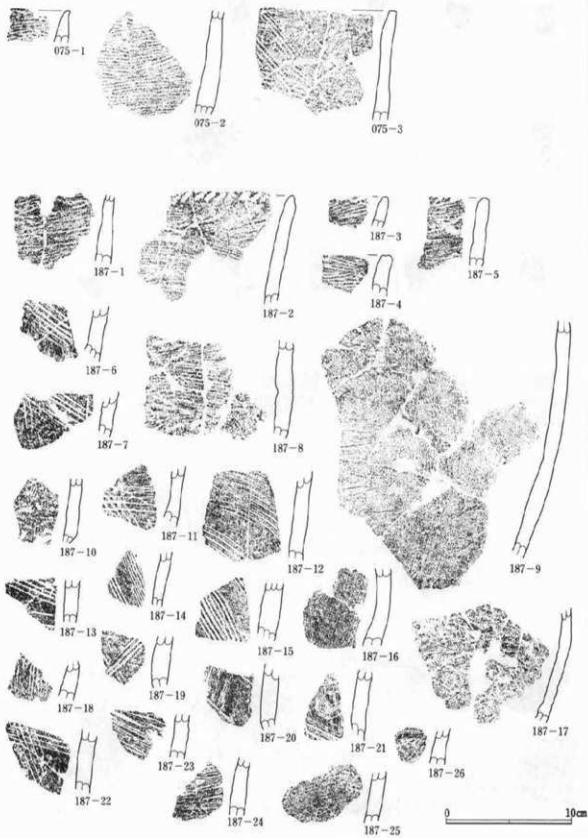
090、089、091、092、093炉穴出土土器(第116図、図版35) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が



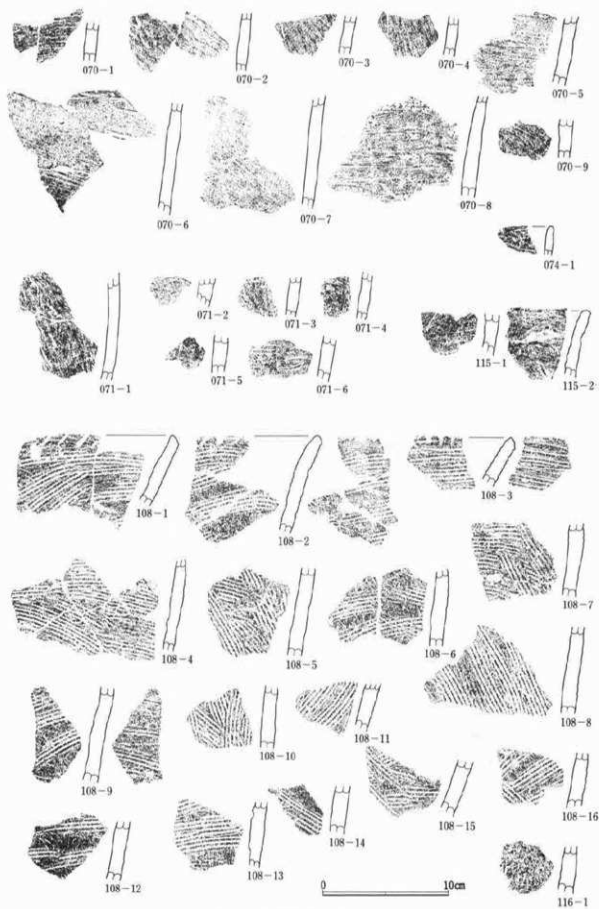
第109圖 炉穴出土土器 (36)



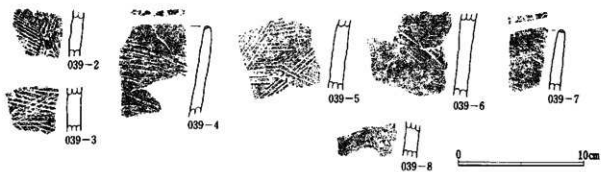
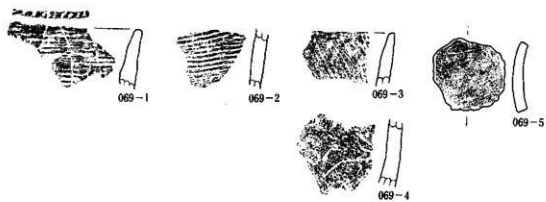
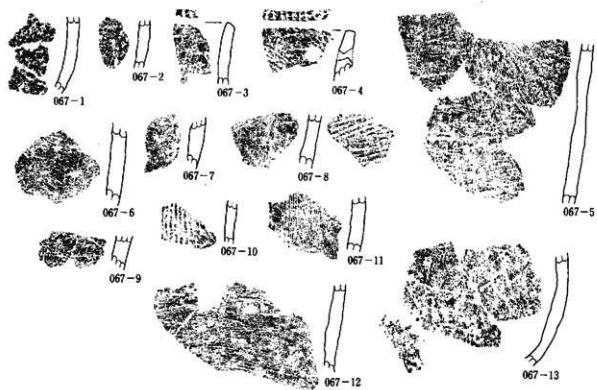
第110圖 炉穴出土土器 (37)



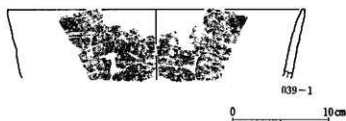
第111圖 伊穴出土土器 (38)



第112圖 炉穴出土土器 (39)



第113圖 炉穴出土土器 (40)



第114図 炉穴出土土器 (41)

主体である。089-1、2、3の外面に横位に刺突文が巡る。091-3、092-1、2はL-Rの縄文である。

107、100炉穴出土土器 (第117図、図版36) 擦痕のある土器片が主体をなす。107-2の外面には、貼付線が縦と横に直行している。100-3の口縁部の内外面には条痕文が施され、口唇部には半截竹管による刺突文が巡っている。

283炉穴出土土器 (第118図、図版36) 条痕文系の土器片が主体をなす。283-1、5、6は野島式の土器で、1の口縁部外面には、縦位の条痕文の後に横位の沈線および不規則な波状の沈線を施文してある。口唇部には刺突文を巡らしている。口縁部内面は条痕文をきれいになでている。283-5は波状口縁で、外面には横位と縦位の沈線で区画された中を、斜位の沈線が交差している。283-6の口縁部外面は、条痕文の後に貼付線で施文している。口縁部内面は縦位の条痕文が施されている。283-2、3、4、7の口縁部内外面は条痕文が施されている。

272、268炉穴出土土器 (第119図、図版37) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。272-1、2、3の外面は条痕文が施され、内面は条痕文をていねいになでている。268-3は小波状口縁である。268-5、6の外表面には細かい条線がある。

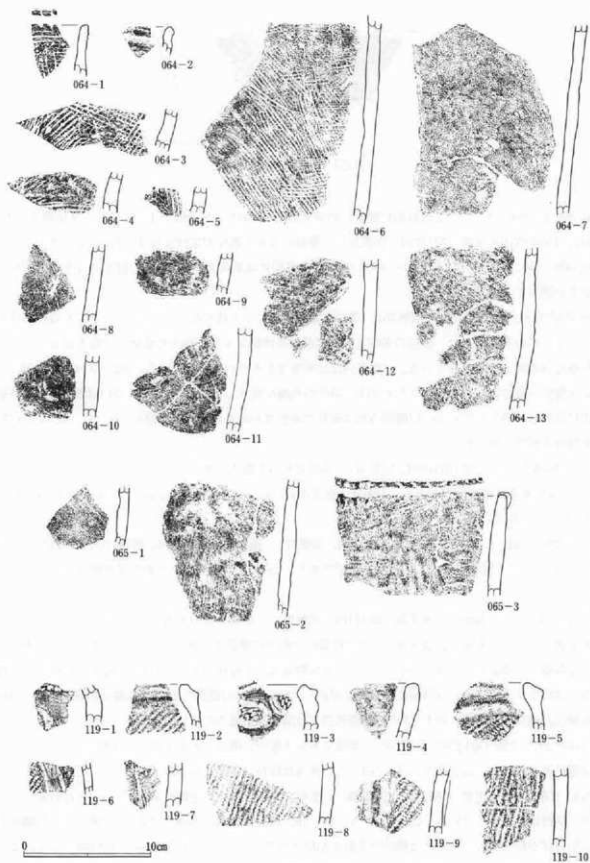
279、289、261、257炉穴出土土器 (第120図、図版37) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。261-2は小波状口縁で、内外面をなでてある。257-4は竹管による刺突文が横位に巡らされている。

255、294、242、244炉穴出土土器 (第121図、図版38) 条痕文系の土器片が主体をなす。255-5、6は野島式の土器で、条線文が施され、6の口唇部には斜位に線刻文が巡る。294-1は野島式の土器で、直交する条線文が描かれている。244-1、2、3は野島式の土器片である。244-1は波状口縁で、口縁部外面に沈線文が施文され、口唇部には刺突文が巡る。244-2の口縁部外面には条線文が施文され、口唇部には斜位の刺突文が巡る。244-3の口縁部外面には貼付線が施されている。

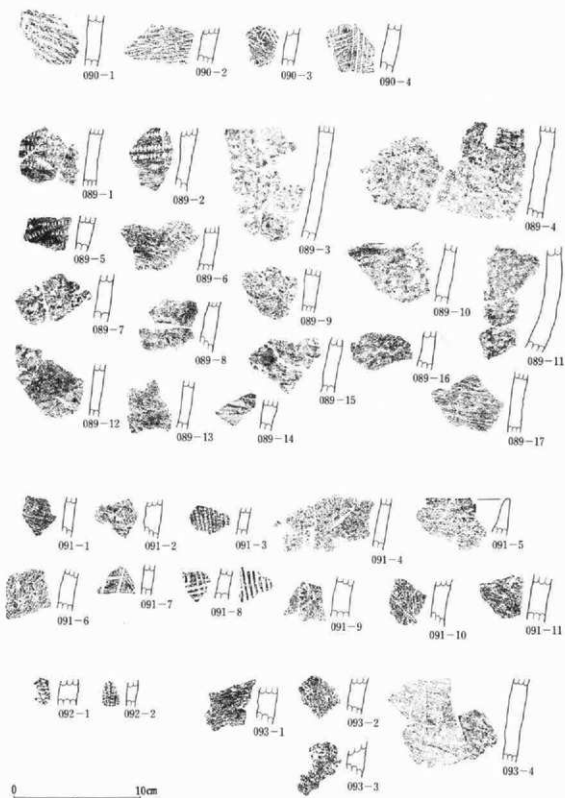
264炉穴出土土器 (第122図、図版38) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体である。264-1の口縁部外面はていねいになでている。264-2の外表面は細かい条線が施されている。

245、256炉穴出土土器 (第123図、図版39) 条痕文系の土器片が主体である。245-3は野島式の土器片で、貼付線を施文している。256-4、5、8、10、14も野島式の土器片である。256-4の口縁部外面には貼付線が施文され、内面には横位の条痕文が施されている。256-8、10、14に貼付線による施文がなされている。256-5の口縁部外面は、太い沈線で区画された中を、細い沈線が施文されている。口唇部には刺突文が巡らされている。256-28には条線文がある。

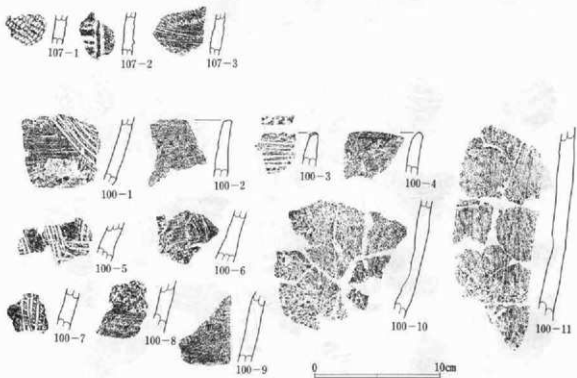
219炉穴出土土器 (第124図、図版39) 条痕文系の土器片が主体をなす。219-1、4は小波状口縁で外



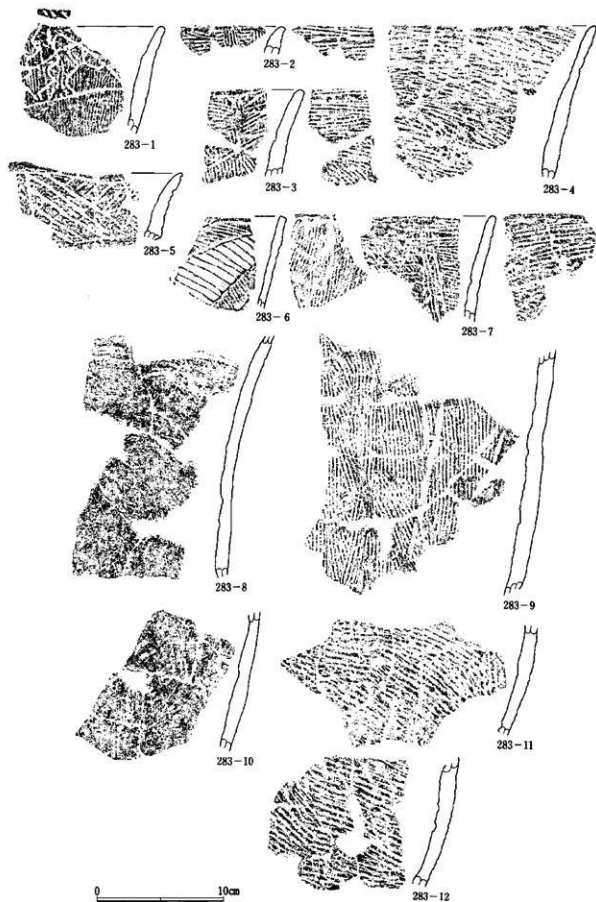
第115图 炉穴出土土器(42)



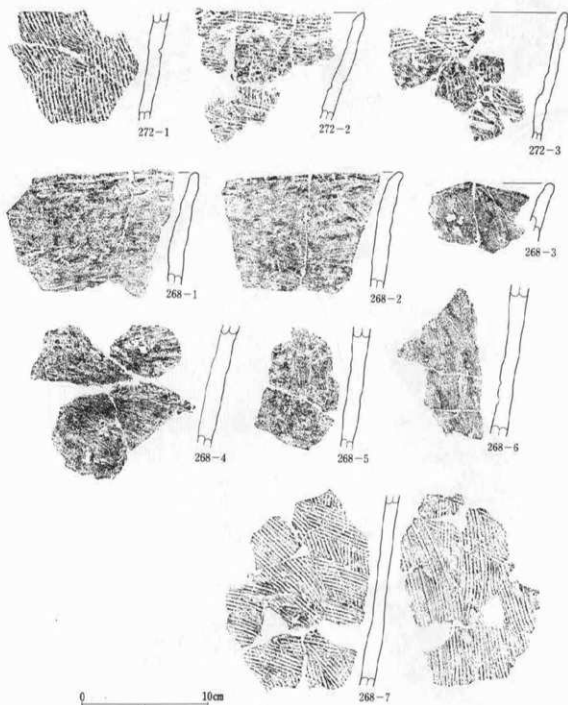
第116图 炉穴出土土器 (43)



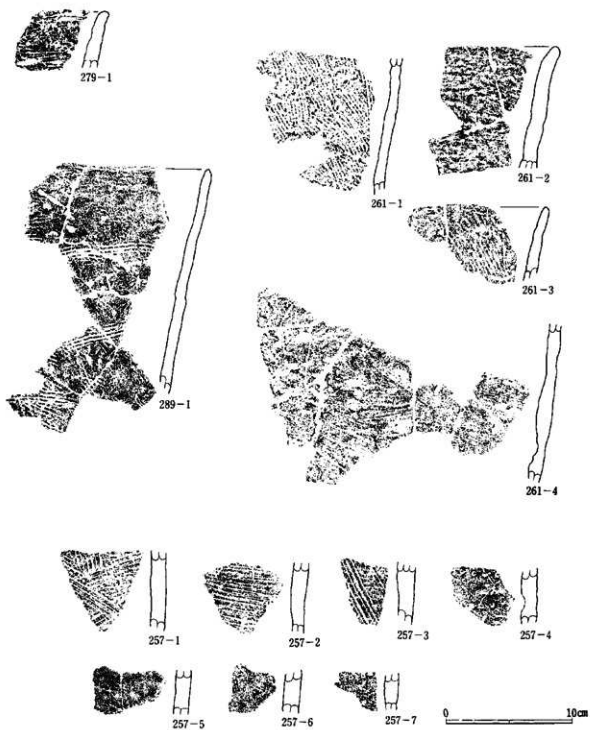
第117图 炉穴出土土器 (44)



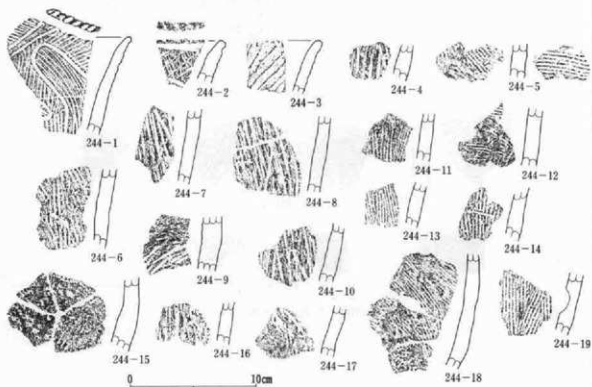
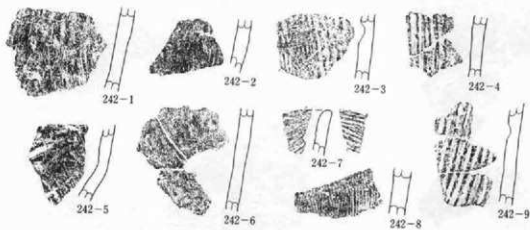
第118图 伊穴出土土器 (45)



第119图 炉穴出土土器(46)

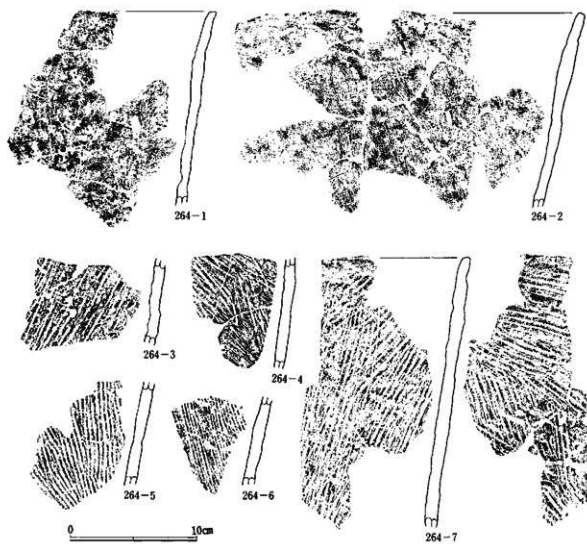


第120图 炉穴出土土器 (47)

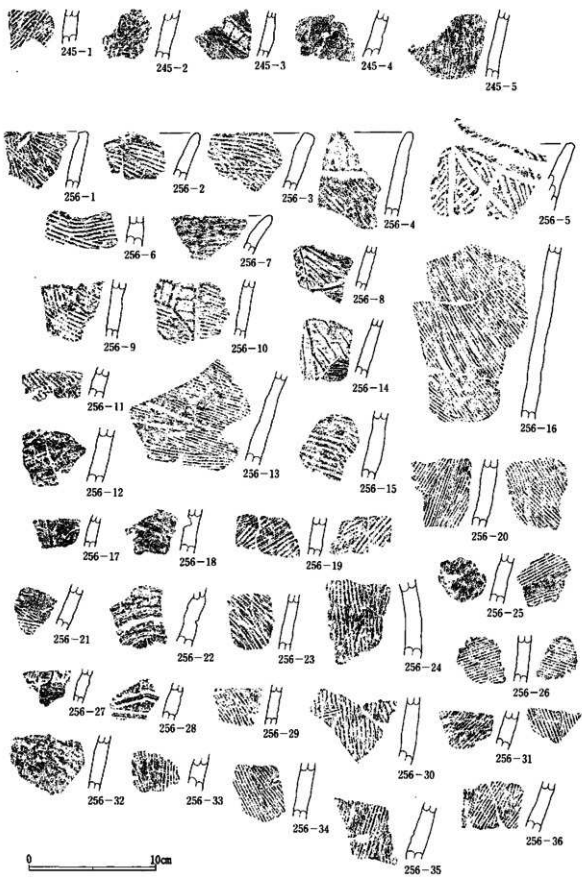


0 10cm

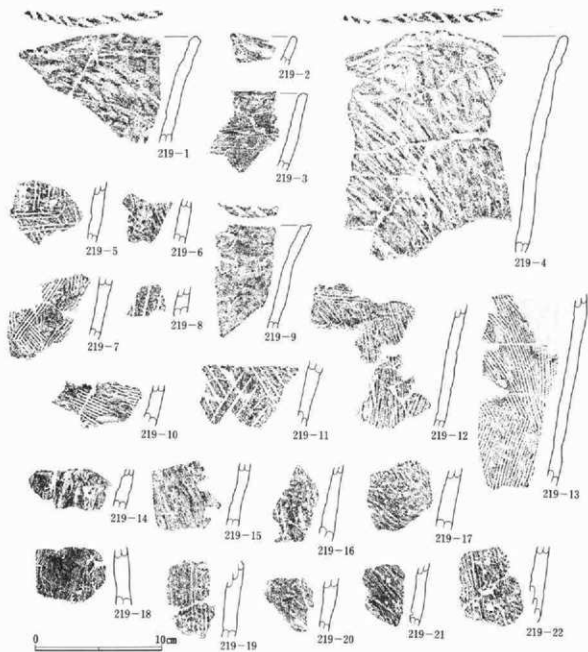
第121图 伊穴出土土器 (48)



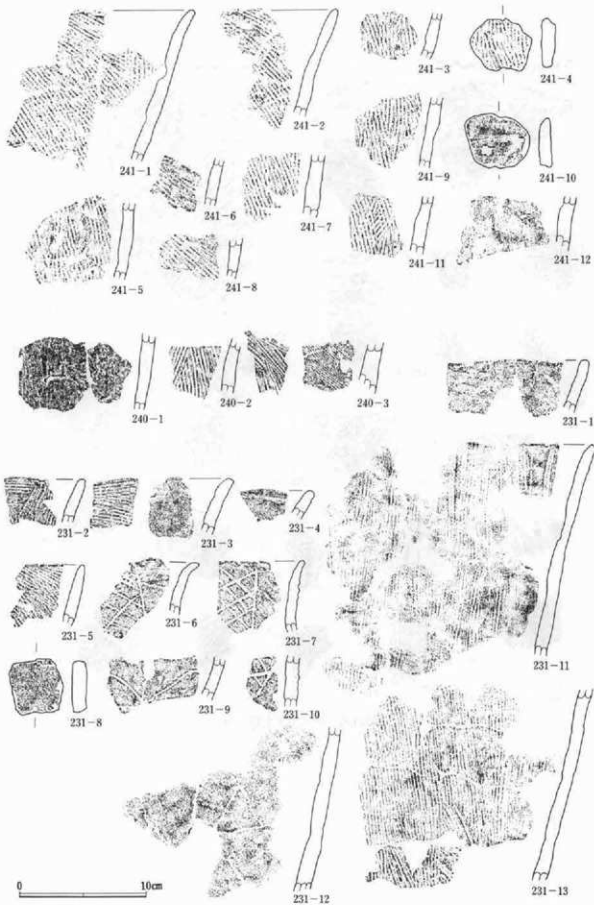
第122图 炉穴出土土器 (49)



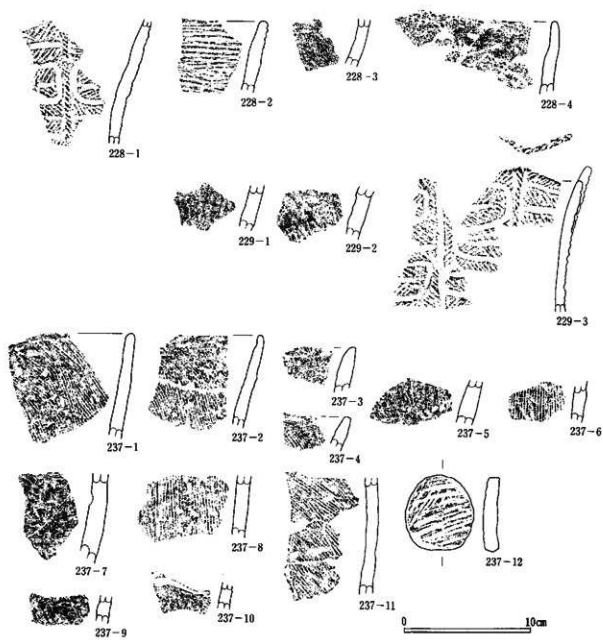
第123图 炉穴出土土器 (50)



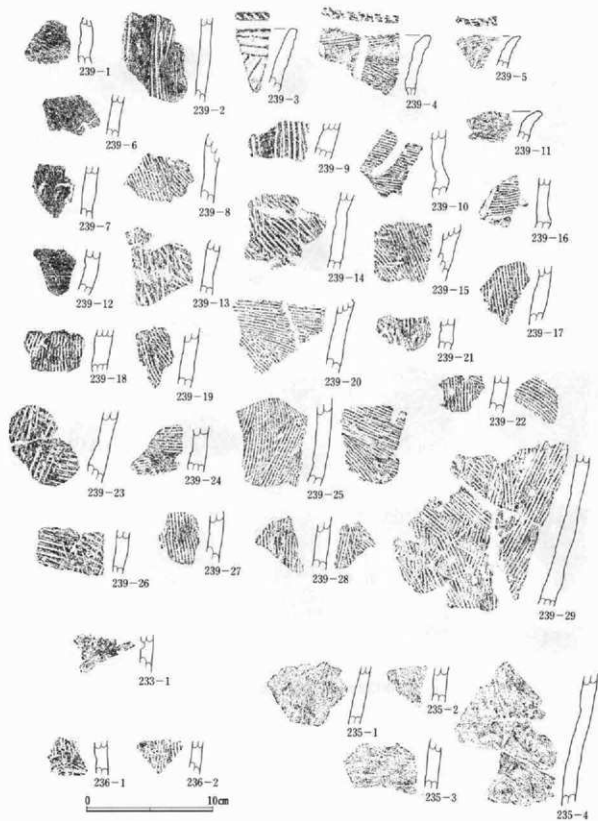
第124图 炉穴出土土器 (51)



第125圖 伊穴出土土器 (52)



第126图 炉穴出土土器 (53)



第127图 炉穴出土土器 (54)

面をなでている。口唇部には棒状の圧痕文が巡らされている。219-9の口唇部にも同様な圧痕文が巡らされている。219-11は野島式の土器片で、条線文が斜位に交差している。

241、240、231炉穴出土土器(第125図、図版40) 条痕文系の土器片が主体をなす。241-4、10は土器片を利用した鍾である。231-6、7、9、10は野島式の土器片で、231-6の口唇部は外反し、外面に条線による格子文が施文されている。231-7の口縁部外面にも、同じような条線による格子文が施されている。231-11は小波状口縁で、外面には縦位の条痕文が、内面には斜位の条痕文が施されている。231-13の外面には縦位の条痕文が施されていたが、内面は条痕文をなでている。

228、229、237炉穴出土土器(第126図、図版40) 228-1は野島式の土器片で、外面には、縦位の隆起線をつけて刺突文を施し、その左右に太い沈線文を巡らせている。さらに太い沈線で区画された中を斜位の細い条線で施文している。229-3も野島式の土器片で、口縁部にも同様な文様が施され、口唇部に刺突文が巡っている。237-12は土器片を利用した鍾である。

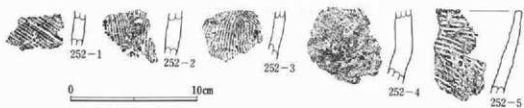
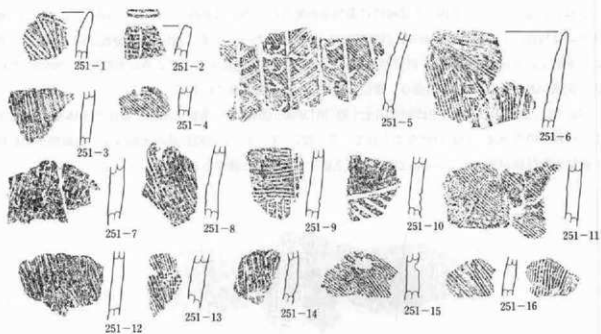
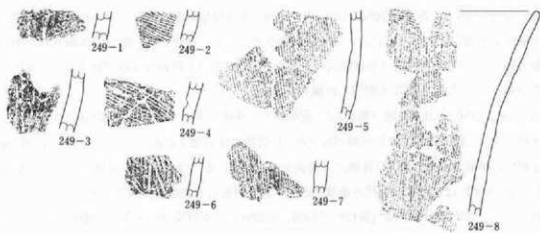
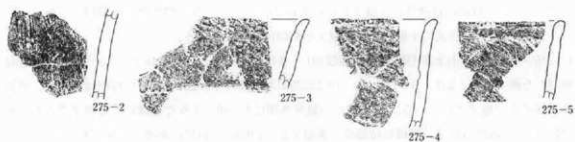
239、233、236、235炉穴出土土器(第127図、図版41) 条痕文系の土器片が主体を占めた。239-3は野島式の土器片で、口縁部外面には貼付線が施され、口唇部には刺突文が巡っている。239-4の口縁外面には横位と斜位の条痕文が施され、口唇部には刺突文が巡っている。239-5の口唇部にも刺突文が巡っている。239-29の外面には、縦位、斜位の条痕文が施され、内面にも斜位の条痕文がある。

275、249、251、252炉穴出土土器(第128、129図、図版41) 条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が主体をなす。275-1の外面には細かい擦痕が見られる。275-3、4、5の外面には擦痕があり、内面はていねいになでている。249-8は縦位に条痕文が施され、内面は条痕文をなでている。251-2の口縁部外面には列点による刺突文があり、口唇部には、沈線がまわっている。251-5は野島式の土器片で、外面は、条痕文に太い沈線を縦位、斜位に施し、太い沈線の区画内にところどころに半截竹管で刺突した円弧状の文様がある。231-10の外面は、横位と斜位の沈線が施されている。

226、221、222、223、227、212炉穴出土土器(第130図、図版41) 条痕文系の土器片が主体をなす。226-1の口縁部内外面はていねいになでられている。227-2、3、7は野島式の土器片で、口縁部外面に縦位と斜位の貼付線が施されている。227-13は土器片を利用した鍾である。

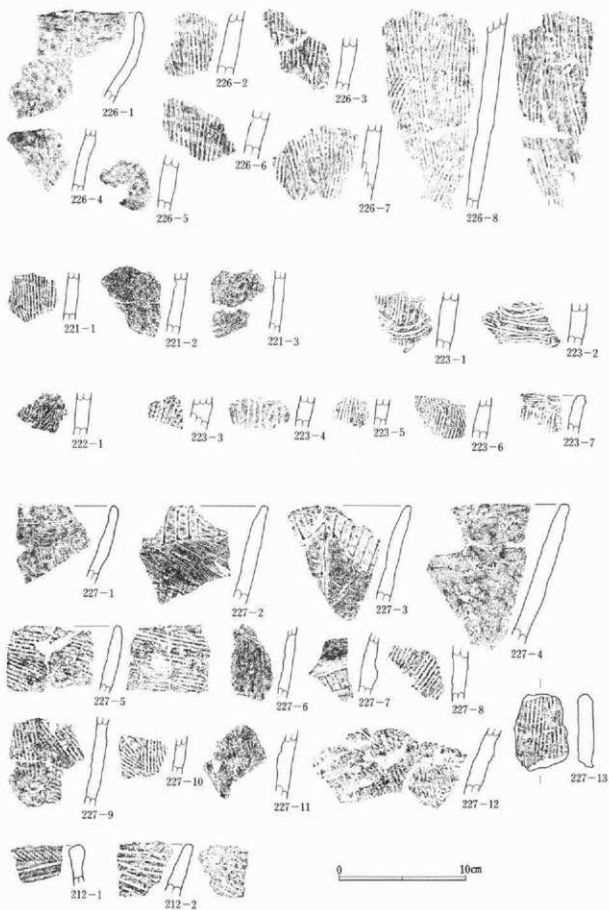


第128図 炉穴出土土器(55)



0 10cm

第129图 炉穴出土土器 (56)



第130圖 伊穴出土土器 (57)

3 縄文時代中期の遺構

炉穴以外の縄文時代の遺構には、住居跡、貯蔵穴、土坑、陥穴等がある（第131、132図）。

住居跡は16軒あり、主に北側の調査区から検出された。台地縁辺部および中央に散在し、顕著なまとまった群の分布を見せていない。南側調査区では、台地縁辺部から1軒だけ孤立して検出された。調査区域外にも住居跡が存在する可能性が考えられる。住居跡の形態は円形状もしくは円形に近い楕円形状をしていた。中央付近に炉があり、また、炉壁を土器の口縁部で作るタイプが多かった。いくつかの住居跡には、覆土中に貝層が堆積していた。

貯蔵穴は22基あり、主に北側調査区の住居跡の周辺に分布していた。中央に柱穴があり、比較的大きく、底面の深い貯蔵穴が3基あった外は、規模が小さかった。大きな貯蔵穴には、貝層が堆積しているものもあった。

埋壘は、住居跡から2基、貯蔵穴から1基検出され、単独で6基検出された。比較的台地中央寄りから出土していて、台地縁辺からは検出されていない。

台地北部には、住居跡が比較的多く、貯蔵穴、土坑等の遺構が少なかった（第133図）。

127住居跡（第134図、図版10） 調査区北側、3 L00、01、10、11、20、21に位置する。ほぼ円形状で、長さ4m、幅3.56mであった。中央に径約75cm、深さ38cmの炉があるが、柱穴は検出されなかった。住居内から少量の土器片が、やや散漫な状態で出土した。炉壁は、いくつかの土器口縁部を重ね合わせて作られていた。

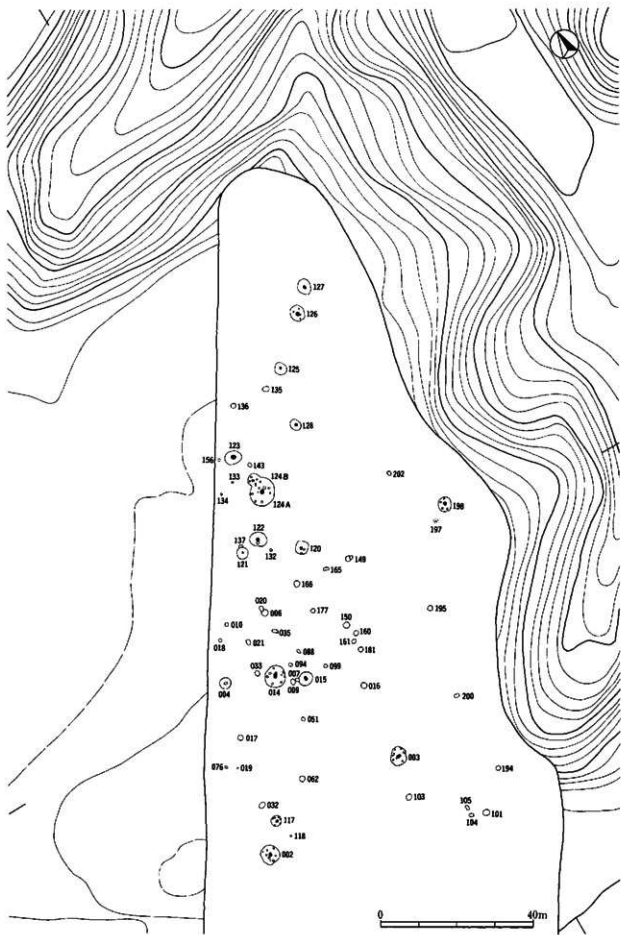
126住居跡（第135図、図版10） 調査区北側、3 K27、28、37、38、39、47、48、49に位置する。円形状で、長さ4.46m、幅3.94mであった。中央に径約90cm、深さ14cmの炉があった。また、深さ30～50cmの4本の柱穴が不規則に配置されていた。住居内から少量の土器片が、やや散漫な状態で出土した。

125住居跡（第136図、図版10） 調査区北側、3 K82、83、92、93に位置する。楕円形状をしていて、長さ3.4m、幅3.1mであった。中央に径約67cm、深さ31cmの炉があり、炉の周辺は硬質な床面であった。柱穴は検出されなかった。住居内の覆土上層から、土器片が少量出土した

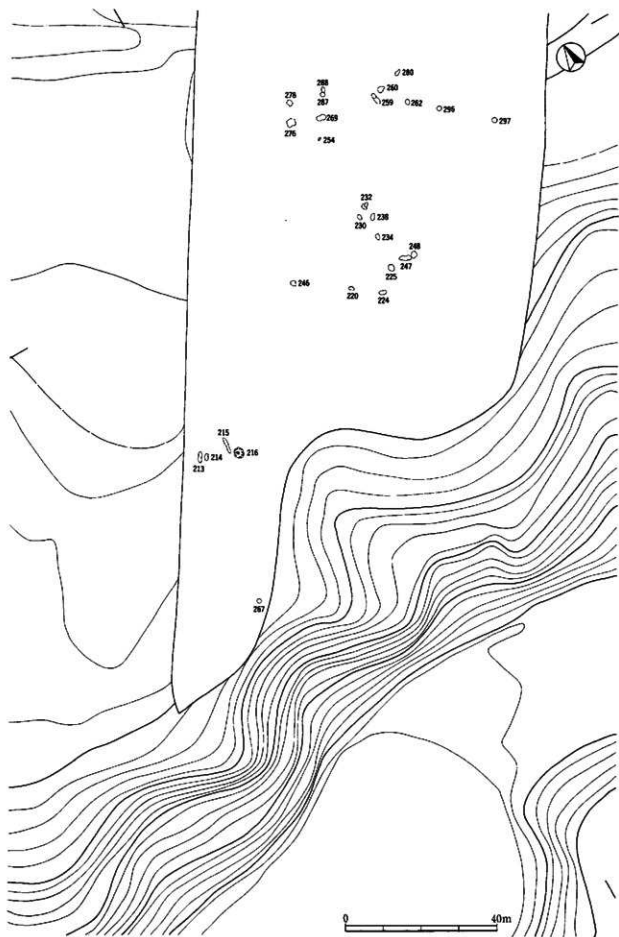
128住居跡（第136図、図版10） 調査区北側、4 K50、51、60、61に位置する。楕円形状をしていて、長さ3.18m、幅2.56mであった。中央に径約75cm、深さ23cmの炉があり、炉の周辺は硬質な床面であった。柱穴は検出されなかった。覆土の上層から小規模な貝層が検出された。住居内の覆土の上層から、少量の土器片が出土した。

123住居跡（第137図、図版10） 調査区北側、4 J40、41、42、50、51、52、60、61、62に位置する。楕円形状をしていて、長さ4.31m、幅3.45mであった。中央に径約110cm、深さ33cmの炉があった。炉の西北側から埋壘が1基検出された。床面から深さ40cmの土坑の中に、壘を埋めていた。柱穴は検出されなかった。住居内の覆土から多量の土器片が検出された。土器片は、住居の中央に比較的多く分布していた。

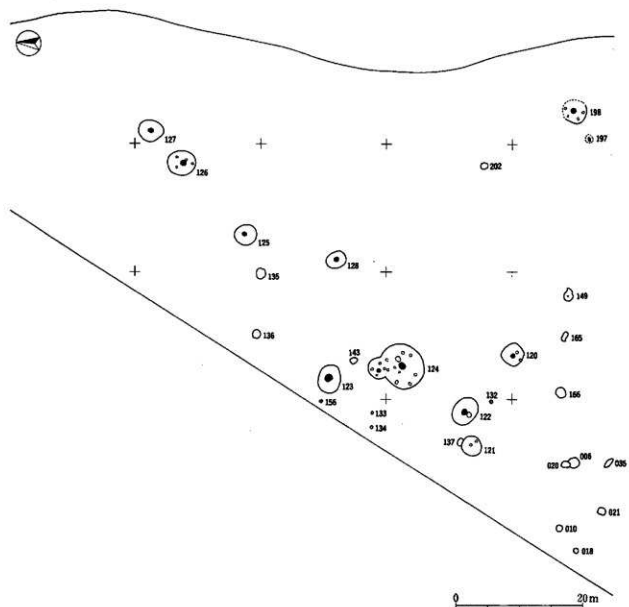
124A、124B住居跡（第138、139図、図版11） 調査区北側、4 J82、91、92、93、5 J01、02、03、04、10、11、12、13、14、21、22、23に位置する。円形状の2基の住居跡が重複していた。124Aはこの遺跡の中で最大の住居跡で、長さ7.12m、幅6.51mで、124Bは長さ3.36m、幅2.6mであった。それぞれの住居跡の中央に、径約100cm、55cm、深さ25cmの炉があった。炉壁は、両者ともに土器片で作られていた。124Aの炉壁で、土器片の置かれていない部分に、砂が分布していた。124Aの炉穴の東北側に径約80cm、深さ30cmの土坑があった。中央に浅い窪みがあり、柱穴の可能性も考えられる。柱穴は、124Aから10本、



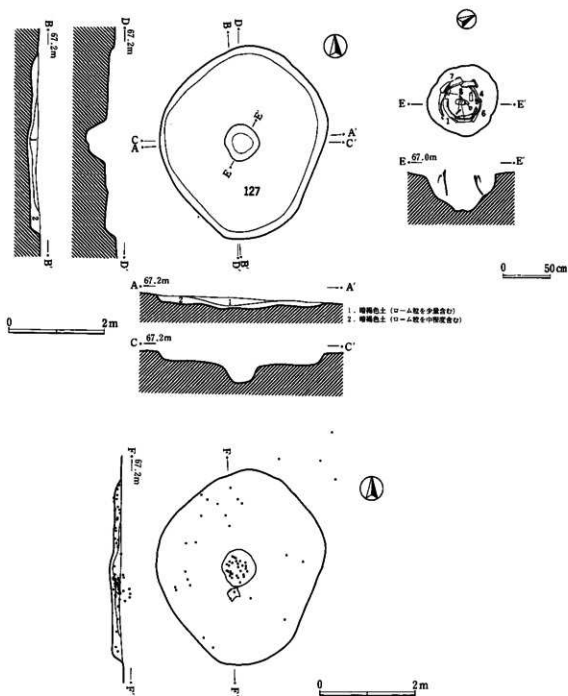
第131図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図（1、1/1,000）



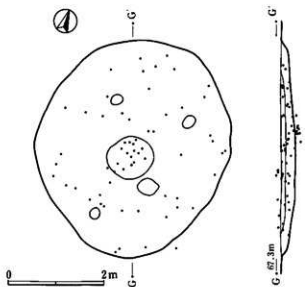
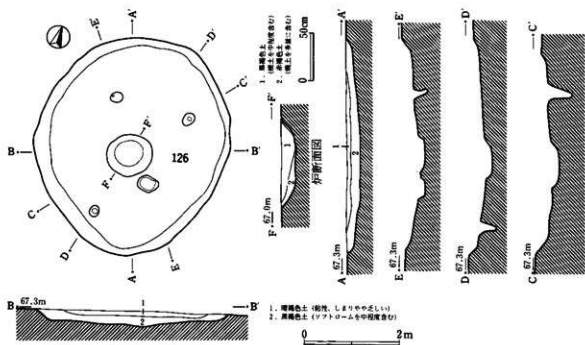
第132図 伊穴以外の縄文時代の遺構分布図 (2、1/1,000)



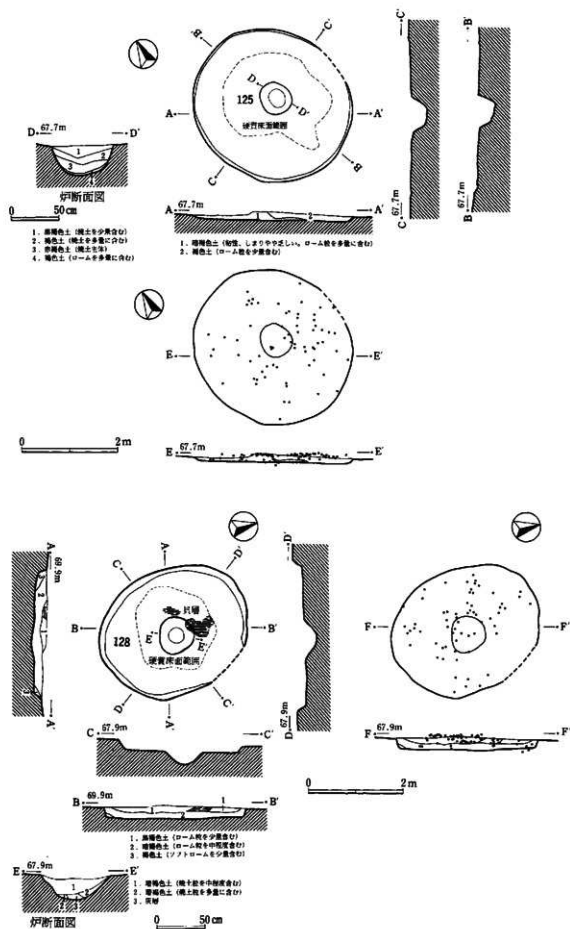
第133図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図（3、北部）



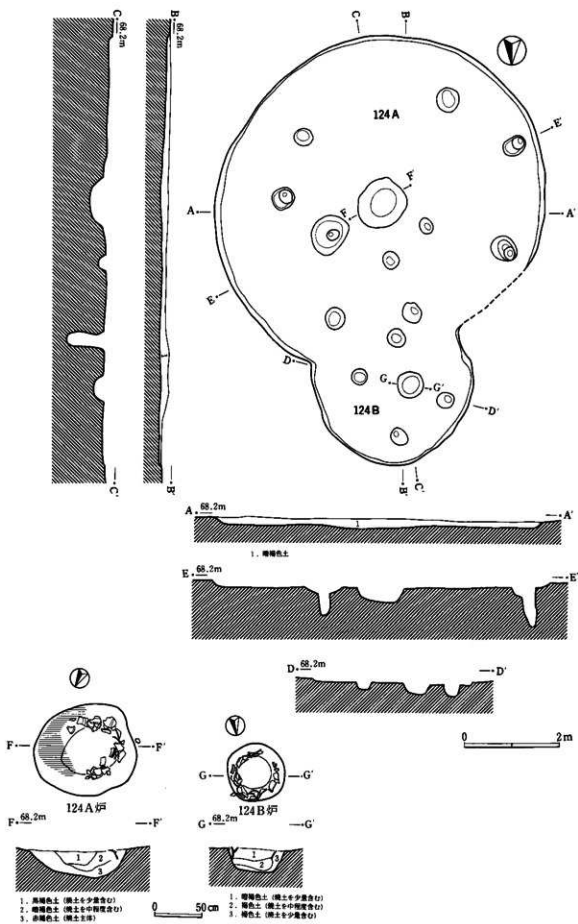
第134图 127住居跡



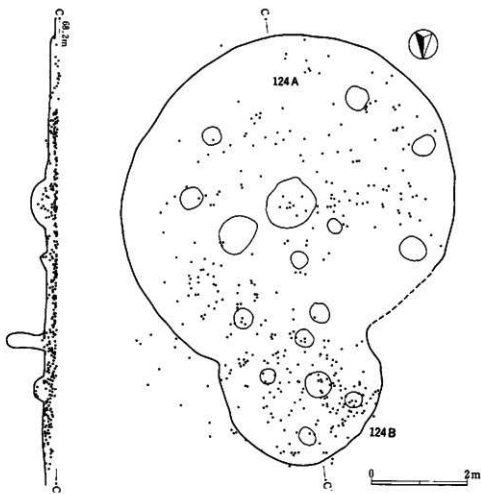
第135図 126住居跡



第136図 125、128住居跡



第138图 124A、B住居跡(1)

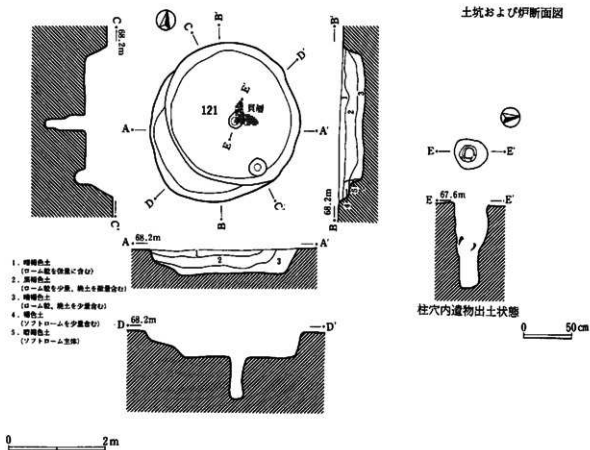
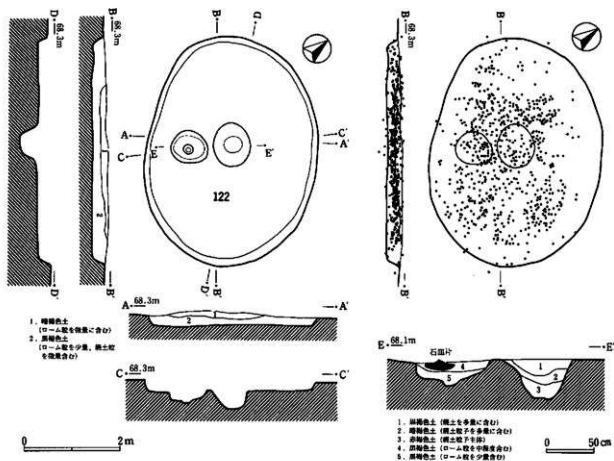


第139図 124A、B住居跡(2)

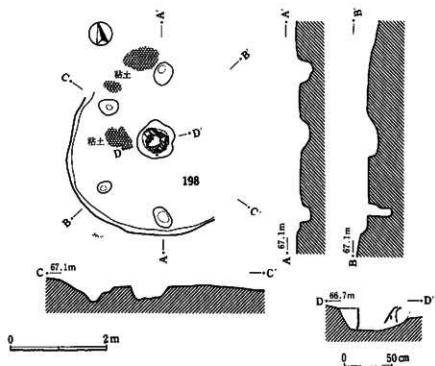
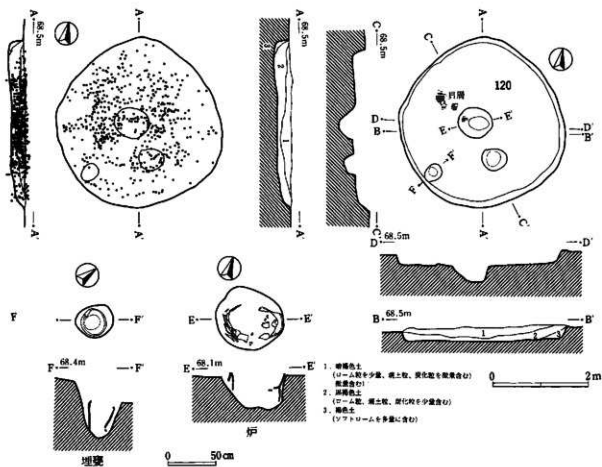
124Bから4本検出された。124Bの柱穴は十文字のように配置されていたが、124Aの柱穴はやや円形状に配置されていた。また、柱穴の深さは20~80cmで、規格性がなかった。住居の覆土から土器片が散漫な状態で出土した。

122住居跡(第140図、図版11) 調査区北側、5 I 58、59、68、69、78、79に位置し、西側に121貯蔵穴がある。楕円形状をしていて、長さ4.76m、幅3.52mであった。中央に径約90cm、深さ30cmの炉があった。柱穴は検出されなかったが、炉の西南側に径約75cm、深さ16cmの土坑が検出された。土坑の中央に小さな窪みがあるので、柱穴の可能性もある。土坑の上面からは石皿の破片が出土した。住居内の覆土全体から土器片が出土した。

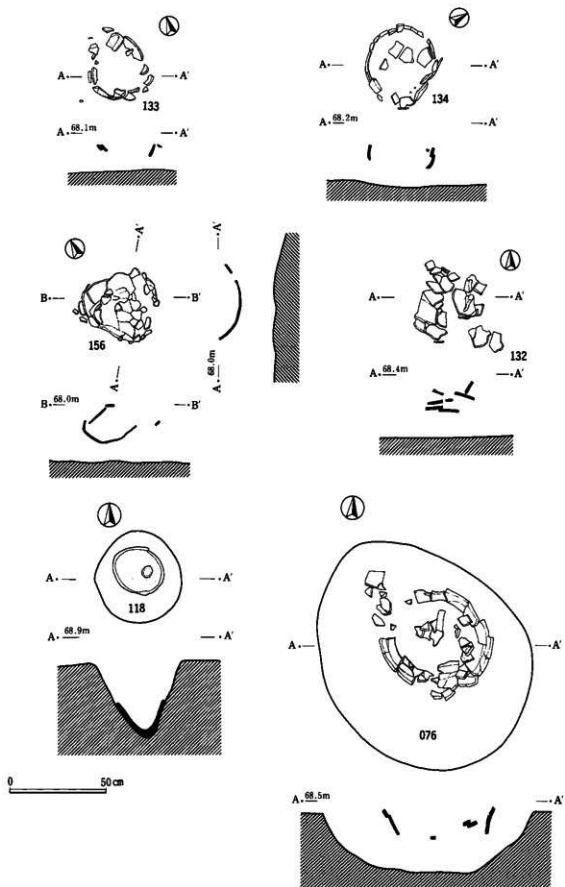
121貯蔵穴(第140図、図版11) 調査区北側、5 I 65、66、75、76に位置し、東側に122住居跡がある。円形状をしていて、長さ3.44m、幅3.05mであった。調査面から遺構底面まで、深さは約50cmであった。西南側の壁際は、棚のように段状になっていた。中央および東南に柱穴があった。中央の柱穴は深さ約80cmあり、東南の柱穴の深さは約20cmであった。中央の深い柱穴から有孔鈔付土器の完形品が出土した。また、中央付近で薄い層の貝層が堆積していた。遺構内の覆土から少量の土器片が出土した。



第140図 122住居跡、121貯蔵穴



第141図 120、198住居跡



第142图 埋甕

120住居跡(第141図、図版11) 調査区北側、5 J 92、93、94、6 J 02、03、04に位置する。142炉穴と重複している。長さ3.56m、幅3.48mの円形状である。中央に径約70cm、深さ30cmの炉がある。炉壁は土器の口縁部によって作られていた。深さ約30cmの柱穴が1本、炉の東南側から検出された。また、西南の壁際から埋壔が検出された。床面から深さ36cmの土坑の中に、底部の欠けた甕が埋められていた。炉の西北部からわずかではあったが、貝層が検出された。住居の覆土から大量の土器片が出土した。

198住居跡(第141図、図版12) 調査区北側、6 L 41、42、43、51、52、53にある。台地縁辺に位置し、他の住居跡からやや孤立している。東側半分が削平されていたが、径約3.7mの円形状の住居跡と思われる。中央に径約75cm、深さ26cmの炉があった。炉壁は土器の口縁部で作られていた。西側の壁際に4本の柱穴が検出された。柱穴の深さは20~50cmで一定していなかった。住居内北側に粘土が3ヵ所置かれてあった。少量の土器片が覆土中から出土した。

133埋壔(第142図、図版12) 調査区北側、4 I 89に位置し、土器の口縁部だけが検出された。

134埋壔(第142図、図版12) 調査区北側、4 I 87に位置し、土器の口縁部から胴部が検出された。

156埋壔(第142図、図版12) 調査区北側、4 I 49に位置し、土器の口縁部から胴部が検出された。

132埋壔(第142図) 調査区北側、5 I 89に位置し、土器の口縁部から胴部が検出された。

076埋壔(第142図、図版12) 調査区北側、7 H 90に位置し、土器の胴部のみ検出され、埋壔に伴う土坑も確認できた。上部は削平された可能性がある。

118埋壔(第142図) 調査区北側、9 H 13に位置し、土器の口縁部から底部までが検出された。

019埋壔(第155図、図版14) 調査区北側、8 H 01に位置する。貯蔵穴の上部に埋納されていて、土器の口縁部のみが検出された。埋壔を埋めた土坑を明確に判明できなかった。

135貯蔵穴(第143図、図版12) 調査区北側、3 J 99、3 K 90、4 J 09、4 K 00に位置する。円形状で、長さ1.77m、幅1.54m、深さ6.69mであった。土器片がわずかに出土した。

136貯蔵穴(第143図) 調査区北側、3 J 94、95に位置する。円形状で、長さ1.36m、幅1.33m、深さ0.54mであった。土器片がわずかに出土した。

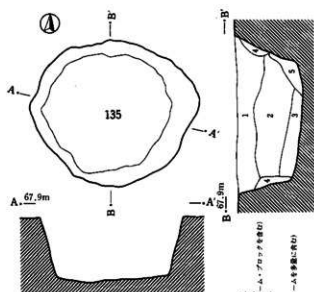
143貯蔵穴(第143図、図版12) 調査区北側、4 J 72、73に位置する。楕円形状で、長さ1.28m、幅1.04m、深さ1.11mであった。土器片がわずかに出土した。

202貯蔵穴(第143図) 調査区北側、5 K 78にある。台地縁辺に位置し、周辺に他の遺構がなく、孤立した存在である。楕円形状で、長さ1.12m、幅0.9m、深さ0.36mであった。土器片がわずかに出土した。

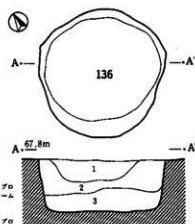
165土坑(第143図) 調査区北側、6 J 44、45に位置する。楕円形状で長さ1.58m、幅0.73mであった。主軸は、東南-西北を向く。覆土から条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。火床部はないが、この土坑は炉穴に類する遺構と考えられる。

166土坑(第143図) 調査区北側、6 J 30、40に位置する。円形状に近く、長さ1.81m、幅1.55mであった。覆土から条痕文系の土器片が出土した。火床部はないが、この土坑は炉穴に類する遺構と考えられる。

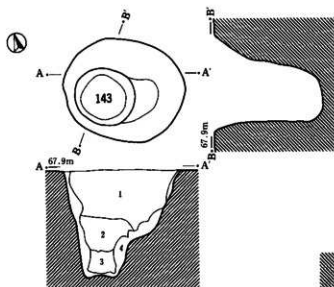
149貯蔵穴(第144図、図版13) 調査区北側、6 J 47、48に位置する。円形状で、長さ2.9m、幅2.8m、深さ0.48mであった。底面中央に深さ85cmの柱穴が1本あった。遺構内の北側に、厚さ20cmほどの貝層が堆積していた。焼土が中央付近の狭い範囲内で、また、炭化物が西側で分布していた。覆土中から土器片が出土した。



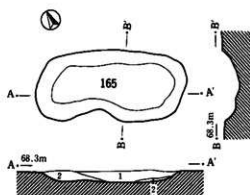
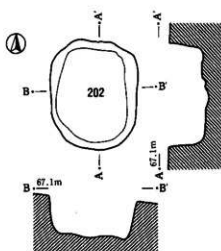
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 (ハードローム・ブロックを少量含む)
3. 暗褐色土 (ハードローム・ブロックを少量含む)
4. 暗褐色土
5. 暗褐色土 (ソフトロームを少量含む)



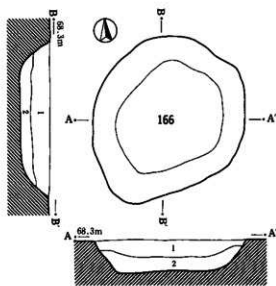
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 (ハードローム・ブロック、ソフトロームを少量含む)
3. 暗褐色土 (ハードローム・ブロックを中程度含む)



1. 暗褐色土 (ソフトロームを少量含む)
2. 暗褐色土 (ハードローム・ブロックを少量含む)
3. 暗褐色土 (ハードローム・ブロックを少量含む)
4. 暗褐色土



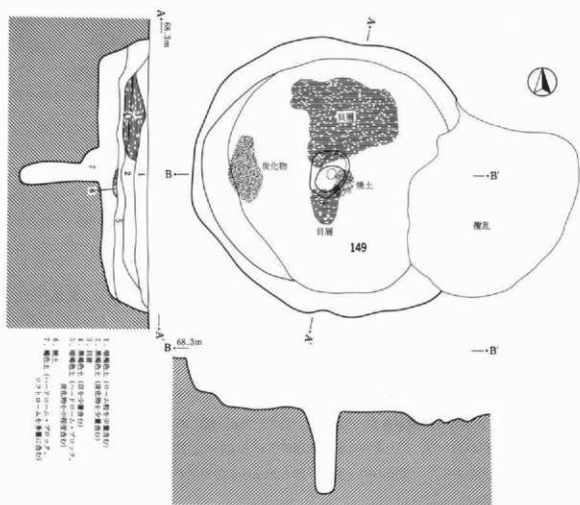
1. 暗褐色土 (ロームを少量含む)
2. 暗褐色土 (ソフトロームを中程度含む)



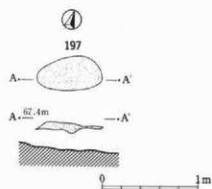
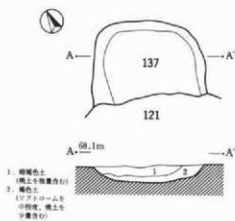
1. 暗褐色土 (ロームを少量含む)
2. 暗褐色土 (ロームを中程度含む)

0 1m

第143図 貯蔵穴、土坑 (1)



1. 雑土 (1.5m-2.0m厚)
2. 炭化物 (1.5m厚)
3. 雑土 (1.5m厚)
4. 雑土 (1.5m厚)
5. 雑土 (1.5m厚)
6. 雑土 (1.5m厚)
7. 雑土 (1.5m厚)
8. 雑土 (1.5m厚)
9. 雑土 (1.5m厚)
10. 雑土 (1.5m厚)
11. 雑土 (1.5m厚)
12. 雑土 (1.5m厚)
13. 雑土 (1.5m厚)
14. 雑土 (1.5m厚)
15. 雑土 (1.5m厚)
16. 雑土 (1.5m厚)
17. 雑土 (1.5m厚)
18. 雑土 (1.5m厚)
19. 雑土 (1.5m厚)
20. 雑土 (1.5m厚)



第144図 貯蔵穴、土坑 (2)

137土坑(第144図) 調査区北側、5 I 56、66に位置し、121貯蔵穴に南半部を破壊されていた。現存の長さ0.76m、幅1.17mであった。覆土中に焼土を含んでいることから、炉穴であった可能性がうかがえる。

197焼土(第144図) 調査区北側、6 L 50、60に位置し、焼土の分布のみが検出された。台地縁辺部に近く、東側2mのところ198住居跡がある。長さ0.67m、幅0.35mの範囲に10cmほど堆積していた。焼土の外に炭、貝も含まれていた。付近に縄文時代中期加曾利E式の土器片があり、該期の焼土遺構と思われる。

調査区中央部分では住居跡が少なく、逆に貯蔵穴、土坑が多く分布していた(第145図)。

014住居跡(第146図、図版13) 調査区北側、7 I 11、12、20、21、22、23、30、31、32、33、41、42に位置し、炉穴を数基破壊している。東南側3.5mのところ015住居跡がある。円形状で、長さ5.84m、幅5.61mであった。中央に長さ1.42m、幅0.74m、深さ18cmの楕円形状の炉がある。炉壁は少量の土器片で作られていた。壁寄りに柱穴が8本、円形状に配置されていた。深さは20~96cmと、一定していなかった。覆土の上層から多量の土器片が出土した。

015住居跡(第147図、図版13) 調査区北側、7 I 44、45、46、54、55、56に位置し、数基の炉穴と重複していた。西北側3.5mのところ014住居跡がある。ほぼ円形状で、長さ3.88m、幅3.66mであった。中央に、長さ111cm、幅78cm、深さ24cmの楕円形状をした炉があった。柱穴は検出されなかった。覆土中から多数の土器片が出土した。

117住居跡(第147図、図版13) 調査区北側、8 H 81、82、91、92にある。台地のほぼ中央部分に位置し、西南5mのところ002住居跡がある。円形状で、長さ2.96m、幅2.85mであった。中央に、長さ76cm、幅66cm、深さ39cmの炉があった。炉の東西に硬質床面が広がっていた。柱穴が壁際に6本、円形状に配置され、深さは30~45cmであった。覆土の中下層に、厚さ20cmほどの貝層が堆積していた。その他、覆土中から土器片が出土した。

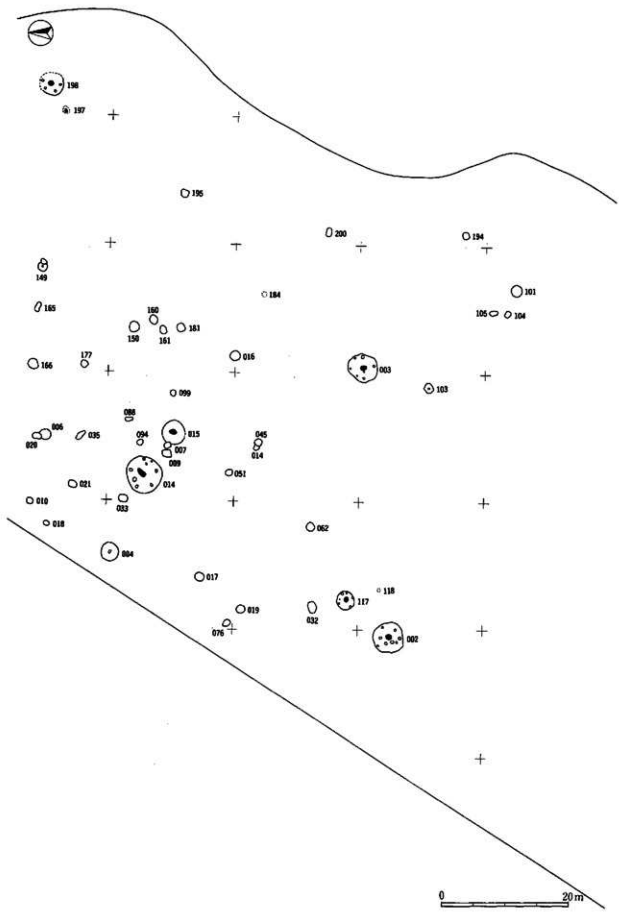
003住居跡(第148図、図版13) 調査区北側、8 J 90、91、9 I 09、9 J 00、9 J 01、10、11に位置する。周辺に他の住居跡がなく、やや孤立した存在である。ほぼ円形状で、長さ4.76m、幅4.29mであった。中央に長さ82cm、幅76cm、深さ30cmの炉があった。壁際に6本、炉の西側に1本の柱穴があった。壁際の柱穴の深さは60~70cmで、炉のそばの柱穴の深さは、10cmであった。東の壁際に、少量の粘土が置かれてあった。住居跡の全体から、散漫な状態で土器片が出土した。

002住居跡(第149図、図版13) 調査区北側、9 G 18、19、28、29、38、39、9 H 10、20、30に位置し、東北5mのところ117住居跡がある。ほぼ円形状で、長さ5m、幅4.9mであった。中央に長さ90cm、幅80cm、深さ37cmの炉があった。炉壁は、少量の土器片で作られていた。柱穴が8本やや不規則に、配置されていた。柱穴の深さは、20~60cmであった。覆土中から散漫な状態で土器片が出土した。大珠型土製品が住居内西側の壁際から出土した。

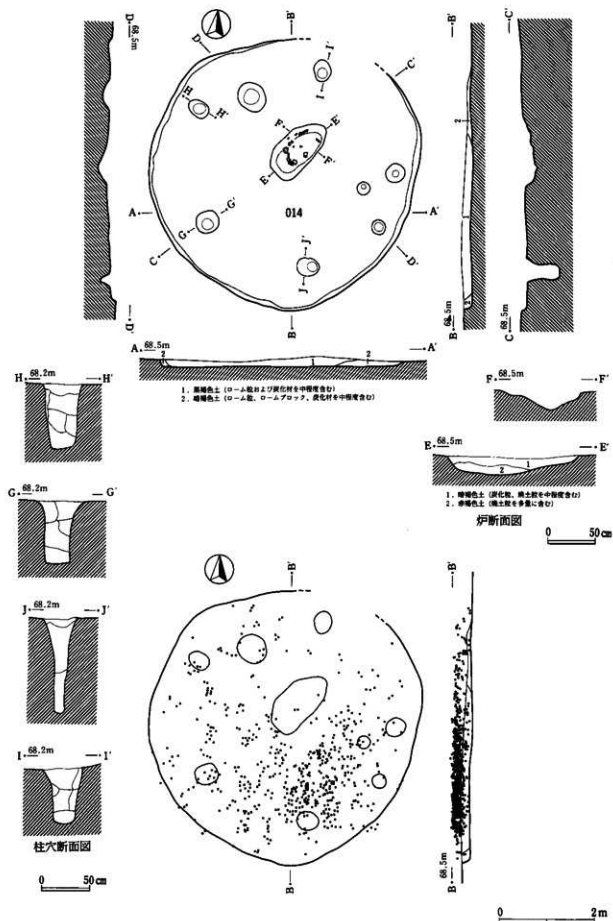
020土坑(第150図、図版14) 調査区北側、6 I 44に位置し、南側を006貯蔵穴に破壊されている。楕円形状で、現存長さ1.16m、幅0.95mであった。覆土中から石材ブロックが出土した。

006貯蔵穴(第150図、図版14) 調査区北側、6 I 44、45、54、55に位置し、020土坑と北側で重複している。円形状で、長さ1.84m、幅1.66m、深さ0.47mであった。少量の土器片が覆土中から出土した。

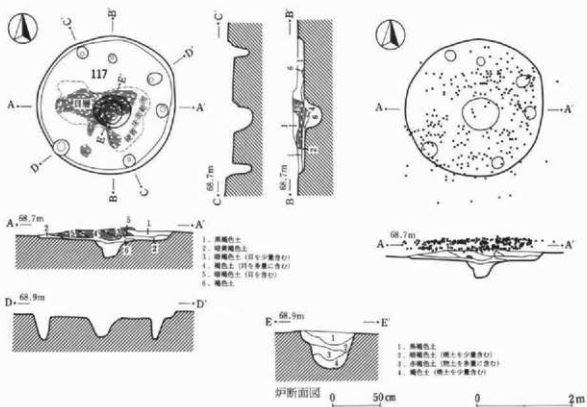
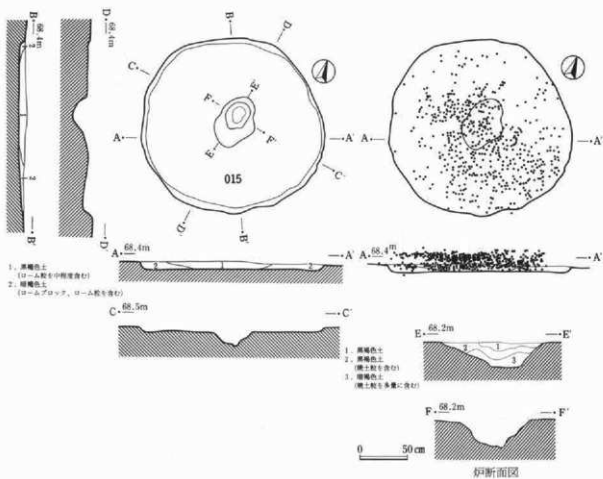
010貯蔵穴(第150図) 調査区北側、6 H 39に位置する。円形状で、長さ1.04m、幅0.98m、深さ0.55mであった。少量の土器片が覆土中から出土した。



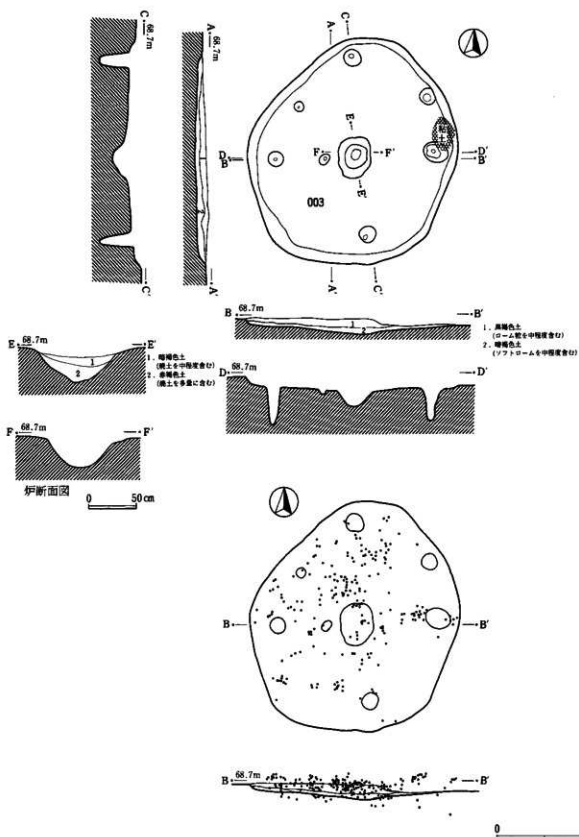
第145図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図（4、中央部）



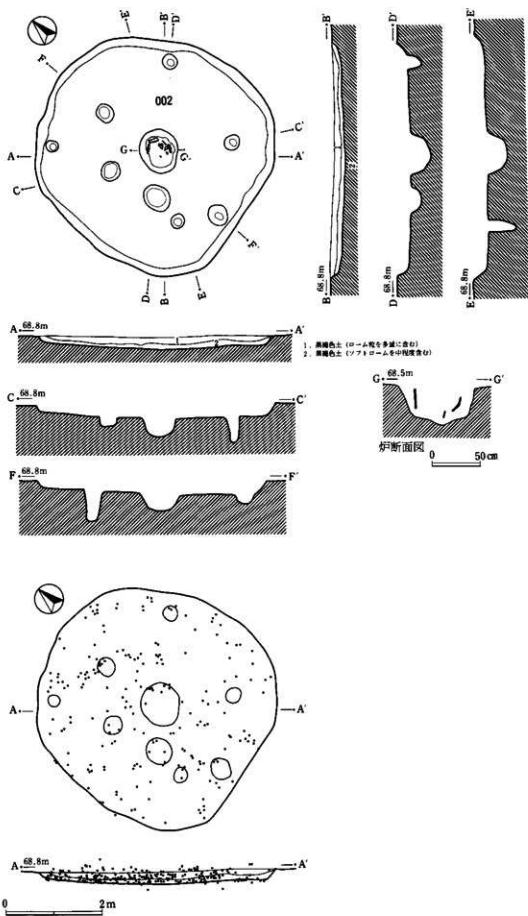
第146図 014住居跡



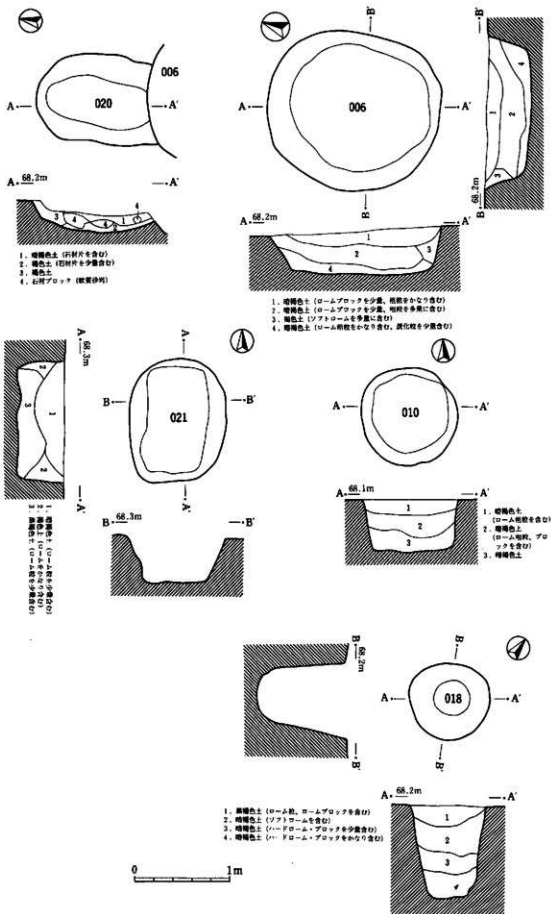
第147図 015、117住居跡



第148図 003住居跡



149図 002住居跡



第150図 貯蔵穴、土坑 (3)

021貯蔵穴(第150図) 調査区北側、6 I 71に位置する。楕円形状で、長さ1.26m、幅1.01m、深さ0.5mであった。少量の土器片が覆土中から出土した。

018貯蔵穴(第150図、図版14) 調査区北側、6 H58に位置する。円形状で、長さ0.86m、幅0.78m、深さ0.95mであった。少量の土器片が覆土中から出土した。

195土坑(第151図) 調査区北側、7 K53、54に位置し、他の遺構からやや孤立した存在である。円形状で、長さ1.32m、幅1.21mであった。覆土から条痕文系の土器片が出土した。火床部はないが、この土坑は炉穴に類する遺構と考えられる。

150貯蔵穴(第151図、図版14) 調査区北側、7 J13、23に位置する。150、160、161、181貯蔵穴が4基、2m間隔で南北に並んでいる。円形状で、長さ1.71m、幅1.48m、深さ0.6mであった。覆土中から土器口縁部が出土した。

160貯蔵穴(第151図) 調査区北側、7 J33、34に位置する。円形状で、長さ1.43m、幅1.24m、深さ0.48mであった。覆土中から少量の土器片が出土した。

161貯蔵穴(第151図) 調査区北側、7 J43に位置する。円形状で、長さ1.2m、幅1.05m、深さ0.51mであった。遺物は出土しなかった。

181貯蔵穴(第151図) 調査区北側、7 J53に位置する。円形状で、長さ1.4m、幅1.31m、深さ0.53mであった。覆土中から少量の土器片が出土した。

099貯蔵穴(第151図) 調査区北側、7 I48、58に位置する。円形状で、長さ0.89m、幅0.81m、深さ0.46mであった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

177土坑(第151図) 調査区北側、6 J70、80に位置する。円形状で、長さ1.2m、幅1m、深さ0.26mであった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

035土坑(第152図、図版4) 調査区北側、6 I74、75に位置する。楕円形状をしていて、長さ1.84m、幅0.71mであった。主軸は、西北-東南を向く。土器片がわずかに出土した。

088土坑(第152図) 調査区北側、7 I16に位置する。楕円形状で、長さ1.31m、幅0.56mであった。主軸は南-北を向く。南側に、径0.5m、深さ0.71mの土坑があった。土器片がわずかに出土した。

007貯蔵穴(第152図、図版14) 調査区北側、7 I44に位置し、084炉穴と重複する。円形状で、長さ0.91m、幅0.81m、深さ0.72mであった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

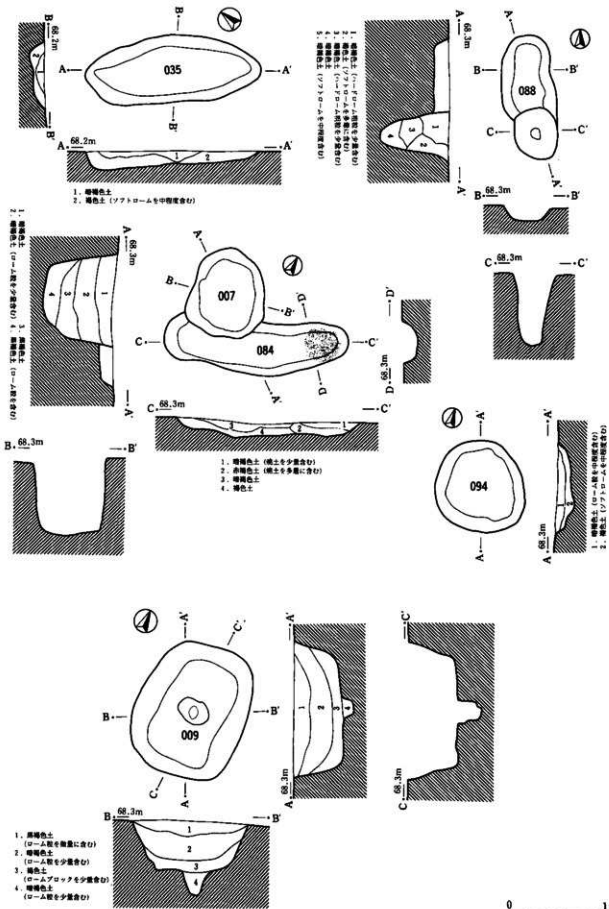
094土坑(第152図) 調査区北側、7 I24に位置する。円形状で、長さ0.95m、幅0.92mであった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

009貯蔵穴(第152図、図版14) 調査区北側、7 I43に位置し、東側に007貯蔵穴がある。長方形で、長さ1.4m、幅1.14m、深さ0.5mであった。中央の床面に、深さ26cmの柱穴があった。覆土中から少数の土器片が出土した。

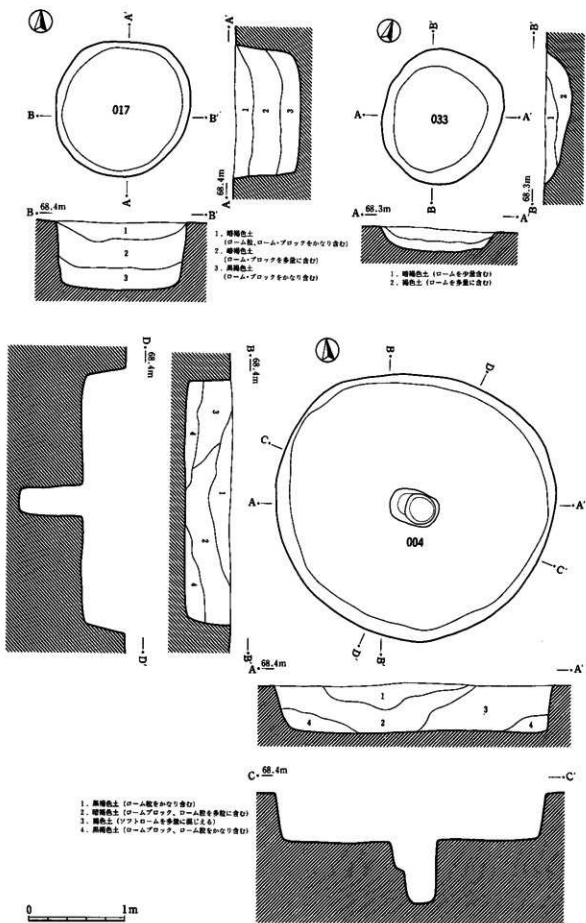
017貯蔵穴(第153図) 調査区北側、7 H73、74に位置する。円形状で、長さ1.42m、幅1.4mで、深さ0.69mであった。覆土中から少量の土器片が出土した。

033貯蔵穴(第153図) 調査区北側、7 I10に位置する。円形状で、長さ1.43m、幅1.25m、深さ0.23mであった。覆土中から条痕文系の土器片が出土した。

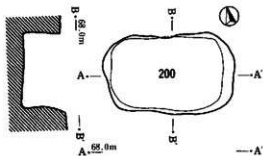
004貯蔵穴(第153図、図版14) 調査区北側、6 H95、96、7 H05、06に位置する。円形状で、長さ2.95m、幅2.74m、深さ0.48mである。中央に径約30cm、深さ66cmの柱穴が1本あった。覆土中から土器片が



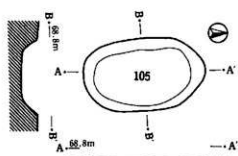
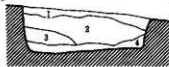
第152図 貯蔵穴、土坑 (5)



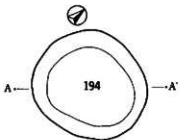
第153図 貯藏穴、土坑 (6)



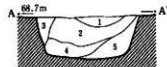
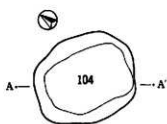
1. 褐色土 (ローム殻を散在に含む)
2. 黒褐色土 (ローム殻を散在に含む)
3. 灰褐色土 (ハーフローム断片を少量含む)
4. 褐色土 (ハーフローム断片を少量含む)



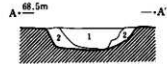
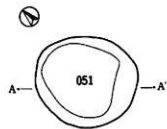
1. 暗褐色土 (ソフトロームを少量含む)
2. 褐色土 (ソフトロームを多量に含む)



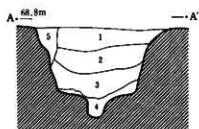
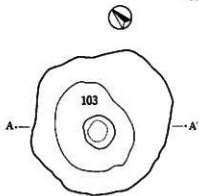
1. 暗褐色土 (ソフトロームを少量含む)
2. 暗褐色土 (ソフトロームを中程度含む)



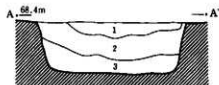
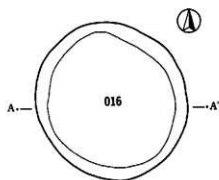
1. 暗褐色土 (ローム殻を少量含む)
2. 黒褐色土 (ハーフロームがブロックを少量含む)
3. 褐色土 (ソフトロームを中程度含む)
4. 暗褐色土 (ソフトローム、ローム殻を少量含む)
5. 褐色土 (ソフトロームを少量含む)



1. 黒褐色土 (ローム殻を少量含む)
2. 暗褐色土 (ローム殻を多量に含む)



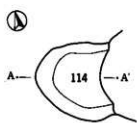
1. 暗褐色土 (ローム殻を中程度含む)
2. 暗褐色土 (ローム殻を含む)
3. 褐色土 (ハーフロームブロックを中程度含む)
4. 暗褐色土 (ハーフロームブロックを少量含む)
5. 褐色土 (ソフトロームを多量に含む)



1. 暗褐色土 (ローム殻、ロームブロックをかなり含む)
2. 暗褐色土 (ローム殻、ロームブロックを多量に含む)
3. 黒褐色土 (ローム殻を少量、ロームブロックをかなり含む)



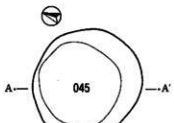
第154図 貯蔵穴、土坑 (7)



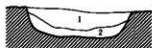
A. 68.3m



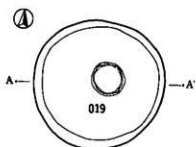
1. 暗褐色土 (腐土を中程度含む)
2. 暗色土 (腐土、ソフトロームを少量含む)



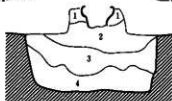
A. 68.5m



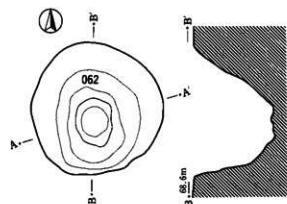
1. 黒褐色土 (ローム殻を少量含む)
2. 暗褐色土 (ロームをかなり含む)



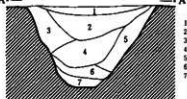
A. 69.8m



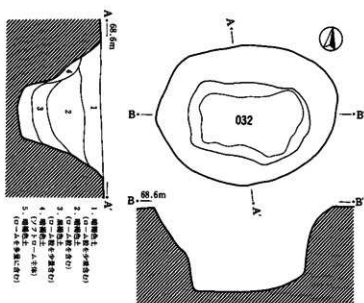
1. 黒褐色土 (ローム粒子、ハードローム小ブロックを中程度含む)
2. 暗褐色土 (ローム粒子、ハードローム小ブロックを多量に含む)
3. 暗褐色土 (ハードローム、ソフトロームを少量に含む)
4. 暗色土 (ハードロームを多量に含む)



A. 68.6m



1. 暗褐色土 (ローム殻を少量含む)
2. 暗褐色土 (ハードロームブロックを少量含む)
3. 暗褐色土 (ソフトロームを少量含む)
4. 黒褐色土 (ローム殻を少量含む)
5. 暗褐色土 (ソフトロームを中程度含む)
6. 暗色土 (ソフトローム、ハードロームを中程度含む)
7. 暗褐色土 (ハードローム上部)

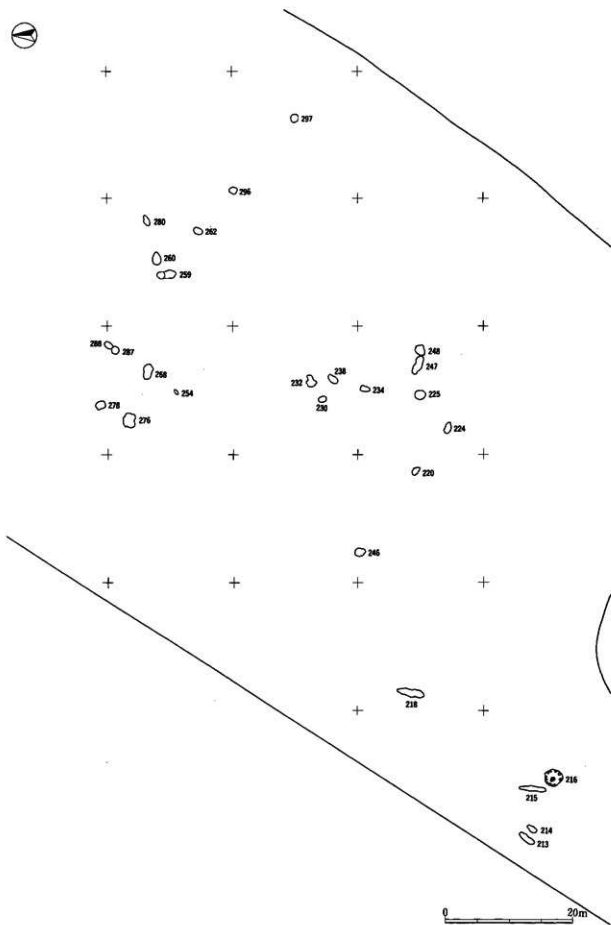


A. 68.6m

1. 暗褐色土 (ローム殻を少量含む)
2. 暗褐色土 (ハードロームブロックを少量含む)
3. 暗褐色土 (ソフトロームを少量含む)
4. 暗褐色土 (ローム殻を少量含む)
5. 暗褐色土 (ソフトロームを中程度含む)
6. 暗褐色土 (ソフトローム、ハードロームを中程度含む)
7. 暗褐色土 (ハードローム上部)

0 1m

第155図 貯蔵穴、土坑 (8)



第156図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図（5、南部）

出土した。

200土坑(第154図、図版7) 調査区北側、8 K71に位置する。長方形で、長さ1.38m、幅0.8m、深さ0.44mであった。覆土中から条痕文系土器片が出土し、また、199、201炉穴に挟まれるように位置していることから、炉穴に類する遺構であろう。

105土坑(第154図) 調査区北側、10 J 04、05に位置する。楕円形で、長さ1.28m、幅0.76m、深さ0.19mであった。覆土中から遺物は出土しなかった。

194土坑(第154図) 調査区北側、9 K80、81に位置する。円形で、長さ1.2m、幅1.14m、深さ0.18mであった。覆土中から条痕文系土器片が出土した。

104土坑(第154図) 調査区北側、10 J 14、15に位置する。長方形で、長さ1.09m、幅0.9m、深さ0.44mであった。覆土中から遺物は出土しなかった。

101貯蔵穴(第59図) 調査区北側、10 J 26、27に位置し、102 A、B炉穴と重複する。円形で、長さ1.63m、幅1.59mであった。土器片と石器がわずかに出土した。

051土坑(第154図) 調査区北側、7 I 92、円形で、長さ1.06m、幅0.93m、深さ0.22mであった。覆土中から擦痕のある土器片が出土し、また付近に050炉穴があることから、炉穴に類する遺構の可能性はある。

103貯蔵穴(第154図、図版14) 調査区北側、9 I 58、59に位置する。付近に他の遺構がなく、やや孤立した存在である。円形で、長さ1.56m、幅1.43m、深さ0.7mであった。中央に径33cm、深さ18cmの柱穴が1本あった。条痕文系土器片が出土した。

016貯蔵穴(第154図) 調査区北側、7 J 91、8 J 01に位置する。円形で、長さ1.61m、幅1.56m、深さ0.52mであった。覆土中から土器片が出土した。

114土坑(第155図) 調査区北側、8 I 14に位置し、東南側を045土坑と重複する。現存の長さ0.67m、幅0.81m、深さ0.19mであった。擦痕のある土器片が出土した。

045土坑(第155図) 調査区北側、8 I 14、24に位置し、西北側を114土坑と重複する。円形で、長さ1.18m、幅1.16m、深さ0.26mであった。擦痕のある土器片が出土した。

019貯蔵穴(第155図、図版14) 調査区北側、8 H 01に位置する。円形で、長さ1.4m、幅1.35m、深さ0.6mであった。埋没後に埋壘が埋納された。

062貯蔵穴(第155図) 調査区北側、8 H 67、68に位置する。円形で、長さ1.39m、幅1.35m、深さ0.83mであった。覆土中から条痕文系の土器片が出土した。

032陥穴(第155図) 調査区北側、8 H 61、62に位置する。上面は楕円形で、長さ1.94m、幅1.42m、深さ0.87mであった。底面は長方形に近い。土器片が少量出土した。

調査区南側では、北側と比較して、遺構の数は少なかった。住居跡は、台地縁辺に1軒だけ検出され、貯蔵穴、土坑が台地のやや中央寄りに分布していた(第156図)。

216住居跡(第157図) 調査区南側、14 D 44、45、54、55、64に位置する。台地縁辺にあり、周辺に他の住居跡もなく、やや孤立した存在であった。調査区外側にも、住居跡が他に数軒あると考えられる。円形状をしていて、長さ2.8m、幅2.65mであった。中央に径約70cm、深さ20cmの炉があった。浅い柱穴が12本、壁際に円形状に配置されていた。覆土中から土器片がわずかに出土した。

278土坑(第63図、図版9) 調査区南側、10 G 93、94に位置し、291炉穴、206方形周溝状遺構と重複し

ている。楕円形状で、長さ1.49m、幅1.25m、深さ0.79mであった。覆土中から少量の土器片が出土した。

288土坑(第158図) 調査区南側、10G98、11G08に位置し、287貯蔵穴と接している。楕円形状で、長さ1.3m、幅0.94m、深さ0.55mであった。覆土中から土器片がわずかに出土した。

287貯蔵穴(第158図) 調査区南側、11G07、08に位置し、288土坑と接している。円形状で、長さ1.2m、幅1.2m、深さ0.55mであった。遺物は出土しなかった。

254土坑(第158図) 調査区南側、11G54に位置する。楕円形状で、長さ0.82m、幅0.44m、深さ0.05mであった。覆土中からわずかに土器片が出土した。

276土坑(第158図) 調査区南側、11G12、13、22、23に位置し、206方形周溝状遺構の中央にある。長さ2.2m、幅1.82mあり、深さ0.15mであった。覆土中からわずかに土器片が出土した。

259土坑(第158図) 調査区南側、11H43、44、53、54に位置する。楕円形状をしていて、長さ2.96m、幅1.26mであった。主軸は北-南を向き、北側に径1.1m、深さ0.79mの土坑があった。覆土中からわずかに土器片が出土した。

260土坑(第158図) 調査区南側、11H34、35、44、45に位置する。長さ1.97m、幅1.3mであった。覆土中からわずかに土器片が出土した。

280土坑(第159図) 調査区南側、11H38に位置する。楕円形状で、長さ1.7m、幅0.89mであった。主軸は東北-西南を向く。遺物は出土しなかった。

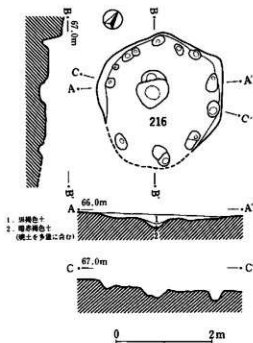
262土坑(第159図) 調査区南側、11H77に位置する。楕円形状で、長さ1.36、幅1.05mであった。主軸は東-西を向く。覆土中から土器片がわずかに出土した。

296貯蔵穴(第159図) 調査区南側、11I90、12I00に位置する。方形に近い形状をしていて、長さ1.3m、幅1.08m、深さ0.63mであった。遺物は出土しなかった。

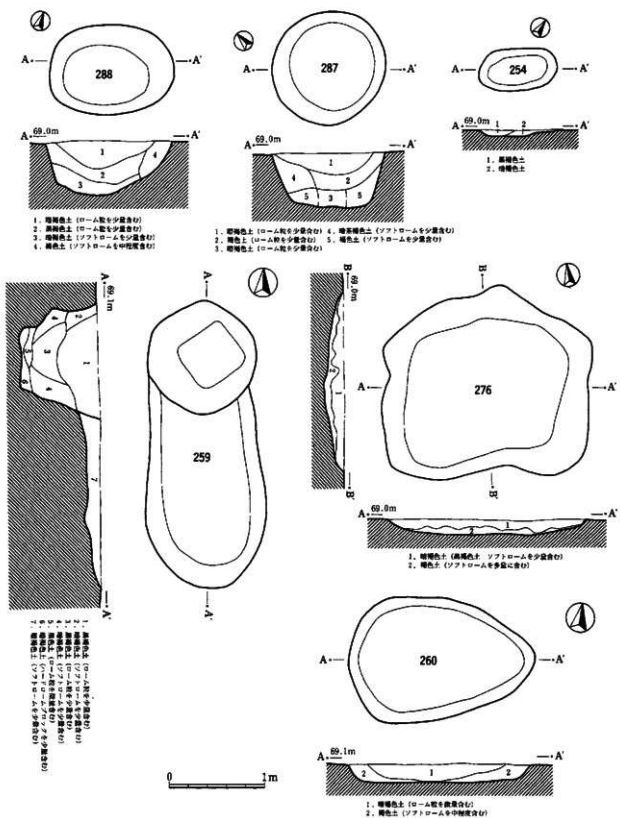
297貯蔵穴(第159図) 調査区南側、12I46、56に位置する。台地縁辺にあつて、周囲に他の遺構がなく、孤立した存在であった。方形に近い形状で、長さ1.26m、幅1.17m、深さ0.6mであった。遺物は出土しなかった。

230土坑(第159図) 調査区南側、12G74に位置する。楕円形状で、長さ1.3m、幅0.84mであった。遺物は出土しなかった。

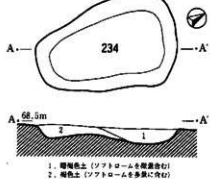
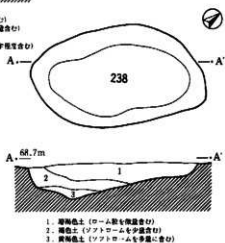
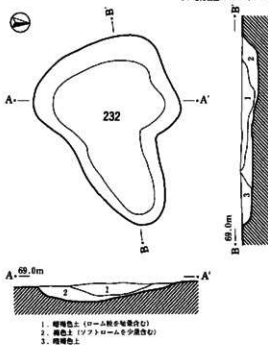
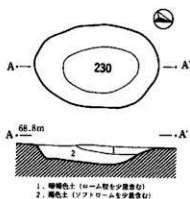
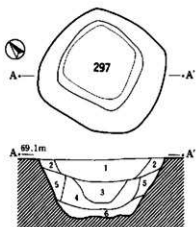
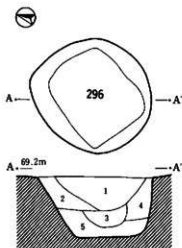
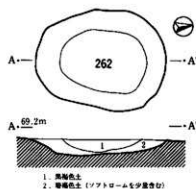
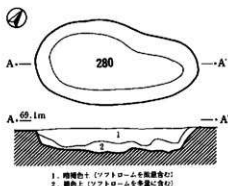
232土坑(第159図) 調査区南側、12G65に位置する。長さ1.96m、幅1.54mで、複雑な形状をしていた。覆土中から条痕文系の土器片が出土した。



第157図 216住居跡

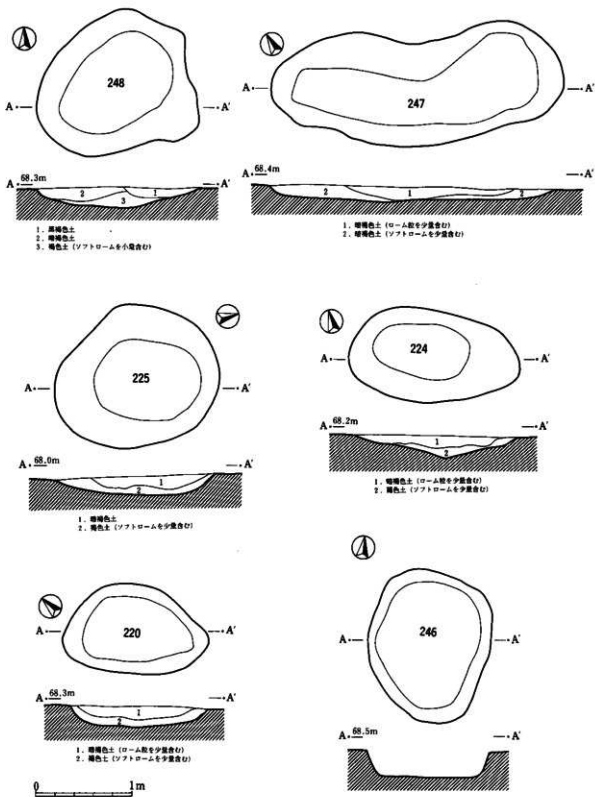


第158図 貯蔵穴、土坑 (9)

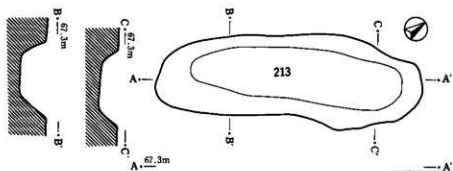
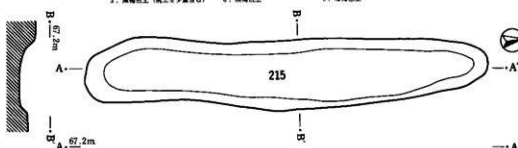
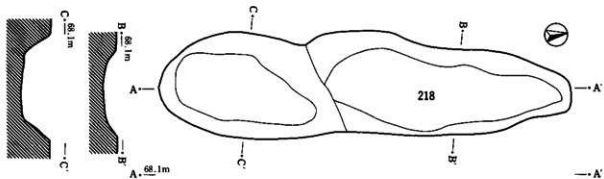


0 1m

第159図 貯蔵穴、土坑 (10)



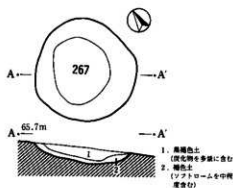
第160図 貯藏穴、土坑 (11)



1. 暗褐色土
2. 褐色土 (ソフトロームを少量含む)
3. 暗褐色土
4. 褐色土 (ソフトロームを少量含む)



0 1m



1. 黒褐色土 (炭化物を多量に含む)
2. 褐色土 (ソフトロームを中程度含む)

第161図 貯蔵穴、土坑 (12)

238土坑(第159図) 調査区南側、12G75、85に位置する。楕円形状をして、長さ1.85m、幅1.05mであった。主軸は東北-西南を向く。条痕文系の土器片、擦痕のある土器片が出土した。

234土坑(第159図) 調査区南側、13G04、05に位置する。長さ1.48m、幅0.95mであった。土器片がわずかに出土した。

248土坑(第160図) 調査区南側、13G47、48、57、58に位置し、207方形周溝状遺構と重複する。西側に247土坑がある。やや楕円形に近い形状をしていて、長さ1.76m、幅1.4mであった。擦痕のある土器片、条痕文系の土器片がわずかに出土した。

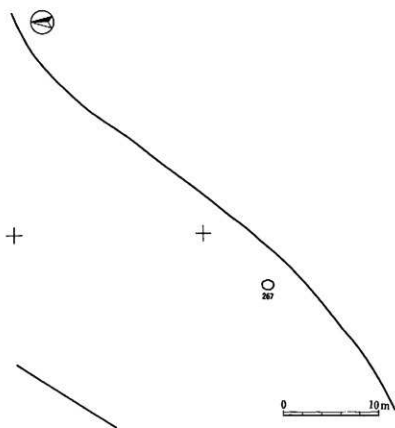
247土坑(第160図) 調査区南側、13G46、47、56、57に位置し、東側に248土坑があった。長さ3.06m、幅1.07mと細長い形状をしていた。少量の土器片がわずかに出土した。

225土坑(第160図) 調査区南側、13G44、54に位置する。やや楕円形に近い形状をしていて、長さ1.72m、幅1.48mであった。条痕文系の土器片がわずかに出土した。

224土坑(第160図) 調査区南側、13G71、72に位置する。楕円形状で、1.8m、幅0.92mであった。遺物は出土しなかった。

220土坑(第160図) 調査区南側、13F48に位置する。長さ1.53m、幅0.91mであった。土器片がわずかに出土した。

246土坑(第160図) 調査区南側、12F92、13F02に位置する。長さ1.61、幅1.31mであった。少量の土器片が出土した。



第162図 炉穴以外の縄文時代の遺構分布図(6、南端部)

218土坑(第161図) 調査区南側、13E31、41、51に位置し、周囲に他の遺構がなく、孤立した存在であった。細長く、長さ4.33m、幅1.05mであった。主軸は南-北を向く。覆土中に焼土がかなり堆積していたので、火床部が検出されなかったが、炉穴であった可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

215土坑(第161図) 調査区南側、14D23、24、33、34、43に位置し、東南側に216住居跡がある。細長く、長さ4.23m、幅0.71mであった。遺物は出土しなかった。

213土坑(第161図) 調査区南側、14C39、14D20、30に位置する。細長くて、長さ2.8m、幅0.99mであった。遺物は出土しなかった。

214土坑(第161図) 調査区南側、14D30に位置する。楕円形状で、長さ1.63m、幅0.78mであった。主軸は東北-西南を向く。遺物は出土しなかった。

調査区南端には、台地縁辺部に土坑が1基孤立して存在していた(第160図)。

267土坑(第161図) 調査区南側、台地縁辺の16C37に位置する。円形状で、長さ1.06m、幅1.05mであった。遺物は出土しなかった。

4 縄文時代中期の遺構出土土器

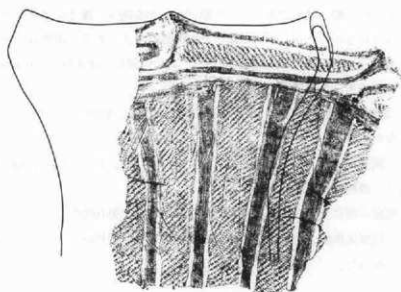
炉穴以外の縄文時代の遺構としては、主に住居跡、貯蔵穴、土坑があったが、それらの遺構から出土した遺物の大半は土器片である。また、その土器片もその多くは加曾利E式に属している。

127住居跡出土土器(第163、164、165、166図、図版42、43、44) 127-1、3、4、6、7、8は炉壁に使われていた壺の口縁部である。127-1はキャリパー状の器形の波状口縁で、隆起線でクランク状文様を施し、その内部に縄文が施されている。胴部には磨消懸垂文がある。127-2も同じような文様が施文されている。127-3、4の口縁は平縁で外面に隆起線で楕円形文を施す。胴部には幅の狭い磨消懸垂文がある。4の胴部の縄文には、波状の沈線が縦位に施されている。127-5の口縁には大きな把手があり、外面に円形、楕円形の隆起線が巡る。胴部には縄文と磨消懸垂文が交互に並ぶ。127-6の口縁にはわずかな突起があり、外面には楕円形の隆起線が巡る。胴部には縄文と磨消懸垂文が交互に並ぶ。127-8の口縁は平縁で、外面に楕円形の隆起線と円形の刺突文が巡る。胴部には縄文と幅の狭い磨消懸垂文が交互に並び、縄文には直線の沈線が縦位に施されている。

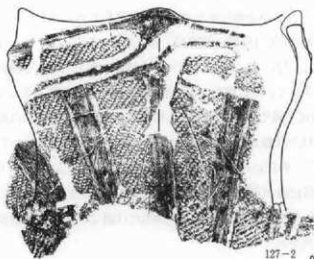
126住居跡出土土器(第167、168図、図版45、46) 126-1の口縁には小さな突起が付き、外面に隆起線による渦巻文が巡る。126-2の外面にも隆起線による渦巻文が巡り、やや粒の大きい縄文が施文されている。126-3はキャリパー状の器形の底部で、縄文を施文している。126-4もキャリパー状の器形で、口縁は平縁、口縁部外面は無文、頸部から縄文を施してある。126-8、9の口縁部外面には、半截竹管による連続刺突文が横位に2列巡らされていた。126-22、24も同様に半截竹管を用いて連続刺突文、条線文を施文している。126-14には、半截竹管による横位の連続刺突文と、燃糸の文様がある。126-19には半截竹管を横位に引き伸ばして平行条線文を施してある。126-27には燃糸が施文されている。126-23には磨消縄文が弧状に施されている。

125、128住居跡出土土器(第169図、図版46) ほとんどの土器片には、縄文もしくは磨消懸垂文が施されている。125-13には隆起線による楕円形文様の一部である。128-12には波状の条線が施文されている。

123住居跡出土土器(第170図、図版47) 123-4は、口縁部が無文で、頸部から縄文が施文されている。123-8、9は胴部下半部で、楕円形状の区画内に縄文が施され、それ以外の部分では磨消縄文が施されて



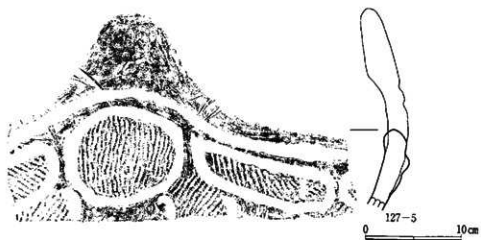
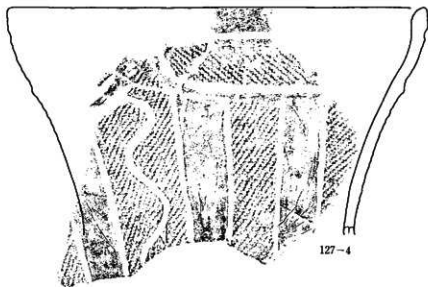
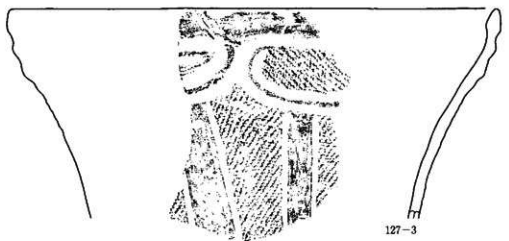
127-1



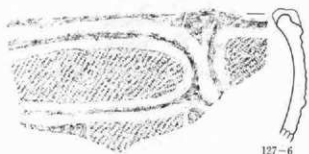
127-2

0 10 cm

第163图 127住居跡出土土器 (I)



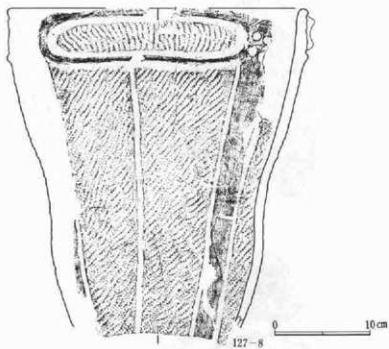
第164图 127住居跡出土土器 (2)



127-6

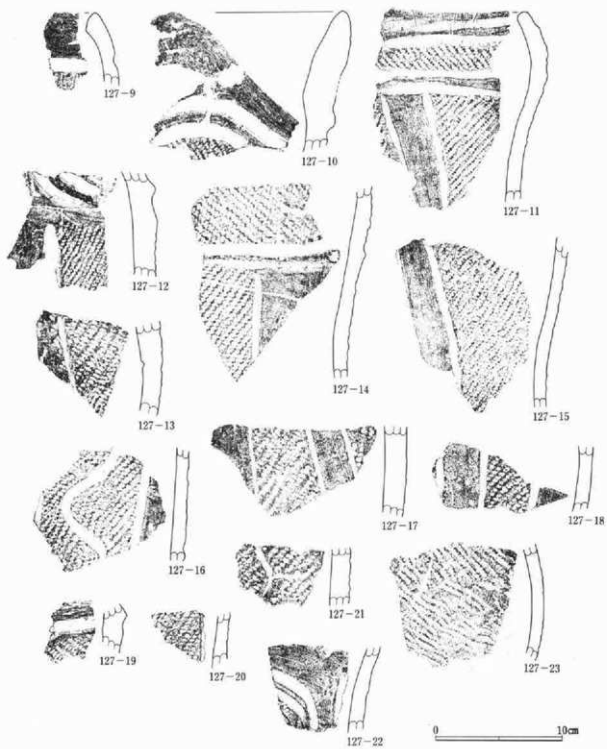


127-7



127-8

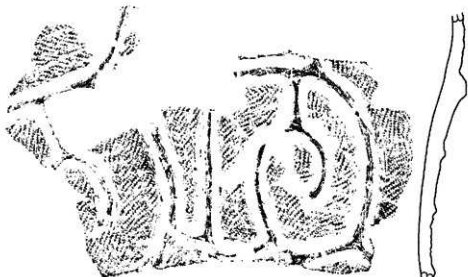
第165图 127住居跡出土土器(3)



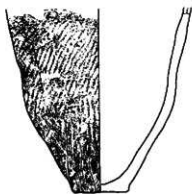
第166圖 127住居跡出土土器 (4)



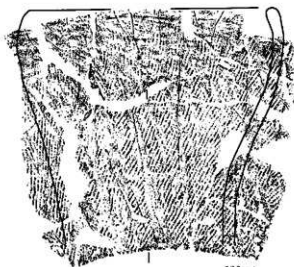
126-1



126-2



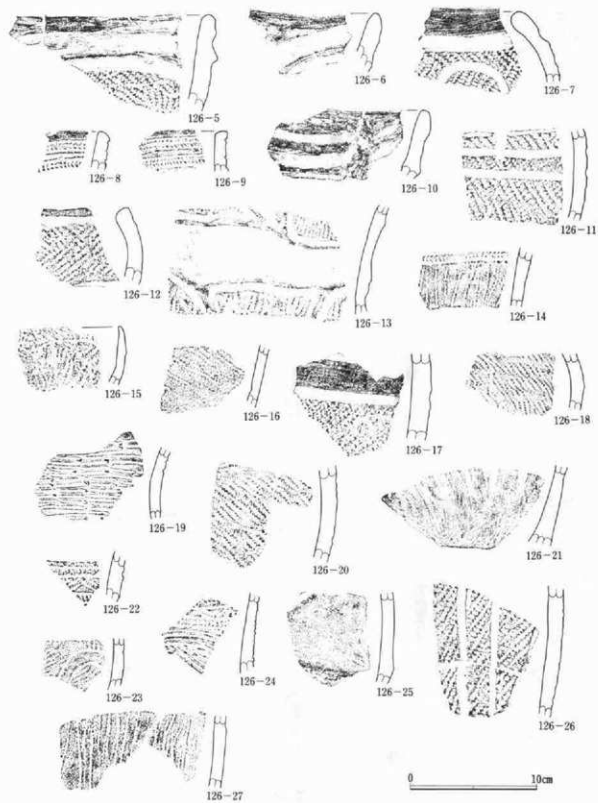
126-3



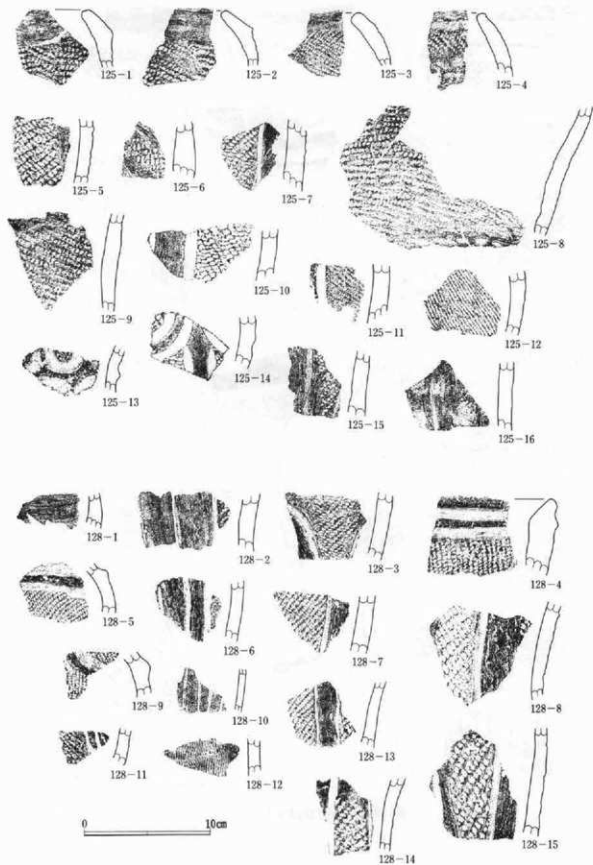
126-4

0 10 cm

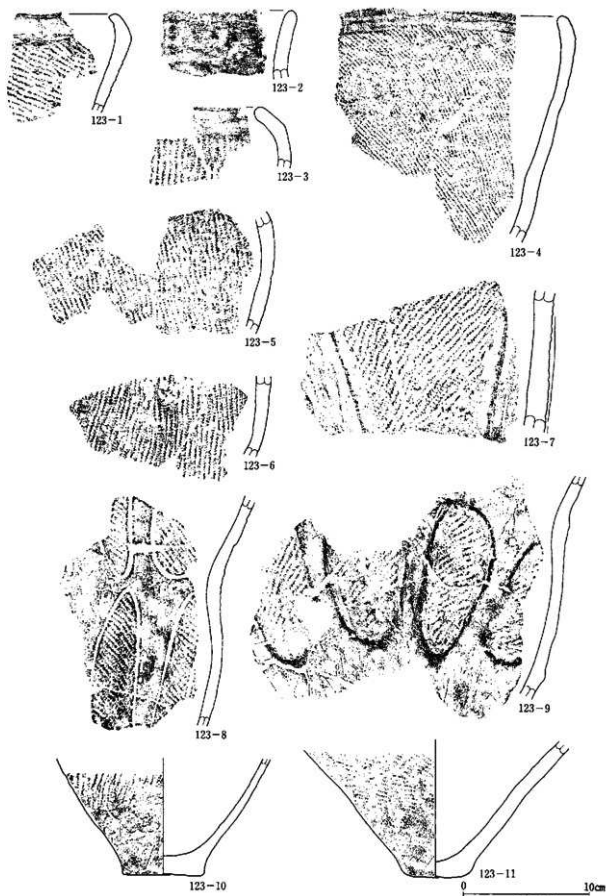
第167图 126住居跡出土土器 (1)



第168圖 126住居跡出土土器(2)



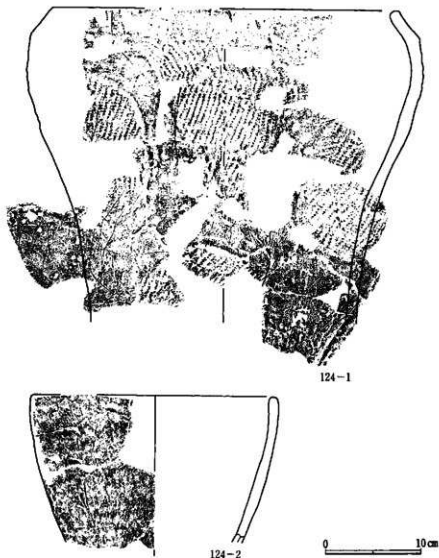
第169图 125、128住居跡出土土器



第170图 123住居跡出土土器

いる。123-10、11の胴下部には縄文が施され、底部は無文である。123-11は埋甕に使用されていた土器である。

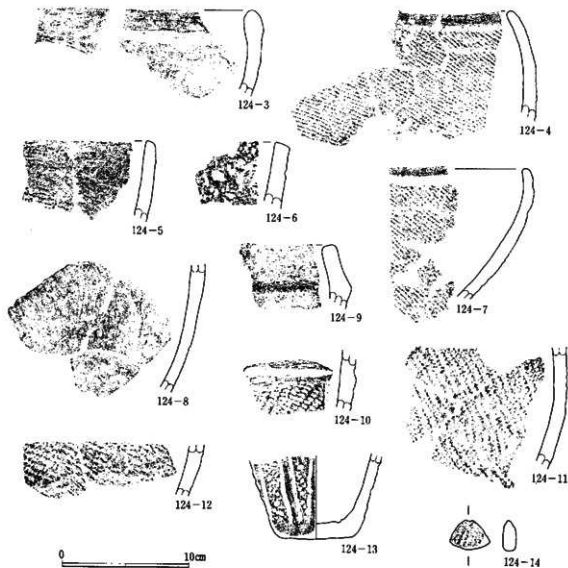
124住居跡出土土器(第171、172図、図版47、48) 124-1は124B住居跡の炉壁に使用されていた変形土器である。二次的焼成を受けて、ところどころピンク色に変色したり、もろくなっている。口縁部は若干内側に湾曲し、無文である。胴部は縄文が施文され、磨消縄文による円形、楕円形の区画がなされている。124-2は、124A住居跡の炉壁に使用されていた鉢形土器である。外面は無文で、いねいななが施されている。124-3も124A住居跡の炉壁に使用されていた土器片で、無文の口縁部である。124-4は124B住居跡の炉壁に使用されていた口縁部で、無文の口唇部の下に、縄文が施文されている。124-13は甕の底部で、縄文の施文に、縦位に磨消縄文と太い沈線が施されている。124-14は土器片を利用した錘である。



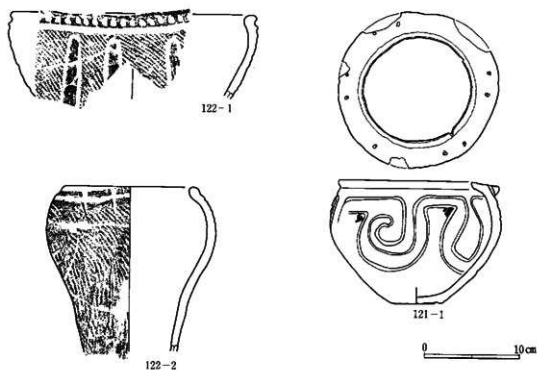
第171図 124住居跡出土土器(1)

122住居跡出土土器(第173、174図、図版48、49) 122-1は鉢の口縁部で、口唇部には刺突文が巡り、その下に太い沈線が一周する。頸部には縄文が施文され、幅の狭い磨消懸垂文が等間隔に並ぶ。122-2は、キャリパー形の小型の甕である。口唇部に太い沈線がまわり、頸部から胴部にかけて縄文が施文されている。122-5の口縁部および口唇部には斜位に沈線が巡っている。122-13の口縁部には、縄文による施文と沈線による楕円形の区画があり、さらに楕円形の区画の外側に竹管による円管状の刺突文がある。122-27の胴部には、楕円形状の区画内に縄文が施されている。122-32、33には、底部の近辺まで縦位の沈線が施されている。

121貯蔵穴出土土器(第173、175図、図版49、50) 121-1は有孔罅付土器である。口唇部に幅約2.6cm～3.0cmの平坦な面があり、そこに二穴一対となった孔が5対、計10個の孔が穿たれていた。頸部から胴部にかけては縄文が施され、さらに磨消縄文による渦巻文様が巡る。縄文の施文されている部分および底部は、表面がもろく、ところどころ剝離している。121-13は渦巻状の把手である。121-15の口縁部は、突



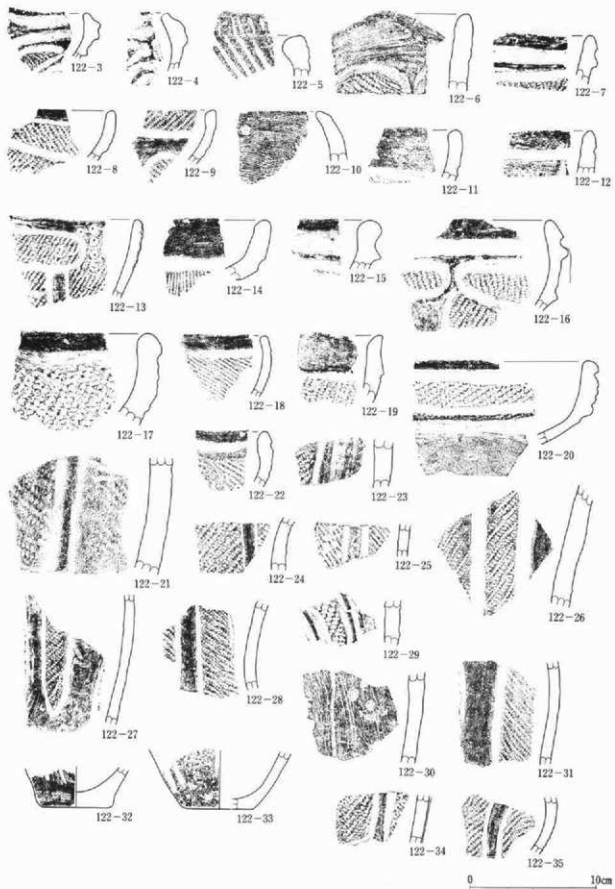
第172図 124住居跡出土土器(2)



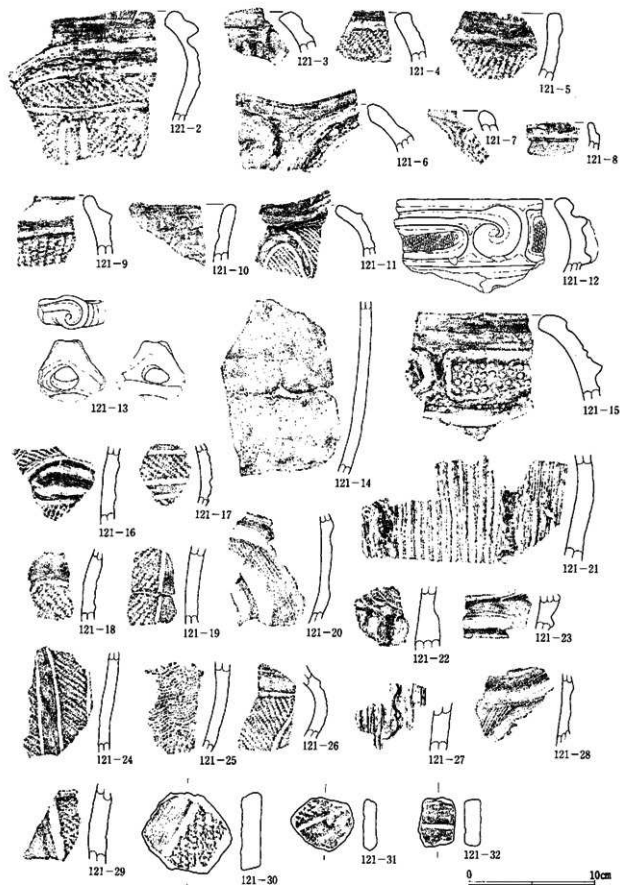
第173図 122住居跡、121貯蔵穴出土土器 (1)

帯によって長方形に区画された中を、円形の刺突で施文している。121-20、28は、突帯で区画された中に、浅い条線が施文されていた。121-21、22、27は、縦位の突帯に平行して太い沈線が施文されていた。121-25には、波状の磨描文が施されていた。121-30、31、32は土器片を利用した錘である。

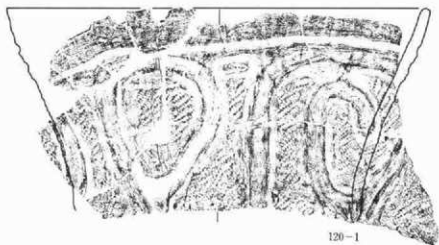
120住居跡出土土器 (第176、177、178、179図、図版51、52、53) 120-1は炉壁に使用されていた甕の口縁部である。口唇部は無文で、口縁下部に隆起線を一周させ、その下に縄文を施文する。頸部から胴部には縦位に隆起線が走り、その隆起線に区画された中を磨消縄文と隆起線による渦巻文が施されていた。120-4も炉壁に使用されていた土器片である。小波状口縁で口縁下部に太い沈線が巡る。頸部、胴部には縄文が施文され、波状の高くなった口縁の下に磨消縄文による楕円形の区画がなされ、さらにその区画された中を、沈線で楕円形に区画して縄文を施していた。120-3は埋甕に使用されていた土器で、胴部から口縁部にかけてほぼ完形であった。口唇部は無文で、頸部と胴部は、沈線で区画された磨消縄文と縄文の施文が縦位に交互に巡っていた。120-5も炉壁に使用されていた。外面は縄文が施文され、隆起線と太い沈線で区画されている。120-6には縄文が施文され、2本の隆起線で縦位に区画している。120-9は、胴部下部まで縄文が施文され、さらに不規則に沈線が縦位に施されていた。120-10は無文の口縁下部に沈線が一周し、その下に波状の沈線が巡る。胴部には浅い沈線で区画された楕円形の磨消懸垂文がある。120-15は波状口縁で、頸部、胴部には縄文が施文され、隆起線と太い沈線で渦巻文や楕円形等が描かれていた。120-28の上部にはやや粗い縄文が施文され、その下部に細い条線が施されていた。120-42、48は土器片を利用した錘である。



第174图 122住居跡出土土器



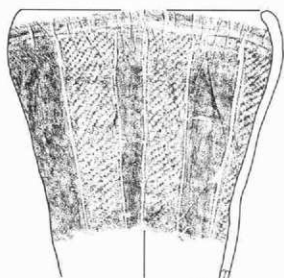
第175图 121贮藏穴出土土器(2)



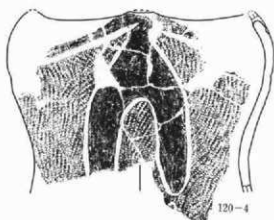
120-1



120-2



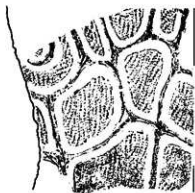
120-3



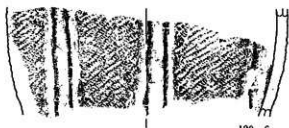
120-4

0 10cm

第176圖 120住居跡出土土器 (1)



120-5



120-6

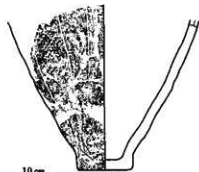


120-7



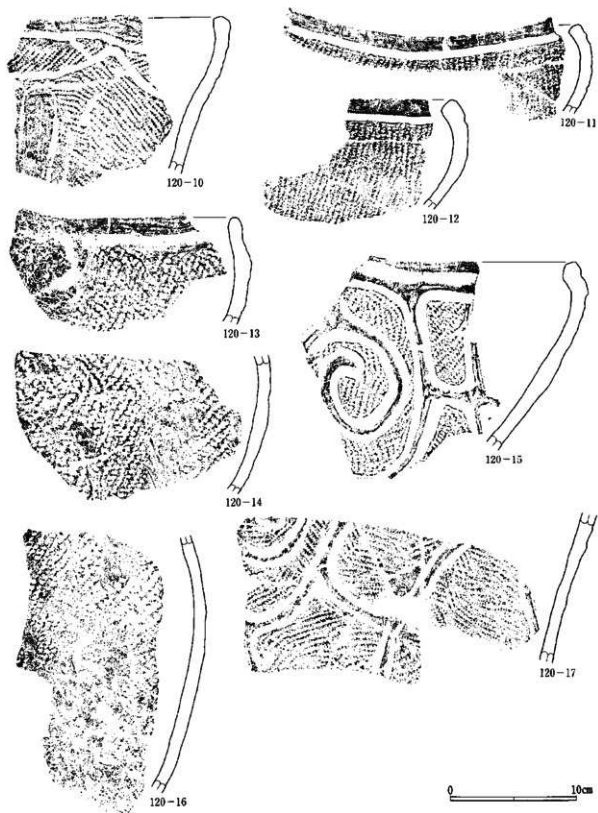
120-8

0 10 cm

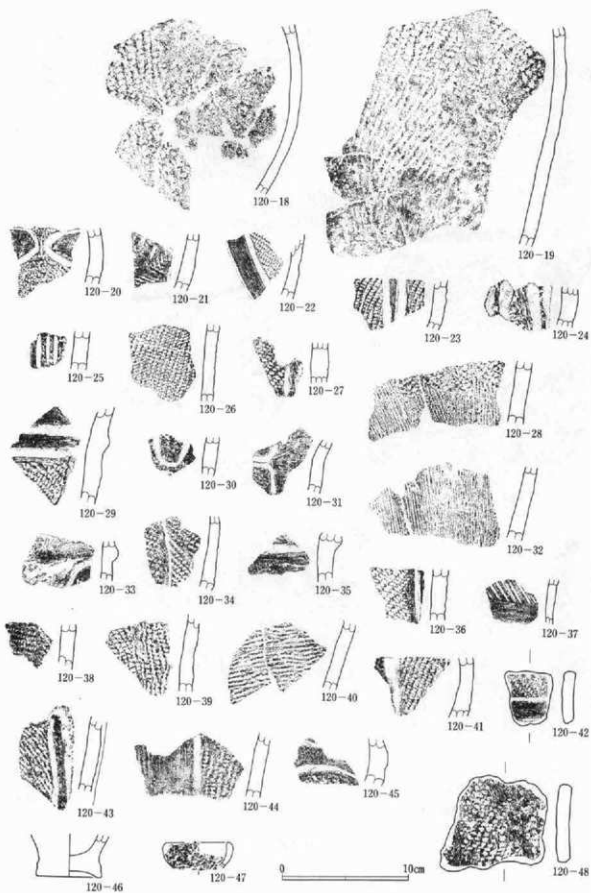


120-9

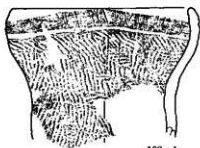
第177图 120住居跡出土土器(2)



第178图 120住居跡出土土器 (3)



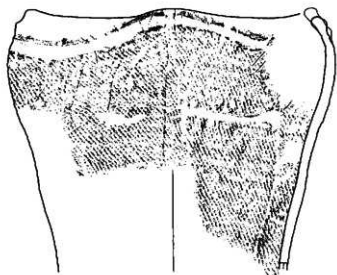
第179图 120住居跡出土土器 (4)



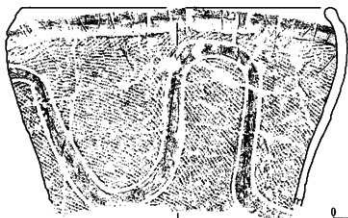
198-1



198-2



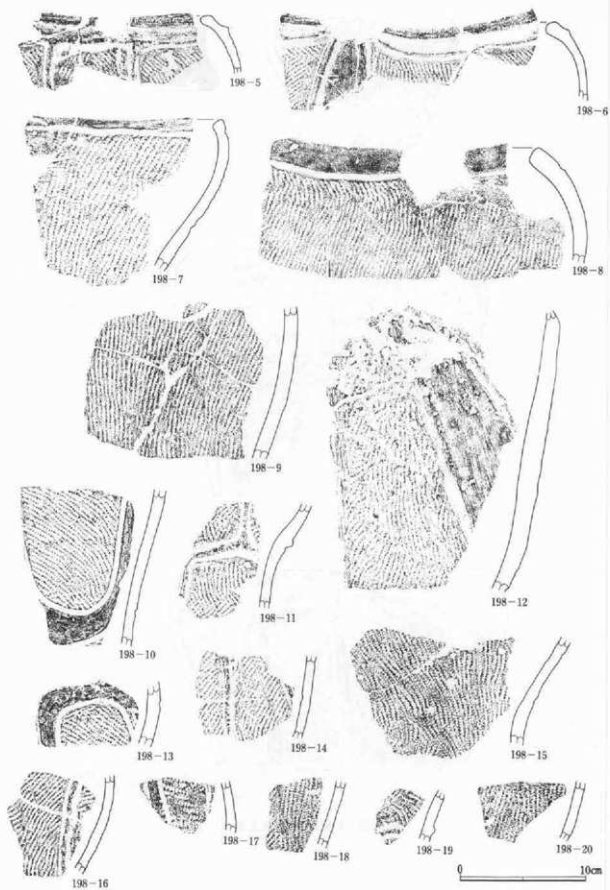
198-3



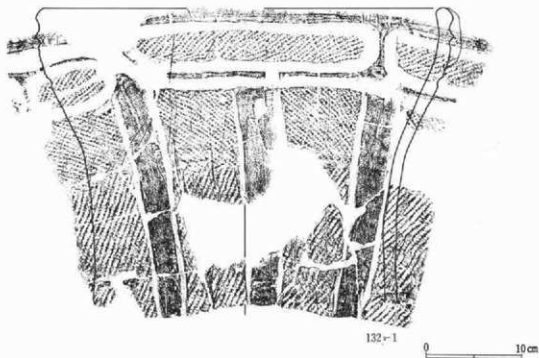
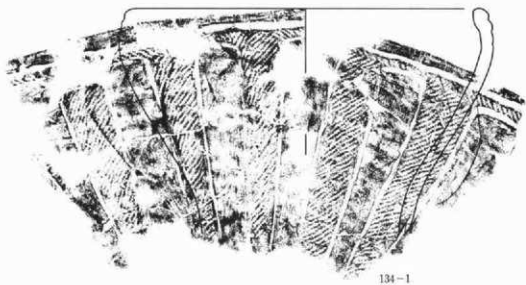
198-4

0 10 cm

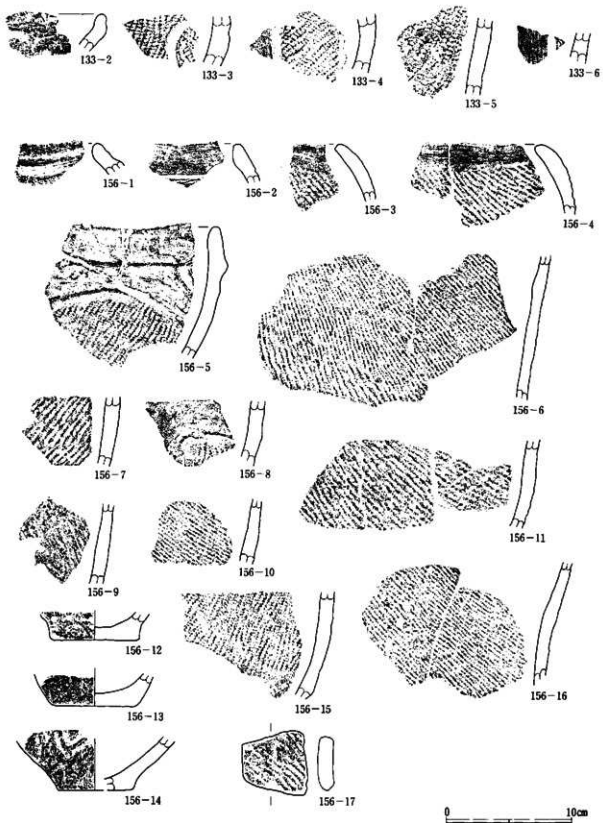
第180图 198住居跡出土土器(1)



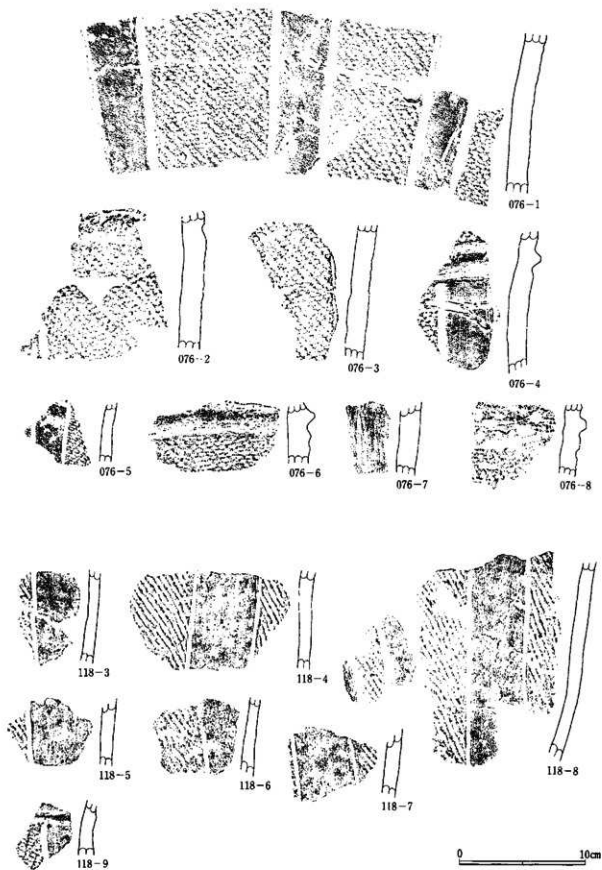
第181图 198住居跡出土土器(2)



第182图 埋葬 (1)



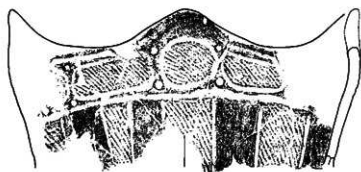
第183圖 埋甕 (2)



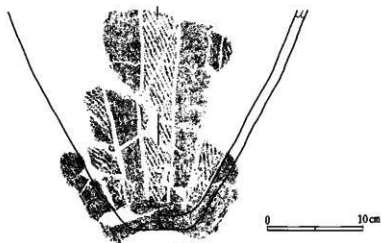
第184圖 埋甕 (3)

198住居跡出土土器(第180、181図、図版54、55、56) 198-2は器台形の土器で、四つの孔がある。外面に縄文を施文してあるが、器台の上面および内面は無文である。198-3、4は炉壁に使用されていた土器で、二次焼成を受けて脆く、ところどころ表面が剝離している。198-3は波状口縁で、無文の口縁より下は、縄文が施文してある。198-4は、無文の口縁より下には、縄文が施文してあり、さらに沈線で区画された磨消縄文の狭い帯が波状に描かれている。198-5と6はおそらく同一個体と思われる。無文の口縁部から下に、縄文と磨消縄文が施され、隆起線と太い沈線による区画がなされている。198-12は磨消縄文と縄文が施されていたが、炉壁に使用されていた土器片で、二次焼成を受けて表面が剝離している。

133、134、132、156埋壺(第182、183図、図版57、58、79) 133-1は小波状口縁で、口縁部から縄文を施文し、太い沈線で円形、楕円形等を描いている。134-1はキャリパー形の甕で、無文の口縁部の下部に太い沈線を巡らし、頸部から胴部にかけて磨消懸垂文と縄文を交互に縦位に配置されている。132-1は口径41.7cmの大型の甕である。平縁の口縁で、口縁部を太い沈線と隆起線で楕円形に区画して、区画した中に縄文を施文している。頸部から胴部にかけては、縦位に磨消懸垂文と縄文が交互に巡っている。156-5の口縁部は無文で、貼付線で区画された中を縄文で施文している。156-17は土器片を利用した垂である。



118-1

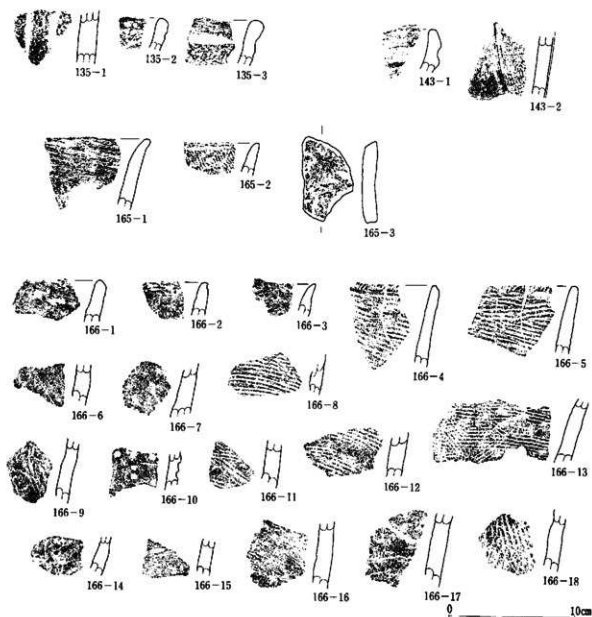


118-2

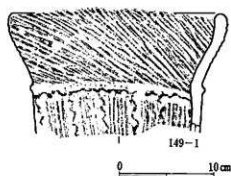
第185図 埋壺(4)

076、118埋壺(第184、185図、図版58、59) 076-1は壺の胴部で縄文と磨消懸垂文が縦位に施文されている。118-1は波状口縁で、口縁部に沈線で円形状と楕円形状の区画をし、区画内に縄文を施文してある。円形状の区画の外側四隅に円形の刺突文を配する。頸部から胴部には、縦位に磨消懸垂文と縄文が交互に巡っている。

135、143貯蔵穴、165、166土坑出土土器(第186図、図版60) 165、166土坑出土の土器片は、条痕文系の土器片である。166-4、5の口唇部には、細かい刺突文が巡っている。内面は条痕文をきれいになでている。166-10の外面には円形の刺突文が施されている。



第186図 貯蔵穴、土坑出土土器(1)

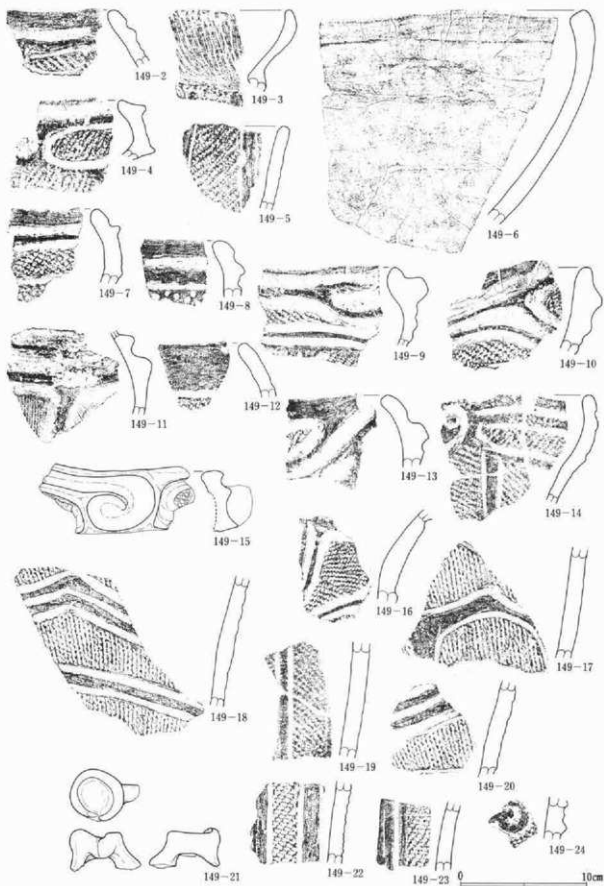


第187図 貯蔵穴、土坑出土土器 (2)

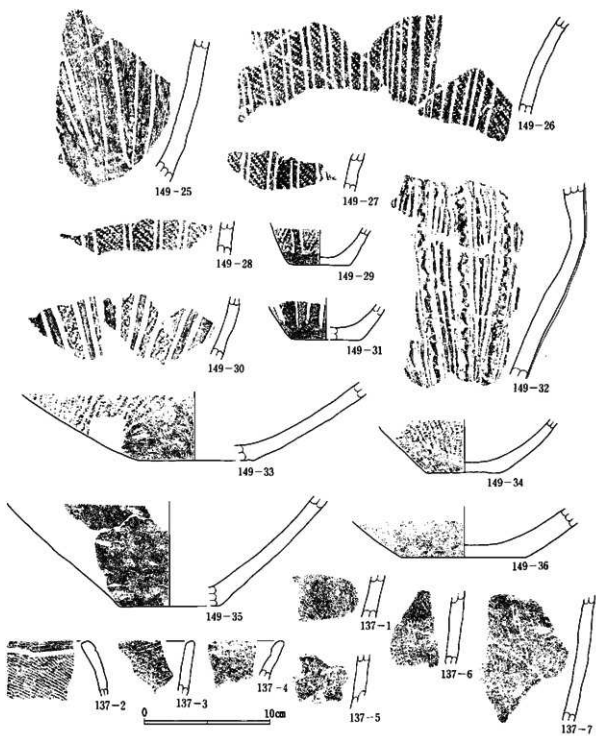
149貯蔵穴、137土坑出土土器 (第187、188、189図、図版60、61) 149-1の口縁部には、斜位の太い条線文が施文され、口縁部と胴部の交わるころには、波状の隆起線と円形の刺突文が巡らされている。胴部には条線文と波状の隆起線が縦位に施文されている。149-3の口縁部も、149-1と同じような文様が施文されている。149-8の口縁部には隆起線と沈線が一周し、その下に円形の刺突文が施されている。149-14はキャリバー形の壺の口縁部で、太い沈線による渦巻文や、楕円形状の区画がなされている。149-15は波状口縁で、かなり立体的な渦巻文が施されている。149-21は渦巻状の把手である。149-32には条線と波状の隆起線が縦位に施されている。

014住居跡出土土器 (第190、191、192、193図、図版62、63) 014-1には把手が4カ所あり、把手の部分に渦巻文を施している。口縁部には隆起線による楕円形状の区画があり、区画内を縄文で施文してある。胴部には太い沈線で区画された縦位の磨消懸垂文と、縄文が施されている。014-3は、口縁部に太い沈線が一周し、頸部から胴部にかけて条線文が縦位に施文されている。014-17の口縁には、太い沈線で渦巻文と楕円形状の区画がなされている。014-20の口縁部にはLRの縄文を施し、下部に2本の沈線を巡らせ、その下に円形の刺突文を施している。014-24は、隆起線と太い沈線で渦巻文を描き、さらに縄文が施文されている。014-29は、隆起線と太い沈線で楕円形状に区画され、区画内を縄文が施文されている。014-30、31、32は土器片を利用した鋳である。014-4は頸部に渦巻形の把手を付けている。014-5、7、8は、いずれも口縁部に渦巻文様を施している。

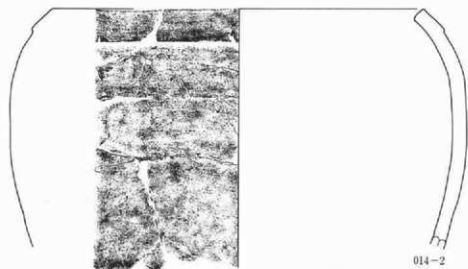
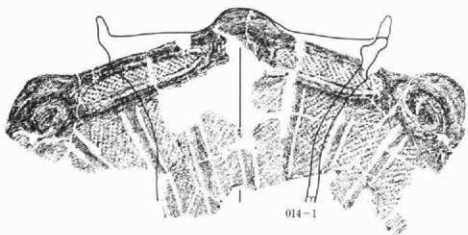
015住居跡出土土器 (第194、195図、図版64) 015-1は小波状口縁で、口縁部に隆起線と太い沈線で渦巻状、楕円形状の区画をし、区画内を縄文で施文している。その下に磨消懸垂文と縄文が施されている。015-2は胴部に細い条線を施文している。015-10の胴部にも細い条線が施文されている。015-14、15は土器片を利用した鋳である。015-16は小型の土器で、口縁部から胴部にかけて沈線による渦巻文が施文されている。015-18、23、24、25の口縁部には隆起線と太い沈線によって渦巻文が描かれている。



第188图 贮藏穴、土坑出土土器 (3)

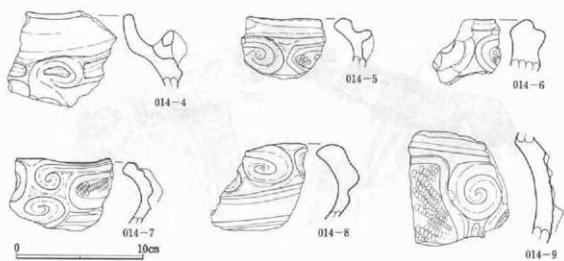


第189圖 貯藏穴、土坑出土土器 (4)

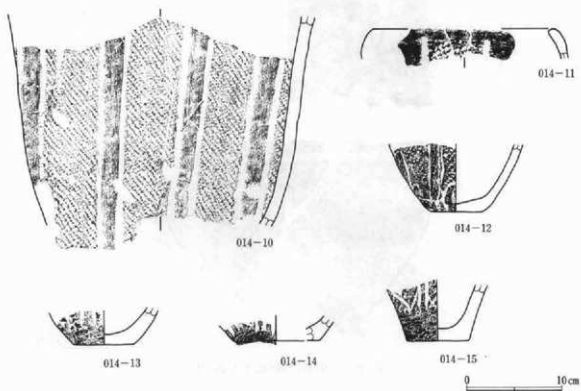


0 10cm

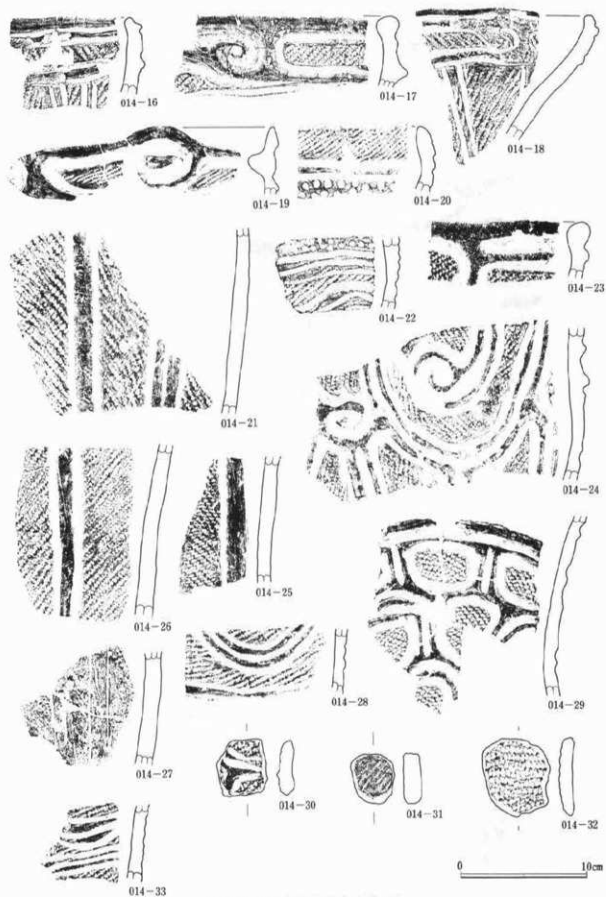
第190圖 014住居跡出土土器 (1)



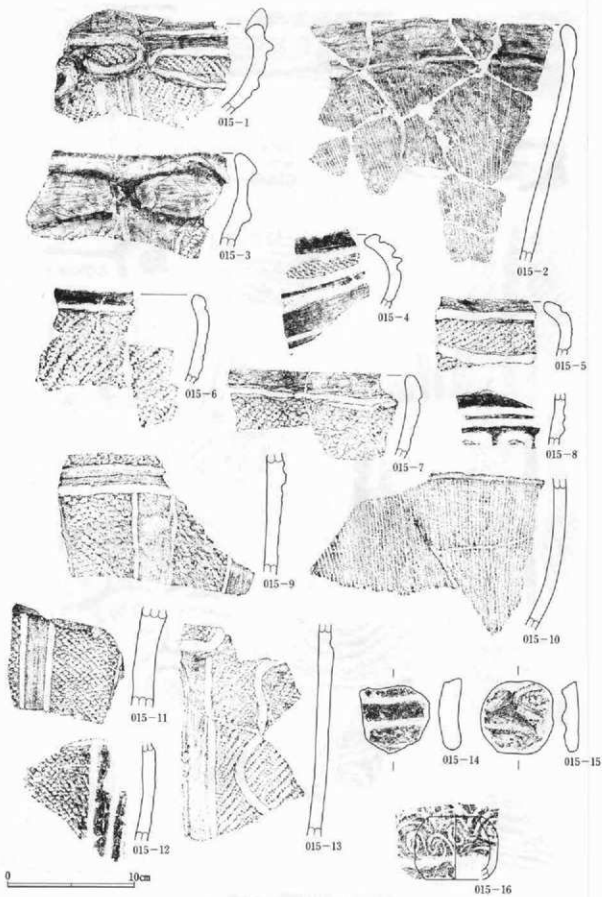
第191圖 014住居跡出土土器 (2)



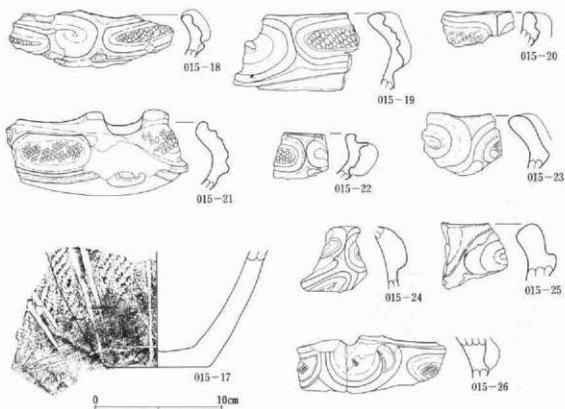
第192圖 014住居跡出土土器 (3)



第193图 014住居跡出土土器(4)



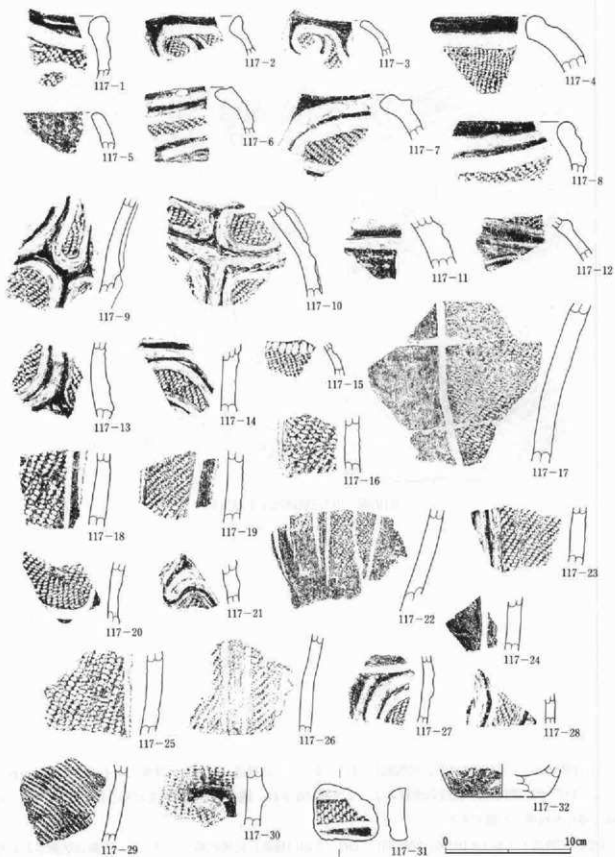
第194图 015住居跡出土土器(1)



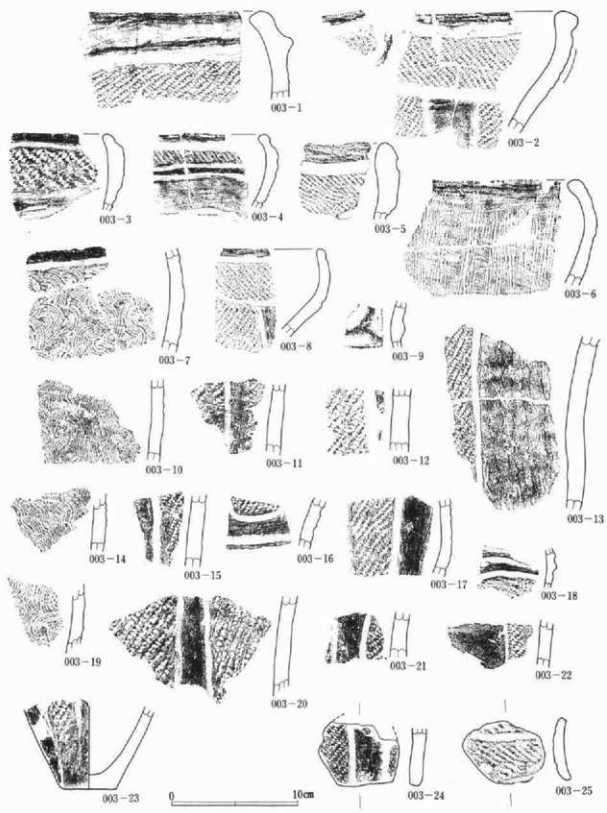
第195図 015住居跡出土土器 (2)

117住居跡出土土器 (第196図、図版65) 117-2、3の口縁部には、太い沈線による渦巻文が描かれている。117-22の胴部は、縦位の沈線によって区画がなされ、縄文と磨消懸垂文が施されている。117-31は土器片を利用した錘である。

003住居跡出土土器 (第197図、図版65) 003-2の口縁部には隆起線を付け、太い沈線に区画された中に縄文が施文されている。003-4の口縁部には縄文が施文され、横位の太い沈線と隆起線によって区画されている。003-6の頸部から胴部にかけては、縦位の条線が施されている。003-7、10、14、19には不規則な波状の条線が施されている。003-24、25は土器片を利用した錘である。



第196图 117住居跡出土土器



第197图 003住居跡出土土器

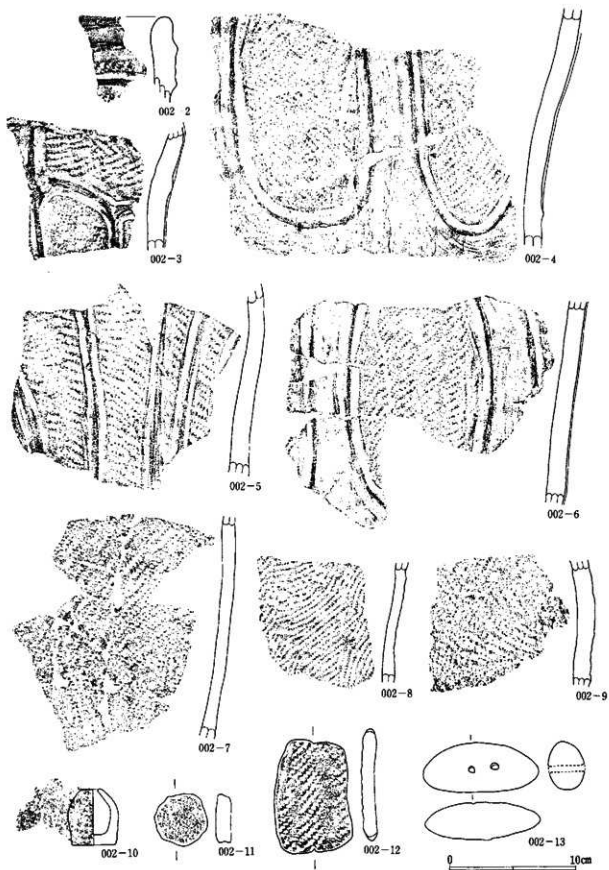


第198図 002住居跡出土土器 (1)

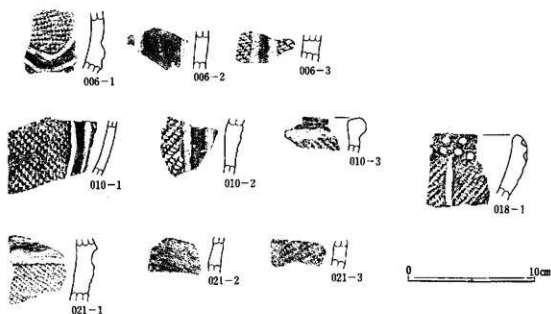
002住居跡出土土器 (第198、199図、図版66、67) 002-1はキャリバー形の甕で、口縁部に太い隆起線を一周させ、その下を頸部から胴部にかけて縄文が施文されている。002-4、6は炉壁に使用されていた土器片である。002-10は小型の土器で口縁がすぼまっている。外面は無文である。002-11、12は土器片を利用した甕である。002-13は大珠型土製品で、長さ8.93cm、幅3.68cm、厚さ2.66cm、重さ97.20gである。表面をていねいになで、2孔を穿っている。

006、010、021、018貯蔵穴出土土器 (第200図、図版67) 加曾利E式の土器が主体をなす。018-1の口唇部には円形の刺突文が横位に二段ならび、その下に縄文と縦位の沈線とが施文されている。

195土坑、150、160、181、099貯蔵穴、177土坑出土土器 (第201、202図、図版68) 195土坑出土の土器は、条痕文系の土器片である。150-1は二次焼成を受けていて、一部表面が剝離している。口縁部は幅広い条線で半円状の円弧を描き、胴部との接点のところで横位に隆起線を一周させる。その下は、縦位に隆起線と幅広い条線を描いている。181-2の口唇部には斜位の刺突文が巡り、その下に条痕文が施文されている。



第199图 002住居跡出土土器(2)

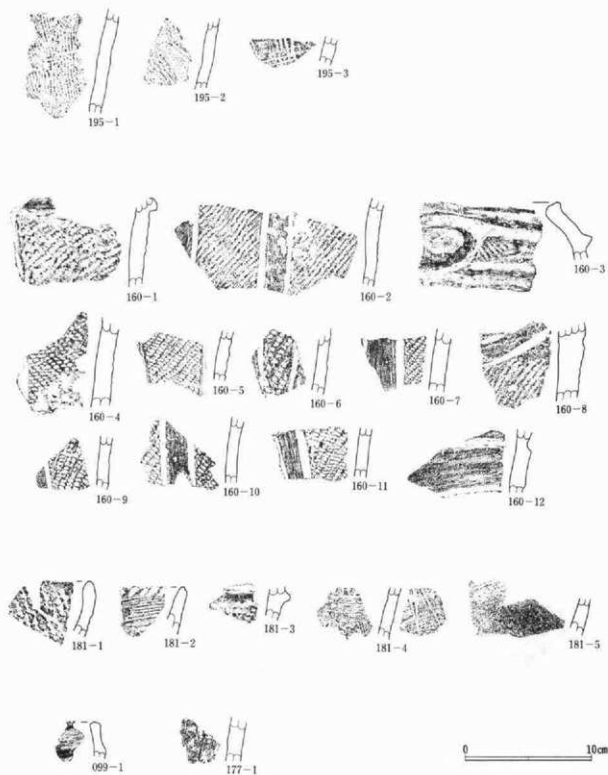


第200図 貯蔵穴、土坑出土土器 (5)

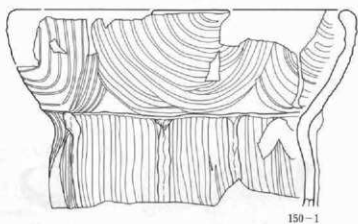
035、088土坑、007貯蔵穴、094土坑、009、017、033、004貯蔵穴出土土器(第203、204図、図版69) 017-5には波状の条線文、017-6は縦位の条線文が施されている。033土坑出土の土器は、条痕文系の土器片である。004-8は、隆起線によって渦巻文を描き、そこに縄文が施されている。004-10の口縁は、隆起線による渦巻文様を描いている。004-11は沈線による渦巻文を施文している。004-1の底部は無文で、ていねいになでている。

200、194、051土坑、103、016貯蔵穴出土土器(第205図、図版69) 200、194土坑出土の土器は条痕文系の土器片で、051土坑出土の土器は、擦痕のある土器片である。051-4の口唇部には、小さい刺突文が巡る。016-2は、縄文と磨消懸垂文が縦位に交互に施文されている。016-9は土器片を利用した鋸である。

114、045土坑、019貯蔵穴、062土坑、032陥穴出土土器(第206、208図、図版70) 114、045土坑出土の土器は、擦痕のある土器片である。019-1は埋壘に使用されていたキャリパー形の土器である。口縁の4ヶ所に把手があり、把手の下に隆起線による渦巻文が描かれている。渦巻文と渦巻文の間には、波状の条線文を横位に施文し、その下部に太い沈線と隆起線が施されている。胴部には幅広い沈線と波状の条線文が縦位に施文されている。



第201图 贮藏穴、土坑出土土器 (6)



150-1

0 10 cm

第202图 贮藏穴、土坑出土土器 (7)



004-1



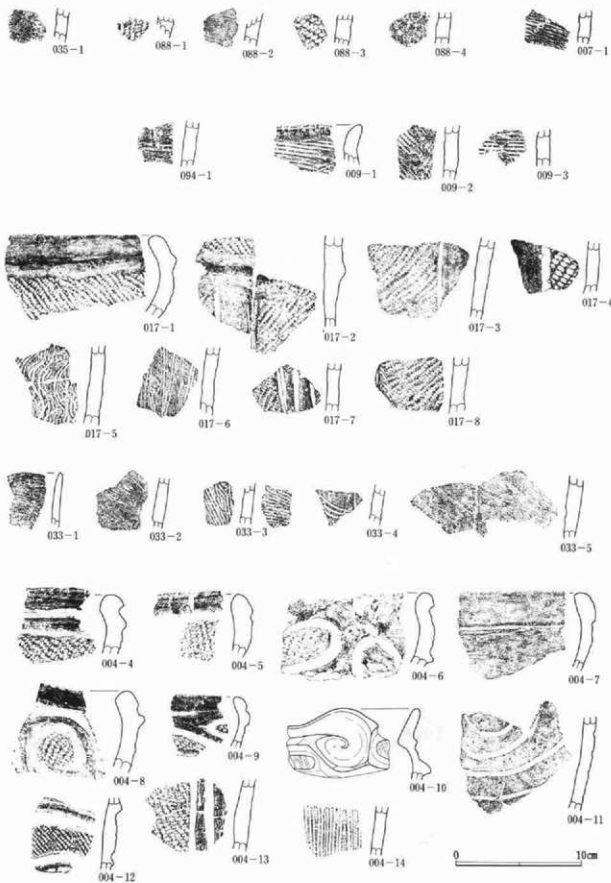
004-2



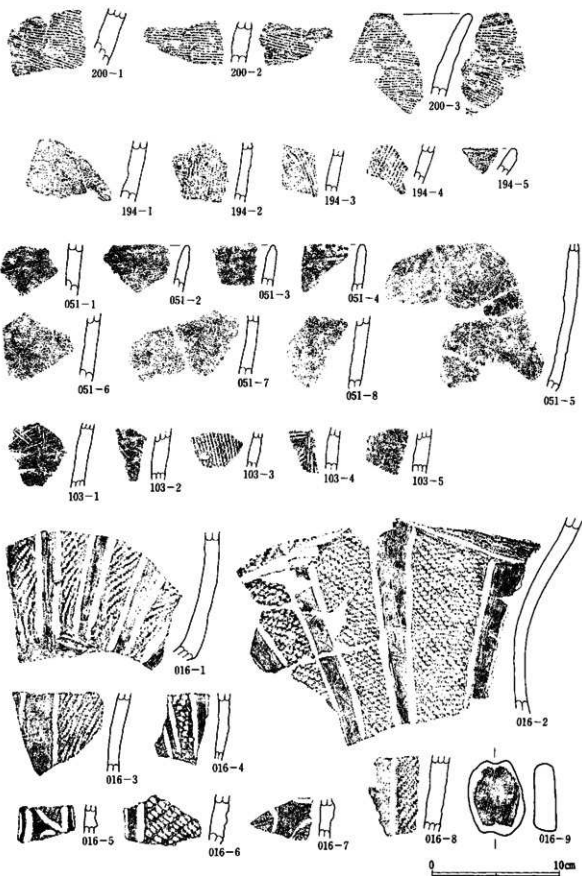
004-3

0 10 cm

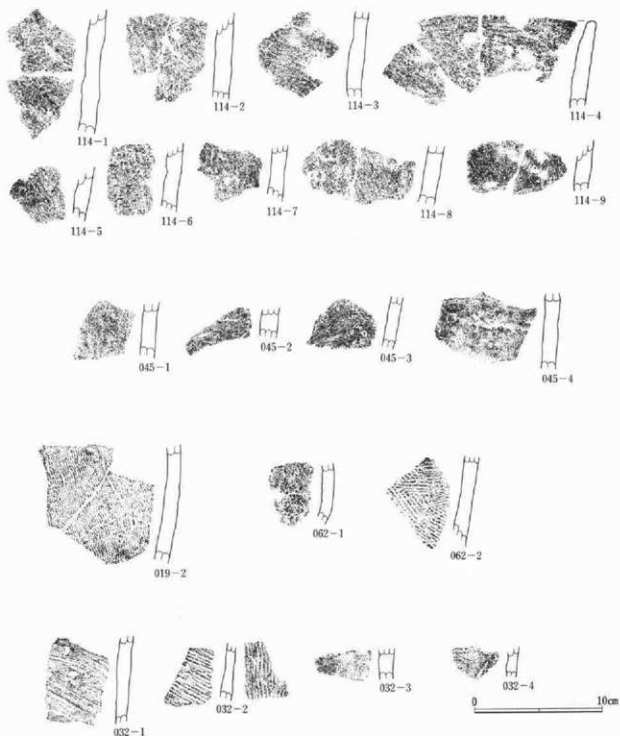
第203图 贮藏穴、土坑出土土器 (8)



第204图 貯藏穴、土坑出土土器 (9)

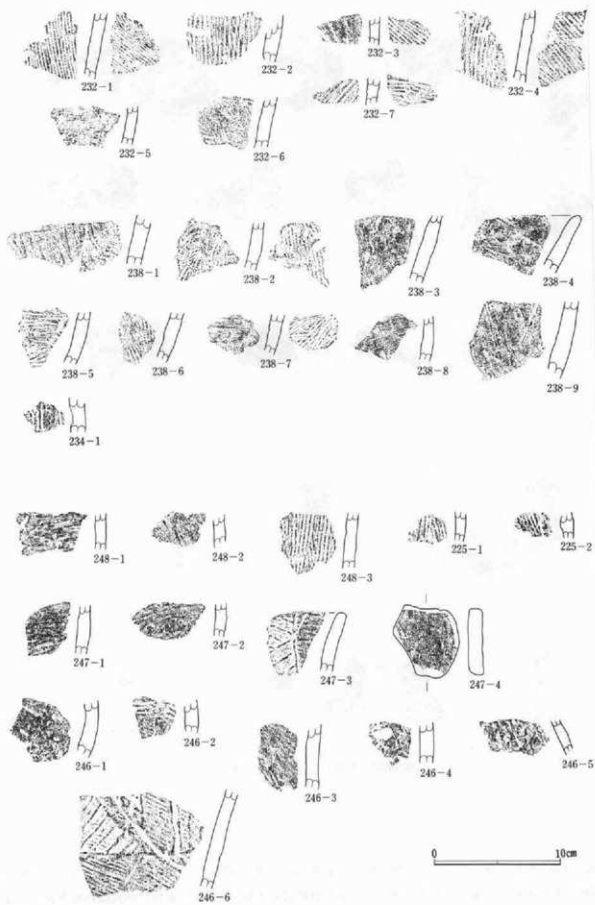


第205图 贮藏穴、土坑出土土器 (10)

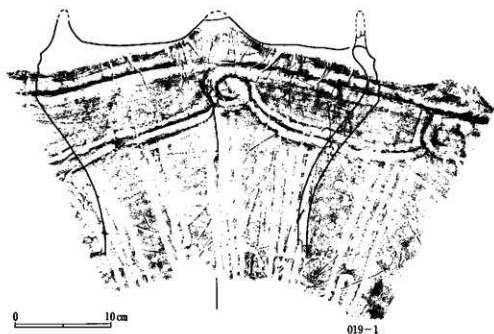


第206図 貯蔵穴、土坑出土土器 (11)

232、238、234、248、225、247、246土坑出土土器(第207図、図版71) 232、238、248、225土坑出土の土器は、条痕文系の土器片である。247-3、6は野島式の土器片で、3は斜位に貼付線が施され、6は条痕文に貼付線が施されている。247-4は土器片を利用した錘である。



第207圖 貯藏穴、土坑出土土器 (12)



第208図 貯蔵穴、土坑出土土器 (13)

5 遺構出土の石器

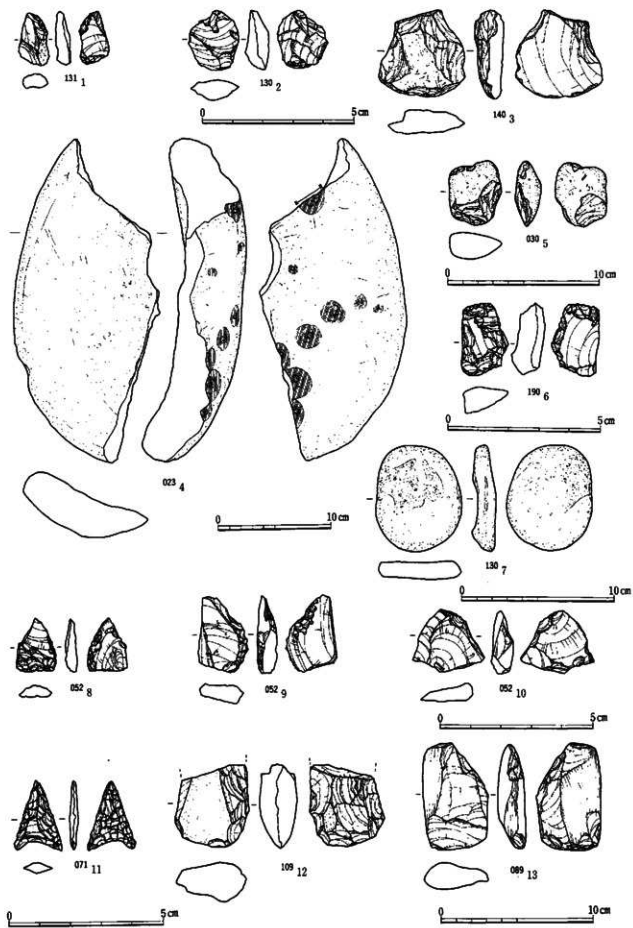
出土点数 遺構出土石器の出土点数は、礫・礫石器55点、剝片石器51点、総計106点である。遺構数に対して、出土点数は非常に少ない。遺構別に出土点数をみると（第2表）、まとめて出土しているのは、014,015,120住居跡のみである。これらの石器は、遺構に明確に伴うといえる。他の遺構の出土石器は、かならずしも遺構に伴う石器とはいえない。

グリッド出土石器が、4,531点であるのに対して、遺構出土石器の出土点数が非常に少ない。また、遺構出土石器とグリッド出土石器の形態的特徴を比較してみると、それほど明確な違いは認められなかった。

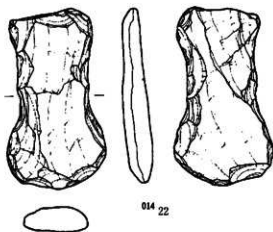
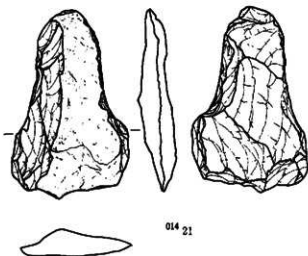
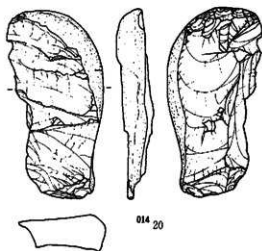
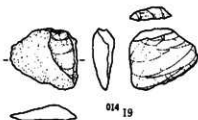
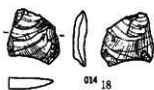
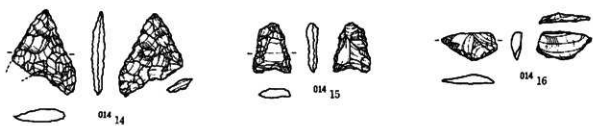
時期 これらのことから、014,015,120住居跡出土以外の石器は、基本的にグリッド出土石器として取り扱った方が妥当であろう。グリッド出土石器のほとんどのものが、縄文時代中期の加曾利E式であることから、遺構出土石器の大半は、該期のものであると思われる。

炉穴出土石器(第209図) 炉穴出土石器は、縄文時代早期の条痕文系土器が大半を占める。炉穴出土石器のうち、052炉穴の8～10のみであるが、この遺構からの土器の出土点数が15点と少ないことから、この遺構に明確に伴うとはかならずしもいえない。このことから、炉穴に伴う石器と確定できるものはほとんどないと言える。

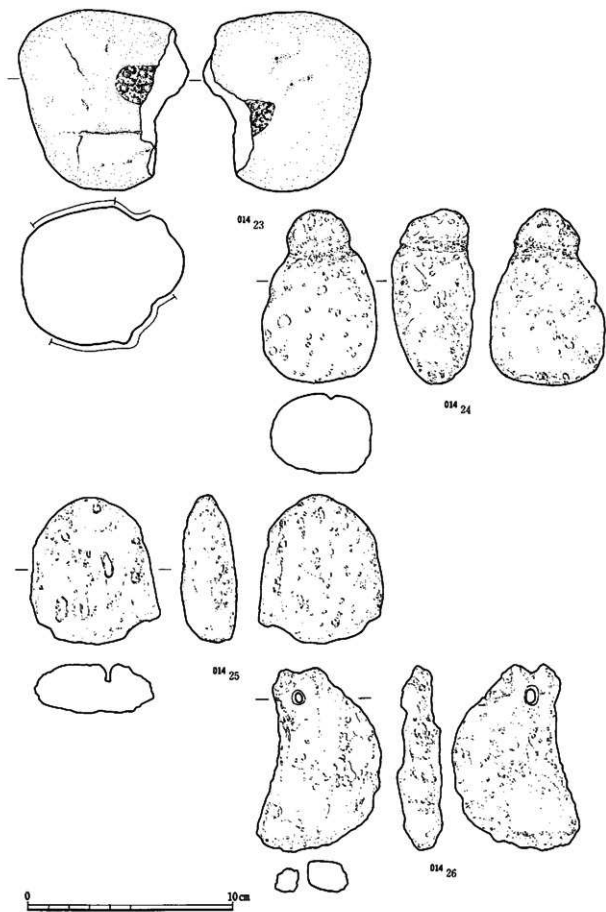
3, 12は打製石斧の下半部が残存している。4は石皿で裏面に数ヶ所穿孔した窪みがある。8～10は、両極剝離によって剝離された三角形の剝片を素材としている。13は磨製石斧で、刃部と基部が破損した後再生されている。



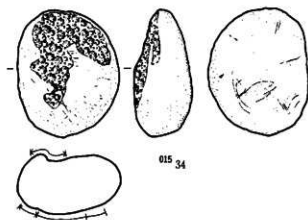
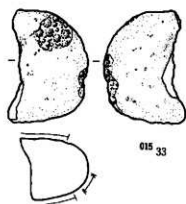
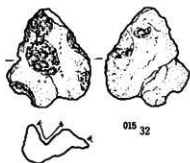
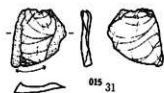
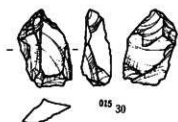
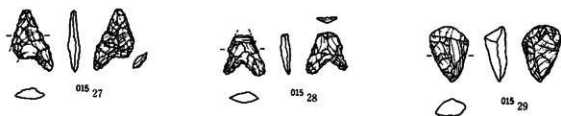
第209圖 伊穴出土石器



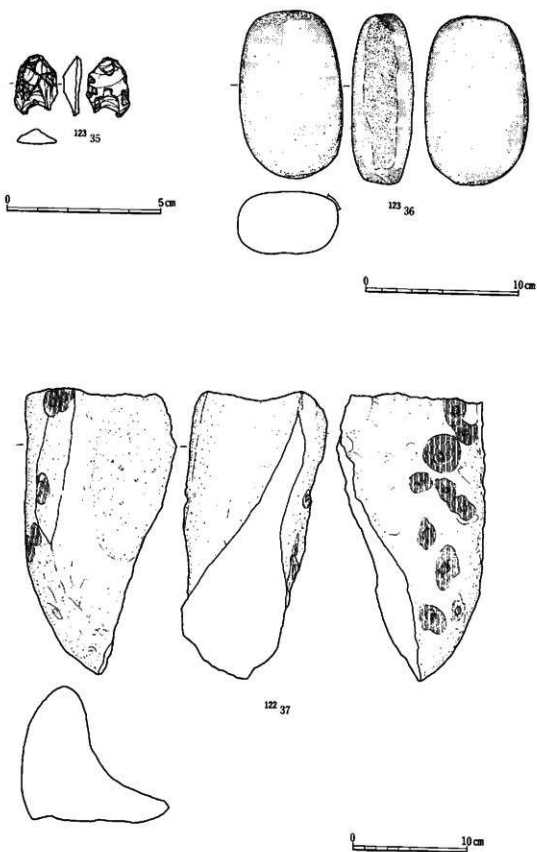
第210圖 住居跡出土石器 (1)



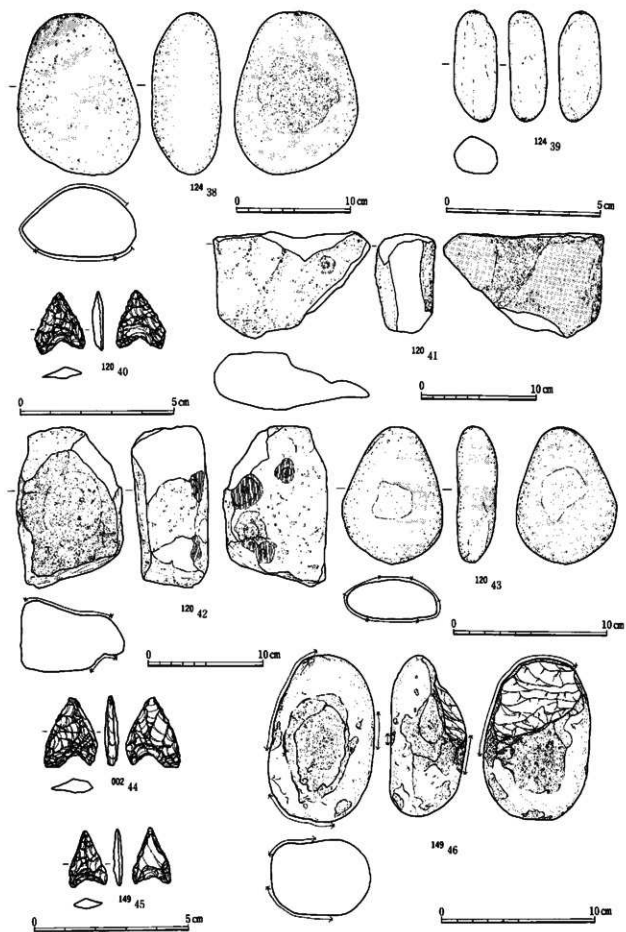
第211図 住居跡出土石器 (2)



第212图 住居跡出土石器 (3)



第213図 住居跡出土石器 (4)



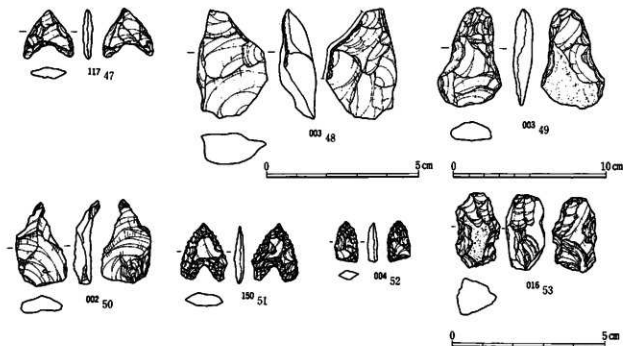
第214图 住居跡出土石器 (5)

住居跡出土石器(第210~214図) 014住居跡出土の石器は、14~24である。14は脚部の挟りが深い石鏃である。21、22は打製石斧で、刃部再生した痕跡がある。24~26は軽石を加工したものである。24は上部に溝状の窪みがある。25は中央部に穿孔痕がある。26は上部に穿孔して貫通した穴がある。

015住居跡出土の石器は、27~34である。27、28は石鏃である。29~31は石鏃の未製品の可能性がある。32~34は、非常に強い敲きの痕跡が認められる。

36は楕円形の礫を素材として、周辺は敲打により成形されており、角ばっている。37は大型の石皿で裏面に数ヶ所の穿孔した窪みが認められる。40~43は120住居跡出土の石器である。41、42は石皿である。41は周縁部残存品で、42は中央部残存品である。42は破損後、右側縁と下部破損面を磨製して再生し、使用した痕跡がある。46は上端部に強い打撃痕、中央部に敲打による窪みが認められる。

貯蔵穴出土石器(第215図) 47は脚部の挟りが比較深い石鏃である。49は左右非対称の打製石斧で、おそらく刃部再生が行われたものと思われる。50は先端部に微細な調整加工痕があり、鏃の可能性もある。51は鋸歯状の加工が施された石鏃である。52は石鏃の脚部の残存品である。



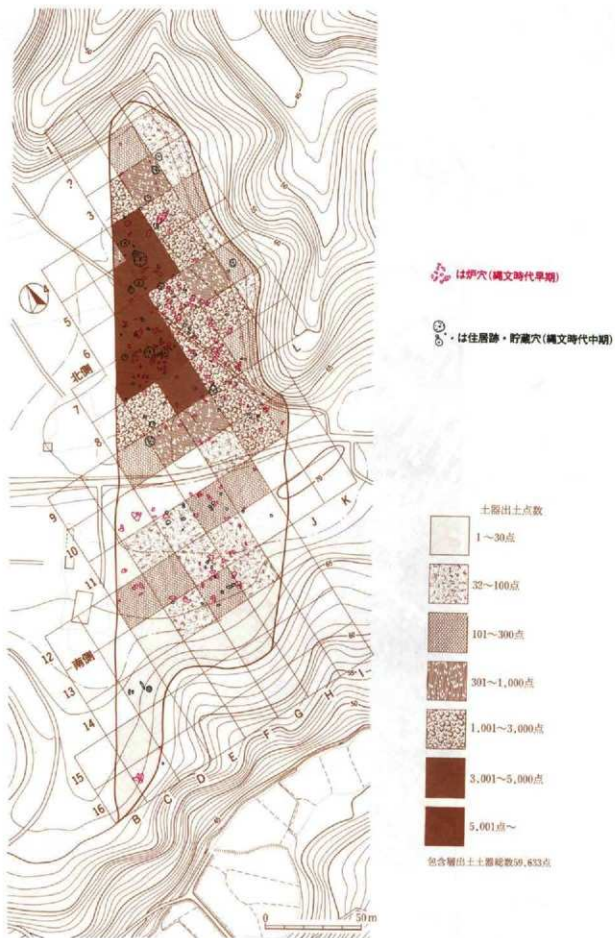
第215図 住居跡、貯蔵穴出土石器

6 縄文時代の包含層

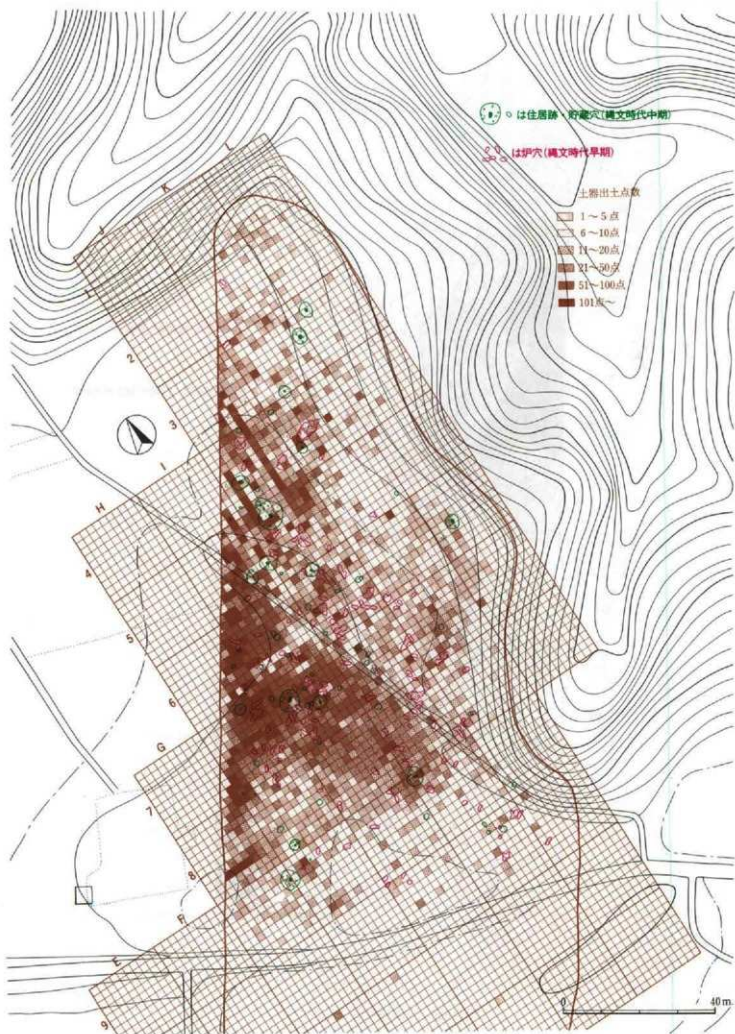
包含層の土器

縄文土器の分布状況(第216、217図)

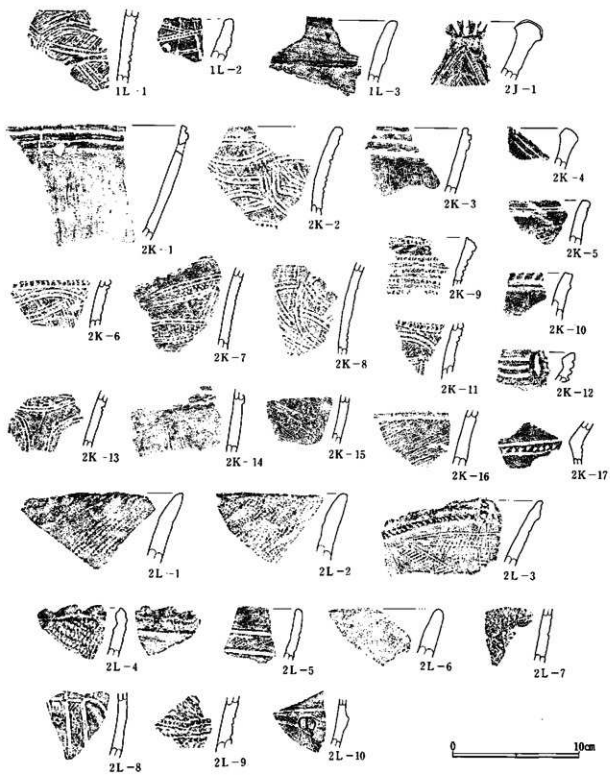
グリッドから出土した土器は、59,633点である。大半のものが調査区北側に集中する傾向があるが、調



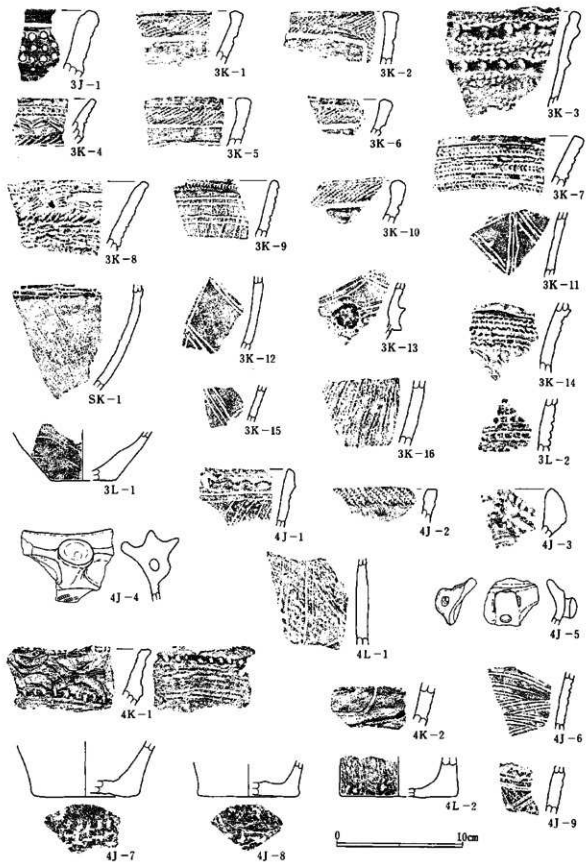
第216図 土器分布図(大グリッド)



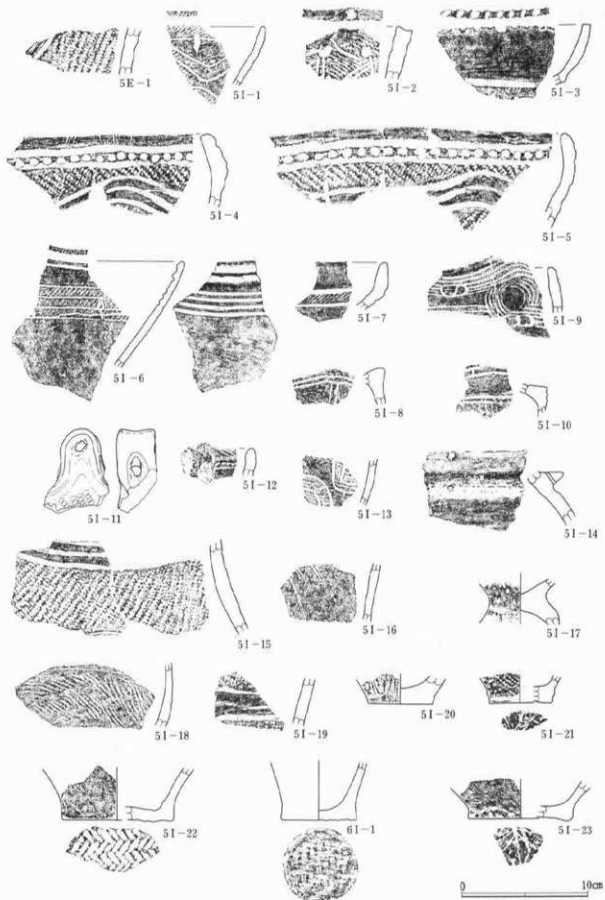
第217図 調査区北側土器分布図(小グリッド)



第218図 グリッド出土土器 (1)



第219図 グリッド出土土器 (2)



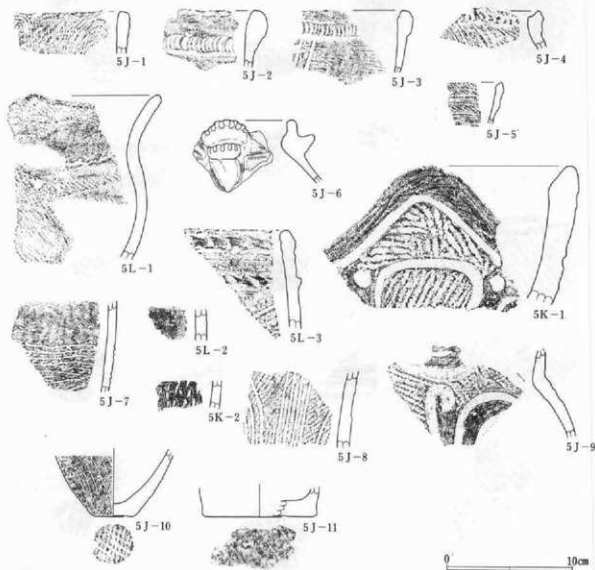
第220図 グリッド出土土器 (3)

査区南側にも散漫ではあるが分布する。4 J・51・5 J・61・7 H・7 I グリッドにもっとも集中する (第216図)。遺構との関連は、縄文時代中期の住居跡・貯蔵穴の周辺から出土する傾向がみられる (第217図)。土器の大半が縄文時代中期のものであることから、包含層から出土した土器の大半は、住居跡・貯蔵穴と関連するものと思われる。

グリッド出土土器 (第218～231図、図版72～79) 1 L-1 は燃糸文に楕円形、直線の条線を施文している。1 L-2 の口縁には、半裁竹管文が施されている。

2 J-1 は口縁の把手で、端部に沈線を、周縁と内部に半裁竹管文を施している。

2 K-1 の口唇部には隆起線を2本巡らせていた。また、補修孔を穿っている。2 K-2 は口唇部に半裁竹管文を巡らせ、その下に縄文を施文してから曲線の条線を施し、さらにその下にも半裁竹管文を巡らせている。2 K-6、7、8 も同じ文様である。2 K-9 の口唇部、口縁部には半裁竹管文を平行に巡らせている。2 K-5 は口唇部に条線を一周させ、その下に条線を施している。2 K-10 の口唇部には斜位

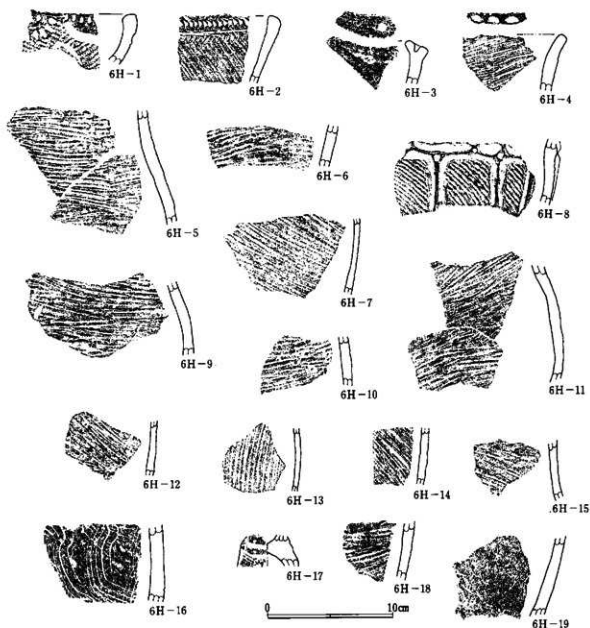


第221図 グリッド出土土器 (4)

の沈線を施し、その下に貼付線を一周させている。2 K-12の口縁部には、縦位に隆起線と沈線を施し、それに直行するように平行の沈線を巡らせている。2 K-17には、沈線で上下を区画された刺突文がまわる。2 L-3の口縁部には、刺突された隆起線が一周し、ところどころに円形に刺突された隆起線が、口唇部の上下に施されている。さらにその下には条線で区画された中を縄文が施文されている。2 L-4の口唇部には刺突文が施され、外面には縄文が施文され、内面には幅広い沈線が一周している。2 L-7には刺突文が斜位に施されている。2 L-8は縄文に沈線を施文している。2 L-10は刺突された隆起線が巡り、さらに指頭による円形の小さな貼付けがなされている。

3 J-1の口縁部には沈線が一周し、その下に円形の刺突文が施文されている。

3 K-3の口唇部には指で刺突した突起が付けられている。外面には縄文を施文して、指で刺突した隆



第222図 グリッド出土土器 (5)

起線を2本横位に巡らせている。3K-4の口縁部には、半裁竹管文が一周し、その下に斜位の条線、刺突文がある。3K-8も同じような文様で、さらにその下に横位の半裁竹管文と波状の条線が施されている。3K-9の口唇部には半裁竹管文が一周し、その下に縄文を施してから、条線を横位に巡らせている。3K-13には、斜位の条線に円形の突起を付けている。

4J-1の口縁部には縄文が施文されて、その後で薄い隆起線、条線が施されている。4J-4、5は口縁部の突起である。4J-7の底面には網代の圧痕がある。

4K-1の口唇部には小さな刺突文が巡り、口縁部の波状に指でなでている。その下に斜位の刺突文がまわっている。口唇部内面にも小さな刺突文が一周し、その下は条痕文が施文されている。

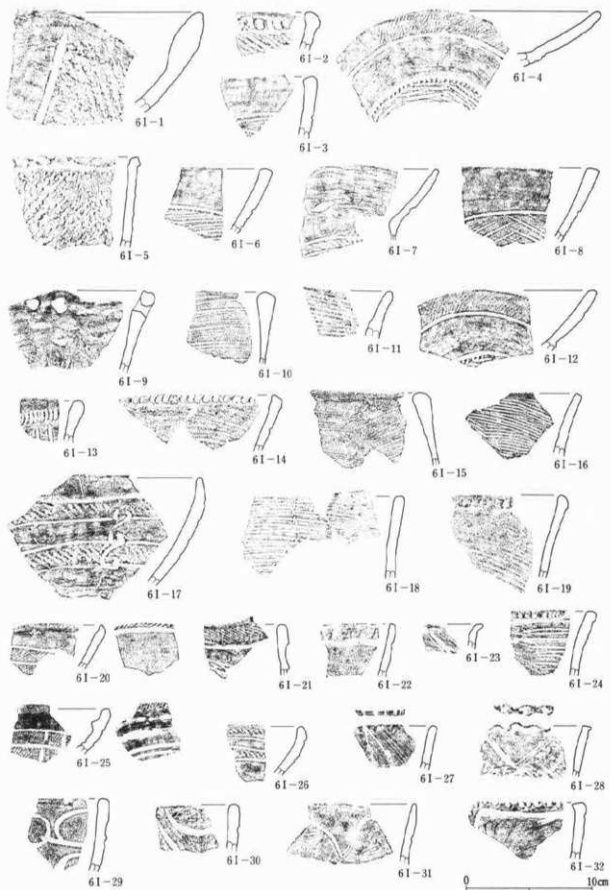
5I-1の口唇部に縄文が施文され、口縁部には磨消縄文と沈線で区画された縄文が施されている。5I-2は波状口縁で、波状頂部の口唇部が円形に刺突されている。口縁部外面には縄文が施文され、円形の刺突文、条線が施されている。5I-3の口唇部には刺突文が施されている。5I-6の口唇部には斜位の細かい刺突文が描かれ、口縁部には縄文と沈線が横位に施されている。口縁部内面には隆起線と沈線を巡らせ、さらに細かい刺突文が巡らされている。5I-9は波状口縁で、条線と縄文で渦巻文が描かれている。5I-11は口縁部の把手である。5I-14の鐮状隆起帯には、1孔が穿たれている。5I-21、23の底面には木葉痕、5I-22、6I-1の底面には網代の圧痕が見られる。

5J-1の口縁部には縄文が施された後に、円形の条線文が施されている。5J-2、3の口縁下部には連続爪形文様が施されている。5J-4の口唇部には刺突文と半裁竹管文が施され、その下には斜位の条線文が施文されている。5J-5の口唇部には縄文が施文され、その下に列点文が一周し、さらにその下に上下を列点文で区画された縄文が横位にまわる。5J-6は口縁部の把手である。5J-7は、縄文を施文してから条線文を施している。5J-9は縄文を施文してから、太い沈線で渦巻文を描いている。5J-10の底部には条線が施され、底面には網代の圧痕があった。5J-11の底面には、木葉の圧痕がある。

5L-3の口縁部には縄文を施文して、刺突のある隆起線を横位に2本巡らせ、さらに条線を施している。

6H-1は口縁部に縄文を施文して、楕円形の刺突文を半円の円弧状に配置していた。6H-2の口縁部には、一周する沈線の上下に斜位の刺突文が施文されている。胴部には条痕文が施されている。6H-3の口縁には円形の刺突が1個施されている。6H-4の口縁には指頭による押圧文が巡り、外面には条痕文が施されている。6H-8には、隆起線が縦位と横位にあり、直行に接するところに円形の刺突が施されている。隆起線で区画された中には、縄文が施文されている。6H-16は条線で不規則な文様が施されている。6H-17は脚部の付け根部分であるが、横位の沈線文が施されている。

6I-2の口唇部は指頭によって押圧した隆起線が巡り、その下部に条痕文が施されている。6I-4、12の口縁部には細かい縄文が施文され、その下部に沈線がまわっている。頸部には沈線を巡らせて、刺突文と条線文を施してある。6I-5の口唇部には指頭によって押圧された隆起線が巡り、その下部に縄文が施文してある。6I-6、8の口唇部はやや肥厚する。頸部に沈線を巡らせて、その下部に条線を斜位に施している。6I-7の頸部には沈線がまわり、その下部に縄文を施している。6I-9の把手には孔が穿たれ、口唇部に円形の刺突が施されている。口縁部は無文であったが、頸部に縄文が施文されている。6I-13の口縁部には爪形文がまわり、その下に縦位の沈線が施されている。6I-17は頸部に沈線で区



第223図 グリッド出土土器 (6)

画された縄文が横位に巡り、沈線による渦巻文を縦位に描いている。6 I-18の口縁には、条痕文を施文して、波状の沈線を縦位に描いている。6 I-20の外面は、口縁下部に沈線で横位に区画された縄文がある。口唇部内面には、刺突文と沈線が巡る。6 I-25の外面は、口縁下部に沈線で横位に区画された縄文があり、さらに縦位にも沈線が描かれている。内面は口唇部に刺突文を巡らせ、その下部に円形の刺突文のある隆起線がまわる。さらにその下に沈線が2本横位に描かれている。6 I-27の口縁部内外面には、細い条線が施され、口縁上面には細長い刺突文がまわっている。6 I-28の口縁は、指頭の押圧によって波状になっている。6 I-35、39は把手で、縄文の施文に縦位に沈線が描かれている。6 I-43は、太い沈線で区画された中を条線文が施されている。6 I-61の底面には、木葉の圧痕がある。6 I-66は、土器片を利用した鍾である。

6 J-1の口縁部には刺突文が巡り、その下部に波状の条線文が施文されている。6 J-3の口唇部には、爪形文を巡らせた隆起線がまわっている。6 J-4の口唇部には、刺突文がまわり、上下を沈線によって区画されている。6 J-5、6、10には沈線と刺突文が横位に描かれ、さらに沈線による渦巻文が施文されている。

6 K-3の口縁部には小さな突起が付され、頸部から縦位に沈線が施文されている。6 K-5は、横位に縄文が2段まわり、その中間に粘土を貼り付けて縦位の沈線を施している。

6 L-1の口縁部には小さな突起が付され、さらに上下を沈線で区画された横位の縄文が2段施文されている。6 L-2、3、4は連続刺突文と沈線で、幾何学的な文様を描いている。6 L-5は6 L-1と同じような文様で、横位に3段にまわる縄文の下部に斜位の条痕文が施文されている。6 L-8の底面には、網代の圧痕が残っている。

7 H-1の口縁部外面には縄文が施文され、指頭で押圧された隆起線が横位に2段まわる。内面には太い沈線が2本平行してまわる。7 H-2の鑿状口縁部には、横位に孔が穿たれている。7 H-5は横位に縄文と沈線が施文され、さらに半管竹管による円形文が縦位に描かれている。7 H-6の口唇部には三角形の文様が施され、その下部に横位の条線がまわる。7 H-7の口縁部には、四角形の刺突文が横位に連続して施文されている。

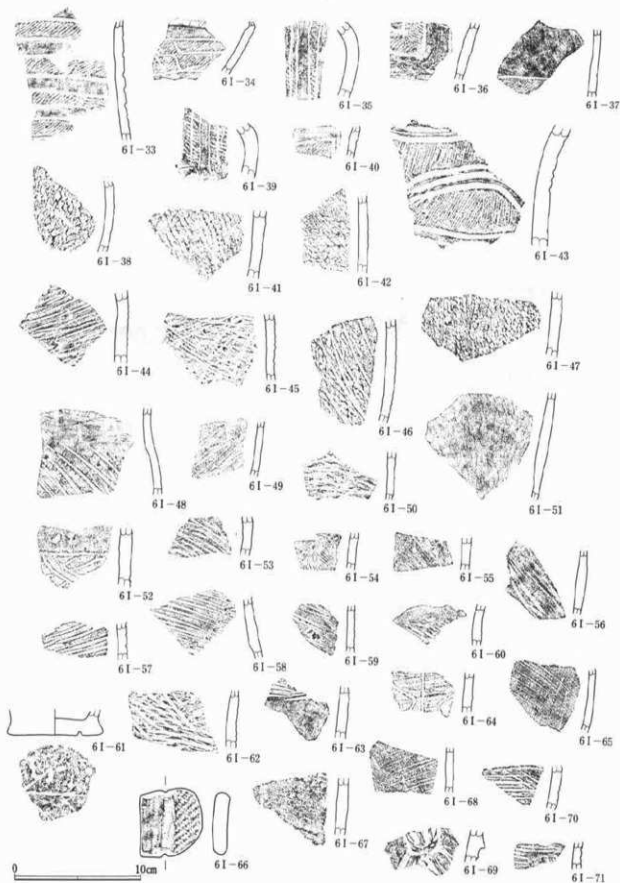
7 I-1の口縁部は内外面ともにきれいなでであり、口唇部内側に刺突文がまわっている。7 I-4は波状口縁で、口縁部外面に突起を貼り付け、縄文と磨消縄文が横位にまわる。その下に斜位の条線が施されている。7 I-10の口唇部には沈線がまわる。口縁部外面には、縄文が施された後に、太い沈線が横位に巡らされている。7 I-12の口縁部外側には、刺突文が横位に2段巡る。7 I-14、15の底面には木葉痕がある。

7 J-1は、口縁を折り返して肥厚させ、その下に爪形文を施している。7 J-2の口縁部には突起が付けられ、口縁部には沈線で区画された縄文がまわる。

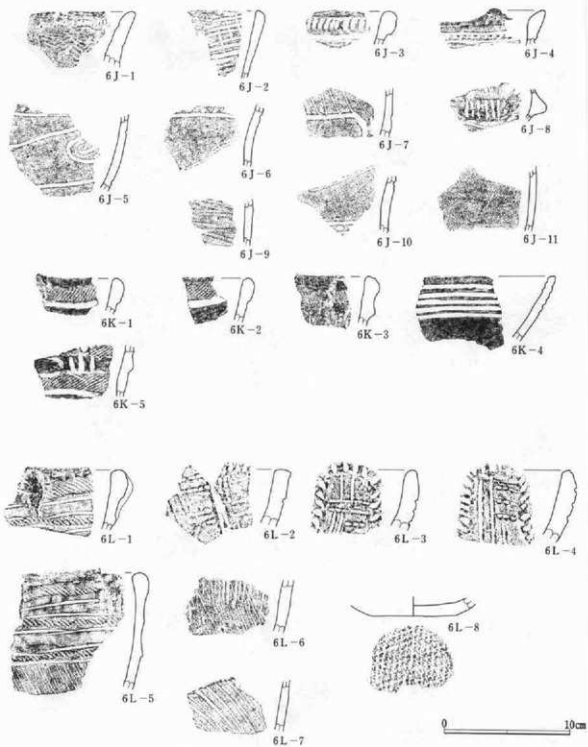
8 G-2の口縁部は、縄文が施文され、太い沈線で区画された中は、磨消縄文となっている。

8 H-1の頸部の付け根には、横位に巡る2段の刺突文がある。8 I-2、6は同じような土器の口縁で、口縁部に隆起線を巡らせて二孔一対の孔を穿っている。さらに隆起線の下に貼付線で半円形の模様を描いている。

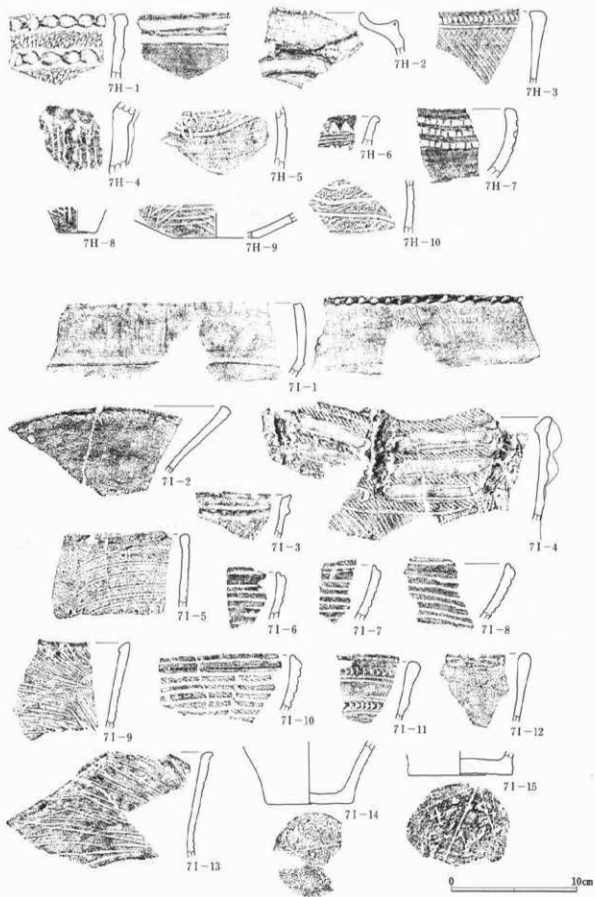
8 I-3の口縁部外面には指頭で押圧された隆起線が2段巡り、さらに隆起線の間を縄文と平行の沈線で施文してある。内面は浅くて幅広い沈線がまわっている。8 I-5の口縁部外面には横位に縄文、刺突



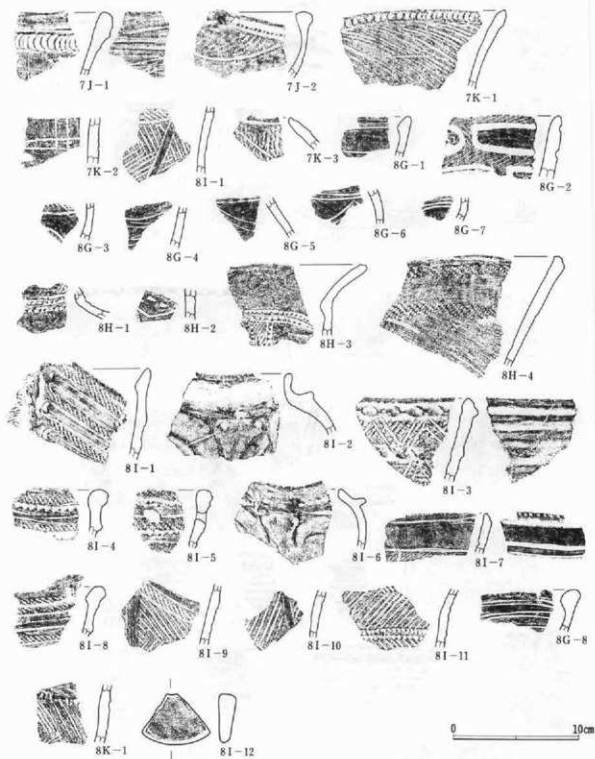
第224図 グリッド出土土器 (7)



第225図 グリッド出土土器 (8)



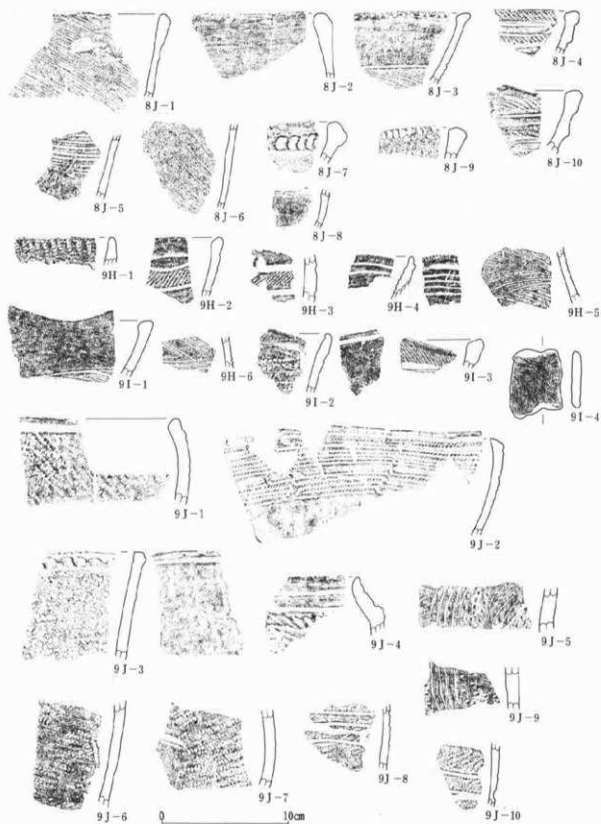
第226図 グリッド出土土器 (9)



第227図 グリッド出土土器 (10)

文、磨消縄文が巡る。補修孔が穿たれていた。8 I - 12は、孔のあいた円形の鉢の一部である。

8 J - 3の口唇部には刺突文が巡り、口縁部は無文となる。口縁の下部に沈線を巡らせてその下に条痕文を施している。8 J - 7の肥厚された口縁部には、刺突文がまわり。8 J - 9の口唇部には刺突文がまわり、その下はきれいになでている。



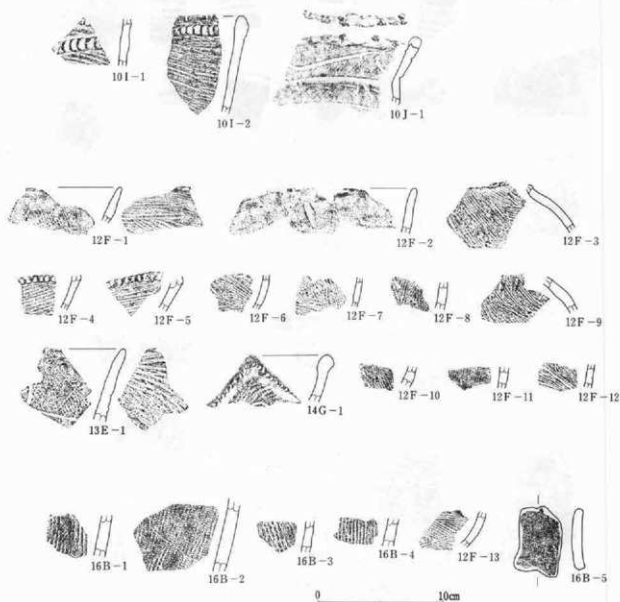
第228図 グリッド出土土器 (11)

9 H-1の口唇部には縄文を巡らせ、その下をきれいなでている。9 H-4の口縁部内外面は、複数の沈線を横位に巡らせてある。

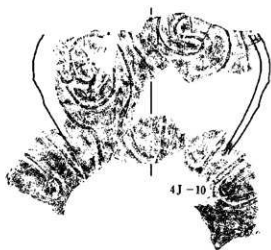
9 I-4は、土器片を利用した鏝である。

9 J-2は口唇部に沈線と刺突文がまわり、口縁部外面に沈線と縄文を横位に巡らせ、ところどころ直角状の規矩形を描く。9 J-3の口唇部には指頭による押圧をした隆起線を一周させ、その下に縄文を施している。口縁部内面には、沈線を巡らせている。9 J-4の口唇部には沈線を巡らせ、頸部に斜位の刺突文を施す。その下に縄文と沈線を施文してある。9 J-5、9には複数の沈線による同心円の円形文様の間に、刺突文が施文されている。

10 I-2の口唇部は肥厚して、刺突文が施されている。口縁部には指頭で押圧された隆起線が付けられ、



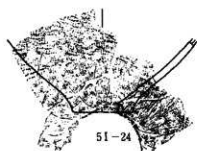
第229図 グリッド出土土器 (12)



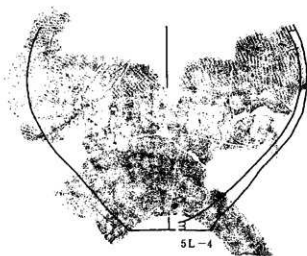
4J-10



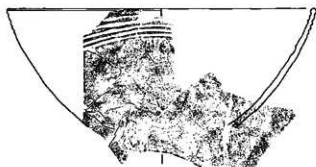
5J-11



5I-24



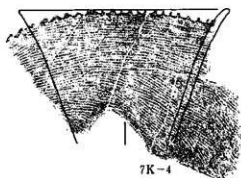
5L-4



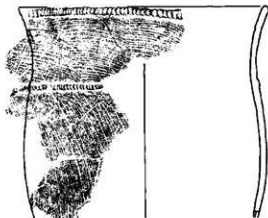
6K-6



6I-72



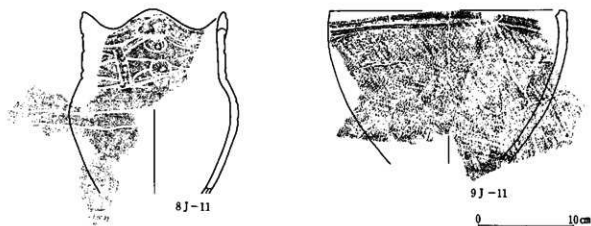
7K-4



6I-73

0 10cm

第230図 グリッド出土土器 (13)



第231図 グリッド出土土器 (14)

その下部に条線が施文されている。

10J-1の口唇部には粘土を貼り付けて盛り上げ、口縁部に沈線で波状の文様を描いている。

14G-1は波形の口縁部で、口唇部を肥厚させて端部に刺突文を施し、その下に縄文を施文してある。

16B-5は土器片を利用した錘である。

4J-10は、貼付線で胴部に渦巻文を描いている。5J-11は波状口縁で、口縁部および頸部に隆起線と沈線で渦巻文を描き、区画された中を縄文で施文している。

6K-6の口縁部内外面には複数の沈線が横位に巡らされている。

6I-72は胴部に斜位に交差する条線が描かれている。6I-73の外面は条痕文が施文され、口唇部と頸部には、指頭で押圧された隆起線が巡らされている。

7K-4の口唇部は指頭による押圧がなされ、頸部、胴部には条痕文が施文されている。内面は条痕文をなでている。

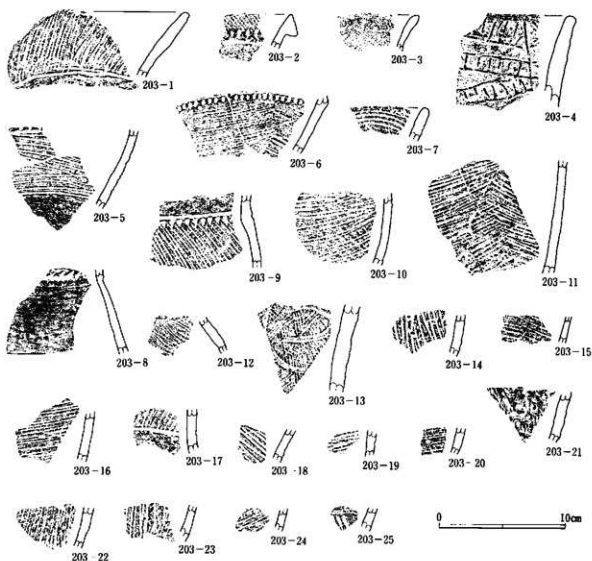
8J-11は波状口縁で、口縁部から頸部にかけて、太い沈線で幾何学的な文様が描かれている。

9J-11には縄文が施文され、口唇部には太い沈線がまわる。

縄文時代の遺構ではないが、方形周溝状遺構と塚の封土から縄文時代の土器片、石器が出土した。これらの遺物は、元来、縄文時代の包含層中に存在していたと考えられるので、縄文時代の包含層の遺物として扱うことにした。

方形周溝状遺構出土土器 (第232図、図版71) 203方形周溝状遺構から出土した土器片を図化した。縄文時代早期および中期の土器が大半を占める。おそらく盛り土した際に、混入した土器片であろう。203-1は波状口縁で、外面には条痕文が施文されている。内面はていねいになでている。203-4の口縁部外面には、貼付線による施文がなされている。203-13は、条痕文に条線と浅くて幅広い沈線を施している。

塚出土土器 (第233図、図版72) 出土遺物の大半は縄文時代早期、中期の土器片である。001-1の外面は条痕文が施文され、口唇部には刺突文と沈線が巡っている。001-2の口唇部には、縄文と沈線が横位に施されている。001-12は縦位の刺突文に直行するように横位の沈線を2本巡らせている。001-22は渦巻状の把手の部分である。

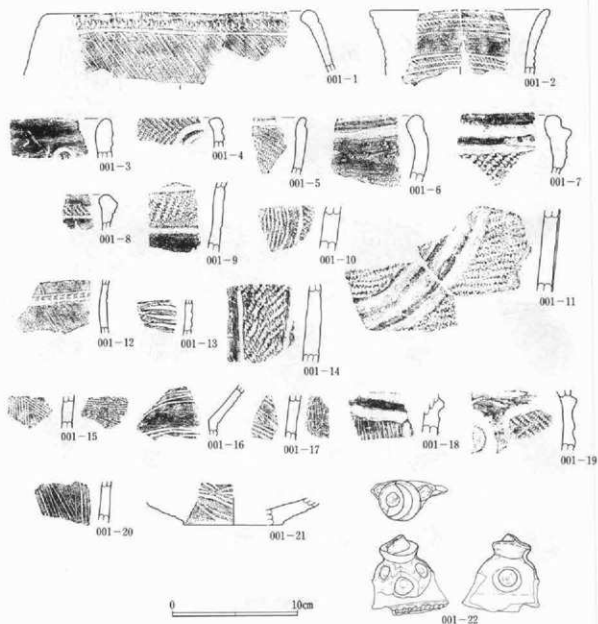


第232図 203方形罫溝状遺構出土石器

包含層の石器

包含層から出土した石器は、礫・礫石器4,302点、剥片石器229点、石器総計4,531点である。礫・礫石器の占める割合がきわめて高い。遺構出土石器の石器総計が106点であるのに対して、グリッド出土石器の点数が非常に多い。ただし、グリッド出土石器の総点数が59,633点に比べると少ない。礫の大半は、直径10～15 cm程度の小形の楕円形の礫が用いられ、肉眼観察だと赤化していることから、焼礫と思われる。ただし、それほど赤化していない。遺物の形態や分布状況から、剥片・剥片石器は縄文時代中期の住居跡・貯蔵穴との関連が強く、礫・礫石器は縄文時代早期の炉穴と関連が強いといえよう。

剥片・剥片石器の分布状況（第234、235図）

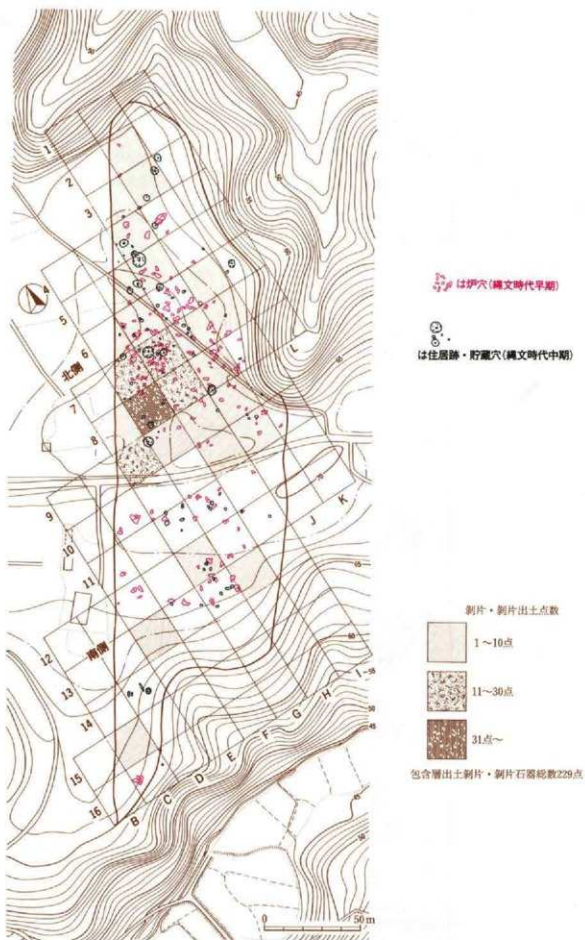


第233図 001塚出土土器

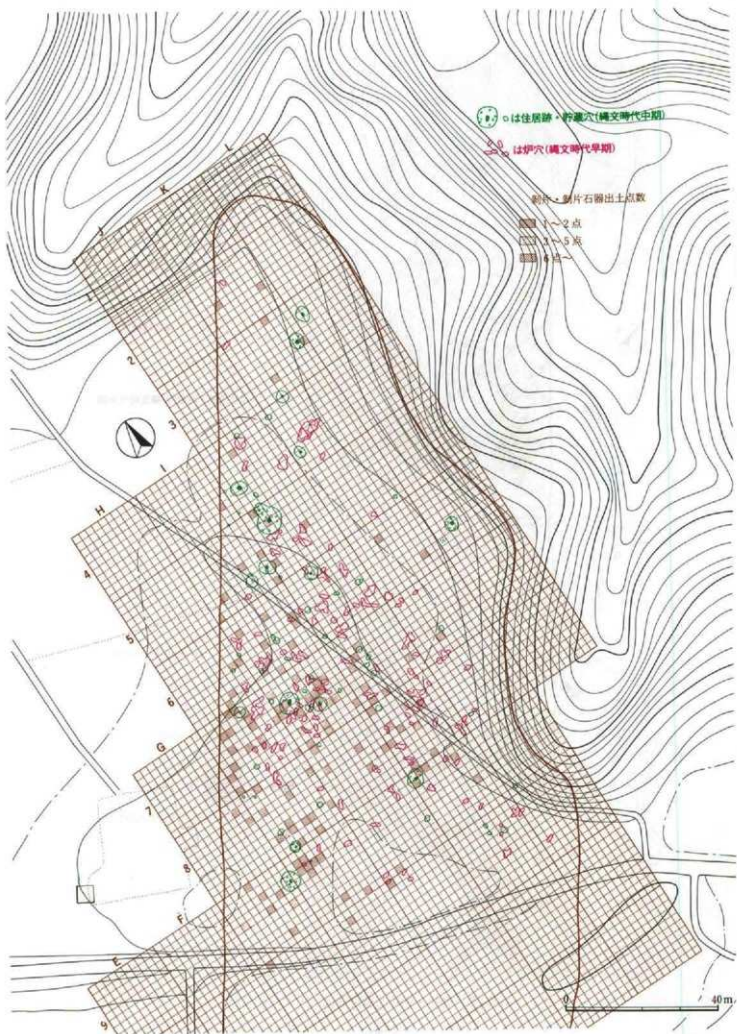
グリッドから出土した剥片・剥片石器の総数は、229点である。土器や礫・礫石器に比べて非常に出土点数が少ない。7H・7I・8Hグリッドに集中する（第232図）。細かい分布状況（第233図）を見ると、縄文時代中期の002・117・014住居跡の周辺に集中する傾向が見られ、これらの遺構との関連が指摘できる。

礫・礫石器の分布状況（第236、237図）

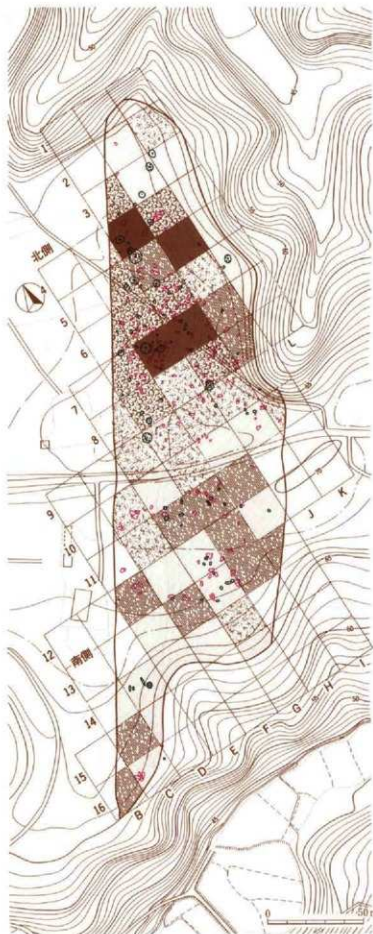
グリッドから出土した礫・礫石器の総数は、4,302点である。礫のほとんどのものは、赤化しており、火熱を受けたものと思われる。4J・5K・7I・7Jグリッドがもっとも遺物が集中する。調査区北側に遺物が集中する傾向があるが、調査区南側にも希薄ではあるが遺物が分布する。遺構との関連は、縄文時代早期の炉穴に伴うか、縄文時代中期の住居跡に伴うか判然としない。周辺の遺跡の傾向から、縄文時代早



第234図 割片・割片石器分布図(大グリッド)



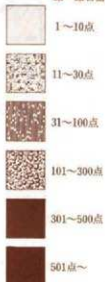
第235図 調査区北側剥片・剝片石器分布図(小グリッド)



は伊穴(縄文時代早期)

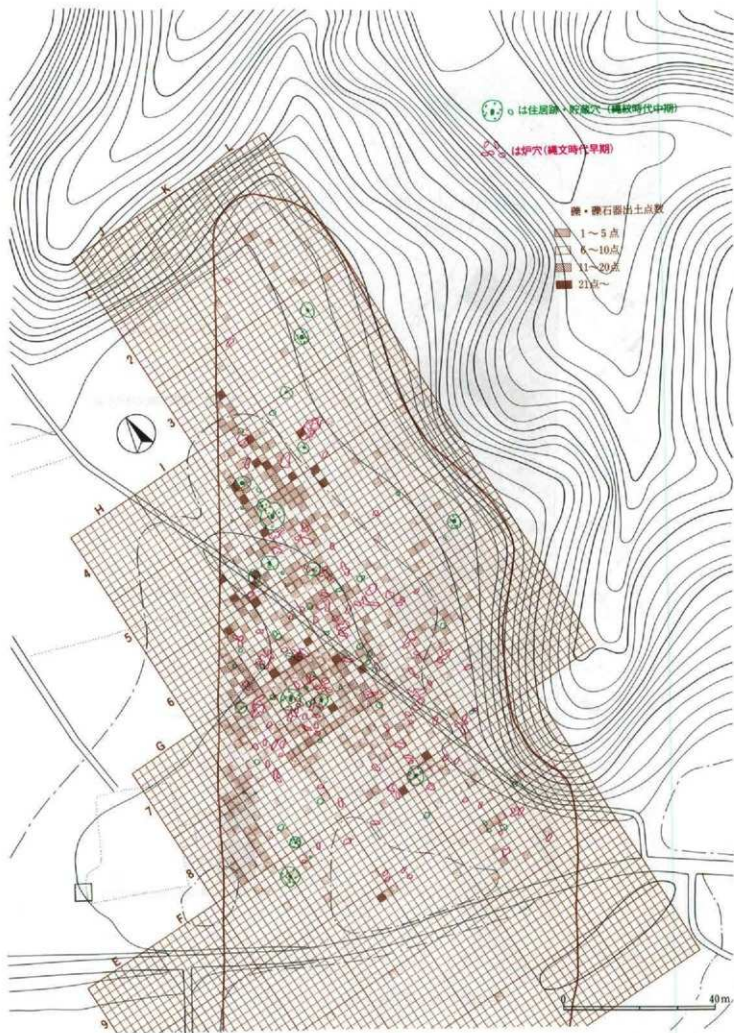
は住居跡・貯蔵穴(縄文時代中期)

礫・礫石器出土点数

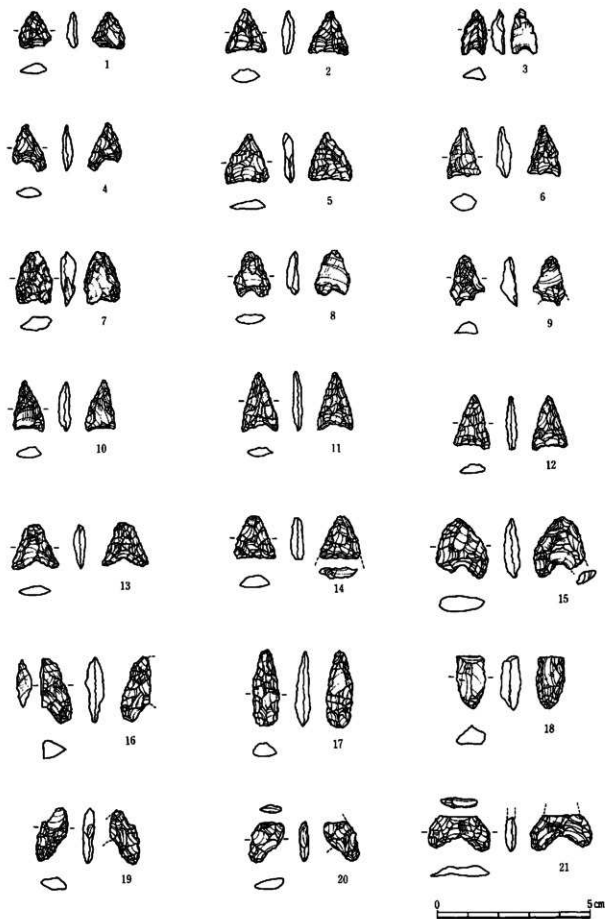


包含層出土礫・礫石器総数4,302点

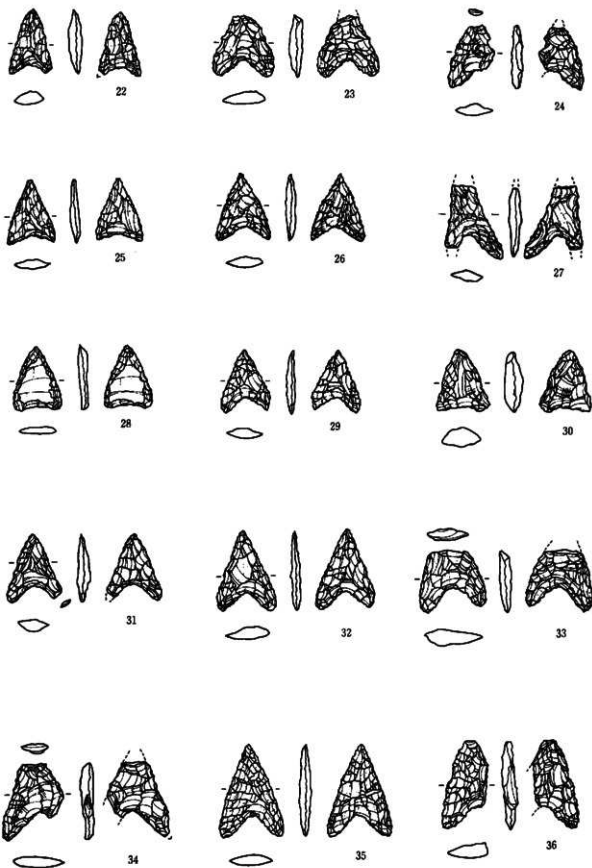
第236図 礫・礫石器分布図(大グリッド)



第237図 調査区北側稜・石器分布図 (小グリッド)



第238図 グリッド出土石器 (1)



第239図 グリッド出土石器 (2)

期～前期にかけての遺跡において、礫を多量に伴う傾向がある。このことから、礫・礫石器の大半のものは、炉穴を形成した縄文時代早期であると推察される。

グリッド出土石器

石鏃（第238、239図） 1～36は石鏃である。石鏃の特徴は、再生が頻繁に行われていることである。先端部が主軸よりややねじれているものや脚部が左右非対称のものが該当する。これまで、これらは未製品や失敗品として取り扱われることが多かった。今回、これらを細かく観察した結果、最終の調整加工が先端部のねじれの部分や脚部の非対称の小さい部分に施されていることが判明した。この結果、これらは、破損後に再生した石鏃として考えられる。

脚部の再生が行われたと思われるものは、4、13、15、21、25、33である。先端部の再生が行われたと思われるものは、10、13、15、22、23である。17は器体の半分が破損したものを再生したものの可能性がある。破損の痕跡を示すものは、9、14～21、23、24、31、33、34、36である。

36点の石鏃のうち、再生跡・破損跡のあるものが21点もあり（58.3%）、この遺跡での石器の使用頻度と再生頻度が高いことが推定される。

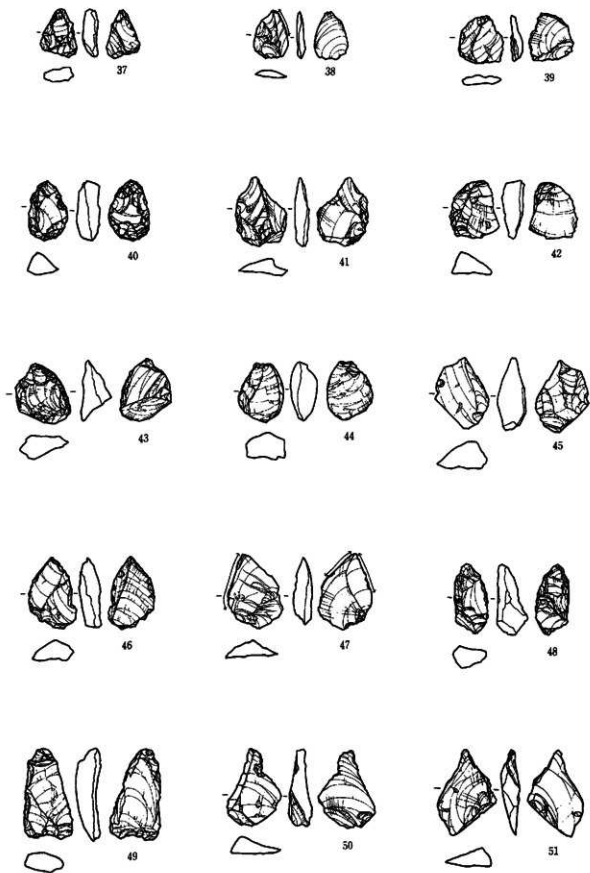
1～9は、小型で全体形状が正三角形を呈し、脚部の挟りはほとんどない。10～12は、小型で全体形状が二等辺三角形を呈し、脚部の挟りがほとんどない。13は小型で挟りが深い。14～21は、破損品である。22～33は中型である。22、27は二等辺三角形を呈し、挟りが深い。23、24、26、29は正三角形を呈し、挟りが深い。31～36はやや大型で、挟りが深い。

三角形を呈し、先端部に加工があるもの（第240、241図） 37～61。ほとんどのものが、楔形石器、あるいは、両極剝離で剝離された剝片を素材としている。石鏃の素材として用いることができるものである。先端部に微細剝離痕があるものも多く、刃器として先端部が使用された可能性が高い。石鏃の範疇に入れて器種分類することも可能である。43、46、55、57、59、61は片側の側縁に連続的に加工されている。40、48、54、60は楔形石器の先端に調整加工が施されている。

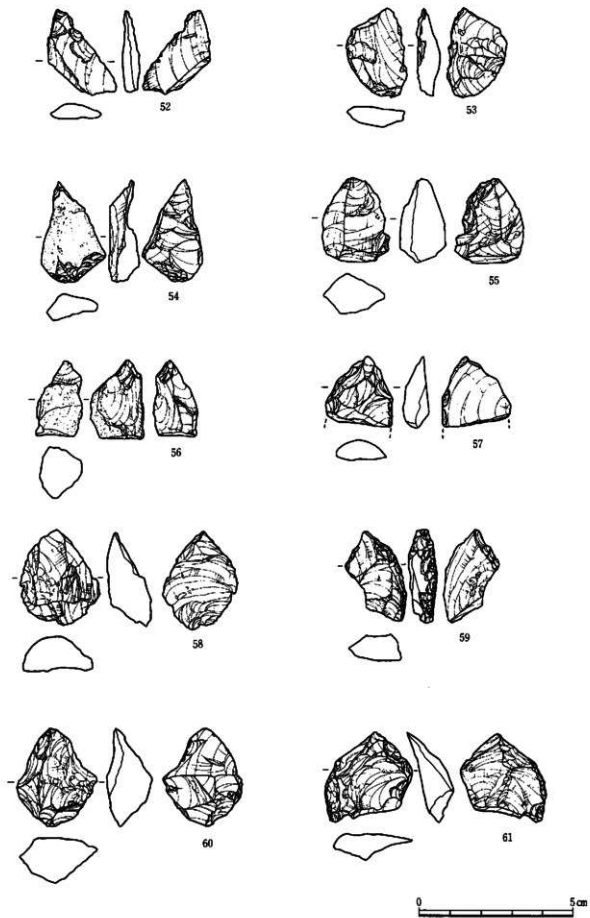
角柱状の形態を呈するもの（第242図） 62～76。62～70は両極剝離で剝離された剝片を素材としている。63、65、68は側縁部に微細剝離痕が認められる。71～76は楔形石器である。細長の剝片が剝離された痕跡が残されている。

不整形を呈する両極剝離石器（第243、244図） 77～102は両極剝離が行われたもののうち形態的にまとまらないものを一括した。83、84、95、98は長軸と短軸の両方から両極剝離が行われている。90、91は小型の石核状の形態を呈し、細石核と類似する。85、87、95、101には自然面が残されており、自然面の形状から比較的小さな円礫を素材としていることが観察される。

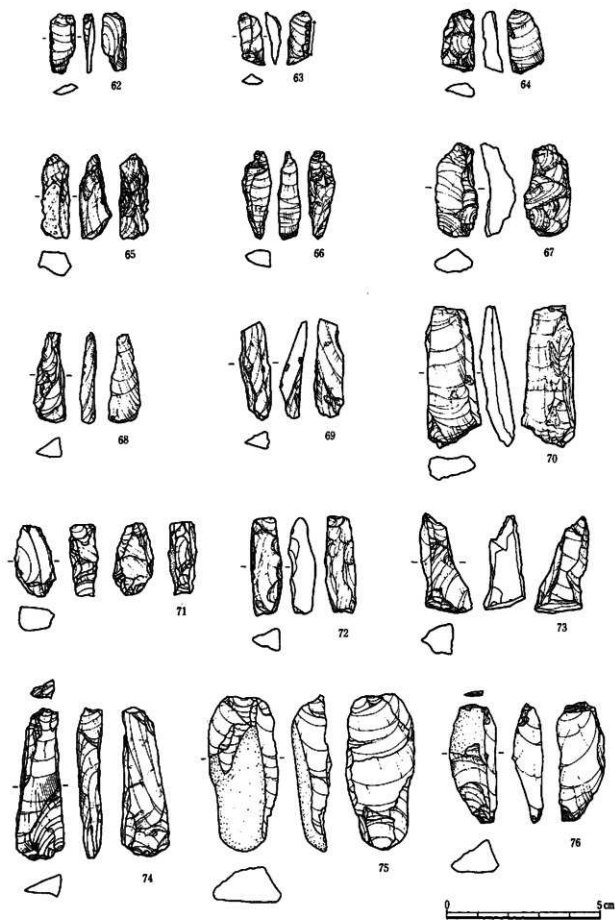
小型の剝片石器（第245図） 103～113。103は垂飾品である。緑色片岩製で、薄い剝片を素材として、長軸方向に最終研磨し、全面研磨によって整形している。上部中央部は穿孔されている。石材・製作方法・出土状況から縄文時代の所産のものであると考えられるが、類例はほとんどみられない。108は扁平な礫で、



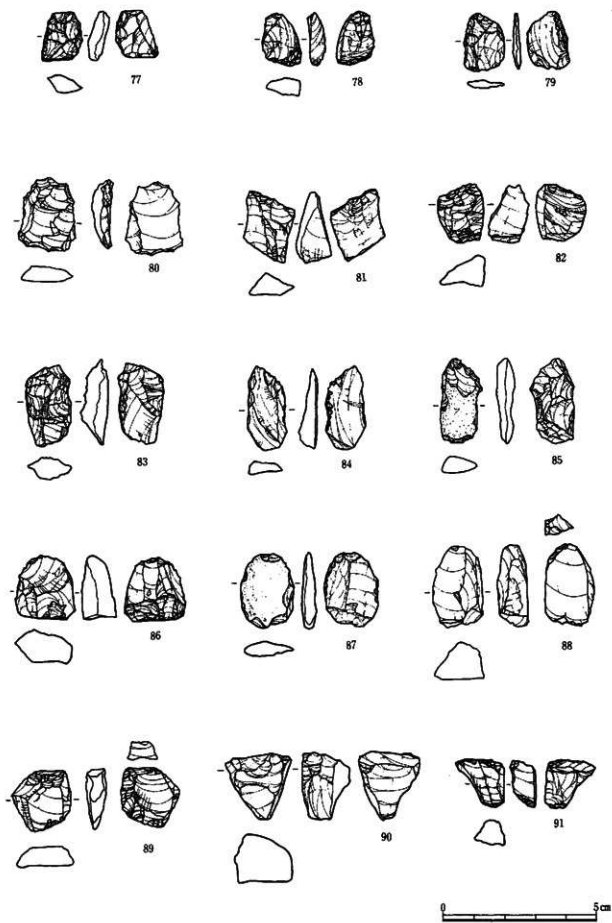
第240図 グリッド出土石器 (3)



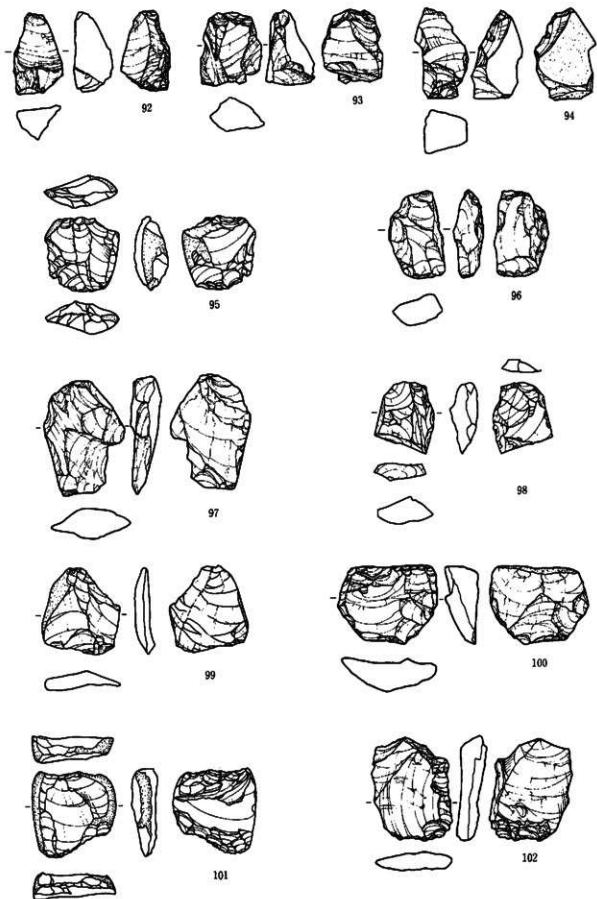
第241図 グリッド出土石器(4)



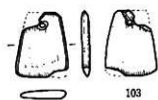
第242図 グリッド出土石器 (5)



第243圖 グリッド出土石器 (6)



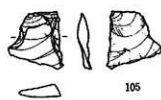
第244図 グリッド出土石器 (7)



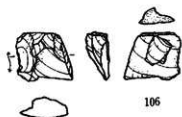
103



104



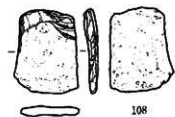
105



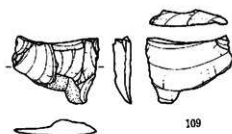
106



107



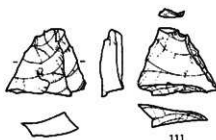
108



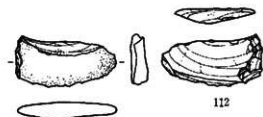
109



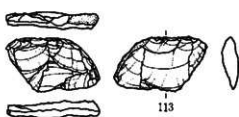
110



111



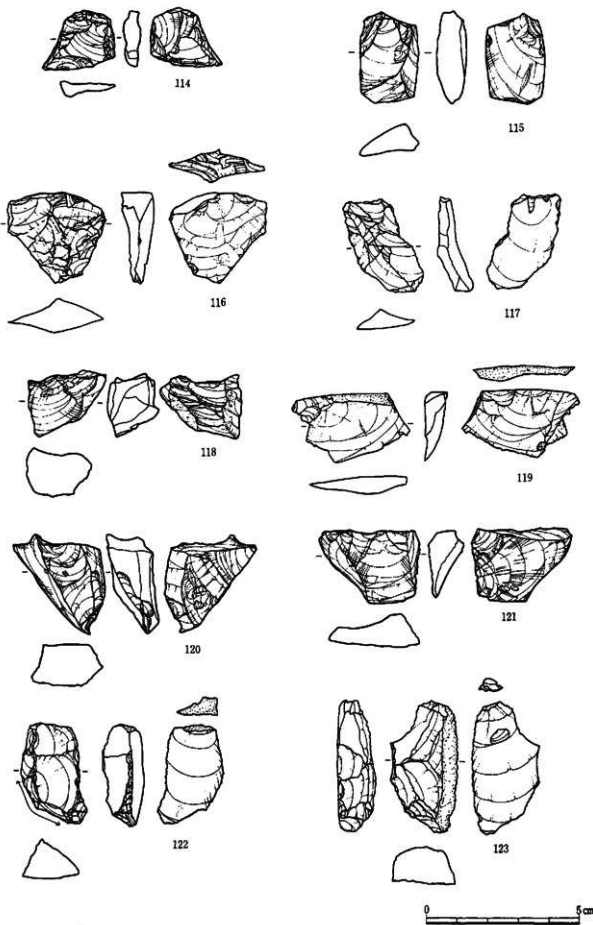
112



113



第245図 グリッド出土石器 (8)



第246図 グリッド出土石器 (9)

いわゆる「ズリ」といわれるものを素材として、縁辺に加工が施されている。

中型の剥片石器(第246図) 114~123。122は右側縁に連続的に微細剥離が施されている。123は左側縁に急角度の粗い調整加工が施されている。

大型の剥片石器(第247、248図) 124~135。125は両側縁から調整加工が施され、尖頭器状の形態を呈する。128、129、131、132は長軸と短軸の両方向から両極剥離が施されている。134は右側縁に急角度の調整加工が施された削器である。135は大型の剥片を剥離した石核である。

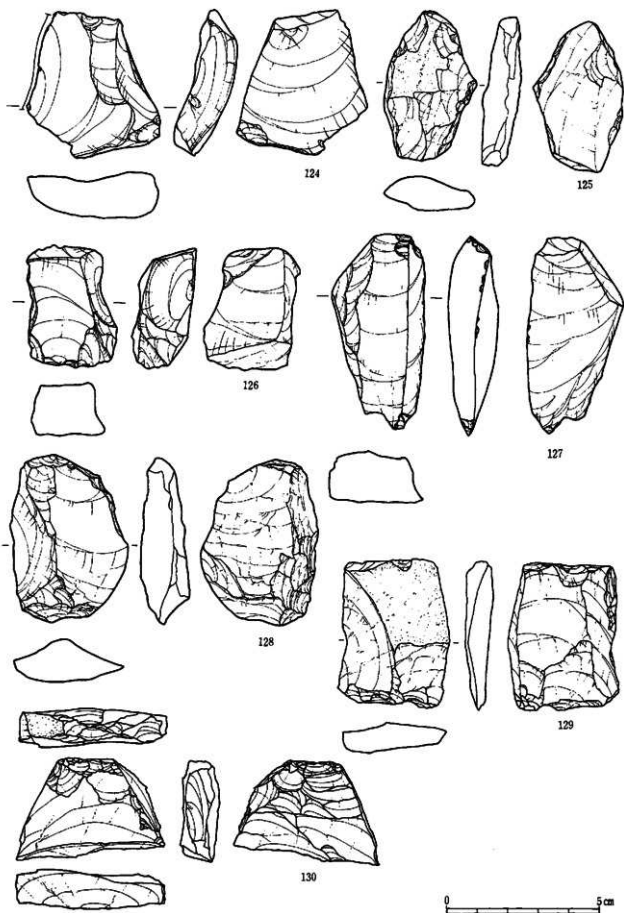
磨製石斧(第249図) 136~147。形態の特徴は、定角式石斧で、楕円形礫を素材としている。146のみが、板状に剥がされた礫片を素材としている。136、137は刃部が破損した後に、再生が行われたと思われる。138は頭部残存品である。139、140は刃部の破損品、あるいは、刃部再生剥片と思われる。141は刃部残存品を再生して、磨製石斧を作り上げている。142、143は中間部からは損した刃部の残存品。144は頭部と刃部との両方が破損したものを再生加工したものと思われる。145~147は完形品である。

打製石斧(第250図) 148~159。形態の特徴は、楕形と分銅形と短冊形の三つに分類される。この遺跡において、石鏃や磨製石斧などに石器再生が頻繁に行われていることが観察されたが、打製石斧においてもそのような痕跡がみられる。打製石斧の形態を、三つに分類したが、石器再生による形態変化として捉えることは十分可能で、本遺跡においては、分銅形から楕形、楕形から短冊形へと順次形態変化していったものも多かったと推定される。148~150は楕形の上半部残存品。151~153は下半部残存品で、楕形か分銅形か不明である。154、155は楕形の完形品である。ともに、横長の礫片を素材としている。156、158は分銅形の完形品である。156は礫片素材、158は素材不明。157、159は短冊形の完形品である。157は楕円形礫素材、159は板状の礫片素材。

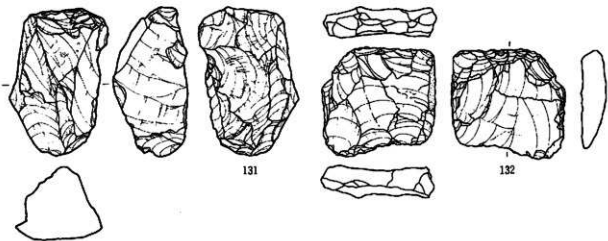
敲石(第251~256図) 160~218。敲石は、主に敲打痕があるものを敲石として分類した。敲石の半数近くのものに研磨痕が認められる。機能的には、木の実を割ったり、磨り潰したと想定され、これらの石器が使われたと思われる。一つの石器に、敲打痕と研磨痕の多機能的な要素が備わっているのも、このことに起因すると推察される。160~174は細長い楕円形礫を素材としたものである。上下両端に敲打痕のあるものがほとんどである。175~188は扁平な円礫を素材としたものである。外周に敲打痕のあるものがほとんどである。183、187は中央部の平坦面に研磨痕と敲打痕がある。189~218は不定形の礫を素材としている。189~199は比較的弱い敲打痕のあるものである。200~218は比較的強い敲打痕のあるものである。

磨石(第256、257図) 219~238。研磨によって成形しているものはほとんどない。このなかで、236と237は研磨による成形が行われている。

軽石・削器・石核・凹石(第258図) 239は軽石である。上部に把手状の突起があり、側面から穿孔され1cm程度の開穴している。240は削器である。大形の横長剥片を素材として、先端部から右側縁にかけて

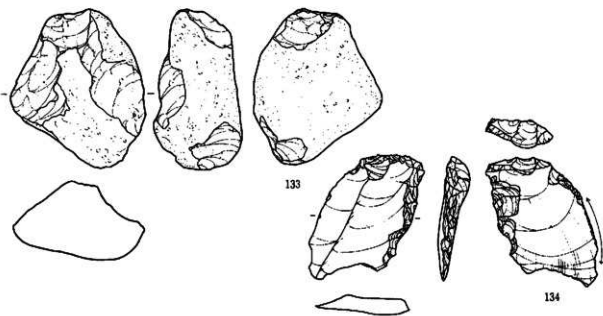


第247図 グリッド出土石器 (10)



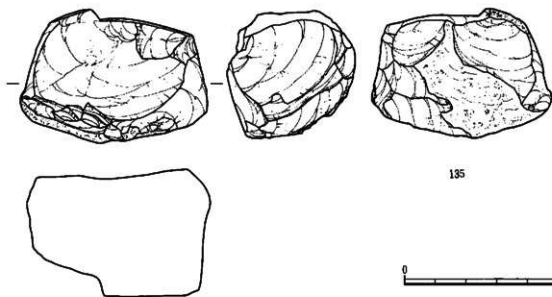
131

132



133

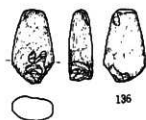
134



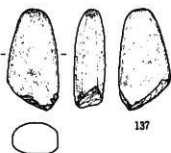
135



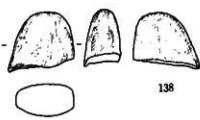
第248図 グリッド出土石器 (11)



136



137



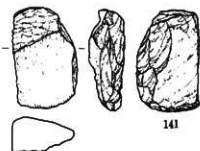
138



139



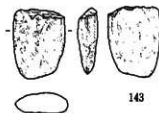
140



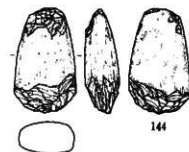
141



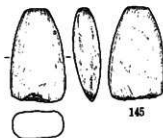
142



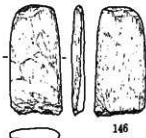
143



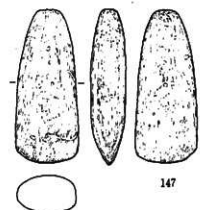
144



145



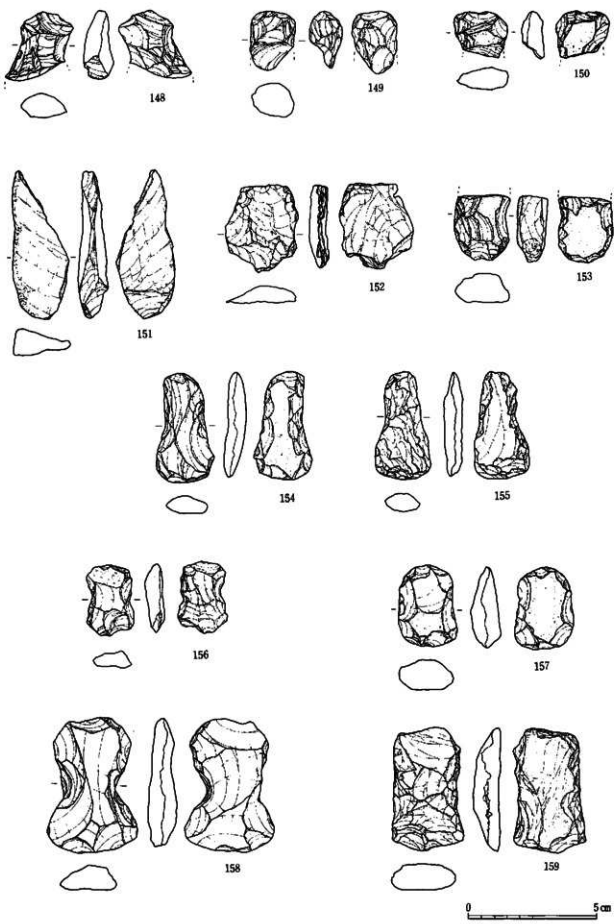
146



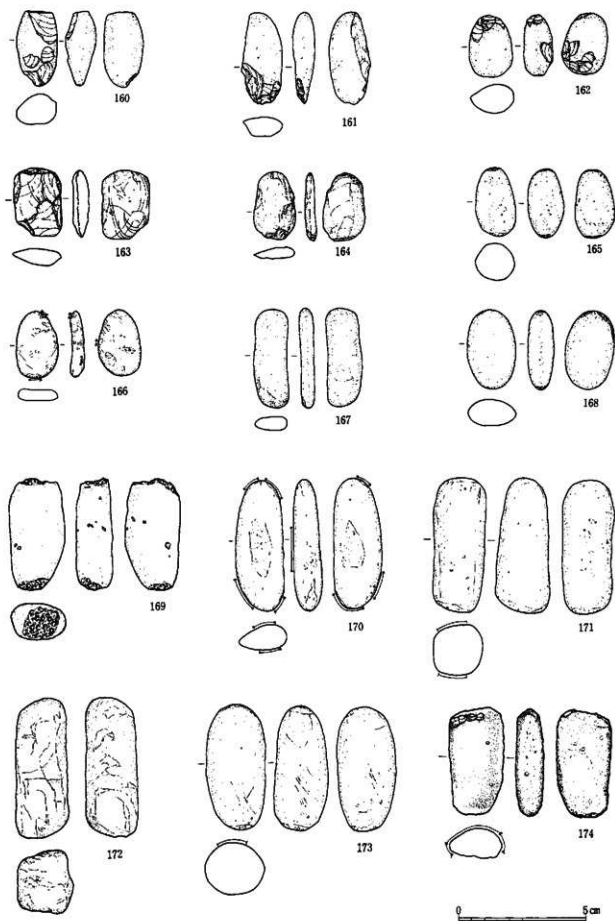
147



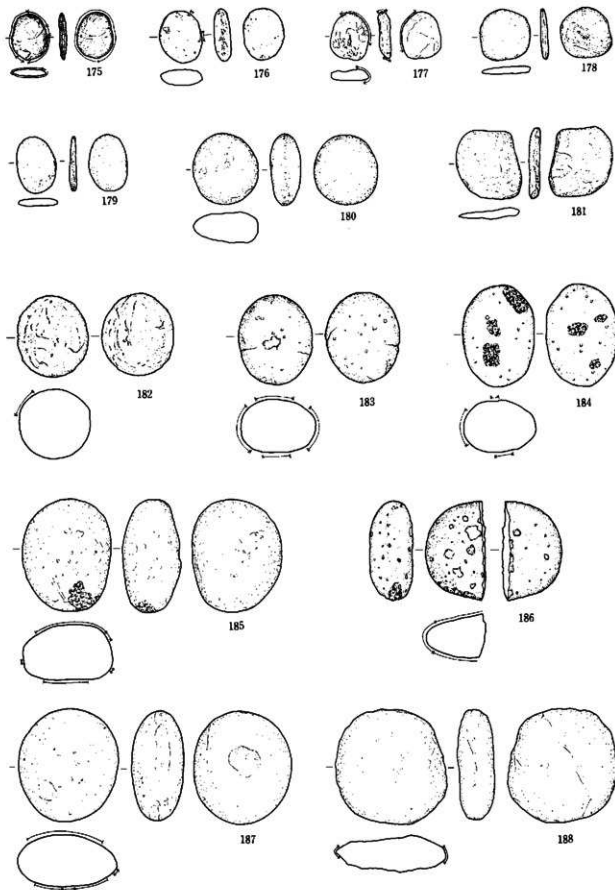
第249図 グリッド出土石器 (12)



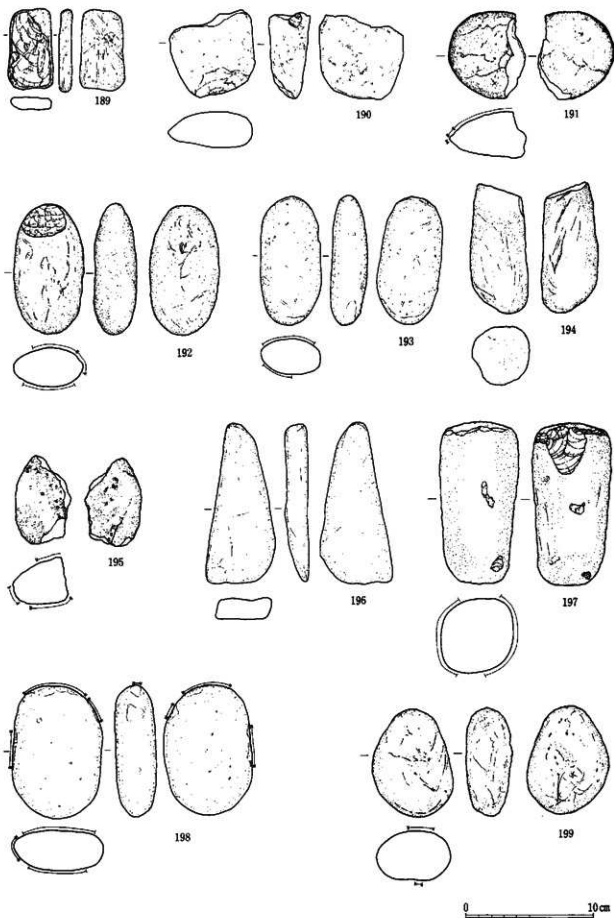
第250図 グリッド出土石器 (13)



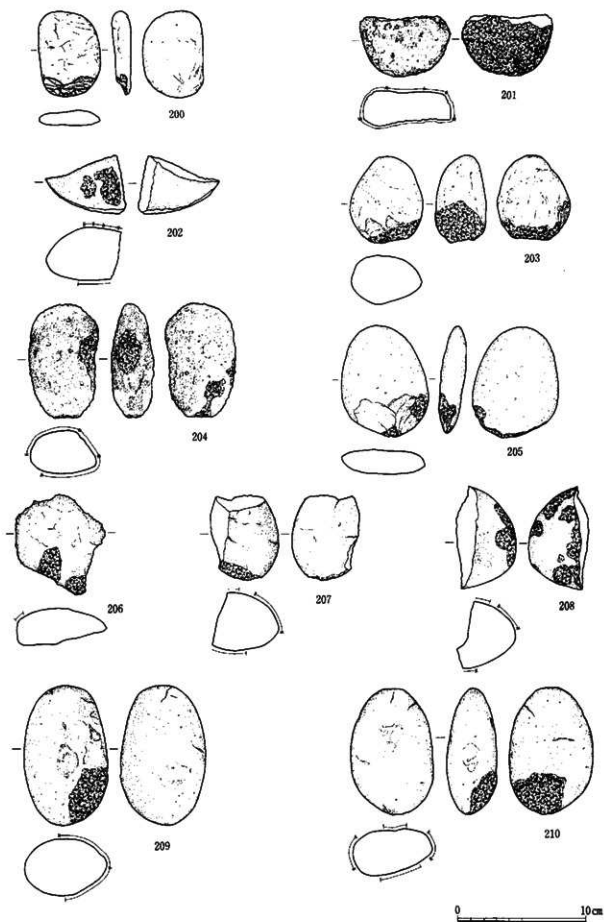
第251図 グリッド出土石器 (14)



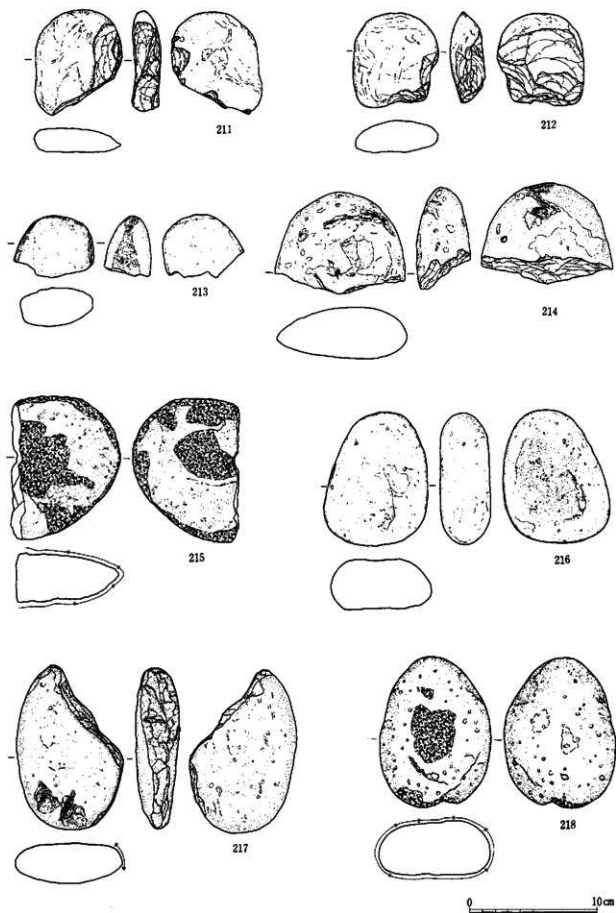
第252図 グリッド出土石器 (15)



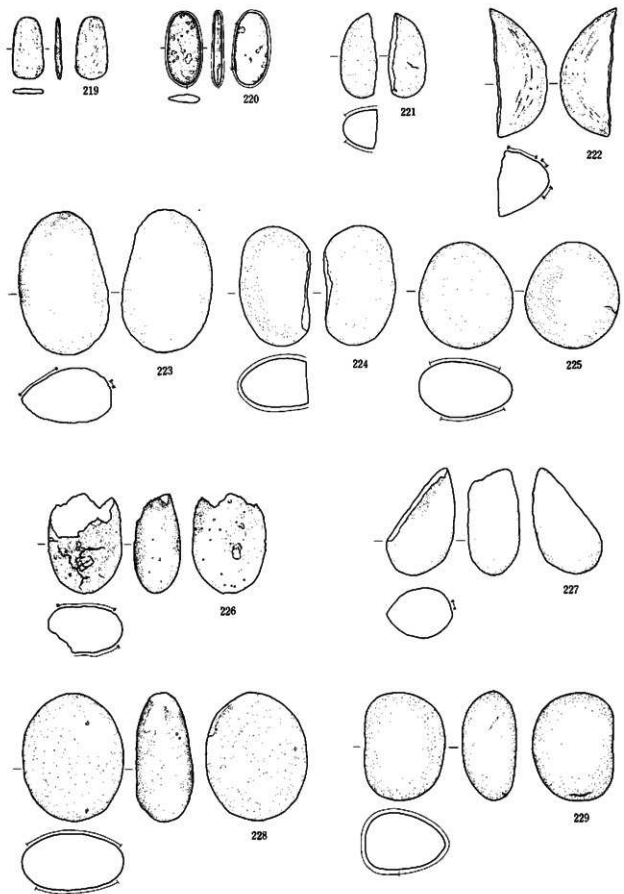
第253図 グリッド出土石器 (16)



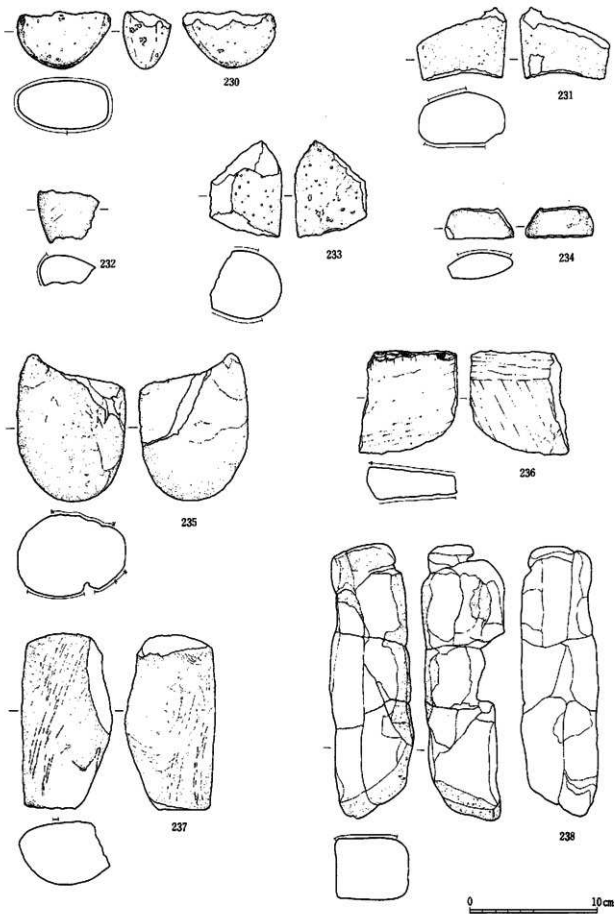
第254図 グリッド出土土器 (17)



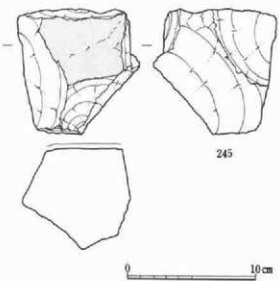
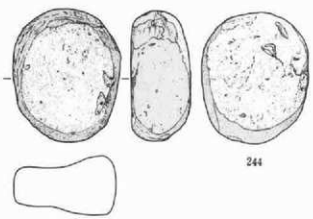
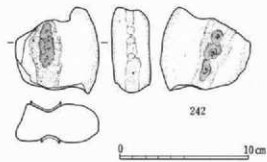
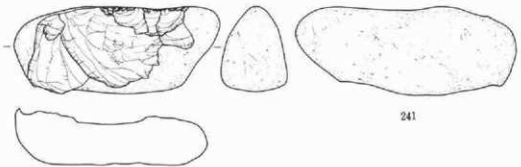
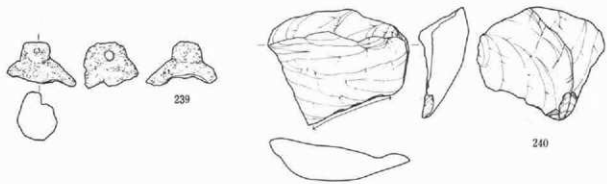
第255図 グリッド出土石器 (18)



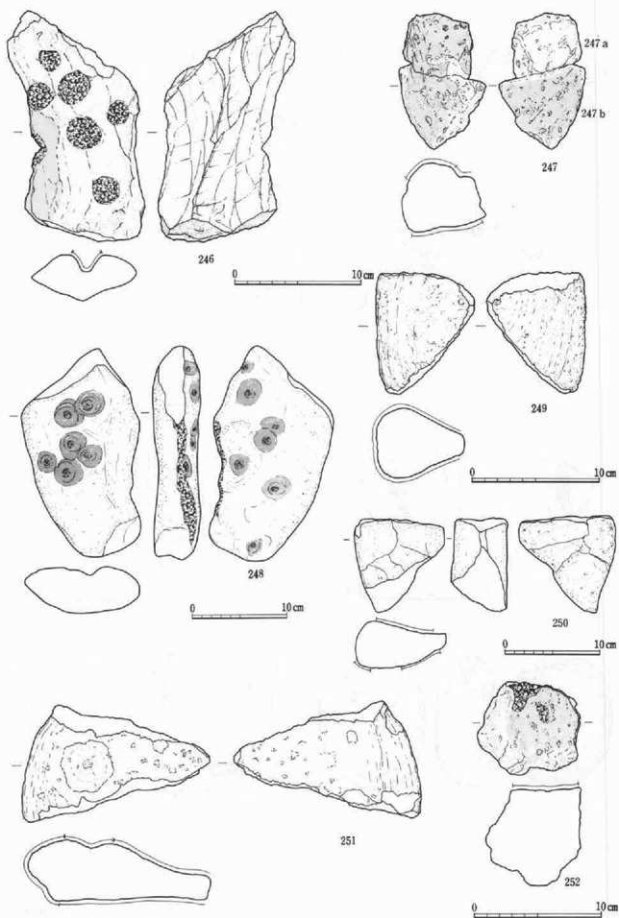
第256図 グリッド出土石器 (19)



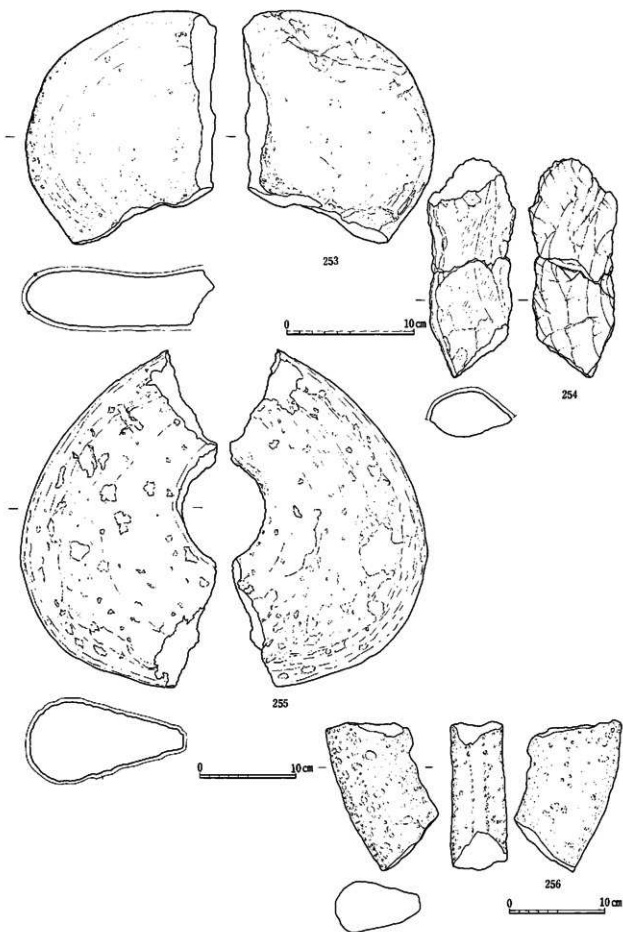
第257図 グリッド出土石罫 (20)



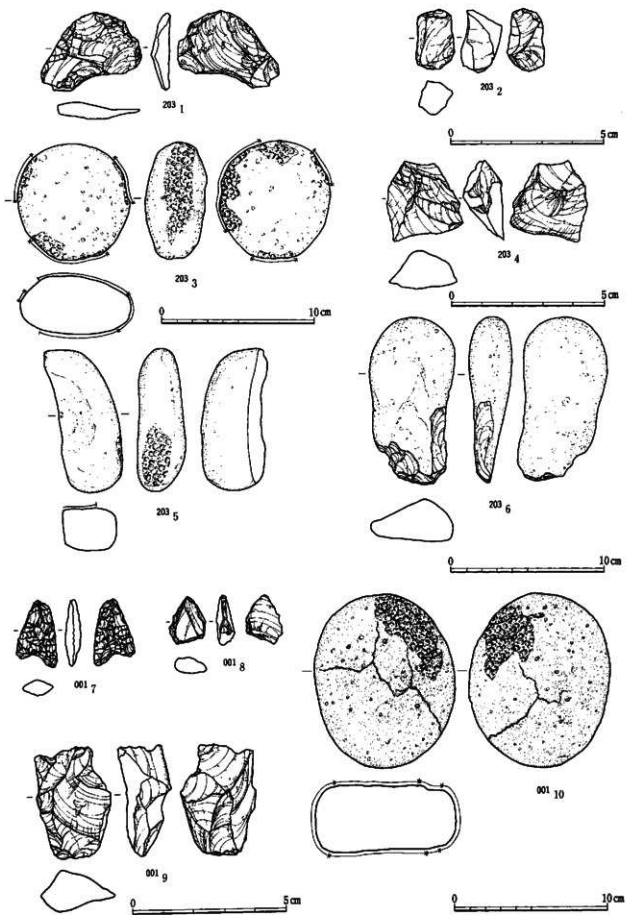
第258図 グリッド出土石器 (21)



第259図 グリッド出土石器 (22)



第260図 グリッド出土石器 (23)



第261图 203方形周溝状遺構、001塚出土石器

連続的に加工が施されている。241は石核である。良質の頁岩を用いている。大形の楕円形礫を素材として、自然面から同一方向に剥片が連続的に剥離されている。242～244は凹石である。242、243は楕円形礫を素材として、中央平坦面に窪みがある。244は全面研磨されている。表裏面の中央平坦部が緩やかに湾曲している。石皿と同じような形態を示す。

石皿（第259～260図） 245～256。石材的には大きく三つに分類される。一つは、表面の凹凸の激しい石材（247、249、252、255、256）。二つめは、軟質で表面の凹凸がややある石材（250）。三つめは、硬質で表面の凹凸があまりない石材（246、248、251、253、254）。246、248、251は表裏面に直径約2cm～3cm程度の窪みがある。この窪みは穿孔に伴うもので、石質的には三つ目の硬質で表面の凹凸があまりみられない石材が用いられる傾向がある。

方形周溝状遺構・塚出土石器（第261図） 遺構出土であるが、該期の遺物ではないので、本来グリッド出土石器として取り扱う方が妥当である。

1～6は203方形周溝状遺構から出土した。1は石鏃の未製品の可能性がある。3、5、6は円礫を素材として、非常に強い敲き跡が認められる。7～10は001塚から出土した。7の左脚部は破損後再生された可能性がある。10は全面研磨されており、周縁部は角張っている。

第3節 奈良・平安時代

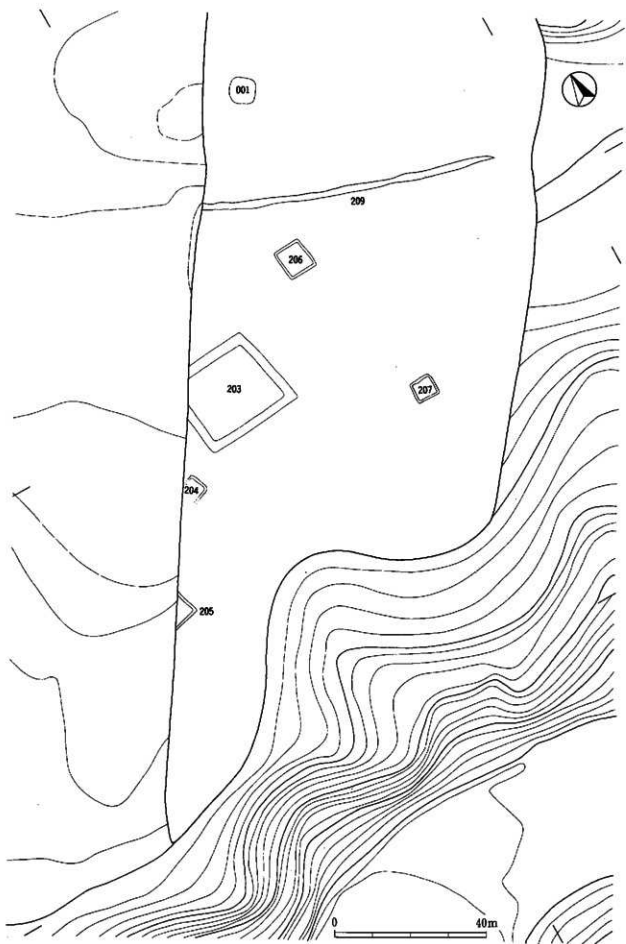
海保野口遺跡の歴史時代の遺構として、方形周溝状遺構が5基あった。これらの遺構は調査区の南側に分布していた。調査区外の台地中央部にも方形周溝状遺構が分布していると思われる。遺構にともなう遺物が僅少で、時代の確定が困難であるが、一応、奈良・平安時代の遺構と考えたい（第262図）。

206方形周溝状遺構（第263図、図版15） 調査区南側、11Gグリッドに位置する。形状は、正方形というよりも、平行四辺形に近い。長さ8.46m、幅8.25mであった。主軸は、ほぼ南—北を向く。わずかではあるが、土盛りをしていて、周辺よりも約50cmほど高かった。周溝の幅は0.6m～0.8mで、深さは10cm～30cmであった。土盛りおよび周溝内から土器片が出土した。出土した土器片は縄文土器で、造築中に混入した遺物であろう。

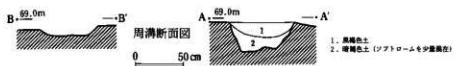
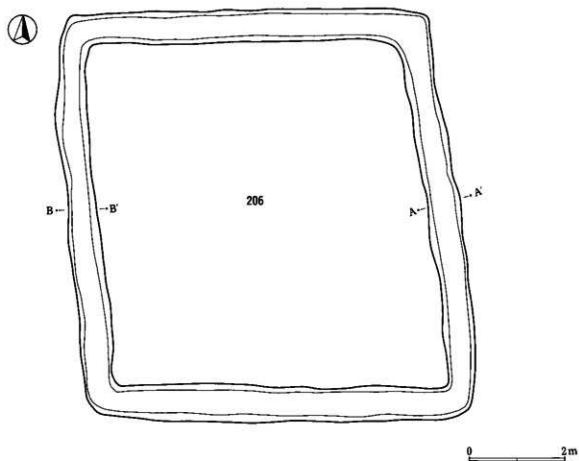
203方形周溝状遺構（第264、265図、図版15） 調査区南側、11E、11F、12E、12Fに位置する。かなり大きく、長さ25.1m、幅22.3mであった。形状は、正方形というよりも、平行四辺形に近い。主軸は、ほぼ南—北を向く。少し土盛りされていて、周囲よりも50cmほど高い。周溝は、幅2m、深さ60cmで、かなりしっかりとした掘り込みであった。南側の周溝内に土橋が2ヵ所あった。周溝内および封土内から、少量の土器片が出土した。出土した土器片は縄文土器で、造築中に混入した遺物であろう。

207方形周溝状遺構（第266図、図版15） 調査区南側、13G、13Hに位置する。正方形状で、長さ6.64m、幅6.4mであった。主軸は南—北を向く。周溝の幅は0.45m～0.65m、深さは25cm～30cmであった。周溝内から土器片がわずかに出土した。出土した土器片は縄文土器で、造築中に混入した遺物であろう。

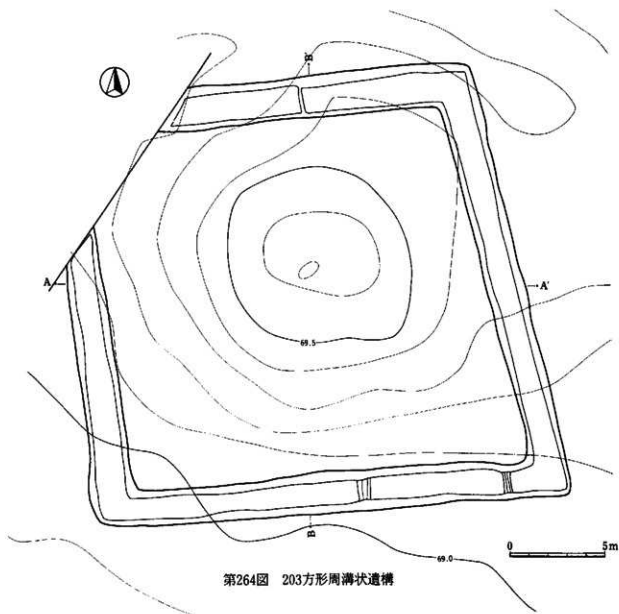
204方形周溝状遺構（第266図、図版15） 調査区南側、12D、13Dに位置する。方形周溝状遺構の1辺の溝しか検出されなかった。現存する長さは6.4mであった。溝の幅は0.35m～0.65mで、深さは約20cmであった。遺物は出土しなかった。



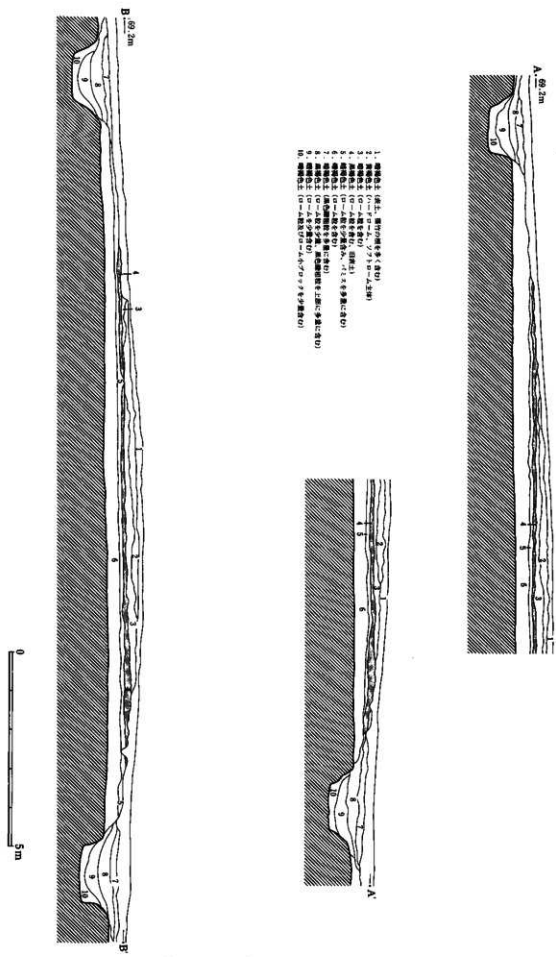
第262図 歴史時代、中近世の遺構分布図



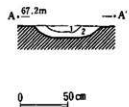
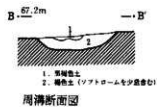
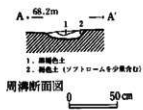
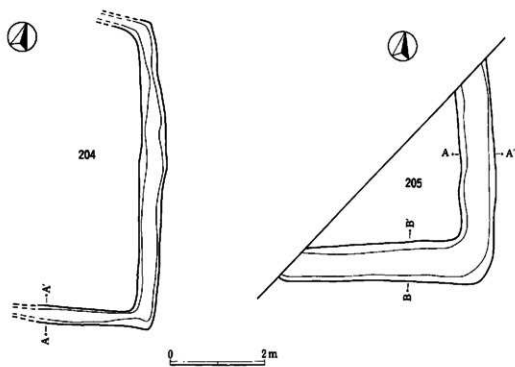
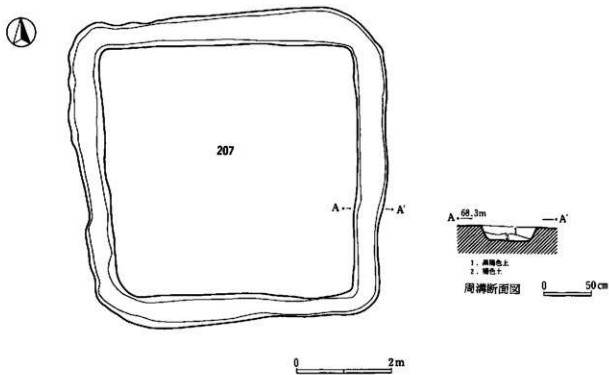
第263図 206方形周溝状遺構



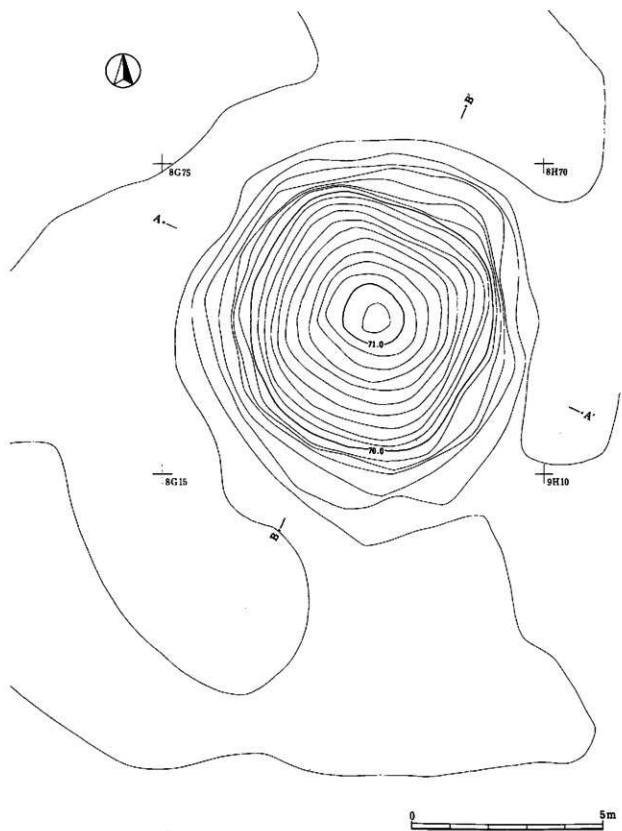
205方形周溝状遺構（第266図、図版15） 調査区南側、14Cに位置する。半分以上が調査区外にある。現存の長さは4.56m、幅は4.25mであった。周溝の幅は0.72m～0.83mで、深さは25cmであった。遺物は出土しなかった。



第265圖 203方形周溝狀遺構土層断面圖



第266図 方形周溝状遺構



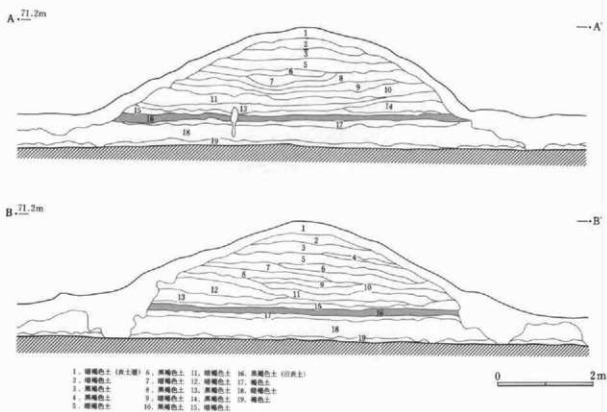
第267图 001塚

第4節 中近世

海保野口遺跡の中近世の遺構として、溝1条、塚1基あった。

209溝 (第262図) 溝は旧市道の部分から検出され、調査区を南北に分割していた。ほぼ直線状に伸びていて、長さ79.2m、幅1.5m~1.7m、深さ0.3m~0.6mであった。底面の所々に小さな土坑があったが、周辺に土坑はなかった。遺物はほとんど検出されなかった。遺構の検出状況、遺物の出土状況から、この遺構は中近世に利用された鎌倉街道と思われる。

001塚 (第267、268図、図版15) 塚は、調査区のやや中央、8 G、9 Gに位置する。方形で長さ7.7m、幅7.55m、高さ約1.5mであった。主軸は、東北-西南を向く。盛り土の中から少量の縄文土器片、近世の陶器片が出土した。



第268図 001塚土層断面図

遺構番号	遺構の種類	時代	位置	長(m)	幅(m)	遺構種別	遺構図版	遺物種別	遺物図版
155	炉穴	縄文時代早期	2K24	1.72	0.90	29		74	18
152	炉穴	縄文時代早期	2K90	2.49	1.04	29		75	18
129	炉穴	縄文時代早期	4J04,05,14,15	3.20	2.84	29	3	75	18
139	炉穴	縄文時代早期	4K32,33,34,41,42, 43,44,45,51,52,53	7.87	3.21	30	3	76,77	19
157	炉穴	縄文時代早期	4K82,83	1.98	0.94	31		78	
138	炉穴	縄文時代早期	4J33,34	2.56	1.03	31		78	20
140	炉穴	縄文時代早期	4J58,67,68	3.87	2.22	31	3	78,209	20
131	炉穴	縄文時代早期	5J45,55	2.59	1.35	32	3	79,209	20
153	炉穴	縄文時代早期	5J54	1.79	0.89	32		79	20
130	炉穴	縄文時代早期	5J64,65	3.24	1.80	32	3	80,209	21
141	炉穴	縄文時代早期	5J31,32	4.42	1.65	33	3	81	21
154	炉穴	縄文時代早期	5J50,51	2.85	1.62	33	3	81	21
158	炉穴	縄文時代早期	5K84	1.70	1.50	34	3	82	22
147	炉穴	縄文時代早期	5J87,97	1.92	0.80	34	3	82	22
159	炉穴	縄文時代早期	6J17,27	3.70	1.46	34	4	82	22
142	炉穴	縄文時代早期	5J92,93	1.99	0.90	34		82	22
144	炉穴	縄文時代早期	6J04,05	1.36	0.85	35	4	82	
145	炉穴	縄文時代早期	6J14	2.08	0.70	35	4	85	
146	炉穴	縄文時代早期	6J14,24	2.24	0.88	35	4	83	23
011	炉穴	縄文時代早期	6I30	1.86	1.26	35		85	
008	炉穴	縄文時代早期	5I84,85	1.62	1.40	35		84,85	22
005	炉穴	縄文時代早期	6I33	1.85	0.85	35	4	85	22
026,027	炉穴	縄文時代早期	6I20	2.93	1.09	36		86	23
022,023, 024,025	炉穴	縄文時代早期	6I61,62,63,71,72	4.00	0.71	36	4	86,87,209	23,24
164	炉穴	縄文時代早期	6J33,43	2.32	1.18	38	4	88	24
148	炉穴	縄文時代早期	6J41,42,43,52	3.69	3.25	38	4	88	24
167	炉穴	縄文時代早期	6I39	1.45	1.35	39		89	25
169	炉穴	縄文時代早期	6J50,60	1.83	1.32	39		89	25
034	炉穴	縄文時代早期	6I64,65,74,75	1.62	1.24	39	4	89	25
168	炉穴	縄文時代早期	6I37	0.99	0.97	39		89	
036	炉穴	縄文時代早期	6I75,85,86	2.24	0.71	39	4	89	
037	炉穴	縄文時代早期	6I85,95,96	2.04	0.71	39	4	89	25
038	炉穴	縄文時代早期	6I86,87,97	3.25	1.06	39	4	89	25
180	炉穴	縄文時代早期	6K93,7K03	1.58	0.76	40		90	25
179	炉穴	縄文時代早期	6K91,7K01	1.56	0.86	40	4	90	25
178	炉穴	縄文時代早期	7K00,01	1.70	0.81	40	4	90	25
175	炉穴	縄文時代早期	6K80	2.20	1.99	40	4	91	26
173	炉穴	縄文時代早期	6J68,69	3.58	1.54	41	5	92	26
174	炉穴	縄文時代早期	6J77,87,88	4.38	0.96	41	5	92	
171	炉穴	縄文時代早期	6J76	1.71	0.96	41	5	93	27
172	炉穴	縄文時代早期	6J74,75	2.30	1.18	42	5	93	27
170	炉穴	縄文時代早期	6J72	1.80	1.41	42	5	93	27
162	炉穴	縄文時代早期	6J82,83	3.63	1.48	42	5	94	27
163	炉穴	縄文時代早期	6J92	2.26	1.26	42	5	94	27
193	炉穴	縄文時代早期	8K24	1.84	1.00	43			
041	炉穴	縄文時代早期	7J69	1.85	0.98	43		96	28
190	炉穴	縄文時代早期	7K82,91,92,93	4.32	2.06	43	5	95,96,209	28
183	炉穴	縄文時代早期	7J49,58,59,7K41, 51	4.85	2.11	44	5	97	28
182	炉穴	縄文時代早期	7J87	2.22	1.50	44		97	28
176	炉穴	縄文時代早期	7J20,21	3.14	1.20	45	5	97	28
186	炉穴	縄文時代早期	7J54	2.43	0.91	45		97	28
042	炉穴	縄文時代早期	7J70,71	2.27	0.89	45	5	97	28
043	炉穴	縄文時代早期	7J81	1.65	1.03	45	5	97	
044	炉穴	縄文時代早期	7J81,82	1.40	0.70	45	5	97	28
040	炉穴	縄文時代早期	7I37	2.05	1.72	46	5	98	29
095	炉穴	縄文時代早期	7I35,36	1.65	0.66	46		98	29

第3表 遺構一覧表(1)

遺構番号	遺構の種類	時代	位置	長(m)	幅(m)	遺構押区	遺構戻版	遺構押区	遺構物版
096	炉穴	縄文時代早期	7I36	1.39	0.73	46		98	29
097,098	炉穴	縄文時代早期	7I46,47	1.97	0.59	46	6	98	29
086	炉穴	縄文時代早期	7I15,25	2.65	0.91	46	6	98	29
087	炉穴	縄文時代早期	7I25,26	1.90	0.94	46	6		
012,013	炉穴	縄文時代早期	6H78,88	2.30	1.50	47			
085	炉穴	縄文時代早期	7I13,14	2.06	1.15	47		99	29
084	炉穴	縄文時代早期	7I44	1.92	0.54	152			
028	炉穴	縄文時代早期	7I53,54	1.45	0.72	47		99	29
083	炉穴	縄文時代早期	7I55,65	1.56	0.85	47		99	29
078	炉穴	縄文時代早期	7I42,43	1.44	0.89	47		99	29
029	炉穴	縄文時代早期	7H08,09	3.55	1.05	48	6	100	30
030	炉穴	縄文時代早期	7H17,18,28	3.21	1.84	48	6	100,209	30
031	炉穴	縄文時代早期	7H17,27	2.32	1.11	48	6	101	30
052	炉穴	縄文時代早期	7H47,48	1.90	1.10	48		101,209	30
082	炉穴	縄文時代早期	7I63,64	1.85	0.89	49		101	
049	炉穴	縄文時代早期	7I73,83	2.10	1.10	49		101	30
046	炉穴	縄文時代早期	7I52,62	1.87	1.19	49		101	30
050	炉穴	縄文時代早期	7I82,92	1.64	1.02	49		101	30
047,048	炉穴	縄文時代早期	7I71,72	2.96	0.92	49	6	101	30
079	炉穴	縄文時代早期	7I41,42	2.37	0.74	50	6	102	31
080	炉穴	縄文時代早期	7I41,51	2.30	0.89	50	6	102	31
081	炉穴	縄文時代早期	7I40,41,50	2.71	1.14	50	6	102	31
056	炉穴	縄文時代早期	7H56,66	1.64	0.74	50		103	31
055	炉穴	縄文時代早期	7H67,76,77	2.82	0.88	50	6	103,104	31
057	炉穴	縄文時代早期	7H54,55	1.59	1.21	50	6	103	31
053,054	炉穴	縄文時代早期	7H78	2.07	1.04	51	6	105	32
059	炉穴	縄文時代早期	7H85	1.91	0.66	51		105	32
077	炉穴	縄文時代早期	7H87	0.85	0.56	51		105	32
063	炉穴	縄文時代早期	8H49	1.56	0.85	51		105,106	32
060	炉穴	縄文時代早期	8H04,05	2.31	1.31	51	7	105	32
061	炉穴	縄文時代早期	8H04,14,15	2.26	0.99	51	7	107	32
189	炉穴	縄文時代早期	8J05,06,15,16,17	4.50	2.44	52	7	108,109	32
192	炉穴	縄文時代早期	8J08,18	1.65	0.90	52		109	32
196	炉穴	縄文時代早期	7J97	1.21	0.59	52			
188	炉穴	縄文時代早期	8J26	2.01	1.69	53		110	33
185	炉穴	縄文時代早期	8J25,35	1.95	0.99	53		110	33
073	炉穴	縄文時代早期	8J45,44	1.40	0.82	53		110	33
072	炉穴	縄文時代早期	8J24,34	1.60	0.74	53		110	
191	炉穴	縄文時代早期	8J56,57	2.15	0.94	53	7	110	33
199	炉穴	縄文時代早期	8K71,72	1.08	0.74	54	7		
201	炉穴	縄文時代早期	8K70,80	2.60	0.80	54	7		
058	炉穴	縄文時代早期	9J16	1.85	0.81	54			
075	炉穴	縄文時代早期	9J05	1.53	1.24	54		111	33
187	炉穴	縄文時代早期	8J78,79,89,99	3.45	1.38	54	7	111	33
070,071	炉穴	縄文時代早期	8J20,21,30,31	2.12	1.10	55		112	34
074	炉穴	縄文時代早期	8J50,51,60,61	2.60	1.25	55		112	34
115	炉穴	縄文時代早期	8J80,81	1.24	0.85	55		112	34
108	炉穴	縄文時代早期	8J70,71,81	2.74	0.76	55	7	112	34
116	炉穴	縄文時代早期	9J21,22,31,32	2.19	1.74	55	7	112	
066	炉穴	縄文時代早期	8I66,67,76,77	2.30	1.50	56			
067,068	炉穴	縄文時代早期	8I96,97,9I06,07	2.23	0.85	56	7	113	34
069	炉穴	縄文時代早期	9I17	2.10	0.92	56		113	34
039	炉穴	縄文時代早期	9I22,23,33	2.75	1.04	56		113,114	34
064	炉穴	縄文時代早期	8I70,80	2.36	0.99	56		115	35
113	炉穴	縄文時代早期	9H28,38	2.10	0.70	57	8		
111	炉穴	縄文時代早期	9I90	1.46	0.80	57	8		
065	炉穴	縄文時代早期	9H14,15	1.28	0.80	57	8	115	35
119	炉穴	縄文時代早期	9H22	0.90	0.70	57		115	35
110	炉穴	縄文時代早期	10I12,13	1.40	0.80	57	8		

第3表 遺構一覽表(2)

遺構番号	遺構の種類	時代	位置	長(m)	幅(m)	遊構押垣	遊構廻版	遺物押垣	遺物両版
109	炉穴	縄文時代早期	10I02_03	1.50	0.70	57	8	209	
112	炉穴	縄文時代早期	9I90,10I00	1.45	0.70	57	8		
090	炉穴	縄文時代早期	10K61	2.09	0.81	58	8	116	35
089	炉穴	縄文時代早期	10J19,10K10	2.42	0.90	58	8	116,209	35
091,092,093	炉穴	縄文時代早期	10J09,18,19	2.93	1.95	58	8	110	35
107	炉穴	縄文時代早期	9J64	1.51	0.95	59		117	36
106	炉穴	縄文時代早期	9J85,86	1.55	0.72	59			
102A,102B	炉穴	縄文時代早期	10J16,26	2.81	0.58	59	8		
100	炉穴	縄文時代早期	10J45,55,56	2.59	1.82	59	8	117	36
283	炉穴	縄文時代早期	10F55,56,57,65,66,67,76	5.30	5.09	61	9	118	36
272	炉穴	縄文時代早期	10F60,61,62,70,71	3.45	2.72	62		119	37
271	炉穴	縄文時代早期	10G61,71	2.13	1.23	62			
270	炉穴	縄文時代早期	10G80,90	1.98	1.08	62			
290,292,291	炉穴	縄文時代早期	11G02,03,13	3.74	2.72	63	9		
268	炉穴	縄文時代早期	11G35,36	2.40	1.34	63		119	37
279	炉穴	縄文時代早期	11I28,38	2.04	1.42	64		120	37
281	炉穴	縄文時代早期	11H18,19	2.12	0.91	64			
289	炉穴	縄文時代早期	11H15,25	3.19	1.64	64		120	37
261	炉穴	縄文時代早期	11H45,46	2.98	1.39	64		120	37
257	炉穴	縄文時代早期	10H81,91	0.90	0.62	64		120	37
258	炉穴	縄文時代早期	11H03,04	2.80	1.64	64	9		
255	炉穴	縄文時代早期	11G49,11H40	2.19	2.10	65	9	121	38
263	炉穴	縄文時代早期	12H27,28,37,38	2.17	0.86	65			
265	炉穴	縄文時代早期	11I91	1.65	0.71	65			
294	炉穴	縄文時代早期	11H95,96	2.00	0.87	65	9	121	38
295	炉穴	縄文時代早期	11H95,96	2.12	1.08	65	9		
242	炉穴	縄文時代早期	11E65,66	2.70	1.95	66		121	38
244	炉穴	縄文時代早期	12E17,18,27,28,38	3.34	1.65	66		121	38
264	炉穴	縄文時代早期	12E15,16,25,26	3.40	1.95	66		122	38
245	炉穴	縄文時代早期	12F82,92,93	3.64	1.93	67		123	39
256	炉穴	縄文時代早期	12E36,37,46,47	2.48	0.89	67		123	39
219	炉穴	縄文時代早期	13F05,15,16,25,26	4.02	1.86	67	9	124	39
241	炉穴	縄文時代早期	12H72,82	2.28	0.81	68	9	125	40
266	炉穴	縄文時代早期	12H76,77	1.64	0.78	68			
240	炉穴	縄文時代早期	12H71,72	1.95	0.74	68	9	125	40
231	炉穴	縄文時代早期	12G53	1.74	0.78	68		125	40
228,229	炉穴	縄文時代早期	12G79,88,89	2.54	1.74	68	9	126	40
237	炉穴	縄文時代早期	12G85,95,96	3.06	1.46	68		126	40
239	炉穴	縄文時代早期	12G56,57,66,67	3.29	2.35	69		127	41
233	炉穴	縄文時代早期	13G04	2.20	1.07	69		127	41
235,236	炉穴	縄文時代早期	13G05,06,15,16	2.16	1.72	69		127	41
275	炉穴	縄文時代早期	13G29,39,13H20	2.70	2.44	70		128,129	41
277	炉穴	縄文時代早期	13G39	1.43	0.79	70			
249,251,252	炉穴	縄文時代早期	13G59,69,13H50	3.72	2.76	70		129	41
226	炉穴	縄文時代早期	13G01	2.52	1.20	71		130	42
221	炉穴	縄文時代早期	13G41,51	1.06	0.92	71		130	42
222	炉穴	縄文時代早期	13G51,52	2.09	1.04	71		130	42
223	炉穴	縄文時代早期	13G42,52	1.54	1.00	71		130	42
227	炉穴	縄文時代早期	13F34	1.34	0.76	71		130	42
293	炉穴	縄文時代早期	15C99,16C09	1.63	0.94	71			
212	炉穴	縄文時代早期	16B29,39,16C20,30,31,40,41	5.31	3.67	73		130	42
127	住居跡	縄文時代中期	3L00,01,10,11,20,21	4.00	3.56	134	10	163,164,165,166	42,43,44

第3表 遺構一覧表(3)

遺構番号	遺構の種類	時代	位置	長(m)	幅(m)	遺構押図	遺構面図	遺物押図	遺物面図
126	住居跡	縄文時代中期	3K27, 28, 37, 38, 39, 47, 48, 49	4.46	3.94	135	10	167, 168	45, 46
125	住居跡	縄文時代中期	3K82, 83, 92, 93	3.40	3.10	136	10	169	46
128	住居跡	縄文時代中期	4K50, 51, 60, 61	3.18	2.56	136	10	169	46
123	住居跡	縄文時代中期	4J40, 41, 42, 50, 51, 52, 60, 61, 62	4.31	3.45	137	10	170, 213	47
124A	住居跡	縄文時代中期	5J01, 02, 03, 04, 10, 11, 12, 13, 14, 21, 22, 23	7.12	6.51	138, 139	11	171, 172, 214	47, 48
124B	住居跡	縄文時代中期	4J82, 91, 92, 93	3.36	2.60	138, 139	11	171, 172, 214	47, 48
122	住居跡	縄文時代中期	5I58, 59, 68, 69, 78, 79	4.76	3.52	140	11	173, 174, 213	48, 49
121	貯蔵穴	縄文時代中期	5I65, 66, 75, 76	3.44	3.05	140	11	173, 175	49, 50
120	住居跡	縄文時代中期	5J92, 93, 94, 6J02, 03, 04	3.56	3.48	141	11	176, 177, 178, 179, 214	51, 52, 53
198	住居跡	縄文時代中期	6L41, 42, 43, 51, 52, 53	3.70	2.90	141	12	180, 181	54, 55, 56
133	埋壘	縄文時代中期	4I89	0.41	0.39	142	12	182, 183	57
134	埋壘	縄文時代中期	4I87	0.44	0.37	142	12	182	58
156	埋壘	縄文時代中期	4I49	0.46	0.40	142	12	183	57
132	埋壘	縄文時代中期	5I89	0.59	0.41	142		182	79
076	埋壘	縄文時代中期	7H90	1.28	1.01	142	12	184	58
118	埋壘	縄文時代中期	9H13	0.47	0.46	142		184, 185	58, 59
135	貯蔵穴	縄文時代中期	3J99, 3K90, 4J09, 4K00	1.77	1.54	143	12	186	60
136	貯蔵穴	縄文時代中期	3J94, 95	1.36	1.33	143			
143	貯蔵穴	縄文時代中期	4J72, 73	1.28	1.04	143	12	186	60
202	貯蔵穴	縄文時代中期	5K78	1.12	0.90	143			
165	土坑	縄文時代早期	6J44, 45	1.58	0.73	143		186	60
166	土坑	縄文時代早期	6J30, 40	1.81	1.55	143		186	60
149	貯蔵穴	縄文時代中期	6J47, 48	2.90	2.80	144	13	187, 188, 189, 214	60, 61
137	土坑	縄文時代早期	5I56, 66	0.76	1.17	144		189	61
197	焼土	縄文時代中期	6L50, 60	0.67	0.35	144			
014	住居跡	縄文時代中期	7I11, 12, 20, 21, 22, 23, 30, 31, 32, 33, 41, 42	5.84	5.61	146	13	190, 191, 192, 193, 210, 211	62, 63
015	住居跡	縄文時代中期	7I44, 45, 46, 54, 55, 56	3.88	3.66	147	13	194, 195, 212	64
117	住居跡	縄文時代中期	8H81, 82, 91, 92	2.96	2.85	147	13	196, 215	65
003	住居跡	縄文時代中期	8I99, 8J90, 9I, 9I09, 9J00, 01, 10, 11	4.76	4.29	148	13	197, 215	65
002	住居跡	縄文時代中期	9G18, 19, 28, 29, 38, 39, 9H10, 20, 30	5.00	4.90	149	13	198, 199, 214, 215	66, 67
020	土坑		6I44	1.16	0.95	150	14		
006	貯蔵穴	縄文時代中期	6I44, 45, 54, 55	1.84	1.66	150	14	200	67
010	貯蔵穴	縄文時代中期	6H39	1.04	0.98	150		200	67
021	貯蔵穴	縄文時代中期	6I71	1.26	1.01	150		200	67
018	貯蔵穴	縄文時代中期	6H58	0.86	0.78	150	14	200	67
195	土坑	縄文時代早期	7K53, 54	1.32	1.21	151		201	68
150	貯蔵穴	縄文時代中期	7J13, 23	1.71	1.48	151	14	202, 215	68
160	貯蔵穴	縄文時代中期	7J33, 34	1.43	1.24	151		201	68
161	貯蔵穴	縄文時代中期	7J43	1.20	1.05	151			
181	貯蔵穴	縄文時代中期	7J53	1.40	1.31	151		201	68
099	貯蔵穴	縄文時代中期	7I48, 58	0.89	0.81	151		201	
177	土坑	縄文時代中期	6J70, 80	1.20	1.00	151		201	
035	土坑		6I74, 75	1.84	0.71	152	4	204	
088	土坑	縄文時代中期	7I16	1.31	0.56	152		204	
007	貯蔵穴	縄文時代中期	7I44	0.91	0.81	152	14	204	

第3表 遺構一覧表(4)

遺構番号	遺構の種類	時代	位置	長(m)	幅(m)	遺構押図	遺構図版	遺物押図	遺物図版
094	土坑		7I24	0.95	0.92		152		204
009	貯蔵穴	縄文時代中期	7I43	1.40	1.14		152	14	204
017	貯蔵穴	縄文時代中期	7H73, 74	1.42	1.40		153		204
033	貯蔵穴	縄文時代中期	7I10	1.43	1.25		153		204
004	貯蔵穴	縄文時代中期	6H95, 96, 7H05, 06	2.95	2.74		153	14	203, 204, 215
200	土坑	縄文時代早期	8K71	1.38	0.80		154	7	205
105	土坑		10J04, 05	1.28	0.76		154		
194	土坑	縄文時代早期	9K80, 81	1.20	1.14		154		205
104	土坑		10J14, 15	1.09	0.90		154		
101	貯蔵穴	縄文時代中期	10J26, 27	1.63	1.59		59	8	
051	土坑	縄文時代早期	7I92	1.06	0.93		154		205
103	貯蔵穴	縄文時代中期	9I58, 59	1.56	1.43		154	14	205
016	貯蔵穴	縄文時代中期	7J91, 8J01	1.61	1.56		154		205, 215
114	土坑	縄文時代早期	8I14	0.67	0.81		155		206
045	土坑	縄文時代早期	8I14, 24	1.18	1.16		155		206
019	貯蔵穴、埋壘	縄文時代中期	8H01	1.40	1.35		155	14	206, 207
062	土坑	縄文時代早期	8H67, 68	1.39	1.35		155		206
032	陥穴		8H61, 62	1.94	1.42		155		206
216	住居跡	縄文時代中期	14D44, 45, 54, 55, 64	2.80	2.65		157		
278	貯蔵穴		10G93, 94	1.49	1.25		63	9	
288	土坑		10G98, 11G08	1.30	0.94		158		
287	貯蔵穴		11G07, 08	1.20	1.20		158		
254	土坑		11G54	0.82	0.44		158		
276	土坑		11G12, 13, 22, 23	2.20	1.82		158		
259	土坑		11H43, 44, 53, 54	2.96	1.26		158		
260	土坑		11H34, 35, 44, 45	1.97	1.30		158		
280	土坑		11H38	1.70	0.89		159		
262	土坑		11H77	1.36	1.05		159		
296	貯蔵穴		11I90, 12I00	1.30	1.08		159		
297	貯蔵穴		12I46, 56	1.26	1.17		159		
230	土坑		12G74	1.30	0.84		159		
232	土坑	縄文時代早期	12G65	1.96	1.54		159		207
238	土坑	縄文時代早期	12G75, 85	1.85	1.05		159		207
234	土坑		13G04, 05	1.48	0.95		159		207
248	土坑	縄文時代早期	13G47, 48, 57, 58	1.76	1.40		160		207
247	土坑		13G46, 47, 56, 57	3.06	1.07		160		207
225	土坑	縄文時代早期	13G44, 54	1.72	1.48		160		207
224	土坑		13G71, 72	1.80	0.92		160		
220	土坑		13F48	1.53	0.91		160		
246	土坑		12F92, 13F02	1.61	1.31		160		207
218	土坑		13E31, 41, 51	4.33	1.05		161		
215	土坑		14D23, 24, 33, 34, 43	4.23	0.71		161		
213	土坑		14C39, 14D20, 30	2.80	0.99		161		
214	土坑		14D30	1.63	0.78		161		
267	土坑		16C37	1.06	1.05		161		
206	方形周溝状遺構	歴史時代	11G	8.46	8.25		263	15	
203	方形周溝状遺構	歴史時代	11E, 11F, 12E, 12F	25.10	22.30	264, 265		15	232, 261
207	方形周溝状遺構	歴史時代	13G, 13H	6.64	6.40		266	15	
204	方形周溝状遺構	歴史時代	12D, 13D	6.40			266	15	
205	方形周溝状遺構	歴史時代	14C	4.53	4.25		266	15	
209	溝	中近世	9F, 10F, 10G, 10H, 10I, 11I, 11J	79.20	1.60		262		
001	塚	近世	8G, 9G	7.70	7.55	267, 268		15	233, 261

第3表 遺構一覧表 (5)

ブロック	遺物番号	器 種	材 質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備 考
1	01	剥片	メノウ	2.2	1.9	0.6	2.6	
1	02	剥片	チャート	3.0	2.6	0.7	5.1	
1	03	剥片	黒曜石	2.8	2.1	0.9	5.3	
1	04	剥片	メノウ	3.9	3.0	1.6	14.3	
1	05	ナイフ彩石器	黒曜石	4.3	2.4	0.8	6.7	
1	06	剥片	チャート	3.0	3.2	0.7	6.3	
1	07	剥片	メノウ	3.5	2.5	0.8	8.1	
1	08	砕片	チャート	1.9	2.6	0.4	1.4	
1	09	砕片	チャート	2.8	1.4	0.7	1.4	
1	10	砕片	メノウ	1.9	1.3	0.5	1.1	
1	11	剥片	チャート	2.7	2.2	0.7	4.0	
1	12	使用痕のある剥片	黒曜石	2.8	1.7	0.9	3.4	
1	13	礫	チャート	6.9	5.5	4.2	162.7	
1	14	剥片	メノウ	3.7	1.8	0.7	4.5	
1	14, 15			5.7	4.3	1.3	26.1	接合
1	15	剥片	メノウ	4.8	3.7	1.1	21.6	
1	16	石核	チャート	3.5	6.3	2.9	43.1	
1	17	磨石	砂岩	3.2	3.8	1.2	14.0	
1	18	敲石	砂岩	7.6	6.8	6.7	140.3	
1	18, 20, 22, 25, 37			7.0	7.9	7.0	289.0	接合
1	19	敲石	石英斑岩	4.2	3.0	3.5	41.0	
1	19, 21			7.1	5.4	4.0	130.3	接合
1	20	敲石	砂岩	5.0	4.5	2.2	53.5	
1	21	敲石	石英斑岩	7.1	4.1	2.5	89.3	
1	22	礫	砂岩	4.1	2.3	1.6	19.8	
1	23	敲石	安山岩	5.2	3.3	1.7	31.0	
1	24	礫	チャート	5.4	4.2	2.2	51.9	
1	25	礫	砂岩	5.0	3.2	2.2	37.7	
1	26	敲石	石英斑岩	6.1	5.5	3.8	118.2	
1	27	磨石	砂岩	5.7	3.3	3.2	55.3	
1	28	敲石	細粒凝灰岩	4.6	3.1	2.4	44.5	
1	29	敲石	石英斑岩	7.5	4.9	3.0	140.3	
1	29, 32			7.7	5.8	3.0	173.4	接合
1	30	敲石	石英斑岩	7.5	3.3	4.4	152.9	
1	31	礫	チャート	5.6	4.1	3.4	65.6	
1	32	敲石	石英斑岩	5.0	2.2	2.7	33.1	
1	33	礫	チャート	4.2	3.2	3.0	39.1	
1	34	敲石	石英斑岩	6.2	4.7	3.1	103.0	
1	35	敲石	石英斑岩	9.1	6.4	4.2	355.3	
1	36	敲石	安山岩	3.7	5.2	4.2	66.9	
1	37	敲石	砂岩	7.4	5.6	4.0	171.2	
1	38	剥片	砂岩	4.5	2.3	1.3	13.9	
2	01	石核	チャート	4.4	3.4	2.4	31.8	
2	02	砕片	チャート	1.6	0.8	0.3	0.4	
2	03	削片	チャート	7.5	8.0	1.2	97.5	
2	04							欠番
2	05	剥片	チャート	2.5	2.1	0.9	4.5	
2	06	石核	チャート	3.6	2.9	1.9	15.1	
2	07							欠番
2	08	砕片	チャート	1.5	1.1	0.6	0.9	
2	09							欠番
2	10	剥片	チャート	2.6	1.5	1.2	3.8	
2	11	剥片	チャート	2.7	1.8	0.4	2.2	
2	12	砕片	チャート	0.6	0.4	0.2	0.1	
2	13	剥片	チャート	2.6	2.4	0.7	4.2	
2	14	礫	チャート	4.6	3.7	3.1	71.7	
2	15	剥片	チャート	2.7	1.6	1.0	2.7	
2	16	剥片	砂岩	3.0	1.0	0.5	1.8	
2	17	削片	凝灰質頁岩	4.8	2.4	0.7	6.0	
2	18	削片	チャート	3.2	3.3	1.0	11.7	
2	19	砕片	チャート	2.5	1.5	0.5	1.6	
2	20	砕片	黒曜石	1.7	0.8	0.3	0.3	
2	21	砕片	チャート	2.0	1.1	0.4	1.0	
2	22	石刃	チャート	2.6	1.0	0.4	0.7	
2	23	剥片	チャート	2.7	2.2	0.5	2.5	
2	24	砕片	チャート	1.5	1.1	0.7	1.1	
2	25	敲石	砂岩	8.3	6.7	4.1	336.7	

第4表 旧石器一覧表(1)

ブロック	遺物番号	器種	材質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
2	26	砕片	チャート	2.1	1.1	0.8	2.0	
2	27	砕片	チャート	1.7	1.4	0.2	0.4	
2	28	砕片	黒曜石	2.4	1.2	0.6	2.4	
2	29	砕片	チャート	1.2	0.4	0.4	0.1	
2	30	削片	チャート	1.9	2.1	0.7	3.4	
2	31	砕片	チャート	2.1	1.6	0.6	1.8	
2	32	片刃 <small>礫器</small>	頁岩	7.1	7.9	2.1	91.5	
2	33	砕片	チャート	1.3	0.9	0.2	0.7	
2	34	砕片	チャート	1.9	1.1	0.3	0.5	
2	35	削片	チャート	4.9	4.4	1.5	34.7	
2	36	礫	チャート	3.2	2.2	1.8	12.0	
2	37	砕片	チャート	1.4	1.1	0.3	0.5	
2	38	砕片	チャート	1.8	1.3	1.0	1.6	
2	39	砕片	チャート	1.3	1.1	0.4	0.8	
2	40	砕片	チャート	1.3	0.7	0.4	0.4	
2	41	砕片	黒曜石	1.7	1.0	0.3	0.5	
2	42	砕片	黒曜石	1.6	1.1	0.3	1.1	
2	43	削片	凝灰質頁岩	2.8	2.0	0.9	4.5	
2	44	削片	チャート	2.6	1.0	0.3	0.9	
2	45	砕片	黒曜石	1.6	1.5	0.4	0.7	
2	46	砕片	凝灰質頁岩	1.6	1.0	0.5	0.6	
2	47	石刃	チャート	2.0	1.1	0.3	0.5	
2	48	削片	凝灰質頁岩	2.2	1.4	0.8	2.2	
2	49	砕片	凝灰質頁岩	1.6	1.1	0.6	0.8	
2	50	砕片	凝灰質頁岩	1.3	1.0	0.4	0.4	
2	51	削片	凝灰質頁岩	3.3	2.5	1.0	6.7	
2	52	削片	凝灰質頁岩	3.5	3.2	1.2	12.4	
2	53	削片	チャート	1.3	1.3	0.5	1.6	
2	54	砕片	凝灰質頁岩	1.9	0.9	0.4	0.6	
2	55	砕片	珪質頁岩	1.9	0.8	0.4	0.6	
2	56	削片	チャート	5.1	2.7	1.3	14.2	
2	57	砕片	チャート	1.9	1.2	0.1	0.3	
2	58							欠番
2	59	削片	凝灰質頁岩	3.7	3.0	1.0	9.1	
2	60	削片	凝灰質頁岩	4.8	2.7	0.9	9.8	
2	61	砕片	チャート	1.1	0.8	0.2	0.2	
2	62	削片	チャート	2.8	3.1	0.7	6.2	
2	63	削片	チャート	2.5	1.5	0.7	1.8	
2	64	削片	チャート	2.5	1.9	1.2	2.6	
2	65	削片	凝灰質頁岩	4.4	3.9	1.4	16.1	
2	66	砕片	チャート	1.4	1.5	0.5	0.9	
2	67	砕片	凝灰質頁岩	1.2	1.2	0.3	0.3	
2	68	削片	凝灰質頁岩	3.1	2.6	1.0	6.1	
2	69							欠番
2	70	石刃	凝灰質頁岩	3.4	1.5	1.0	3.5	
2	71	砕片	チャート	2.6	2.0	0.7	2.3	
2	72	削片	頁岩	3.4	3.3	1.3	10.6	
2	73	削片	チャート	3.4	2.4	1.5	11.0	
3	1	撻繩	チャート	2.2	1.6	0.9	3.9	
3	2	砕片	チャート	1.8	1.7	0.3	1.5	
3	3	削片	チャート	3.3	1.9	0.6	2.9	
3	4	削片	頁岩	3.3	2.0	0.6	2.9	
3	5	削片	チャート	2.8	1.9	0.5	3.2	
3	6	砕片	頁岩	1.6	0.6	0.3	0.3	
3	7	砕片	チャート	1.5	1.0	0.2	0.3	
3	8	削片	チャート	4.2	3.3	0.7	7.4	
3	9	削片	頁岩	3.6	1.4	0.5	2.4	
4	1	砕片	チャート	2.4	1.2	0.4	1.3	
5	001							欠番
5	002	削片	チャート	2.5	1.7	0.7	2.2	
5	003	削片	チャート	2.9	1.9	1.3	4.9	
5	004	砕片	チャート	1.9	1.5	0.5	1.5	
5	005	削片	チャート	2.6	1.9	1.1	4.2	
5	006	削片	チャート	2.7	2.3	1.3	6.1	
5	007	砕片	安山岩	1.7	1.0	0.2	0.3	
5	008	砕片	安山岩	1.2	0.7	0.2	0.2	
5	009	削片	安山岩	2.1	1.0	1.0	1.8	

第4表 旧石器一覧表(2)

プロット	遺物番号	器 種	材 質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備 考
5	010	碎片	安山岩	2.2	0.9	1.6	1.0	
5	011	剥片	凝灰質頁岩	2.3	2.5	0.7	3.5	
5	012	碎片	安山岩	1.2	0.7	0.2	0.4	
5	013	碎片	安山岩	2.0	0.9	0.4	0.7	
5	014	剥片	安山岩	2.1	1.7	0.3	1.1	
5	015	剥片	安山岩	2.8	1.7	0.7	2.1	
5	016	剥片	安山岩	1.5	1.6	0.3	0.6	
5	017	剥片	安山岩	3.0	2.2	0.4	2.7	
5	018	使用痕のある剥片	安山岩	3.2	2.8	1.3	12.0	
5	019	剥片	チャート	3.7	3.0	1.0	8.2	
5	020	剥片	チャート	3.6	2.2	0.6	4.4	
5	021	削片	チャート	6.2	3.9	1.7	38.7	
5	022	碎片	安山岩	2.2	0.9	0.6	1.1	
5	023	碎片	安山岩	2.3	1.1	1.1	2.2	
5	024	碎片	安山岩	1.9	0.8	0.6	0.9	
5	025	剥片	チャート	3.4	2.9	1.3	10.0	
5	026	碎片	安山岩	1.4	1.1	0.6	0.6	
5	027	碎片	安山岩	1.2	0.6	0.3	0.2	
5	028	碎片	チャート	2.5	1.3	0.5	1.1	
5	029	剥片	安山岩	2.7	1.8	0.5	2.1	
5	030	剥片	安山岩	3.0	1.8	0.7	2.4	
5	031	二次加工のある剥片	安山岩	2.8	3.2	0.7	6.2	
5	032	剥片	チャート	2.4	1.3	0.5	1.5	
5	033	剥片	チャート	3.0	2.1	0.7	2.9	
5	034	二次加工のある剥片	安山岩	2.2	2.6	0.7	3.1	
5	035	剥片	安山岩	2.2	1.3	1.0	2.0	
5	036	剥片	チャート	2.2	1.2	0.5	0.6	
5	037	石槌	チャート	3.8	3.5	2.3	21.1	
5	038	剥片	安山岩	1.9	1.0	0.7	0.5	
5	039	剥片	安山岩	1.6	1.4	0.5	0.8	
5	040							欠番
5	041	剥片	安山岩	2.9	1.5	0.5	1.9	
5	042	剥片	安山岩	1.5	1.5	0.5	1.2	
5	043	剥片	安山岩	1.2	1.3	0.3	0.6	
5	044	剥片	安山岩	1.3	0.7	0.2	0.2	
5	045	剥片	黒曜石	0.9	0.6	0.2	0.2	
5	046	剥片	チャート	3.7	1.2	0.7	2.0	
5	047	石槌	チャート	4.8	3.5	1.4	23.4	
5	048	剥片	安山岩	1.9	1.1	0.4	0.7	
5	049	石槌	チャート	4.0	3.6	1.7	25.0	
5	049_124			3.6	3.9	2.2	32.2	接合
5	050	剥片	安山岩	1.4	1.1	0.5	0.7	
5	051	剥片	チャート	2.8	1.4	1.0	2.9	
5	052	剥片	凝灰質頁岩	1.2	0.7	0.4	0.4	
5	053	石刃	チャート	3.2	1.0	0.6	1.8	
5	054	剥片	チャート	1.8	0.7	0.3	0.4	
5	055	剥片	安山岩	1.3	1.4	0.4	0.6	
5	056	石槌	チャート	5.7	3.8	1.5	28.7	
5	057	剥片	安山岩	2.4	1.5	0.5	1.4	
5	058	剥片	チャート	1.9	1.7	0.9	1.8	
5	059	剥片	安山岩	2.0	1.1	0.9	1.9	
5	060	削片	チャート	5.2	1.5	1.5	7.0	
5	061	剥片	泥岩	3.0	2.9	0.7	5.3	
5	062	剥片	チャート	1.5	0.9	0.3	0.4	
5	063	剥片	チャート	3.6	1.8	1.3	7.1	
5	064	剥片	安山岩	0.6	0.7	0.3	0.1	
5	065	剥片	細粒凝灰岩	2.8	1.5	0.6	2.3	
5	066	剥片	チャート	2.0	2.0	0.8	3.0	
5	067	剥片	安山岩	0.9	0.5	0.5	0.3	
5	068	剥片	チャート	1.7	1.3	0.8	1.7	
5	069							欠番
5	070	剥片	凝灰質頁岩	2.3	1.6	0.9	4.2	
5	071	剥片	珠質頁岩	3.0	4.4	1.4	17.4	
5	072	剥片	安山岩	2.3	1.8	0.7	2.9	
5	073	剥片	流紋岩	2.1	2.4	1.5	8.7	
5	074	剥片	安山岩	1.0	0.7	0.2	0.2	
5	075	剥片	凝灰質頁岩	2.3	2.7	1.9	7.1	

第4表 旧石器一覧表(3)

ブロック	遺物番号	器種	材質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
5	076	剥片	珪質頁岩	3.3	2.2	1.3	9.2	
5	077	剥片	安山岩	3.4	2.8	1.2	9.2	
5	078	碎片	チャート	2.0	1.4	0.4	1.0	
5	079	碎片	チャート	2.3	1.1	0.8	2.4	
5	080	撻器	チャート	2.6	2.8	0.9	7.0	
5	081	石核	チャート	5.4	3.2	2.1	37.7	
5	082	剥片	チャート	3.0	1.8	0.4	3.0	
5	083	使用痕のある剥片	チャート	3.0	1.2	0.3	26.0	
5	084	剥片	チャート	2.5	2.5	1.1	6.4	
5	085	碎片	チャート	2.0	1.7	1.0	2.1	
5	086	碎片	石英岩	3.4	1.7	1.1		
5	087	石核	チャート	2.6	5.0	2.1	29.8	
5	088	碎片	チャート	2.8	1.9	0.7	1.8	
5	089	使用痕のある剥片	安山岩	6.1	2.9	1.1	15.4	
5	090	使用痕のある剥片	安山岩	4.3	3.9	0.9	10.0	
5	091	碎片	チャート	1.7	1.0	1.3	2.4	
5	092	碎片	チャート	2.1	1.4	0.6	1.5	
5	093	碎片	チャート	1.2	0.8	0.4	0.4	
5	094	剥片	石英岩	3.5	2.5	1.9	15.8	
5	095	碎片	安山岩	1.5	1.0	0.2	0.3	
5	096	碎片	安山岩	1.0	0.6	0.3	0.2	
5	097	剥片	チャート	2.6	2.4	1.1	6.7	
5	098	剥片	珪質頁岩	2.8	2.1	0.8	5.3	
5	099	剥片	安山岩	2.1	1.3	0.4	1.0	
5	100	剥片	チャート	1.6	1.0	0.5	0.8	
5	101	剥片	安山岩	2.0	0.8	0.4	0.3	
5	102	剥片	安山岩	0.9	0.8	0.2	0.1	
5	103	剥片	チャート	2.4	2.0	0.9	5.2	
5	104	剥片	安山岩	2.5	1.8	0.7	2.4	
5	105	剥片	安山岩	2.3	1.3	0.7	1.9	
5	106	石核	チャート	5.2	4.0	1.8	27.1	
5	107	剥片	安山岩	1.3	0.8	0.3	0.4	
5	108	剥片	チャート	1.5	0.8	0.3	0.3	
5	109	剥片	安山岩	2.1	1.5	0.3	0.9	
5	110	剥片	安山岩	1.6	1.1	0.7	1.0	
5	111	剥片	珪質頁岩	2.7	1.5	0.8	3.0	
5	112	剥片	チャート	2.3	1.4	0.5	1.4	
5	113	剥片	チャート	2.4	1.2	0.5	1.1	
5	114	剥片	チャート	2.7	1.7	0.6	2.7	
5	115	石核	黒曜石	2.1	2.0	1.3	5.7	
5	116	般石	砂岩	7.9	4.1	2.7	105.7	
5	117	剥片	チャート	1.1	0.9	0.2	0.4	
5	118	剥片	安山岩	2.2	1.4	0.6	2.2	
5	119	剥片	安山岩	1.9	0.9	0.6	1.1	
5	120	剥片	安山岩	1.4	1.2	0.2	0.3	
5	121	使用痕のある剥片	安山岩	5.2	2.9	0.8	11.9	
5	122	剥片	チャート	1.5	1.3	0.4	1.1	
5	123	剥片	チャート	4.4	2.1	1.5	11.0	
5	124	磨盤	チャート	3.2	2.6	0.8	7.2	
5	125	磨石	砂岩	3.7	2.4	2.0	3.0	
5	126	剥片	チャート	1.7	0.5	0.4	0.7	
5	127	剥片	チャート	2.1	0.7	0.5	0.6	
5	128	剥片	チャート	1.7	1.0	0.5	0.8	
5	129	石核	安山岩	5.1	3.6	2.9	48.4	
5	130	剥片	黒曜石	1.6	1.4	0.5	1.9	
5	131	礫	安山岩	1.2	0.8	0.4	0.5	
5	132	撻器	チャート	3.4	2.9	1.0	11.6	
6	01	片刃撻器	安山岩	6.0	4.8	1.6	36.4	
6	02	剥片	安山岩	2.9	4.1	1.1	17.3	
6	03	削片	黒曜石	5.6	3.3	1.1	13.8	
6	04	剥片	安山岩	1.5	1.1	0.2	0.5	
6	05	剥片	チャート	1.0	1.1	1.1	1.3	
6	06	剥片	チャート	0.8	0.7	0.3	0.3	
6	07	剥片	安山岩	1.1	1.1	0.3	0.3	
6	08	削片	チャート	7.1	2.3	1.4	17.8	
6	09	剥片	チャート	1.9	2.6	0.9	4.0	
6	10	剥片	安山岩	3.0	1.6	0.6	3.0	

第4表 旧石器一覧表(4)

ブロック	遺物番号	器 種	材 質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備 考
7	1	砕片	チャート	1.1	1.1	0.2	0.2	
7	2	燧石	燧灰岩	3.3	2.3	2.7	18.7	
7	2,3			6.0	3.9	3.8	66.2	整合
7	3	燧石	燧灰岩	3.8	3.0	3.2	47.5	
7	4	燧石	燧灰岩	0.1	5.0	4.5	327.4	
7	5	砕片	チャート	0.9	0.6	0.2	0.1	
7	6	剥片	メノウ	3.4	3.0	1.2	11.7	
8	1	石刃	チャート	7.6	2.9	0.7	10.8	
8	2	石刃	珪質頁岩	8.4	2.9	1.0	17.8	
8	3	石刃	珪質頁岩	7.3	2.3	0.7	10.2	
8	4	剥片	安山岩	4.1	3.3	0.9	9.3	
8	5	剥片	泥岩	3.2	2.6	0.5	3.7	
8	6	砕片	泥岩	1.4	1.3	0.3	0.5	
8	7	剥片	チャート	4.8	2.7	1.1	10.5	
9	1	石核	チャート	3.7	2.5	1.4	12.1	
9	2	石核	チャート	5.2	5.5	3.8	105.6	
9	3							欠番
9	4	剥片	泥岩	3.6	2.2	0.7	4.9	
9	5	局部磨製石片	蛇紋岩	6.2	4.2	1.3	37.8	
10	1	剥片	安山岩	4.7	3.7	1.3	24.9	
10	2	剥片	安山岩	4.7	3.7	1.0	15.8	
10	3	剥片	安山岩	2.5	2.0	0.6	3.4	
10	4							欠番
10	5	砕片	頁岩	2.0	1.9	0.4	1.8	
11	1	鏢	燧灰岩	4.4	3.8	3.9	53.3	
11	2	鏢	チャート	4.1	4.0	4.3	96.3	
12	1	鏢	燧灰岩	4.2	3.5	3.0	50.2	
13	1	剥片	チャート	3.3	2.6	1.2	9.8	
13	2	剥片	頁岩	4.9	1.0	1.1	4.3	
13	3	剥片	頁岩	4.5	2.3	0.9	8.1	
13	4	剥片	泥岩	2.9	3.3	1.3	18.2	
14	1	播磨	黒曜石	1.5	2.1	0.6	1.5	
14	2	削器	黒曜石	3.8	3.0	0.8	8.1	
14	3	砕片	黒曜石	1.2	1.0	0.4	0.6	
14	4	燧石	安山岩	5.2	3.7	1.8	52.1	
14	5	砕片	泥岩	1.3	1.3	0.5	0.7	
14	6	使用痕のある剥片	メノウ	5.1	3.9	1.5	22.3	
14	7	播磨	黒曜石	2.0	1.9	0.7	3.1	
14	8	剥片	黒曜石	2.4	2.2	0.7	2.9	
14	9	剥片	砂岩	3.1	2.1	1.2	7.1	
15	01	燧石	砂岩	5.8	5.9	5.0	220.9	
15	02	ナイフ形石器	安山岩	3.2	1.7	0.6	3.1	
15	03	ナイフ形石器	粗粒燧灰岩	4.4	2.0	1.0	6.5	
15	04	石核	チャート	3.5	3.0	1.5	12.3	
15	05	剥片	チャート	2.7	1.7	0.7	3.9	
15	06	剥片	チャート	3.8	2.7	0.9	9.4	
15	07	石核	チャート	4.1	4.6	1.7	27.0	
15	08	剥片	チャート	4.4	3.4	1.4	12.3	
15	09	砕片	チャート	1.5	1.1	0.9	1.9	
15	10	剥片	チャート	4.1	2.7	0.7	6.6	
15	11	砕片	チャート	3.9	2.2	0.9	7.4	
15	12	砕片	チャート	2.4	1.3	0.6	1.9	
15	13	砕片	チャート	1.5	1.0	0.6	0.9	
15	14	片刃鏢	頁岩	5.6	4.2	1.3	24.2	
15	15	剥片	チャート	3.3	1.7	2.1	9.5	
15	16	砕片	チャート	1.7	1.4	0.9	1.4	
15	17	砕片	チャート	2.5	1.6	0.5	1.2	
15	18	石刃	チャート	3.1	1.8	0.5	2.6	

第4表 旧石器一覧表(5)

押印番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	押印 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号
1	楕円形石器	黒曜石	17.3 × 9.6 × 4.7	0.7	131-2	28	石鏃	チャート	14.0 × 14.1 × 4.1	0.6	015-97
2	楕円形石器	黒曜石	20.5 × 16.7 × 7.3	2.2	130	29	二次加工のある剥片	黒曜石	17.9 × 12.6 × 6.3	1.1	015-333
3	打製石片	ホルンフェルス	55.8 × 57.6 × 19.5	61.8	140-183	30	楕円形石器	黒曜石	19.4 × 13.5 × 6.6	1.2	015-44
4	石皿	安山岩	41.8 × 33.7 × 16.5	27.0	823-5	31	使用磨のある剥片	チャート	19.1 × 16.5 × 2.9	1.0	015-143
5	楕円形石器	チャート	23.3 × 15.7 × 8.6	3.7	830-108	32	凹石	安山岩	63.0 × 54.7 × 26.2	49.6	015-475
6	楕円形石器	黒曜石	280.0 × 127.0 × 79.0	1,730	190-077	33	敲石	安山岩	73.1 × 53.3 × 41.0	171	015-391
7	敲石	砂岩	69.0 × 56.5 × 12.8	71.6	130	34	敲石	砂岩	61.5 × 66.6 × 41.4	305	015-531
8	石鏃	黒曜石	17.6 × 13.4 × 4.1	0.7	852-2	35	石鏃	黒曜石	19.8 × 14.3 × 8.1	1.3	123-126
9	二次加工のある剥片	黒曜石	24.6 × 16.0 × 5.9	2.9	852-6	36	磨石	石英ハン岩	108 × 66.7 × 38.4	526	123-21
10	二次加工のある剥片	黒曜石	20.6 × 23.6 × 6.9	2.4	852-10	37	石皿	安山岩	236 × 130 × 12.5	1,951	122-634
11	石鏃	チャート	22.3 × 15.7 × 3.4	0.8	871-18	38	磨石	石英ハン岩	146 × 110 × 58.7	1,294	124-318
12	打製石片	砂岩	54.1 × 47.7 × 24.4	68.9	109-18	39	敲石	チャート	36.3 × 19.2 × 12.2	10.2	124-102
13	磨製石片	凝灰岩	67.8 × 41.7 × 17.0	61.7	889-8	40	石鏃	黒曜石	19.9 × 16.1 × 3.5	0.7	120-72
14	石鏃	黒曜石	26.6 × 22.1 × 4.4	1.4	014P4-1	41	石皿	砂岩	91.4 × 137 × 51.6	367	120-405
15	石鏃	黒曜石	16.6 × 12.6 × 4.9	0.7	014-274	42	石皿	凝灰岩	134 × 89.6 × 64.7	523	120-2
16	二次加工のある剥片	黒曜石	8.3 × 17.5 × 3.9	0.4	014-404	43	敲石	砂岩	67.3 × 65.0 × 27.2	207	120-22
17	細磨製磨盤のある剥片	黒曜石	15.5 × 11.3 × 3.8	0.4	014-241	44	石鏃	黒曜石	23.1 × 17.3 × 4.9	1.6	002-2
18	二次加工のある剥片	黒曜石	16.0 × 17.0 × 3.3	0.9	014-509	45	石鏃	チャート	18.3 × 12.8 × 3.4	0.6	148-178
19	剥片	安山岩	18.2 × 19.8 × 5.9	2.1	014-450	46	凹石	石英ハン岩	106 × 68.5 × 50.6	586	149-201
20	楕円形石器	塩賀頁砂	61.6 × 32.6 × 10.9	27.1	014-533	47	石鏃	ホルンフェルス	16.3 × 16.7 × 3.3	0.7	117-132
21	打製石片	安山岩	89.0 × 56.0 × 15.1	64.7	014-213	48	楕円形石器	チャート	35.9 × 23.0 × 11.8	9.2	003-45
22	打製石片	凝灰岩	85.4 × 47.9 × 12.6	64.1	014-518	49	打製石片	安山岩	64.5 × 40.9 × 12.1	30.7	003-195
23	凹石	砂岩	118.0 × 109 × 89.2	1,560	014-1	50	二次加工のある剥片	黒曜石	27.5 × 17.3 × 6.4	1.6	002-88
24	敲石	凝石	81.3 × 51.5 × 37.5	17.8	014-212	51	石鏃	黒曜石	19.5 × 15.2 × 3.2	0.8	150-35
25	敲石	凝石	70.3 × 59.2 × 26.9	20.4	014-188	52	石鏃	黒曜石	13.5 × 8.3 × 3.4	0.3	004-158
26	敲石	凝石	87.4 × 55 × 21.6	14.2	014-379	53	楕円形石器	黒曜石	24.2 × 14.5 × 12.3	4.2	016-31
27	石鏃	黒曜石	20.7 × 13.0 × 4.5	0.6	015-325						

第5表 遺構出土石器属性表

採出番号	器種	石材	長×幅×厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	採出番号	器種	石材	長×幅×厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号
1	石鏃	黒曜石	11.6×10.4×3.2	0.3	8J42-1	59	箭鏃	黒曜石	31.6×21.1×9.3	4.7	7F15-1
2	石鏃	黒曜石	14.4×13.2×4.3	0.5	7H17-1	60	標形石鏃	黒曜石	31.8×26.7×14.0	8.2	9H84-1
3	石鏃	黒曜石	14.9×10.4×5.4	0.4	8J24-1	61	箭鏃	黒曜石	28.3×28.7×9.9	5.4	8J31-2
4	石鏃	黒曜石	15.7×14.1×3.2	0.3	8J42-1	62	標形石鏃	黒曜石	19.9×8.3×3.3	0.6	3I21-1
5	石鏃	黒曜石	16.1×14.3×3.4	0.6	7I22-1	63	無縁部のある箭鏃	黒曜石	17.8×8.8×4.1	0.4	7H27-1
6	石鏃	黒曜石	16.7×10.2×4.8	0.6	7I58-2	64	標形石鏃	黒曜石	20.9×11.7×5.3	1.5	4J31-1
7	石鏃	黒曜石	16.1×11.5×4.5	0.03	5J56-1	65	標形石鏃	黒曜石	27.6×11.0×7.9	3.0	6K23-1
8	石鏃	黒曜石	14.9×11.4×3.3	0.5	7H70-1	66	標形石鏃	黒曜石	28.7×9.2×6.5	1.7	7H15-1
9	石鏃	黒曜石	15.1×11.3×4.4	0.5	9J57-1	67	二次加工のある箭鏃	黒曜石	31.0×13.7×7.8	2.9	8J24-1
10	石鏃	黒曜石	16.2×10.7×4.1	0.5	7H4-1	68	標形石鏃	黒曜石	28.7×9.6×5.2	1.1	7H-66-1
11	石鏃	チャート	18.8×12.1×3.0	0.5	6I53-2	69	無縁部のある箭鏃	黒曜石	31.9×10.5×7.6	1.9	5B2-1
12	石鏃	黒曜石	17.1×12.0×3.4	0.5	9H12-1	70	無縁部のある箭鏃	黒曜石	45.9×17.2×7.7	7.1	13B31-1
13	石鏃	黒曜石	14.2×14.8×4.3	0.6	6I25-1	71	標形石鏃	地質頁岩	23.9×12.2×7.0	3.0	8I36-1
14	石鏃	黒曜石	13.9×12.9×4.7	0.7	7H19-1	72	二次加工のある箭鏃	チャート	31.7×9.8×8.0	3.1	6I60-1
15	石鏃	黒曜石	19.6×16.4×4.6	1.3	8H36-1	73	標形石鏃	黒曜石	32.0×17.2×13.9	5.0	7H37-2
16	石鏃	チャート	21.8×9.4×5.4	0.8	5J92-1	74	標形石鏃	黒曜石	48.1×14.7×5.4	5.0	7H18-2
17	石鏃	黒曜石	24.4×8.4×4.6	0.8	6I157-1	75	標形石鏃	流紋岩	49.5×23.5×11.5	13.4	5O91-1
18	石鏃	黒曜石	17.9×9.9×5.9	1.0	4J23-1	76	標形石鏃	チャート	38.5×14.2×9.3	6.3	6I20-1
19	石鏃	黒曜石	18.3×8.6×3.6	0.4	7J93-1	77	標形石鏃	黒曜石	16.2×13.0×5.5	1.3	7J92-1
20	石鏃	黒曜石	12.4×9.4×3.9	0.4	7H5-1	78	標形石鏃	黒曜石	18.1×11.8×5.4	1.3	8J54-1
21	石鏃	チャート	10.3×19.9×3.4	0.7	7H42-1	79	標形石鏃	チャート	19.3×13.4×2.5	0.9	2K51-1
22	石鏃	チャート	21.5×13.8×4.3	1.0	6I93-1	80	二次加工のある箭鏃	地質頁岩	23.0×18.5×4.9	2.6	8I15-1
23	石鏃	チャート	20.0×20.1×4.3	1.6	7H27-1	81	標形石鏃	チャート	23.5×17.2×10.4	3.3	7H4-1
24	石鏃	黒曜石	19.3×13.6×3.7	0.8	6I177-1	82	標形石鏃	黒曜石	18.6×17.2×11.4	3.7	7H04-1
25	石鏃	チャート	20.9×15.1×3.3	0.8	5J92-1	83	標形石鏃	黒曜石	26.6×15.1×8.3	3.1	8G18-2
26	石鏃	チャート	21.8×17.7×3.9	0.9	6H179-1	84	二次加工のある箭鏃	黒曜石	28.0×12.9×4.8	1.6	7I21-1
27	石鏃	チャート	25.8×19.3×4.9	1.3	6I72-1	85	標形石鏃	チャート	26.6×12.5×5.2	2.0	8I47-2
28	石鏃	チャート	20.4×15.9×3.8	1.0	6I63-1	86	標形石鏃	黒曜石	20.8×20.9×10.4	4.0	7H2-1
29	石鏃	チャート	20.3×16.2×2.9	0.6	6I3-1	87	標形石鏃	チャート	24.6×17.8×4.7	2.5	5I72-1
30	石鏃	黒曜石	21.1×17.7×6.8	2.1	7I35-2	88	標形石鏃	流紋岩	26.6×16.4×9.8	4.6	8J02-1
31	石鏃	チャート	22.1×18.3×4.5	1.0	7K51-1	89	標形石鏃	黒曜石	20.0×19.0×6.0	2.2	7H27-1
32	石鏃	チャート	25.3×19.1×3.2	1.1	7I76-1	90	標形石鏃	チャート	20.5×19.2×13.8	6.8	7I44-1
33	石鏃	チャート	19.3×21.6×3.8	1.6	7I76-1	91	標形石鏃	黒曜石	15.1×16.4×7.9	1.9	8H93-1
34	石鏃	黒曜石	23.5×19.3×3.9	1.5	7I71-1	92	標形石鏃	黒曜石	26.6×16.4×12.2	4.3	7H05-1
35	石鏃	チャート	30.5×20.9×3.9	1.6	6I11-2	93	標形石鏃	黒曜石	24.4×20.3×13.6	6.0	7H18-2
36	石鏃	黒曜石	27.3×13.9×4.5	1.6	6H179-1	94	二次加工のある箭鏃	黒曜石	31.3×18.1×12.6	6.3	0I4-505
37	標形石鏃	黒曜石	16.2×12.5×5.2	0.8	5B2-2	95	標形石鏃	流紋岩	24.8×25.4×10.4	6.3	7J01-1
38	無縁部のある箭鏃	黒曜石	16.1×11.2×2.2	0.4	8J50-1	96	標形石鏃	チャート	28.0×18.1×10.0	5.1	8I59-1
39	二次加工のある箭鏃	黒曜石	15.9×14.5×3.3	0.8	7I71-2	97	標形石鏃	チャート	36.7×25.8×9.4	8.0	5I72-1
40	標形石鏃	黒曜石	18.8×13.9×7.1	1.6	7H6-1	98	標形石鏃	チャート	22.6×18.1×8.9	3.4	6I66-1
41	二次加工のある箭鏃	黒曜石	22.5×17.5×5.4	1.5	9J10-1	99	標形石鏃	チャート	28.1×24.9×5.4	4.2	6I47-1
42	標形石鏃	黒曜石	18.9×16.3×6.1	1.5	6H58-2	100	標形石鏃	チャート	25.0×33.2×9.4	9.1	7H54-1
43	二次加工のある箭鏃	黒曜石	19.7×18.9×10.4	2.2	7I90-2	101	標形石鏃	チャート	27.5×26.5×7.0	6.7	8I08-1
44	標形石鏃	黒曜石	18.9×15.7×6.0	1.8	9I27-1	102	標形石鏃	黒曜石	34.5×27.7×7.4	6.1	13H13-1
45	標形石鏃	黒曜石	23.5×18.0×9.0	2.9	7I10-1	103	飾物品	緑泥石管	29.6×27.4×2.2	1.2	7I94-1
46	二次加工のある箭鏃	黒曜石	23.7×16.4×6.7	2.1	5J78-1	104	無縁部のある箭鏃	黒曜石	11.8×8.8×3.0	0.2	6J70-1
47	無縁部のある箭鏃	黒曜石	24.9×18.0×4.2	1.2	6H35-1	105	箭鏃	地質頁岩	18.7×17.3×4.2	0.8	7H35-1
48	標形石鏃	黒曜石	23.3×13.8×6.6	1.8	7H99-1	106	使用痕のある箭鏃	流紋岩	15.7×18.6×6.6	1.8	2K51-1
49	二次加工のある箭鏃	チャート	29.8×18.5×6.3	3.6	12G-1	107	使用痕のある箭鏃	地質頁岩	12.5×17.9×2.2	0.4	8J-90-1
50	無縁部のある箭鏃	黒曜石	25.1×18.9×7.5	1.8	9I92-1	108	二次加工のある箭鏃	黒曜石	26.5×20.6×4.1	2.4	7H90-2
51	二次加工のある箭鏃	黒曜石	28.2×19.1×7.0	1.8	15C-1	109	二次加工のある箭鏃	流紋岩	21.1×28.0×4.6	2.6	5B30-2
52	二次加工のある箭鏃	黒曜石	29.6×22.8×4.6	2.0	6I93-1	110	二次加工のある箭鏃	黒曜石	18.8×26.0×9.6	4.0	6I75-1
53	二次加工のある箭鏃	黒曜石	29.5×18.7×9.9	3.4	7I52-2	111	箭鏃	火山岩	21.1×25.5×7.7	3.2	7I24-1
54	標形石鏃	黒曜石	33.6×21.6×9.0	4.0	9O26-1	112	二次加工のある箭鏃	地質頁岩	15.8×33.1×4.2	3.1	7I45-1
55	標形石鏃	黒曜石	25.6×21.1×14.6	7.4	5J56-1	113	標形から出た箭鏃	地質頁岩	17.9×31.2×4.8	3.0	8I50-1
56	標形石鏃	黒曜石	36.2×15.1×17.8	5.6	7I60-1	114	標形石鏃	黒曜石	19.0×23.5×6.6	3.0	7H16-1
57	二次加工のある箭鏃	チャート	23.0×21.4×8.1	4.0	表撰	115	標形石鏃	黒曜石	29.8×19.9×10.2	5.1	6I81-1
58	二次加工のある箭鏃	黒曜石	32.5×26.2×10.8	6.7	5J01-1	116	二次加工のある箭鏃	チャート	28.7×32.5×8.8	7.5	9J00-1

第6表 グリッド出土石器属性表(1)

採出 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	採出 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号
117	磨石	チャート	31.3 × 23.3 × 7.9	4.0	00048-1	175	磨石	安山岩	36.7 × 28.4 × 5.4	7.9	6196-1
118	石核	黒曜石	15.5 × 27.6 × 20.3	7.3	9122-1	176	磨石	石英ハーン岩	20.5 × 32.0 × 12.1	22.2	6128-1
119	二次加工のある刮片	チャート	20.9 × 38.2 × 7.6	5.1	6136-2	177	磨石	流紋岩	37.6 × 30.7 × 9.0	13.5	6134-1
120	石核	黒曜石	33.4 × 29.2 × 14.8	9.6	8121-1	178	磨石	砂岩	40.0 × 38.7 × 4.9	12.2	9171-1
121	石核	黒曜石	23.0 × 34.0 × 12.5	8.0	7149-1	179	磨石	砂岩	43.3 × 29.9 × 5.8	12.3	7185-1
122	二次加工のある刮片	チャート	31.2 × 21.7 × 11.8	7.5	6193-1	180	磨石	砂岩	52.9 × 49.9 × 23.9	89.0	6154-1
123	二次加工のある刮片	安山岩	41.8 × 21.7 × 12.7	13.0	6182-1	181	磨石	安山岩	58.1 × 49.2 × 8.1	31.9	6133-1
124	磨石	頁岩	48.8 × 43.0 × 15.2	25.1	6148-1	182	磨石	砂岩	62.7 × 55.9 × 52.8	244	7135-2
125	二次加工のある刮片	流紋岩	49.3 × 30.3 × 11.6	18.0	6122-1	183	磨石	流紋岩	69.3 × 37.8 × 39.3	233	6131-1
126	石核	チャート	38.2 × 28.8 × 16.6	25.4	9121-1	184	磨石	流紋岩	78.5 × 36.0 × 39.4	235	10144-1
127	磨石	チャート	63.2 × 30.7 × 13.5	32.3	6171-1	185	磨石	石英ハーン岩	85.9 × 69.7 × 41.9	374	6176-1
128	磨石	ホルンフェルス	51.6 × 37.8 × 14.1	28.6	5122-1	186	磨石	流紋岩	74.4 × 47.3 × 32.0	160	3106-1
129	磨石	安山岩	47.9 × 37.1 × 7.2	18.0	8195-1	187	磨石	砂岩	86.1 × 76.6 × 41.0	393	4176-1
130	磨石	チャート	29.3 × 48.9 × 11.7	24.8	7128-1	188	磨石	安山岩	86.4 × 88.7 × 27.5	293	4181-1
131	石核	黒曜石	47.4 × 28.3 × 25.3	32.4	8136-1	189	磨石	チャート	64.6 × 35.0 × 10.5	45.7	6122-1
132	磨石	チャート	35.7 × 37.2 × 10.2	14.4	8133-1	190	磨石	石英ハーン岩	58.8 × 65.1 × 29.4	165	5126-1
133	石核	メノウ	50.7 × 42.3 × 26.5	56.3	3156-1	191	磨石	砂岩	68.6 × 60.7 × 38.0	180	9120-1
134	刮片	造貫頁岩	41.9 × 31.2 × 9.4	9.3	7161-1	192	磨石	流紋岩	99.6 × 54.1 × 31.8	249	9122-1
135	石核	安山岩	40.8 × 59.0 × 42.6	136	6124-1	193	磨石	砂岩	99.3 × 48.5 × 28.2	210	7160-2
136	磨石	凝灰岩	56.9 × 31.9 × 18.4	59.4	6177-1	194	磨石	砂岩	102 × 43.0 × 45.4	311	6123-1
137	磨石	凝灰岩	77.5 × 67.1 × 25.1	138	6171-1	195	磨石	安山岩	67.1 × 48.2 × 36.7	111	8172-1
138	磨石	安山岩	54.9 × 52.4 × 27.1	84.3	6137-2	196	磨石	砂岩	122 × 52.3 × 17.5	511	5123-1
139	磨石	凝灰岩	56.4 × 24.3 × 12.9	7.0	8190-1	197	磨石	砂岩	124 × 59.8 × 62	831	8209-2
140	磨石	凝灰岩	34.6 × 21.0 × 6.8	9.6	6188-1	198	磨石	石英ハーン岩	99.6 × 68.0 × 29.6	331	2109-2
141	磨石	砂岩	78.6 × 47.5 × 26.8	52.1	3176-1	199	磨石	砂岩	82.2 × 60.7 × 36.9	267	7180-1
142	磨石	凝灰岩	27.3 × 20.1 × 9.8	9.6	6110-2	200	磨石	砂岩	67.4 × 46.8 × 15.4	74	7178-1
143	磨石	凝灰岩	53.7 × 48.4 × 16.4	97	7124-1	201	磨石	安山岩	69.4 × 45.4 × 27.9	122	7109-1
144	磨石	流紋岩	78.0 × 40.7 × 23.1	127	8121-1	202	磨石	砂岩	44.8 × 53.7 × 42.1	121	7119-1
145	磨石	砂岩	72.1 × 41.9 × 20.1	93	5146-1	203	磨石	チャート	63.5 × 53.8 × 36.7	196	8148-2
146	磨石	片麻岩	82.1 × 38.9 × 9.7	57.3	6144-1	204	磨石	流紋岩	85.5 × 53.4 × 36.3	230	4173-1
147	磨石	凝灰岩	120 × 41.7 × 27.9	303	7170-1	205	磨石	砂岩	86.6 × 67.5 × 19.6	158	7180-2
148	打撃石	ホルンフェルス	54.0 × 41.2 × 25.3	50	9183-1	206	磨石	安山岩	79.5 × 68.0 × 28.5	116	4123-1
149	打撃石	砂岩	47.1 × 33.0 × 25.6	31.3	7170-1	207	磨石	砂岩	69.7 × 49.1 × 42.9	198	7108-2
150	打撃石	砂岩	37.6 × 41.3 × 17.9	30.3	5174-1	208	磨石	砂岩	77.5 × 47.0 × 51.7	213	6147-1
151	打撃石	流紋岩	114 × 43.5 × 21.0	102	8111-2	209	磨石	流紋岩	106 × 64.3 × 44.6	436	8175-1
152	打撃石	ホルンフェルス	65.8 × 56.5 × 15.2	62.3	7123-1	210	磨石	砂岩	96.4 × 64.9 × 39.4	342	6139-1
153	打撃石	砂岩	50.8 × 43.0 × 23.0	75.0	6100-2	211	磨石	安山岩	86.9 × 66.5 × 21.4	181	8101-1
154	打撃石	安山岩	82.8 × 44.8 × 16.0	61.5	5123-1	212	磨石	安山岩	71.7 × 65.4 × 36.3	174	8142-1
155	打撃石	安山岩	54.6 × 37.8 × 13.7	58.5	8150-1	213	磨石	砂岩	48.5 × 61.2 × 36.2	122	8194-4
156	打撃石	石英ハーン岩	81.7 × 43.0 × 13.7	33.6	6136-1	214	磨石	凝灰岩	82.8 × 103 × 41.5	452	5194-1
157	打撃石	安山岩	63.6 × 43.6 × 23.1	80	215	磨石	安山岩	106 × 79.8 × 42.9	544	7146-1	
158	打撃石	ホルンフェルス	100 × 69.1 × 24.3	167	7156-1	216	磨石	砂岩	105 × 80.6 × 39.3	565	5110-1
159	打撃石	安山岩	91.1 × 57.2 × 20.6	151	6116-1	217	磨石	石英ハーン岩	129 × 82.6 × 32	426	7102-2
160	磨石	砂岩	59.1 × 31.4 × 28.0	50.6	5123-1	218	磨石	流紋岩	114 × 86.0 × 46.6	675	5123-1
161	磨石	砂岩	72.9 × 31.8 × 17.9	49.0	8110-1	219	磨石	流紋岩	49.0 × 24.7 × 4.5	8.9	6193-2
162	磨石	砂岩	48.9 × 34.3 × 22.0	51.0	4181-2	220	磨石	砂岩	57.1 × 25.5 × 6.4	16.0	6111-1
163	磨石	ホルンフェルス	53.3 × 37.4 × 12.7	36.4	8140-1	221	磨石	砂岩	66.0 × 28.8 × 20.6	82.7	2173-1
164	磨石	砂岩	53.0 × 32.5 × 10.6	18.9	7154-1	222	磨石	砂岩	100 × 40.2 × 51.1	262	8137-1
165	磨石	砂岩	52.1 × 30.9 × 27.5	68.0	6136-1	223	磨石	砂岩	110 × 68.4 × 41.5	433	9112-1
166	磨石	石英ハーン岩	51.1 × 33.2 × 10.6	25.1	71191-2	224	磨石	砂岩	90.4 × 53.7 × 37.6	290	3182-1
167	磨石	砂岩	76.2 × 27.9 × 10.4	41.4	6125-2	225	磨石	砂岩	81.0 × 72.6 × 43.1	333	6151-1
168	磨石	砂岩	60.5 × 37.8 × 20.1	68.8	7168-1	226	磨石	流紋岩	76.3 × 57.2 × 34.8	188	6176-1
169	磨石	流紋岩	82.8 × 42.7 × 28.7	174	71710-1	227	磨石	砂岩	84.3 × 48.0 × 39.6	210	5151
170	磨石	砂岩	100 × 38 × 21.5	122	7209-2	228	磨石	流紋岩	98.3 × 79.8 × 44.1	505	7101-1
171	磨石	砂岩	103 × 42.1 × 44.7	299	5159-1	229	磨石	砂岩	82.3 × 63.1 × 44.2	349	3156-1
172	磨石	チャート	107 × 41.4 × 47.0	309	6178-1	230	磨石	安山岩	45.2 × 73.2 × 38.2	164	8192-1
173	磨石	砂岩	96.3 × 46.6 × 41.5	292	6120-2	231	磨石	砂岩	54.2 × 68.6 × 40.3	202	6162-2
174	磨石	砂岩	82.6 × 43.0 × 24.5	120	7192-1	232	磨石	砂岩	36.9 × 44.1 × 21.3	45.8	6195-1

第6表 グリッド出土石器属性表(2)

押戻 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	押戻 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号
233	磨石	流紋岩	73.5 × 53.5 × 52.6	263	10H19-1	246	石皿	片岩	246 × 83.3 × 38.8	737	9H12-1
234	磨石	砂岩	24.3 × 53.6 × 29.6	38.7	6E35	247a	石皿	安山岩	169 × 68.9 × 57.4	297	7H94-2
235	磨石	砂岩	113 × 84.2 × 62.3	739	5J23-1	247b	石皿	安山岩			7H06-1
236	磨石	片岩	76.8 × 69.7 × 25.0	211	9H12-1	248	石皿	安山岩	200 × 121 × 46.8	1,709	16B-1
237	磨石	砂岩	135 × 72.2 × 47.4	672	7H70-1	249	石皿	砂岩	93.2 × 78.2 × 53.9	456	6I05-1
238	磨石	砂岩	215 × 64.3 × 64.6	821	6I20-2	250	石皿	安山岩	102 × 100 × 58.8	332	7H48-2
239	磨石	輝石	39.7 × 54.7 × 40.3	6.8	8J40-1	251	石皿	安山岩	83.7 × 144 × 45.7	516	6I92-1
240	磨石	安山岩	113 × 108 × 39.0	283	7H81-1	252	石皿	安山岩	65.3 × 88.2 × 72.7	441	8C09-1
241	石楨	頁岩	82.4 × 154 × 63.3	751	7I29-1	253	石皿	安山岩	188 × 154 × 44.0	1,801	9C26-1
242	凹石	安山岩	67.6 × 66.1 × 30.8	174	12G-1	254	石皿	砂岩	165 × 64.5 × 30.4	483	9H13-1
243	凹石	安山岩	135 × 103 × 73.0	931	7H80-1	255	石皿	安山岩	260 × 154 × 63	2,718	7J87-2
244	凹石	安山岩	102 × 84.3 × 44.3	627	8K40-2	256	石皿	安山岩	160 × 95.9 × 56.7	891	11I-1
245	石皿	砂岩	95.4 × 100 × 79.7	1,000	7G89-1						

第6表 グリッド出土石器属性表(3)

押戻 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号	押戻 番号	器 種	石 材	長 × 幅 × 厚 (mm)	重量 (g)	遺物番号
1	楔形石楨	黒曜石	24.1 × 32.5 × 7.5	5.4	203-17	6	磨石	砂岩	106 × 55.7 × 25.8	173	203-1
2	楔形石楨	黒曜石	21.5 × 12.9 × 14.1	3.3	203-17	7	石楨	黒曜石	22.1 × 13.9 × 5.2	1.1	601-3
3	敲石	石英ハン岩	76.4 × 71.5 × 38.1	295	203-19	8	二次加工のある削片	黒曜石	15.2 × 12.1 × 5.3	1.0	601-4
4	二次加工のある削片	黒曜石	28.2 × 25.2 × 12.8	5.7	203-17	9	石楨	黒曜石	35.5 × 22.8 × 16.4	10.2	601-4
5	凹石	砂岩	93.6 × 37.5 × 33.0	180	203-14	10	磨石	砂岩	111 × 92.6 × 42.0	403	601-1

第7表 203方形周溝状遺構、001塚出土石器属性表

第3章 まとめ

第1節 旧石器時代の石器群

旧石器の出土点数は、15地点から全部で311点出土した。出土層位、石器の形態から4つの文化層が考えられる。

海保野口遺跡では第2黒色帯下部から人間活動の痕跡を留めている。最も古い文化層のブロックとして、第6ブロック、第7ブロック、第8ブロック、第13ブロックが考えられる。それぞれのブロックから出土した石器点数は少なく、碎片、剥片が大半を占める。第8ブロックから出土した石刃は大型のもので、また3点まとめて出土したので、製作場所というよりも、貯蔵場所であった可能性が高い。

その次の文化層として、主に第2黒色帯上部から出土した第9ブロック、第10ブロック、第15ブロックが考えられる。これらのブロックは台地中央部に展開する。それぞれのブロックから出土した石器点数は少ない。第9ブロックからは蛇紋岩製の局部磨製石斧と、チャート製の石核が出土している。第15ブロックからは、ナイフ型石器と小型の石刃が出土している。

主にAT火山灰層付近から出土したブロックを次の文化層とし、第5ブロック、第11ブロック、第14ブロックがそれに属すると考えられる。第5ブロックからは129点出土し、比較的多い。剥片や石器を集中的に製作した痕跡であろう。

第III層から第IV層を主体とした最終的な文化層として、第1ブロック、第2ブロック、第3ブロックが考えられる。第2ブロックからは大型の片刃礫器が1点出土しているが、他の石器は比較的小型である。

第2節 海保野口遺跡出土の縄文土器について

海保野口遺跡からは早期から晩期に至る多種類の縄文土器が多量に出土したが、縄文中期後半の集落のほか早期後半の炉穴群が多数検出され、包含層としての調査はごく一部しか実施できなかった。そのため、ここでは炉穴群と住居跡や小竪穴等の遺構から出土した土器にしばって若干述べることにする。

炉穴群から出土した土器のほとんどは条痕文系土器で、子母口式から茅山上層式まで幅広く出土している。しかし、一番多いのは器面に条痕のみを施したもので、ついで無文または擦痕のみを施したものである。なお、口唇部に刻目のみを施したのもかなりあるが、絡条体圧痕文は少ない。また、器形は段やくびれのあるものは少く、大半は口縁部からやや直線的に胴部に至る。

中期後半の住居跡等の遺構から出土した土器は、ほとんどが加曾利E式土器の範疇で捉えることができる。一部に連弧文系や唐草文系を含むが、擦消懸垂文のあるものが多いほか、口縁部文様帯と胴部文様帯が一体となったものも多く、大半がEⅡ式からEⅣ式に属し、EⅡ式及びEⅢ式が主体をなすと考えられる。

また、002住居跡の壁にへばりつくようにして出土した大珠形土製品と呼称したものは、硬玉製品の入手が容易でないために作り出されたものと考えられて興味深いのが、類例の増加を待って検討したい。

第3節 海保野口遺跡における縄文時代早期の集落形成

1 縄文時代早期条痕文期の集落の概要

海保野口遺跡で検出された遺構の多くは、炉穴であった。炉穴から出土した縄文土器は、早期後半の条痕文系の土器が大半を占めていた。そして、条痕文期の集落を推定したのが第269図である。炉穴群と礫群とが重複する形で集落が構成されている。集落は、炉穴と礫群の分布状況から、第1群から第3群の三つに大きく分かれる。第1群は、調査区北側に位置し、南北約120m、東西約60mの広がりをもつ。この広がりには調査区西側にも展開すると思われる。炉穴から出土する土器は非常に多く、遺存度も良い。礫の出土量と密度は、第2・3群に比べて非常に高い。炉穴の分布状況は、濃密に分布し、南側中央部にやや空白地帯がある。第2群は、調査区中央部やや南側に位置し、土器と礫は散漫に分布する。炉穴の分布状況は、周辺部に分布し中央部は空白地帯が見られ、環状の分布を呈する。第3群は、調査区南端に位置し、炉穴・土器・礫ともに非常に希薄な分布を呈する。

これらの分布状況のうち、非常に特徴的なのが第2群の炉穴の分布である。周辺部に炉穴が展開し、中央部に空白地帯がある。礫は、第2群の全面に散漫に分布する。これと同様の分布状況を示すものは、第1群の南側にもみられ、若干の空白地帯がある。

2 海保野口遺跡における礫群形成

a. 礫群の特徴

礫群の礫は、ほとんどのものが肉眼観察で赤化しており、火熱を受けたことが想定される。礫の大きさは、径礫2～15cmで径礫5～8cm程度のものが主体をしめる。石材は、流紋岩(石英ハン岩)を主体とし、チャート・砂岩など多種の石材で構成される。炉穴からは、礫はまとまって出土する集石土坑のような形態のものは検出されていない。

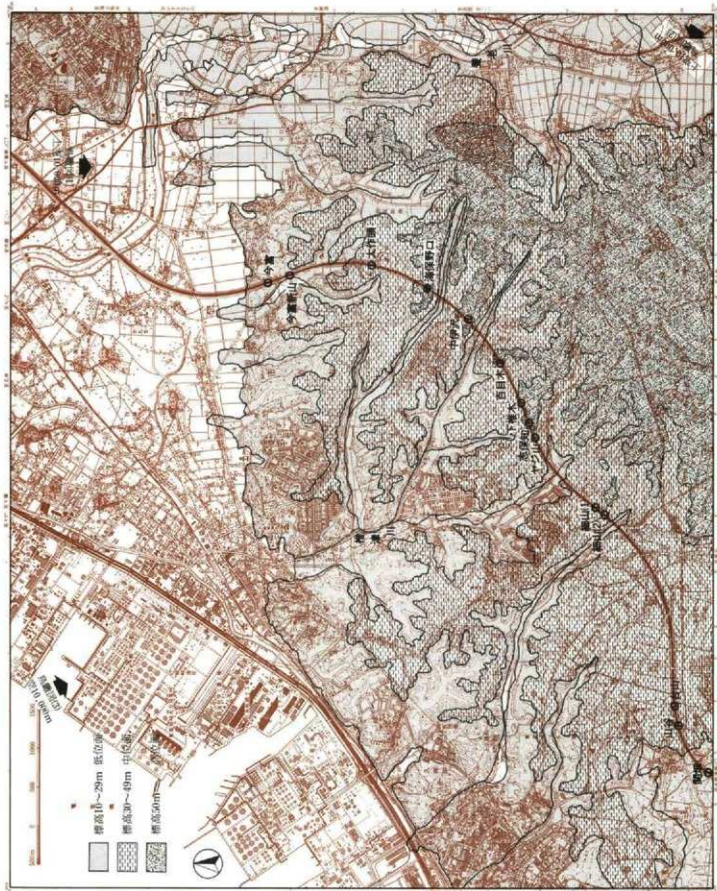
b. 縄文時代早期の礫群が形成された遺跡

海保野口遺跡の近辺には、縄文時代の礫群が形成される遺跡が非常に多い。これらの遺跡の時期は、早期に限定される。礫群の形成される遺跡としては、下記の遺跡があげられる。

袖ヶ浦台地では、袖ヶ浦市打越岱遺跡(註1)[撚糸文期]、飯富遺跡(註2)[撚糸文期]、美生遺跡群第1地点[条痕文期](註3)、美生遺跡群第4地点[撚糸文期](註4)、中六遺跡[条痕文期](註5)、西萩原遺跡[条痕文期](註6)、小谷遺跡[条痕文期](註7)、大竹遺跡群では二又堀遺跡[撚糸文期終末](註8)、向神納里遺跡(註9)、三ツ田台遺跡[撚糸文期](註10)、そのほかに、林遺跡[撚糸文期](註11)などあげられる。

木更津台地では、木更津市かずさ遺跡群において、上ノ山B遺跡[撚糸文期](註12)・兎谷跡[撚糸文期](註13)、台木A遺跡[撚糸文期から条痕文期](註14)・台木B遺跡[撚糸文期から条痕文期](註15)、このほかに木更津市苗見作遺跡[撚糸文期](註16)、宮脇遺跡[沈線文期・条痕文期](註17)、千束台遺跡[撚糸文期・条痕文期](註18)、横瀬遺跡[沈線文期](註19)、野焼B遺跡[撚糸文期](註20)、大畑台遺跡[沈線文期](註21)、天神前遺跡[撚糸文期、条痕文期](註22)、寺の台遺跡[撚糸文期](註23)、畑沢遺跡[撚糸文期・沈線文期](註24)、富津市東天王台遺跡[沈線文期](註25)、富士見台遺跡(註26)があげられる。

利根川流域では、佐原市側高遺跡[沈線文期](註27)、成田市取香和田戸遺跡(空港No60遺跡)[撚糸文期](註28)、多古町一畝田甚兵衛山北遺跡(空港No11遺跡)[撚糸文期](註29)があげられる。



第269図 遺跡立地推定復元図

c. 縄文早期（条痕文期）の環境復元

ここでは、遺跡が形成された過程を当時の立地状況や環境を復元・推定しながら考察することにする。

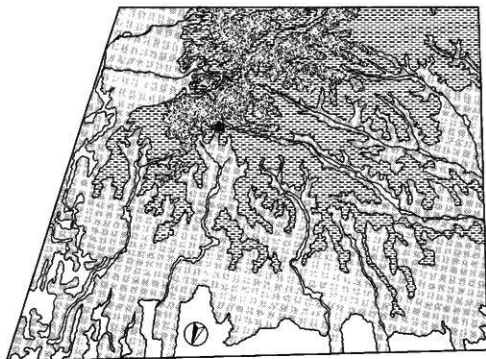
縄文時代早期から前期にかけては、気候の温暖化に伴う縄文海進の時期である。縄文時代早期中頃（約8,400年前）に縄文海進が始まり、縄文時代早期後半～前期末（約6,500～5,500年前）に海進最盛期をむかえる（註30）。海保野口遺跡が所在する市原市北部では、縄文最盛期の海岸線は、現在の標高8m付近にあったと推定されている（註31）。第269図は海保野口遺跡周辺の地形を縄文海進の最盛期の海岸線を推定復元したものである。第269、270図の作図については、国土地理院発行の地形標高の入った数値地図メッシュ五井・姉崎（註32）をもとに、コンピュータのソフトVISTAPRO（註33）で素図を作成し、地質図等を参考にして修正して作成した。海水準の標高を約10mの高さに設定し、地形を標高別に低位面（標高10～29m）、中位面（標高30～49m）、高位面（標高50m～）に分け、河川は作成された地形に符合するように作成させた。また、遺跡の立地が視覚的に把握できるように3方向からみた鳥瞰図も作成した。

これらの図形からみられる特徴としては、以下の点があげられる。

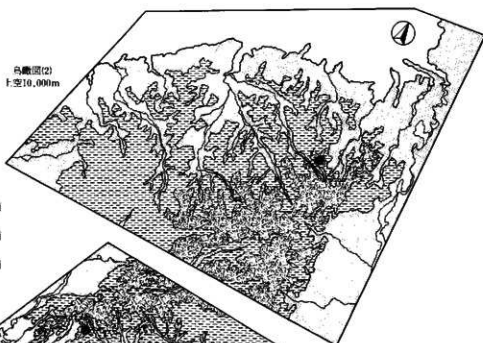
- ①海岸線が現在の海岸線よりもかなり内陸に入り込み、海保野口遺跡の北2km付近まで海岸線が迫っていた。
 - ②海保野口遺跡は、稚津川の上流域の開析された高位面の縁辺に位置する。
 - ③養老川の下流域は、河岸段丘が形成されている。
 - ④海保野口遺跡の東側は、養老川で開析され、広大な低位面が展開し、比高差があり、崖線状の地形を呈する。
 - ⑤海保野口遺跡の北西側は、海岸線が展開し、低位面と中位面が比較的広く広がっている。
- これらの特徴をこれまでの地形・地質の研究結果（註34・35）に照らし合わせて検討すると、概ね、次のようなことがいえる。
- ⑥下総台地の南部の台地は、北から村田川、養老川、小櫃川の大きな河川により3つに分けられ、市原台地、袖ヶ浦台地、木更津台地に分かれる。海保野口遺跡は袖ヶ浦台地に立地する。
 - ⑦袖ヶ浦台地は、標高30m～70m位で、第269、270図では、中位面と高位面が相当する。
 - ⑧地形面の区分では、低位面としたものが南総面（立川面）、中位面としたものが市原面（武蔵野面）、高位面としたものが下総下位面（小原台面）にそれぞれ相当する。
 - ⑨海保野口遺跡は、下総下位面（小原台面）の縁辺部に立地する。
 - ⑩地質的には、低位面とした南総面（立川面）は、上層から立川ローム・南総砂礫層が堆積し、中位面とした市原面（武蔵野面）は、上層から立川ローム・武蔵野ローム・市原砂礫層が堆積する。
 - ⑪南総砂礫層は、南総面を構成する堆積物で河川沿いに分布している。市原砂礫層は、河川沿いの一部に発達し、村田川・養老川・小櫃川・矢那川などに発達している。
 - ⑫東関東自動車道の地質調査では、低位面とした南総面（立川面）の縁辺に位置する今富付近で南総砂礫層が地表面に露出していた。径礫は5～30mmの円礫が主体であった。市原砂礫層は調査地では確認できなかった。（註35）。

d. 礫群の形成と採取方法について

次に、上記の①～⑫の特徴をもとに、当時の環境を復元しながら、礫群の形成と採取方法について検討することにしよう。

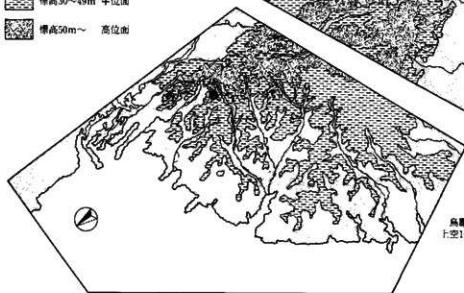


鳥瞰図(1)
上空10,000m



鳥瞰図(2)
上空10,000m

- 海保野口遺跡
- 標高10~29m 低位面
- ▨ 標高30~49m 中位面
- ▩ 標高50m~ 高位面



鳥瞰図(3)
上空10,000m

第270図 遺跡立地鳥瞰図

縄文時代早期の礫群が形成される遺跡の類型については、上述のbで記載したように、袖ヶ浦台地・木更津台地において、非常に多くの遺跡発見例があることについてふれた。礫群の形成される時期が、縄文時代早期に限定され、礫群が形成される遺跡の立地が樹枝状に解析された台地の縁辺に立地する傾向があった。

礫群の礫の特徴は、径50～80mmを主体とする円礫であった。上記⑬の特徴では、南総砂礫層である径5～30mmの円礫が、低位面とした南総面（立川面）の縁辺に立地する今富付近で表面に露出していた。南総砂礫層は、低位面とした南総面（立川面）の立川ローム層の下位に堆積する、また、市原砂礫層は中位面とした市原面（武蔵野面）の武蔵野ローム層の下位に堆積する。礫の大きさと円礫という形状は類似している。これらのことから、礫群の構成礫が、南総砂礫層や市原砂礫層から採取されたと考えられないだろうか。

縄文海進によって、低位面とした南総面（立川面）は、海蝕によって大きく浸食され、海蝕崖が海岸線に延々と新たに形成された。また、縄文海進は、一気に海水面が上昇したのではなく、海水面が上昇と停滞、あるいは、若干の海退を繰り返しながら、徐々に、海水面が上がってきたとされている。これらの海蝕によって、低位面とした南総面（立川面）は大きく海蝕され、海蝕とほぼ同じ標高に所在した南総砂礫層が、海岸線に延々と展開する海蝕崖に露頭したと推定できる。また、海水面の上昇に伴い、内陸まで海水が入ることによって、河川の傾斜がこれまでよりも急斜になることにより、河川の開析が著しくなり、中位面とした市原面（武蔵野面）の海に堆積する市原砂礫層も露出しやすくなることが想定される。

礫群の形成の時期が縄文時代早期に限定されることと縄文海進によって想定される南総砂礫層や市原砂礫層の露頭する現象とを結びつけて礫群の形成を検討することは大いに可能であると考えられる。

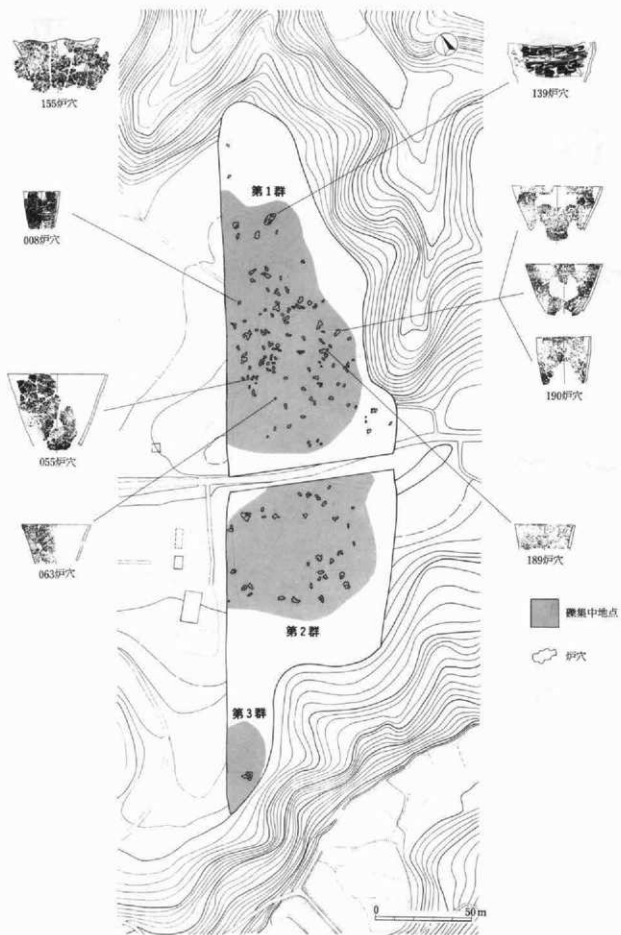
すなわち、縄文海進によって下総台地南部の袖ヶ浦台地や木更津台地は大きく海蝕により開析された。それに伴い、台地の下位に堆積する南総砂礫層や市原砂礫層が海蝕崖や河川沿いに露頭した。縄文時代早期の人たちは、台地縁辺に広がる多量の砂礫層を容易に入手することが可能になり、礫群の礫として用いることになる。

この現象は、縄文海進により海蝕され、台地の下位に砂礫が露頭される環境の地域で起こり得たと考えられ、千葉県では、利根川の縁辺に立地する佐原市側高遺跡や成田市新東京国際空港の遺跡群においても、縄文時代早期の礫群が形成されている。縄文文化の研究が、住居跡などの遺構や縄文土器研究に主眼が置かれる傾向がある。しかしながら、その中において、縄文時代の礫群については、意識的に調査をする必要があるといえよう。まして、縄文時代早期は、住居跡や掘り込みをもつ遺構の検出例が少なく、縄文時代早期の集落等を検討する要素が乏しい。このような状況下で、礫群にもっと焦点を当て、縄文早期の集落復元にアプローチする必要があると思われる。

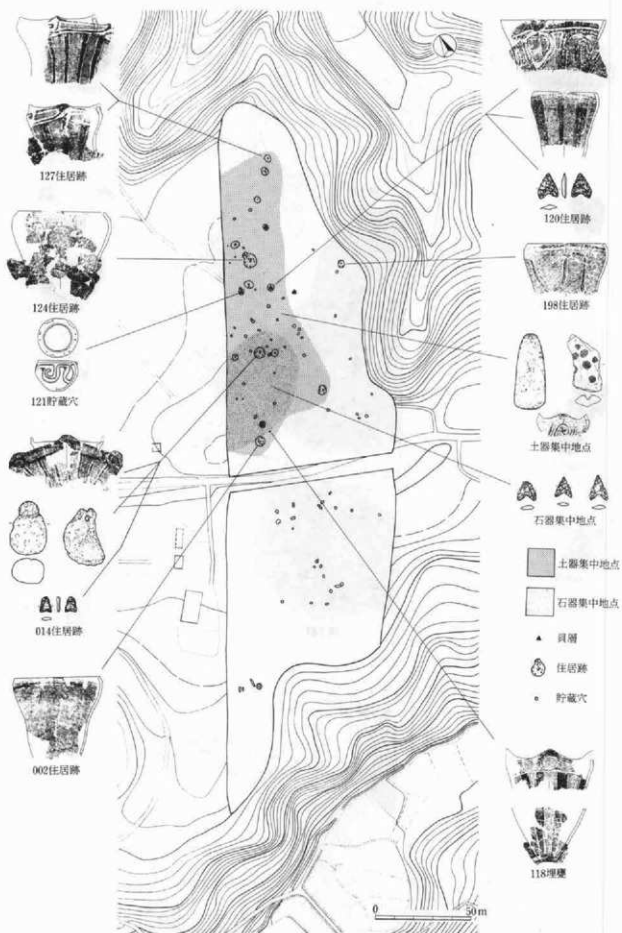
第4節 海保野口遺跡における縄文時代中期の集落形成

1 縄文時代中期加曾利E式期の集落の概要

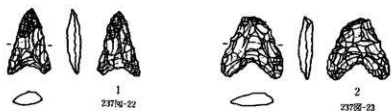
第272図が縄文時代中期加曾利E式期の集落を推定復元したものである。調査区北側には、住居跡と貯蔵穴群が展開し土器の集中地点と重複する。黒曜石を主体とする剥片石器や磨製石斧・打製石斧がやや中央部よりに集中地点をもつ。このうち、石鏃・磨製石斧・打製石斧は石器再生が顕著に行われており、石器の使用頻度が高かったことが想定され、集落が拠点的な集落であったことが推察される。調査区南側は、



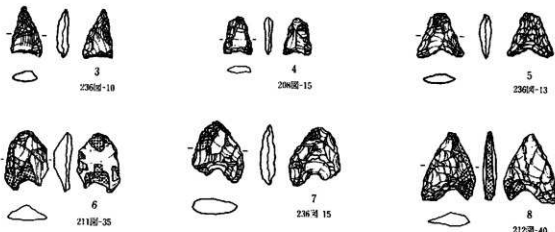
第271図 縄文時代早期の推定集落



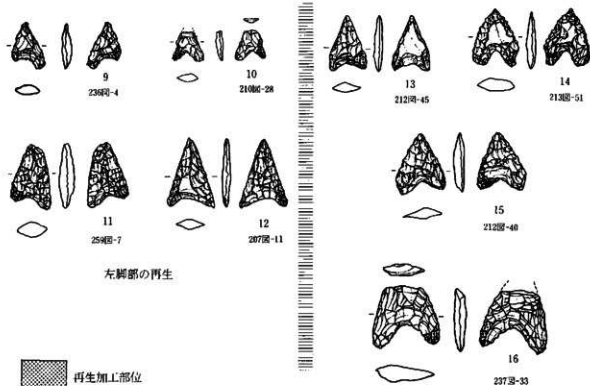
第272図 縄文時代中期の推定集落



先端部の再生



先端部・脚部の再生

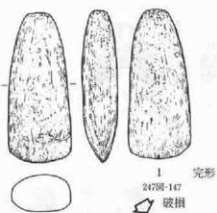


左脚部の再生

右脚部の再生

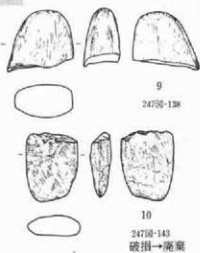


第273図 石鐮の再生加工

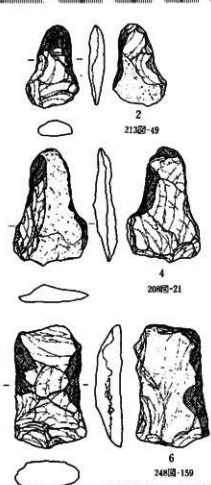
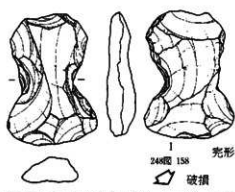


0 10cm

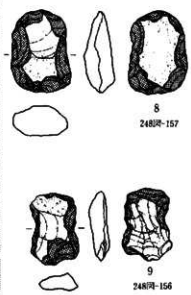
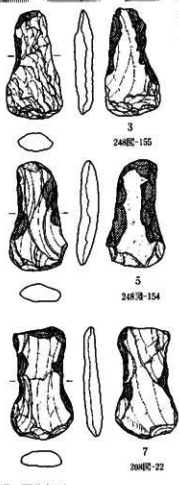
再生加工部位



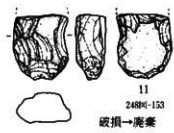
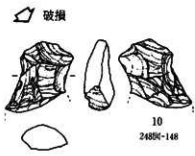
第274図 磨製石斧の再生加工過程



刃部破損あるいは胴部破損→再生加工



刃部と胴部破損(中間部残存)
再生加工



再生加工部位

第275図 打製石斧の再生加工過程

貯蔵穴と土坑群が展開するが、遺物は散漫に分布する。

2 石器の再生加工

海保野口遺跡で出土した縄文中期加曾利E式期に比定される石器は、頻繁に石器再生が行われていることが観察された。ここでは、器種別に再生加工をみていくことにする。再生加工が行われたと推定した根拠は、完形品が数点ある中で、左右非対称になるものや長軸・単軸がねじれるものを抽出し、非対称・ねじれの部位の調整加工が最終段階で行われたものであるものを基本的に再生加工として認定した。再生部位は網掛けで図示した。

①石鏃の再生加工

第273図は石鏃の再生加工を推定したものである。石材は主に黒曜石が用いられており、他にチャートなどが用いられている。1・2は先端部が再生されている。3～8は先端部と脚部の両方再生加工されたものである。9～12は左脚部再生のもの、13～16は右脚部再生のものである。

再生加工の部位は脚部を再生したものの割合が高く、先端部と脚部の両方を再生するものの割合も高い。石鏃36点のうち再生加工が行われたと思われるものは21点（58.3%）もあり、この遺跡での石器の使用頻度と再生頻度が高かったことが推定される。

②打製石斧の再生加工

第274図は磨製石斧の再生加工過程を推定復元したものである。1は完形品である。2・3は刃部を再生したものの、4は頭部と刃部の両方を再生したものの、5・6は頭部を再生したものである。7・8は再生加工の際に剝離された再生剥片である。9・10は破損して廃棄されたものである。磨製石斧は完形品の割合が非常に低く、かなり小型になるまで再生加工を行って使用していることが観察される。このことは、磨製石斧の石材が蛇紋岩など入手することが困難で貴重な石材を用いていることに起因していることが推察される。

③打製石斧の再生加工

第275図は打製石斧の再生加工過程を推定復元したものである。1は完形品で分銅形である。2～5は頭部あるいは刃部再生したもので撥形である。6・7は頭部あるいは刃部を再生したもので短冊形である。8・9は頭部と刃部の両方を再生加工したもので短冊形である。10・11は破損して廃棄されたものである。

打製石斧は再生加工が行われるにしたがって順次形態変化していることが推察される。完形品としては分銅形を製作・使用し、破損すると撥形に再生加工させ、最終的には破損の部位が大きいと短冊形へと再生加工させるという過程が抽出できる。すなわち、分銅形→撥形→短冊形へと順次形態変化させるという再生加工過程が推定される。

3 集落の形態

石器の再生加工が頻繁に行われていることが推定された。また、遺構では、住居跡の拡張を行ったものもあり、多くの貯蔵穴で集落が構成されている。このことから、縄文時代早期条痕文期の集落が炉穴と礫群のみで構成されているのに対して、縄文時代中期加曾利E式期の集落は拠点的な集落であったことが推察される。

註1 野口行雄 『打越岱遺跡』（財）君津都市文化財センター発掘調査報告書第41集 1993年

註2 石田広美 『君津広域水道用水供給事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一角山遺跡・深城遺跡・飯富遺跡・

苗見作遺跡—」 君津広域水道企業団 1980年

註3 浜崎雅仁 『美生遺跡群Ⅰ 第1地点』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第70集 1993年

註4 浜崎雅仁 「君津地域における縄文時代の礫群研究の現状」『研究紀要VI』 1993年 (財)君津都市文化財センター

註5 井口 崇 『中六遺跡』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第22集 1987年

註6 山本哲也 『西萩原遺跡』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第30集 1989年

註7 大崎紀子 『小谷遺跡発掘調査報告書』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第72集 1992年

註8 稲葉昭智 『大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅱ—二又堀遺跡・大竹古墳群—』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第83集 1993年

註9・10 註4に同じ

註11 井口 崇他 『林遺跡』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第24集 1987年

註12 安藤道由 『かずさアカデミアパーク建設に伴う埋蔵文化財調査報告書(4)—上ノ山A・上ノ山B・下根田A・下根田B・御所塚遺跡—』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第115集 1996年

註13 安藤道由 『かずさアカデミアパーク建設に伴う埋蔵文化財調査報告書(3)—兎谷・上時田・下時田・向台木・台木B遺跡—』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第114集 1996年

註14 安藤道由 『かずさアカデミアパーク建設に伴う埋蔵文化財調査報告書(1) 台木A遺跡』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第102集 1995年

註15 註13に同じ

註16 註2に同じ

註17 小高幸男 『宮脇遺跡』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第32集 1992年

註18 浜崎雅仁 『千葉県木更津市千東台遺跡群確認調査報告書』 木更津市教育委員会 1990年

註19・20 註4に同じ

註21 浜崎雅仁 『千葉県木更津市大畑台遺跡群確認調査報告書』 木更津市教育委員会 1991年

註22 小高幸男 『天神前遺跡発掘調査報告書』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第62集 1992年

註23 実川 理 『千葉県君津市内遺跡群発掘調査報告書 寺の台遺跡・豊田遺跡・丹後塚古墳・和田古墳』 君津市教育委員会 1990年

註24 佐伯秀人 『星谷上古墳・畑沢遺跡(第2次調査)』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第43集 1989年

註25 戸倉茂行 『東天王台遺跡』 (財)君津都市文化財センター発掘調査報告書第39集 1988年

註26 酒巻忠史 『千葉県富津市内遺跡群発掘調査報告書 富士見台遺跡』 富津市教育委員会 1991年

註27 新田浩三 『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅶ 佐原地区4 多田遺跡・側高遺跡・富士塚台遺跡・六ノ台遺跡・大塚遺跡・角ノ谷遺跡・下小野遺跡』 (財)千葉県文化財センタ調査報告書第207集 1992年

註28 新田浩三 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 取香和田戸遺跡(空港No60遺跡)』 (財)千葉県文化財センタ調査報告書第244集 1994年

註29 新田浩三 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ 一畝田甚兵衛山北遺跡遺跡(空港No11遺跡)』 (財)千葉県文化財センタ調査報告書第264集 1995年

註30 松島義章 「貝類群集による完新世の環境変遷—横浜南部金沢八景の干潟湾を例にして—」『関東平野 第4

号] 1996年

註31 藤原文夫 「養老川」『市原市史 別巻』 市原市教育委員会 1979

註32 五井 (ファイル名534020.mem) と姉崎 (ファイル名534010.mem) 原因 昭和49年修正測量 1:25,000
地形図 1994年

註33 VISTAPRO ユー・アイ・ソフト株式会社

註34 木村泰治 「市原市の地形と地質」『市原市史 別巻』 市原市教育委員会 1979

註35 日本道路公団東京第一建設局 「東関東自動車道千葉木更津線 海保地区土質調査 総括報告書」 1985年

第5節 海保野口遺跡検出の貝層ブロックについて

1 貝層ブロックの調査方法と概要

貝層ブロックの規模

発掘調査において、住居跡覆土3ヵ所、小竪穴覆土2ヵ所、合計5ヵ所から面積が0.1㎡から1.0㎡という小規模な貝層ブロックを検出した。

貝層の分布状況

貝層ブロックを検出した遺構の分布は、調査区北側に集中する住居跡の分布のほぼ中程に集中する。

貝層ブロックの形成時期

貝層ブロックを検出した遺構の時期が中期後葉から終末であり、また貝層ブロックも遺構廃絶後あまり時間を経ずに形成されたものと思われるため、貝層も遺構の時期とほぼ同様の時期に形成されたものと考えられる。

調査の方法

検出された貝層ブロックの規模が小さかったため、コラムサンプルによる採取方法を取らずに、分布範囲と堆積状況の記録後全量を持ち帰った。

2 貝層ブロックの整理方法と概要

持ち帰った資料は、重量を測定した後、9.5mm、4mm、2mm、1mm、0.5mmの5種類のフルイで水洗し、乾燥後各フルイごとに収納して重量を測定した。なお、内容物については、9.5mm、と4mmのものについてのみ同定・集計した。

貝層ブロックの内容物組成

内容物組成については、第8表と第9表に示したが、混土率に関していえば十分な乾燥をせずに重量を測定したため、やや高い値になっていると思われる。また、骨角貝製品や魚骨は検出できなかったが、フジツボとカシバンウニを若干検出した。

貝層ブロック出土の軟体動物

資料番号	遺構番号	遺構内容	時期	貝層面積 (m ²)	総重量 (g)	フルイ水洗後 残留物重量 (g)	土壌重量 (g)	湿土率 (%)
1	117	住居跡	中期後半	1.0	167,460	79,495	87,965	53
2	120	住居跡	中期後半	0.1	6,250	1,112	5,138	82
3	121	小堀穴	中期後半	0.2	7,740	2,766	4,974	64
4	128	住居跡	中期後半	0.2	11,560	4,333	7,227	63
5	149	小堀穴	中期後半	0.8	112,610	22,501	90,109	80
合計				2.3	305,620	110,207	195,413	64

第8表 貝層ブロック内容物組成 (1)

資料番号	貝 (g)	殻 (g)	獣骨 (g)	フジツボ (g)	カシバウニ (g)	炭化物 (g)	土 器 (g)	石 器 (g)	フレーク・チップ (g)	磚 (g)
1	70,165	—	—	1	—	4	235	—	1	122
2	508	—	—	—	—	2	178	2	—	9
3	2,385	—	—	3	—	—	33	—	1	5
4	3,835	—	—	—	—	—	—	—	—	2
5	19,285	1	—	2	2	19	268	—	1	121
合計	96,178	1	—	6	2	25	734	2	3	259

第9表 貝層ブロック内容物組成 (2) (9.5mmと4mmのフルイ水洗後残留物の内容)

資料番号	メッシュ (mm)	履 足 綱										弁 足 綱 (二 枚 貝 綱)										その他貝片	合計			
		イボキサゴ	ツメチガイ	アカニシ	ウミニナ	アラムシロ	バ イ	カワエナ	イボニシ	ハマグリ	ア サリ	シオフキ	カガミガイ	マ ガキ	オオノガイ	バカガイ	サルボウ	マナガイ	オキシジミ	ハイガイ	オキアカリ					
1	9.5	19,804	2,181	3,902	15	4	—	—	2,641	187	487	10	30	—	—	3	16	—	—	—	—	—	—	23	29,303	
	4	40,341	18	56	34	78	—	—	94	21	44	2	5	2	2	1	34	—	1	—	—	—	—	—	129	40,862
2	9.5	3	17	—	1	—	—	—	189	—	13	29	17	11	13	4	—	—	—	—	—	—	—	—	2	299
	4	155	2	1	2	3	—	—	11	3	1	9	3	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	15	209
3	9.5	244	15	4	—	—	—	—	430	76	110	—	16	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	920
	4	1,279	5	2	25	20	—	—	80	10	26	—	5	6	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	7	1,465
4	9.5	98	39	—	11	—	—	1	829	69	39	—	2	—	—	1	5	—	—	—	—	—	—	—	—	1,094
	4	2,614	—	—	29	27	—	—	41	11	8	—	1	—	—	2	1	—	—	—	—	—	—	—	7	2,741
5	9.5	4,646	43	6	17	2	2	4	3	2,264	3,111	622	6	8	18	21	—	10	—	—	—	—	—	—	7	15,10,805
	4	7,987	3	1	21	82	—	—	96	106	99	—	8	2	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	8,480
合計	9.5	24,795	2,295	3,912	62	6	2	4	4	6,445	3,443	1,276	45	71	56	34	7	17	15	—	7	41	—	—	41	42,599
	4	52,376	28	60	111	210	—	—	—	322	151	178	11	22	10	6	1	38	2	2	—	—	—	—	229	53,757

第10表 貝層ブロック軟体動物出土量 (g) (9.5mmと4mmのフルイ水洗後残留物の内容)

貝層ブロックから出土した軟体動物の出土量については、第10表に一覧として示したが、時間の関係で個体数ではなく重量を測定した。なお、同定できるものについては全て行い、小破片のため不明なもののみその他として分類した。

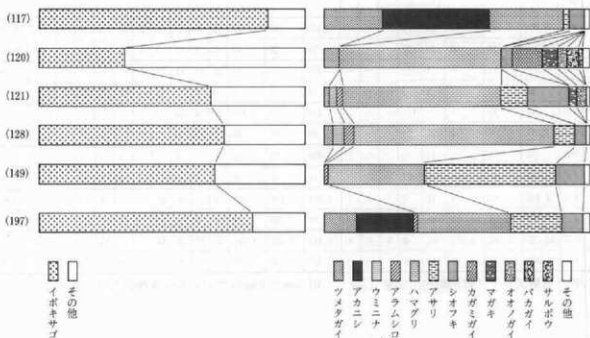
軟体動物門 Phylum Mollusca

腹足綱 Class Gastropoda

イボキサゴ	<i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i>
ツメタガイ	<i>Neverita (Glossaulax) didyma</i>
アカニシ	<i>Rapana thomasi</i>
ウミニナ	<i>Batillaria</i>
アラムシロ	<i>Hinia festiva</i>
バイ	<i>Babylonia japonica</i>
カワニナ	<i>Semisulcospira bensoni</i>
イボニシ	<i>Thais clavigera</i>

斧足綱 (二枚貝綱) Class Pelecypoda

ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
シオフキ	<i>Macra veneriformis</i>
カガミガイ	<i>Phacosoma japonicum</i>
マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i>
バカガイ	<i>Macra chinensis</i>
オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>
マテガイ	<i>Solen (S.) strictus</i>
ハイガイ	<i>Fegillarca granosa</i>
オキアサリ	<i>Gomphina (Macridiscus) veneriformis</i>
サルボウ	<i>Scapharca subcrenate</i>



第276図 貝層ブロック出土軟体動物出現量

3 まとめ

海保野口遺跡検出の貝層ブロックで同定できた貝類は20種類を数えるが、全体としてはイボキサゴが80%と圧倒的に多く、ついでハマグリが7%、以下アカニシ、アサリ、ツメタガイ、シオフキの順となっている。この6種で99%を占めることから、これらの貝を日常的に捕獲対象とし、食用にしていたと考えられる(第276図)。なお、本遺跡の北方200mには縄文時代中期から晩期の馬蹄形貝塚として知られる諸久蔵貝塚があり、本遺跡の縄文時代中期後半の集落は、諸久蔵貝塚を拠点とした集落の外縁部を形成していたものと考えられる。

写 真 图 版





調査前風景



第1ブロック



第3ブロック

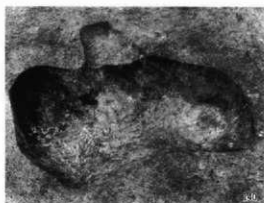
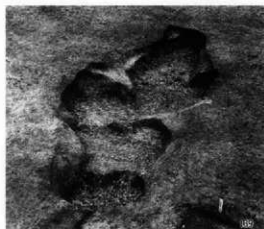


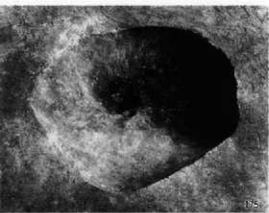
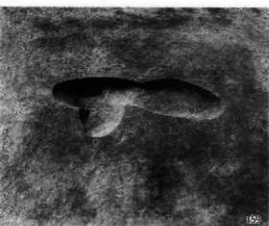
第2ブロック

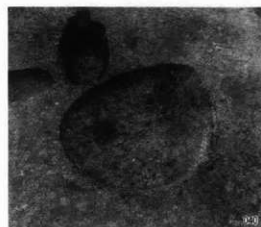


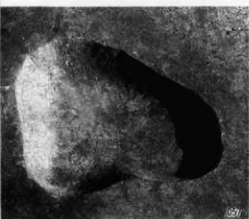
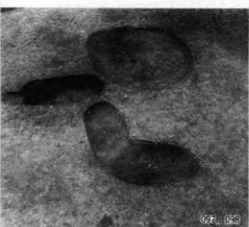
第4ブロック

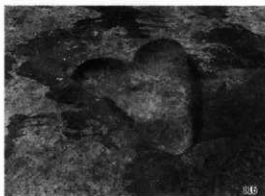
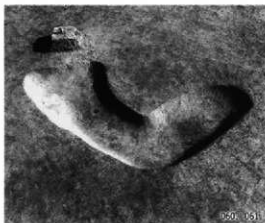


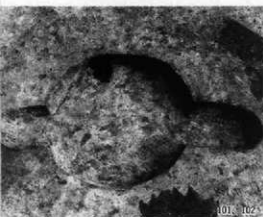
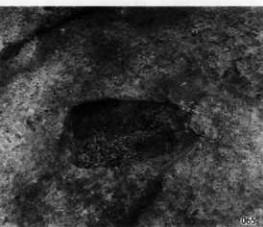
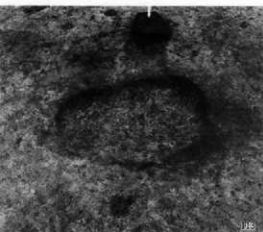




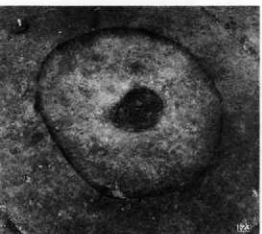
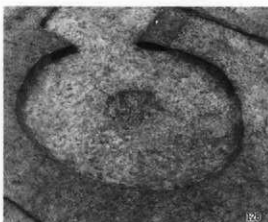
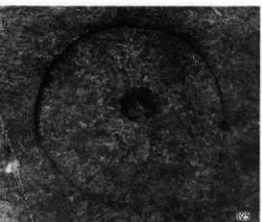


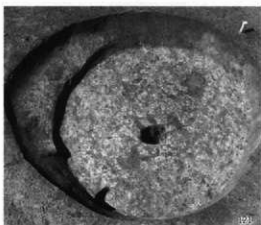
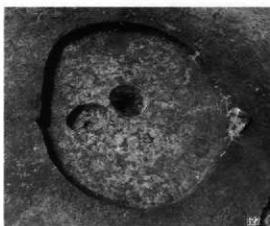


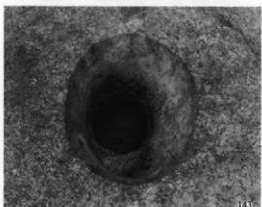
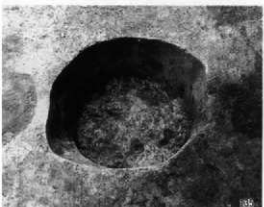


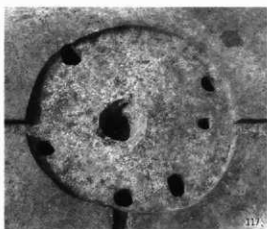


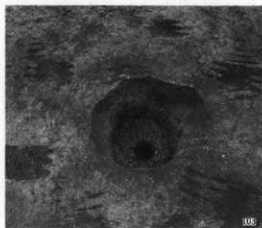
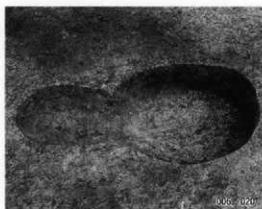
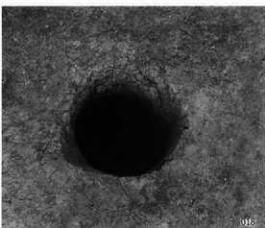


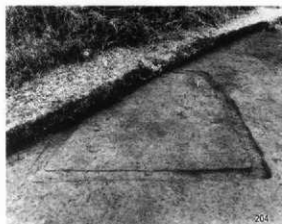
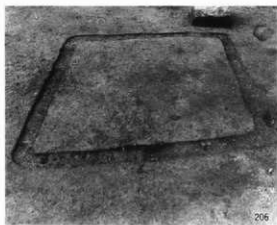


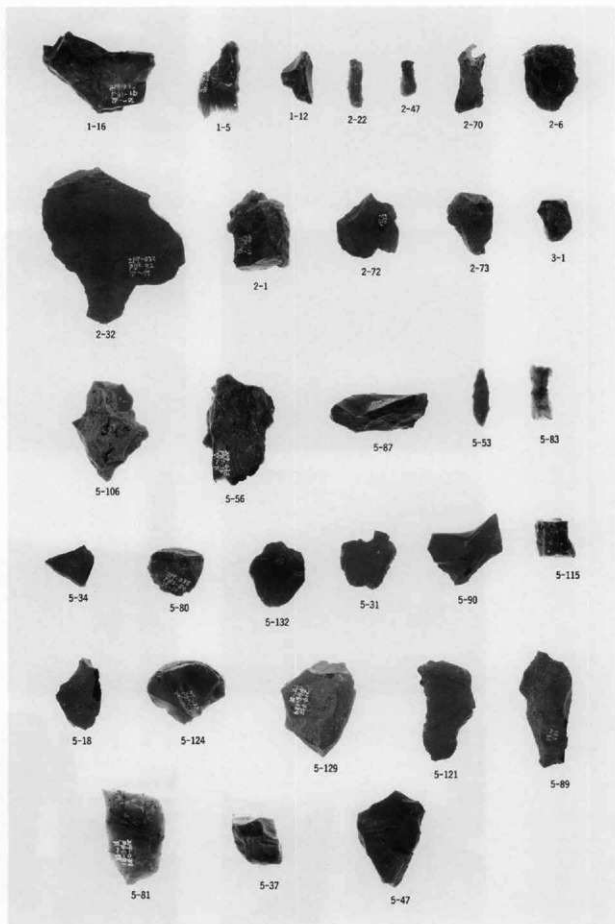


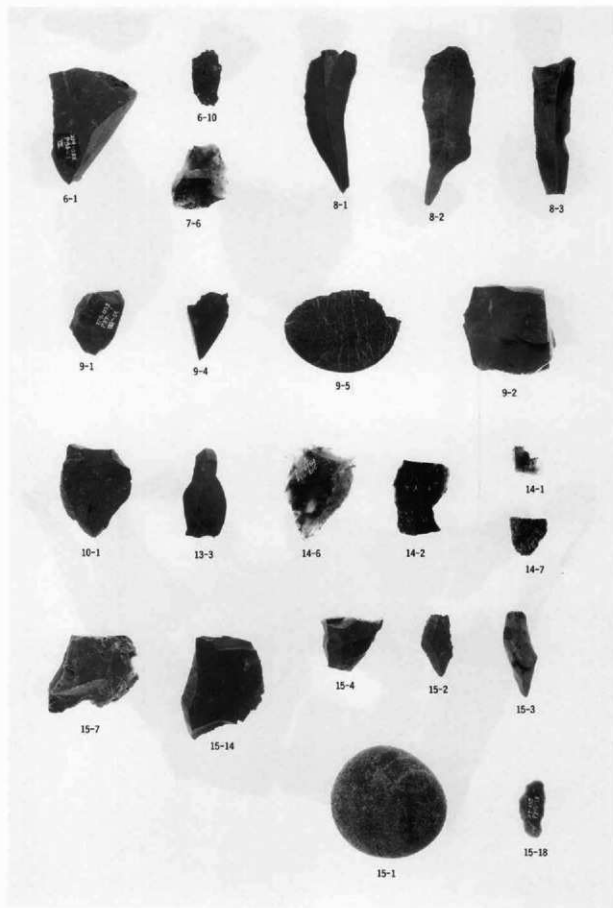


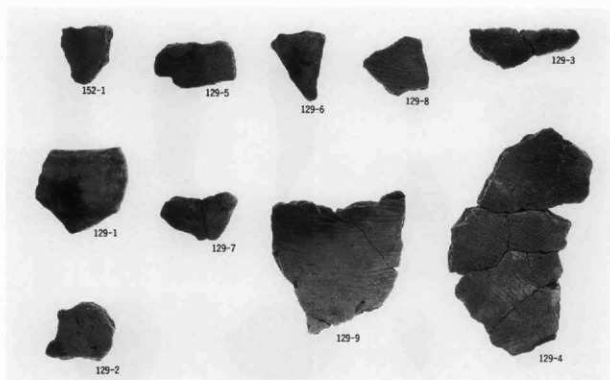


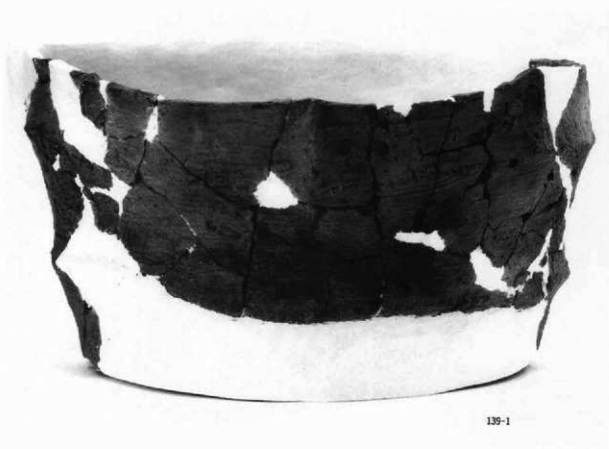
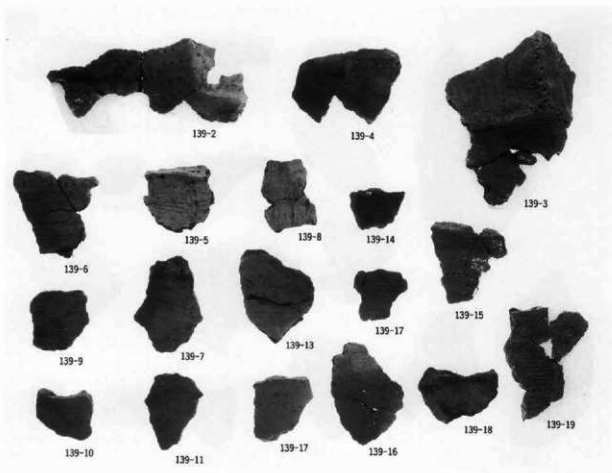


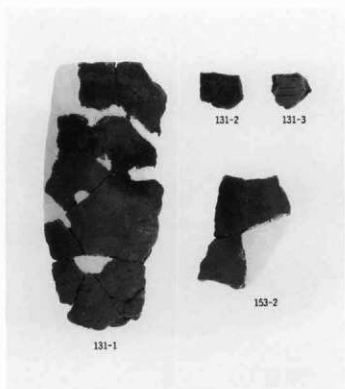
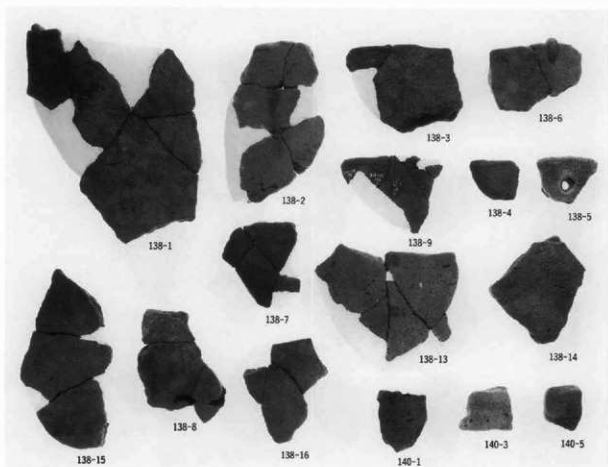


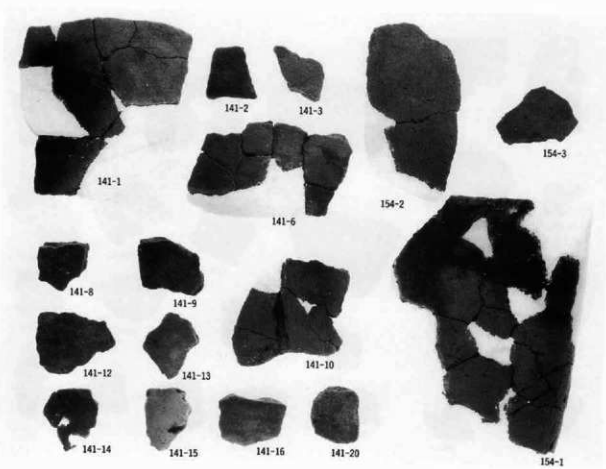
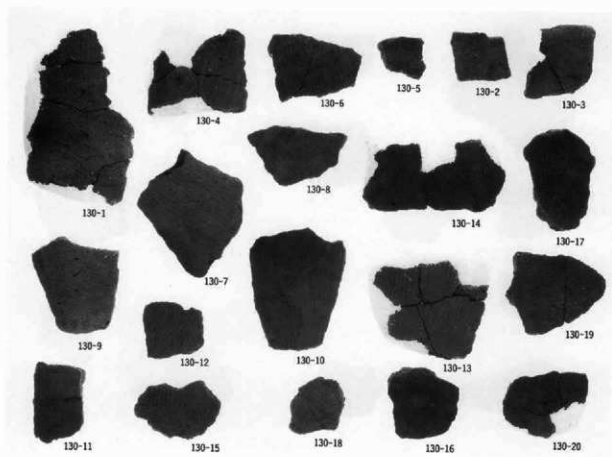


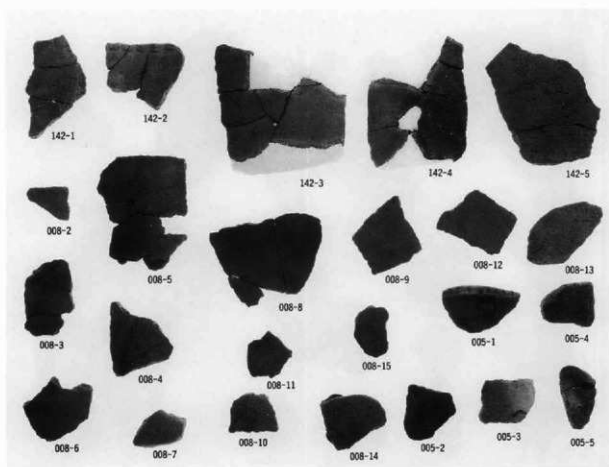
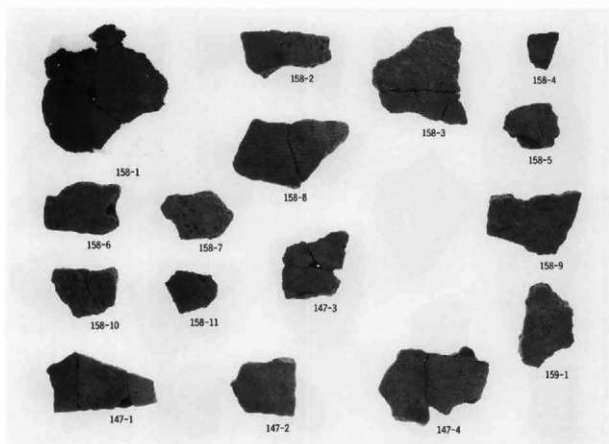


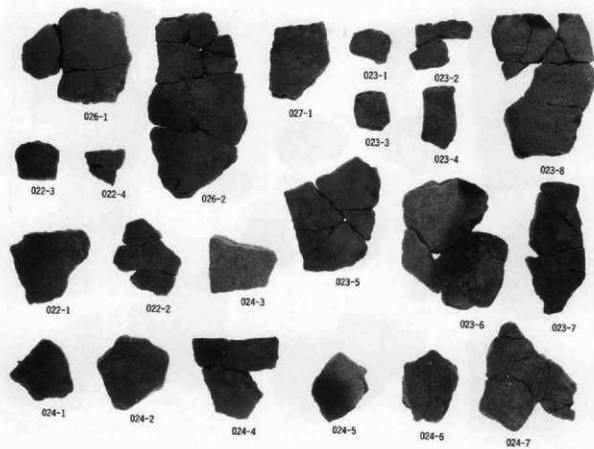
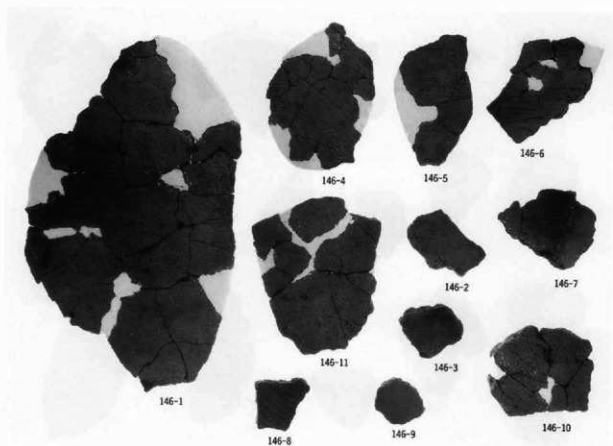


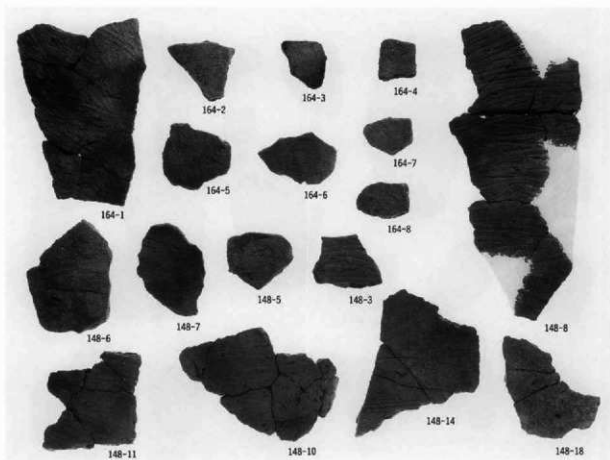
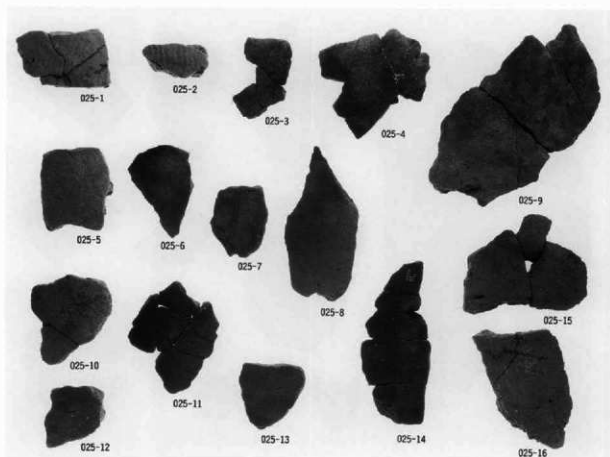


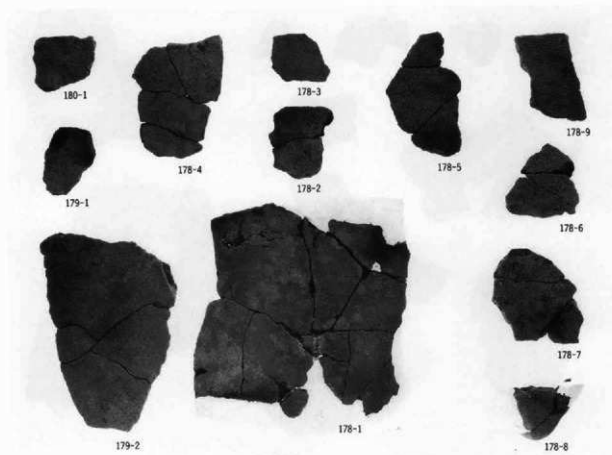
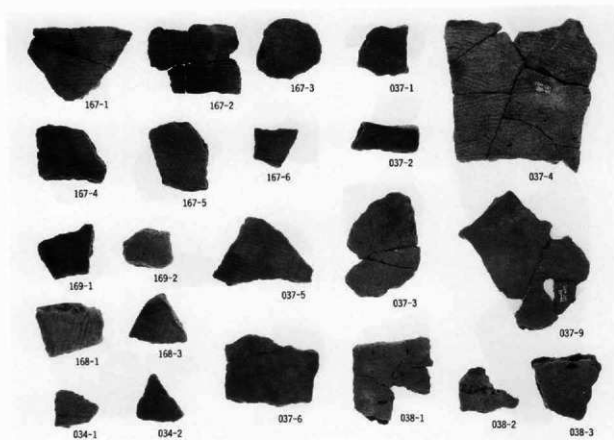


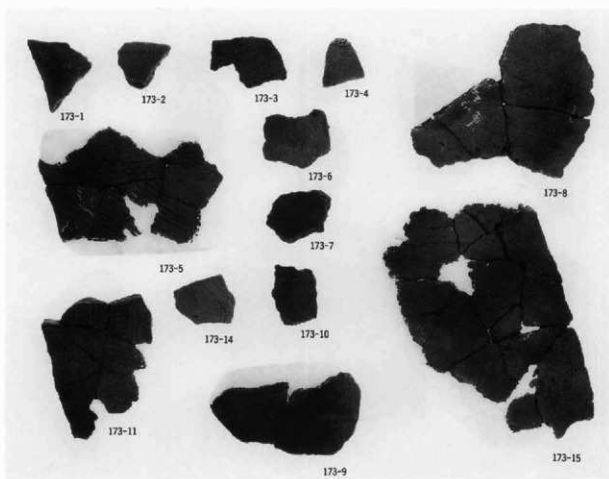
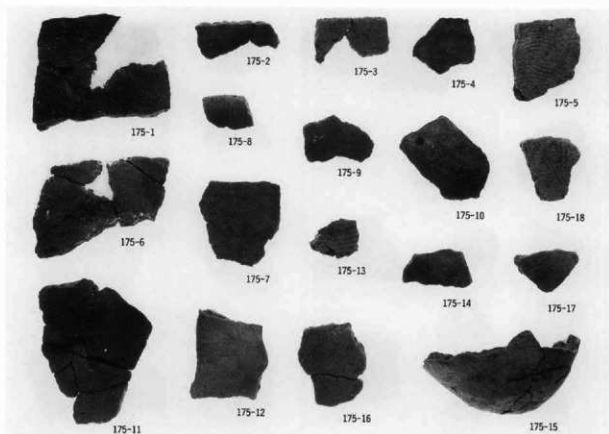


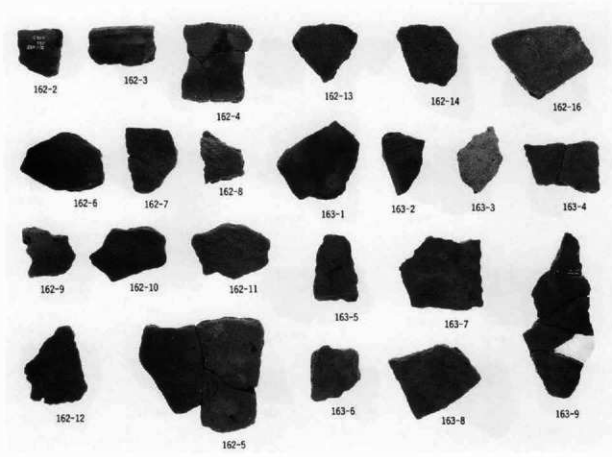
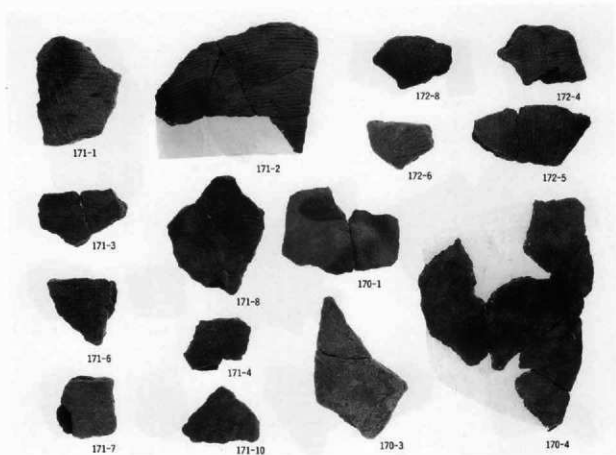


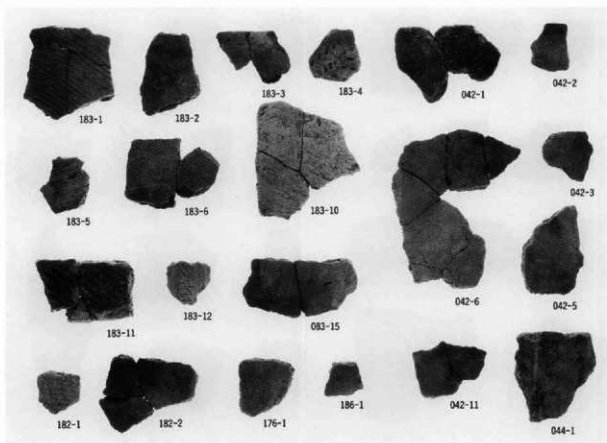
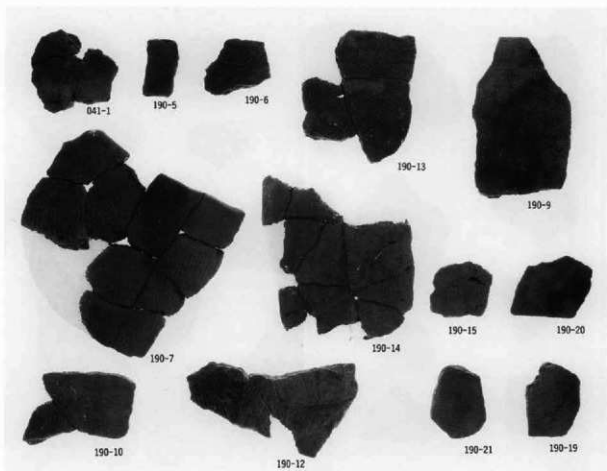


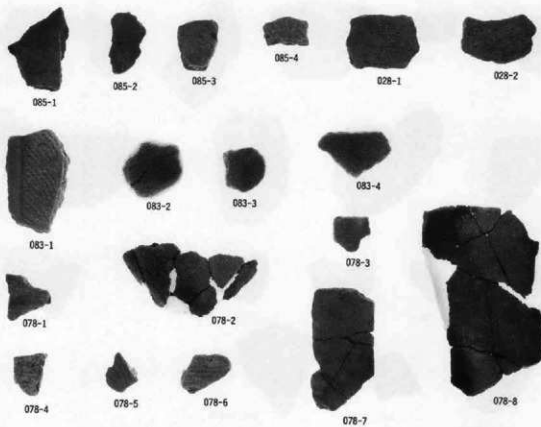
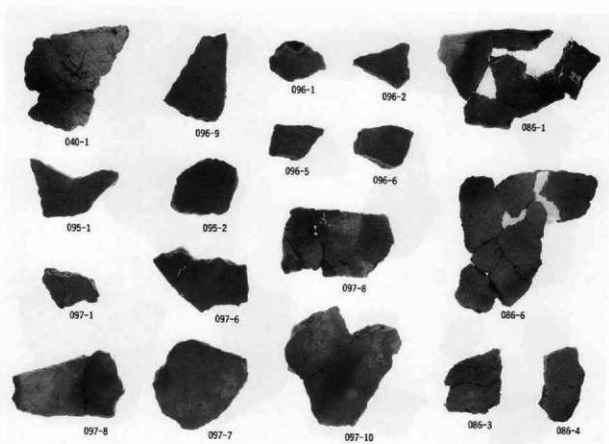


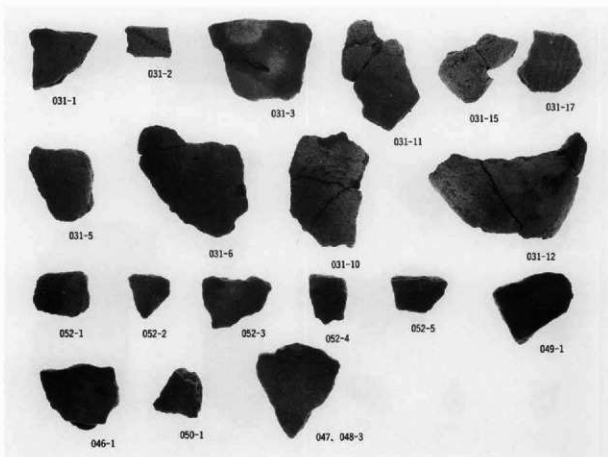
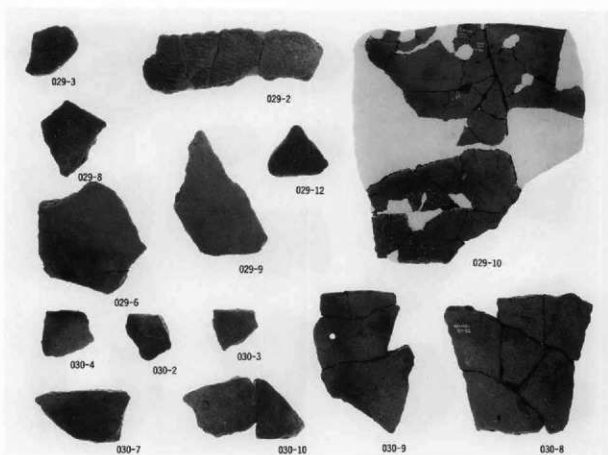


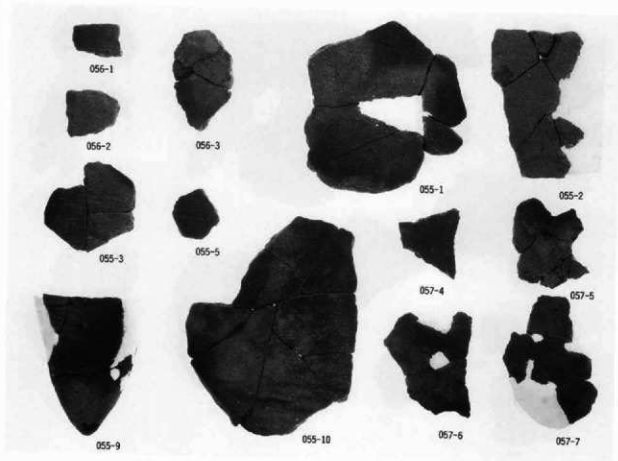
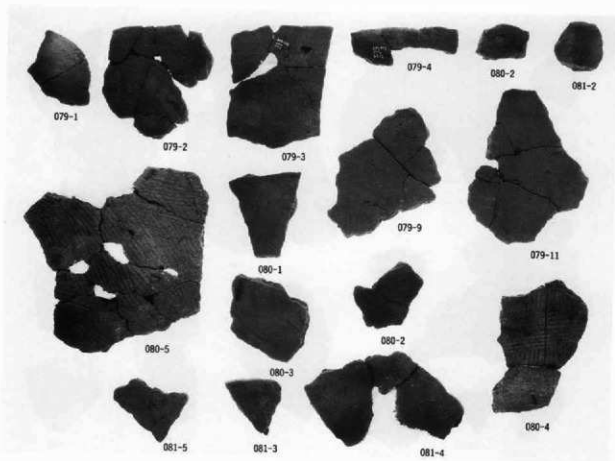


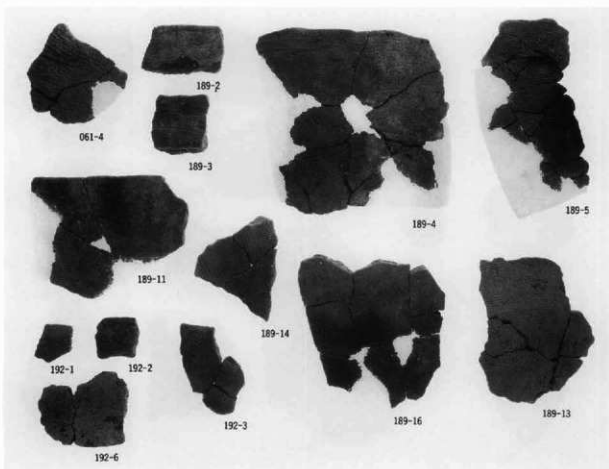
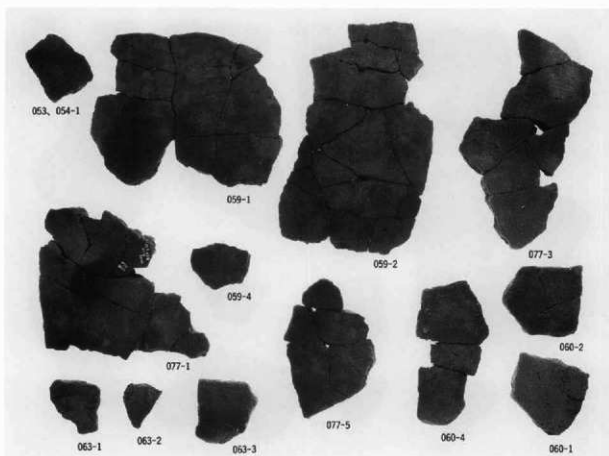


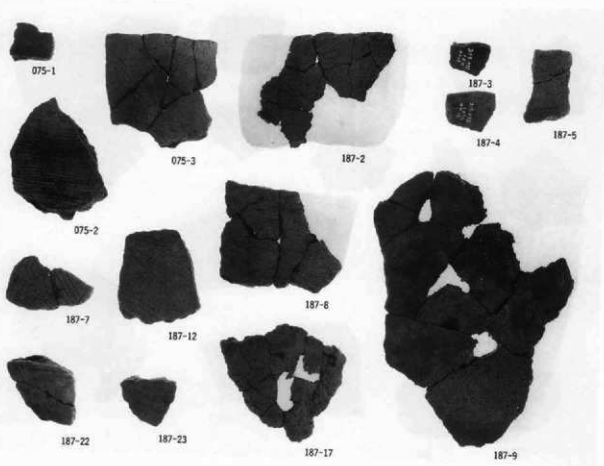
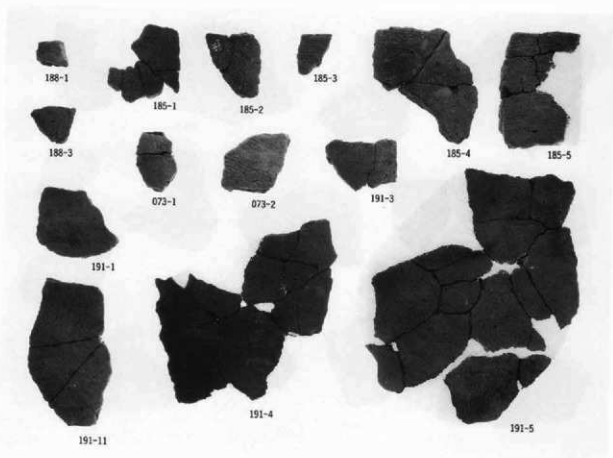


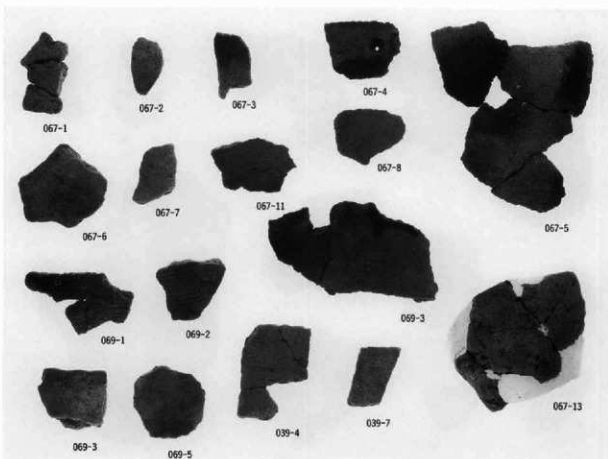
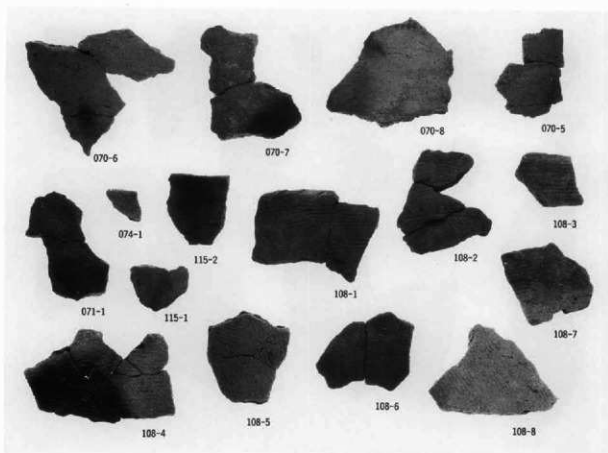


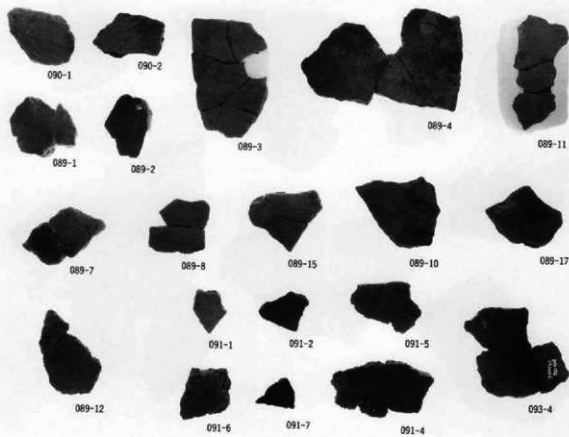
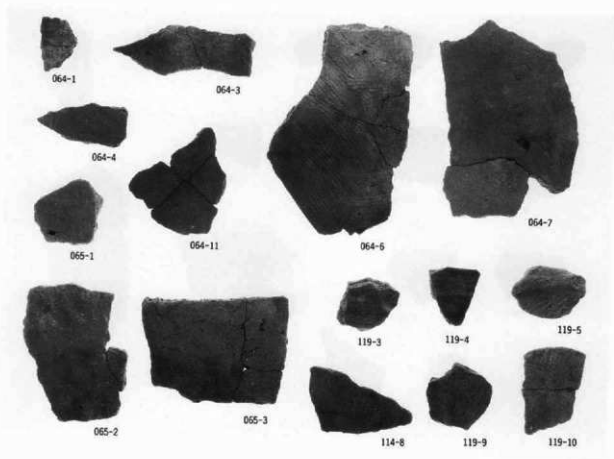


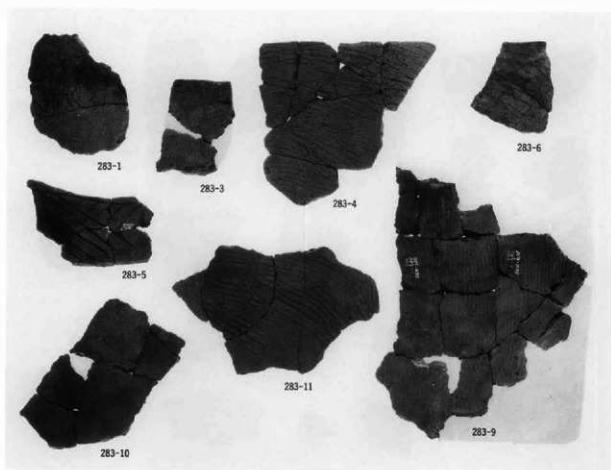
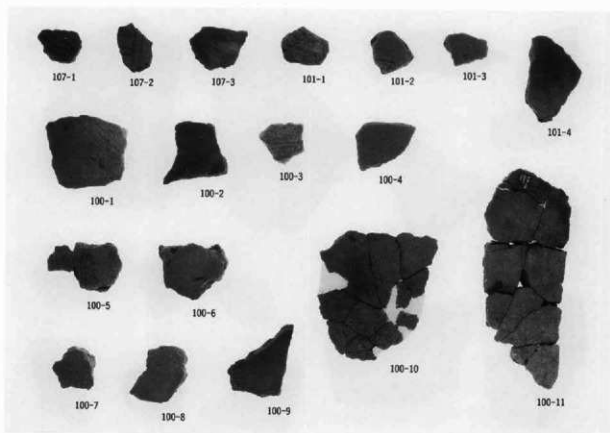














272-1



272-2



272-3



268-3



268-1



268-2



268-7



279-1



261-3



261-1



261-2



289-1



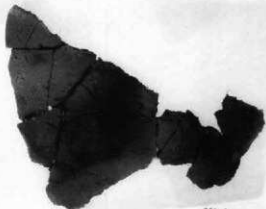
257-4



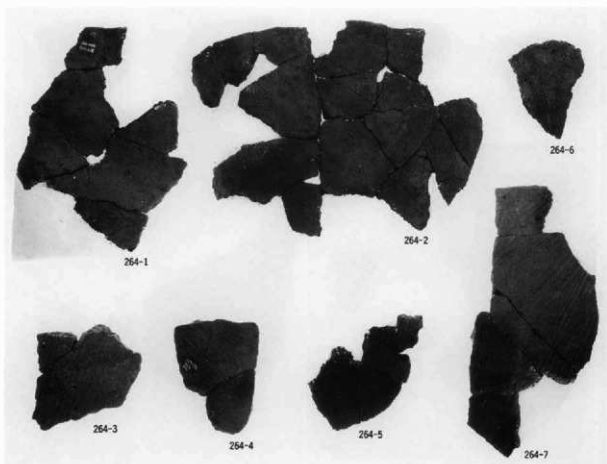
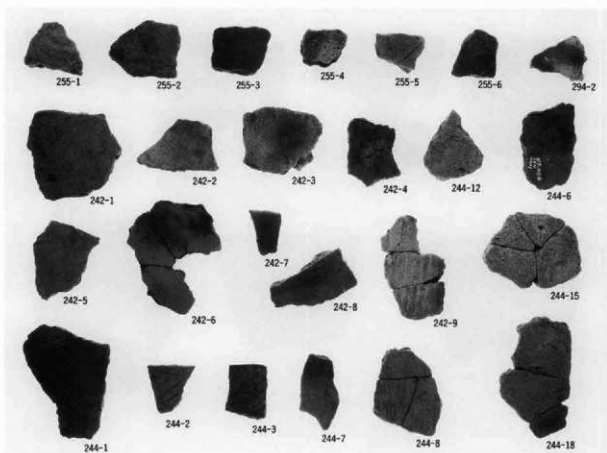
257-3

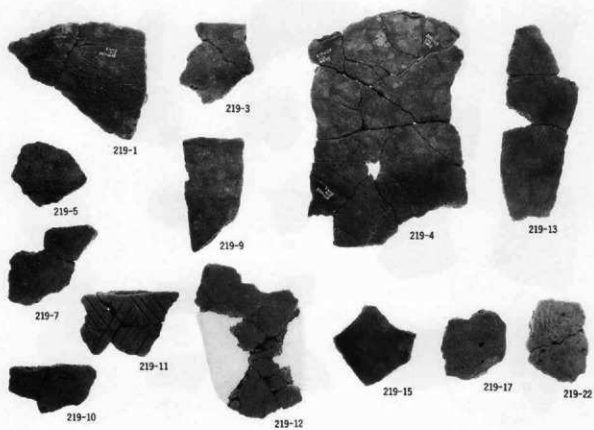
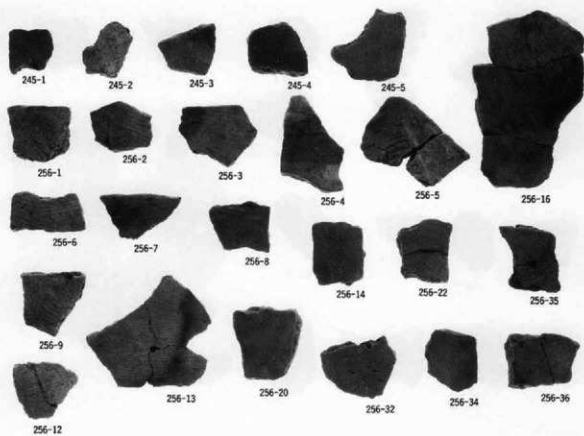


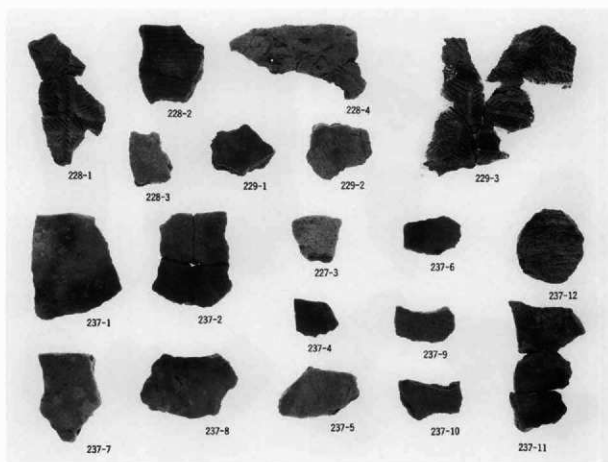
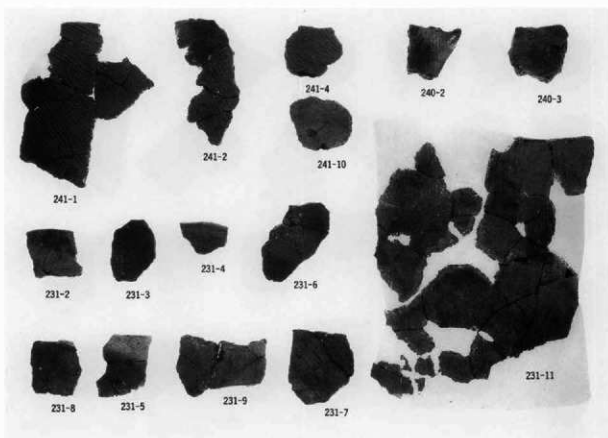
257-2

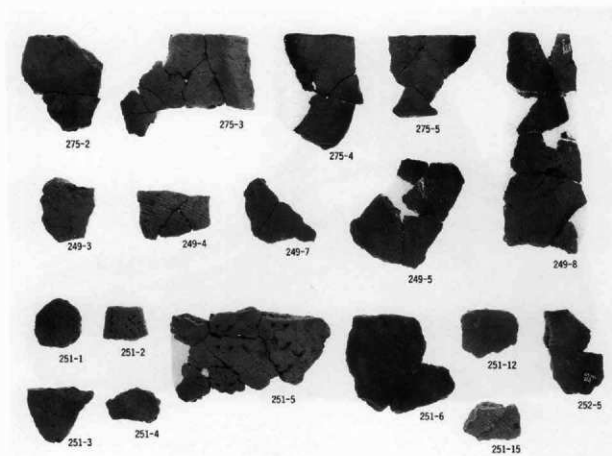
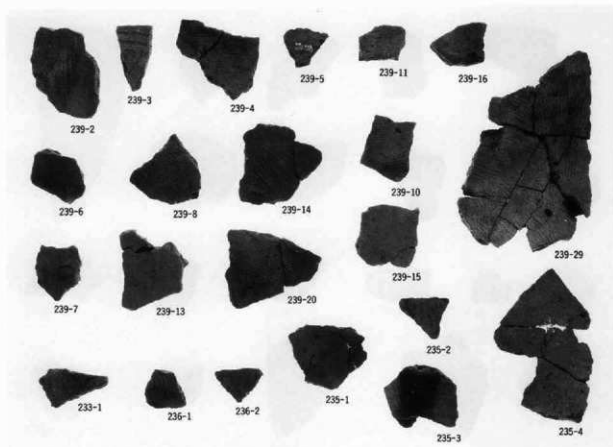


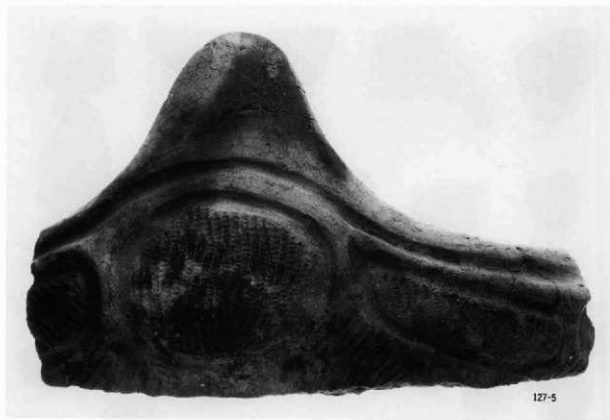
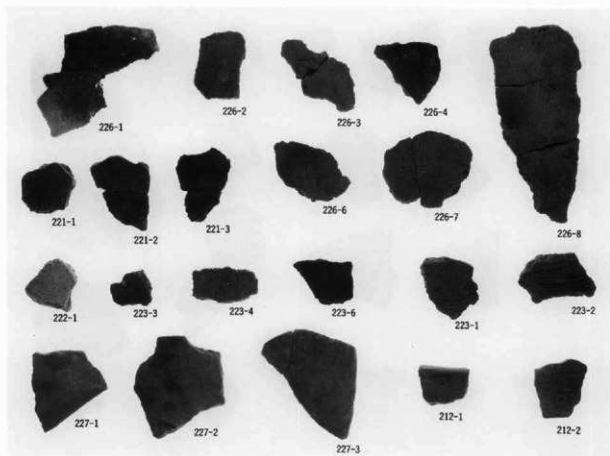
261-4









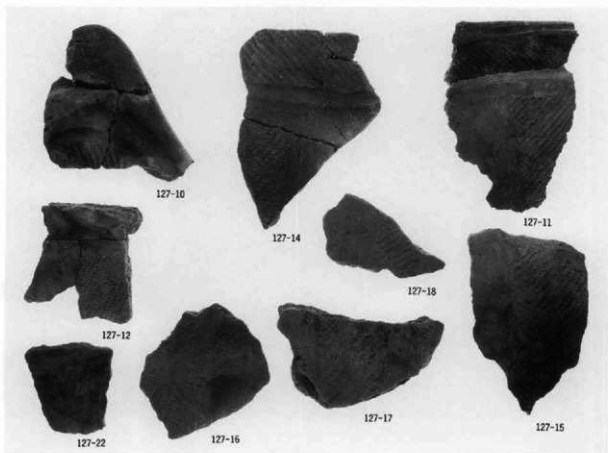




127-1



127-2

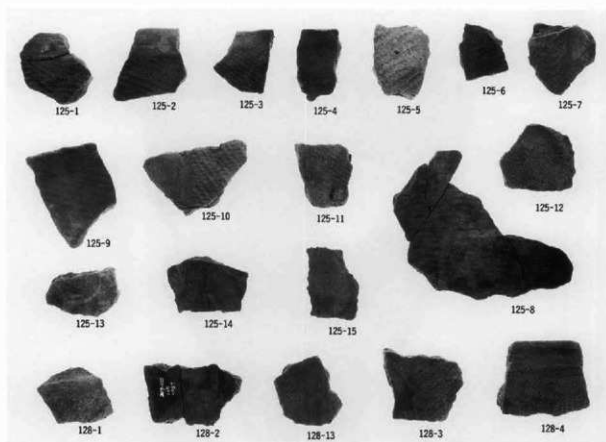
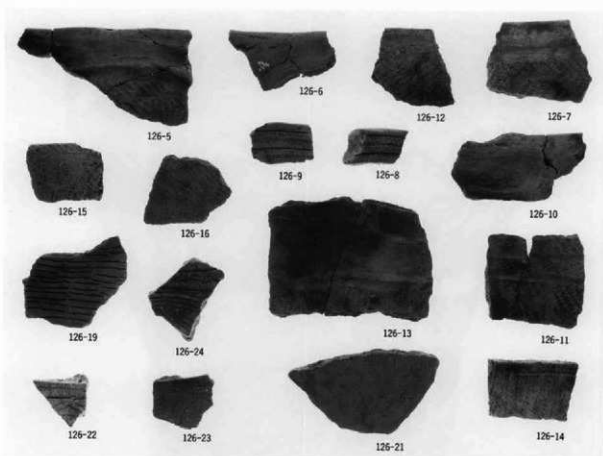


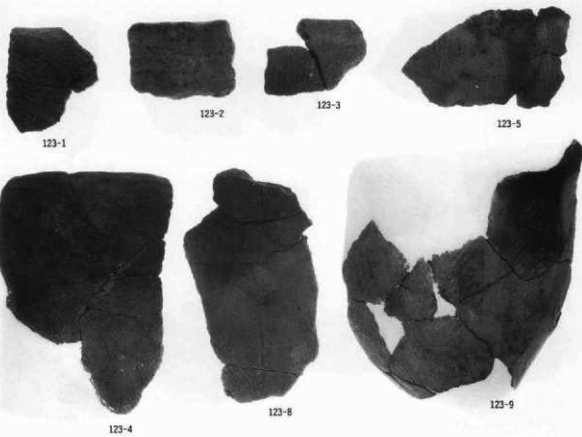


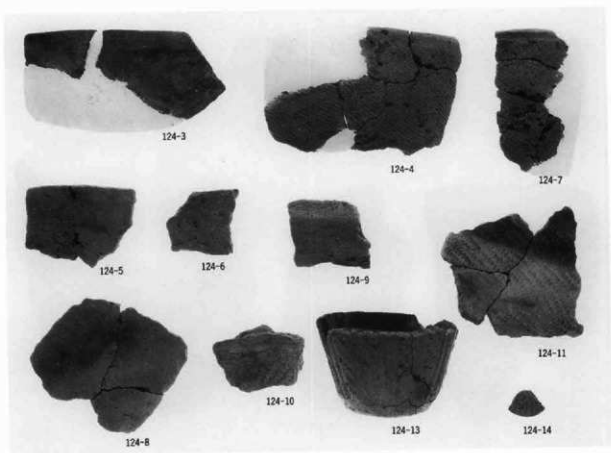
126-4

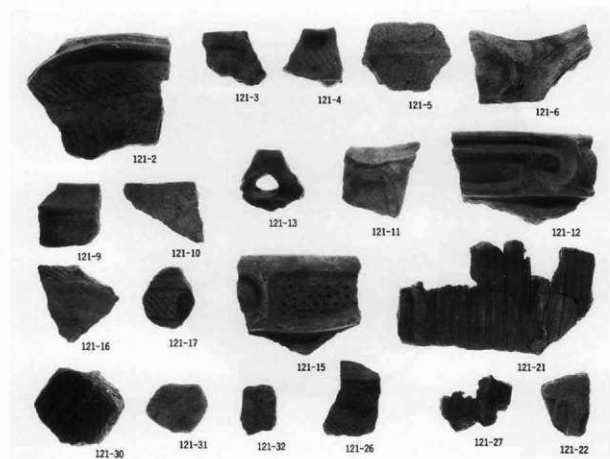
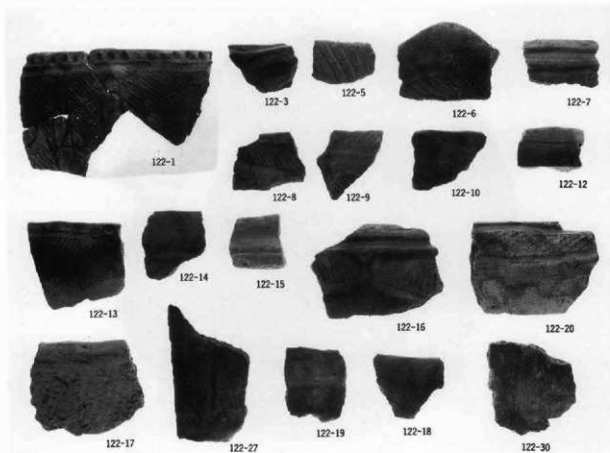


126-3











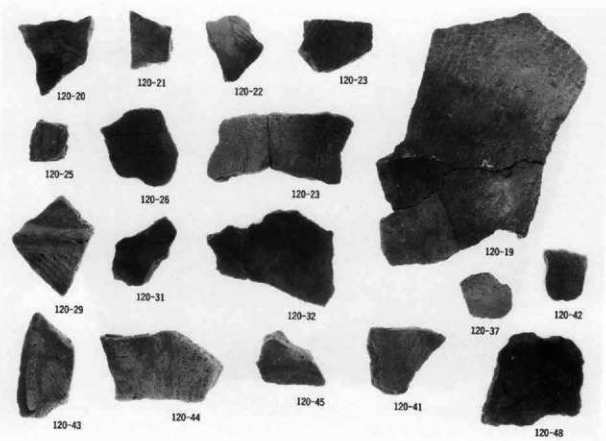
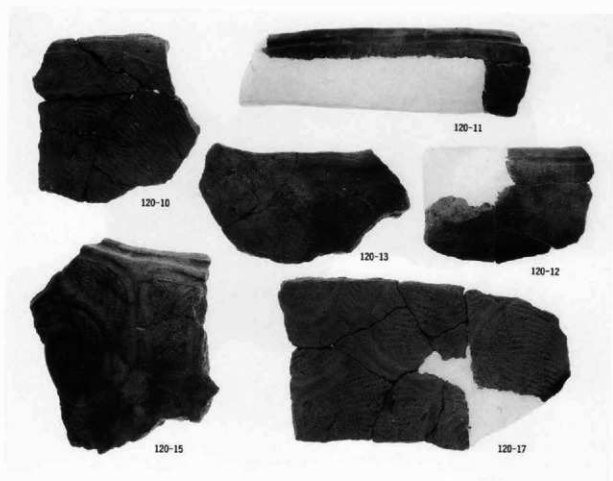


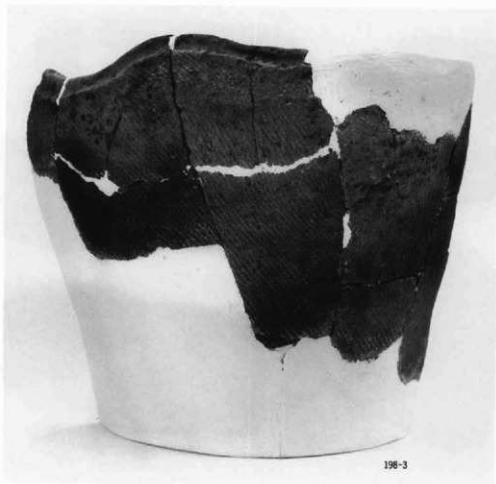
120-3



120-1





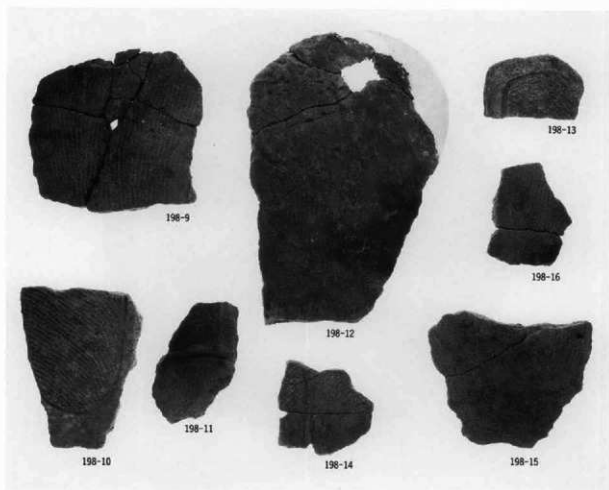
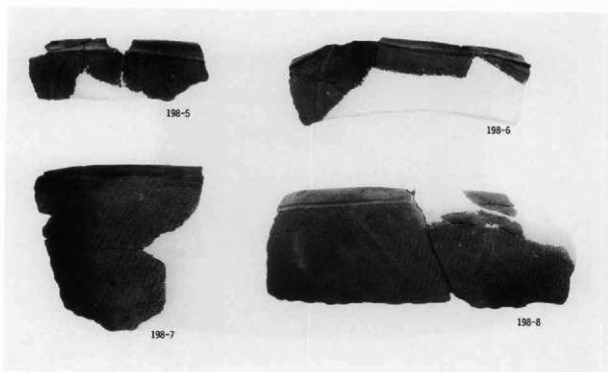


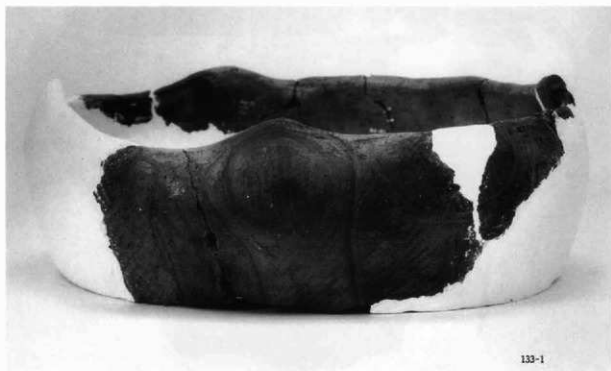


198-2

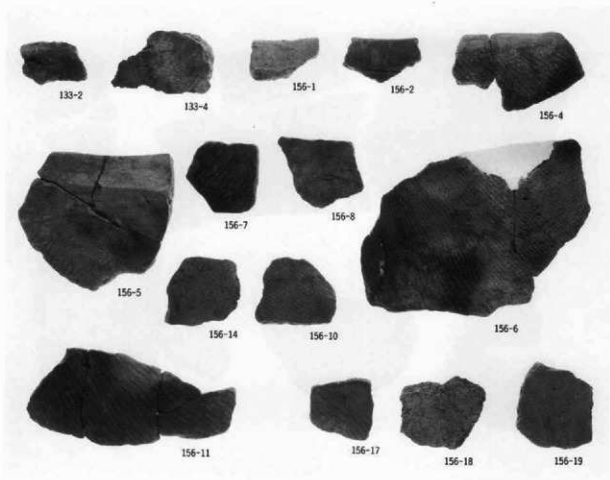


198-2



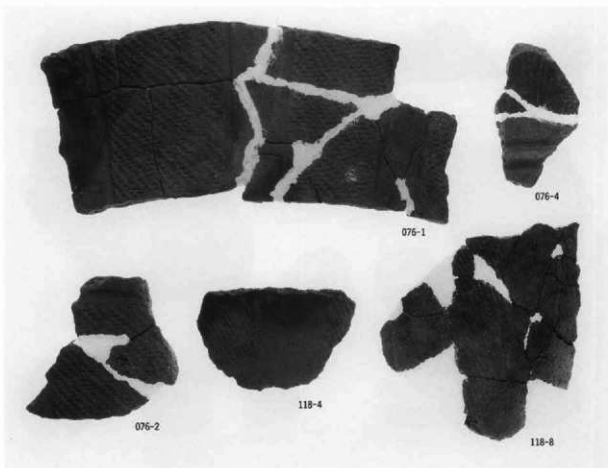


133-1





134-1



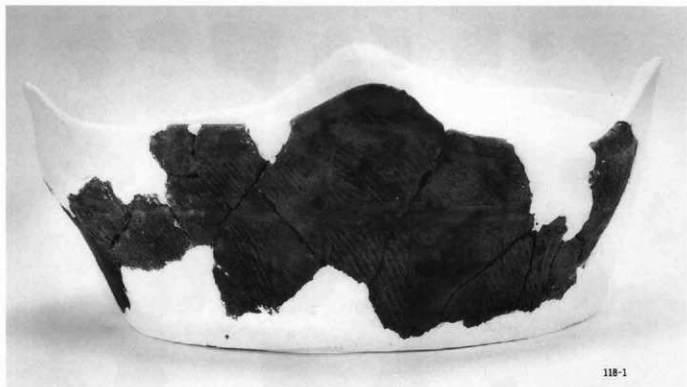
076-4

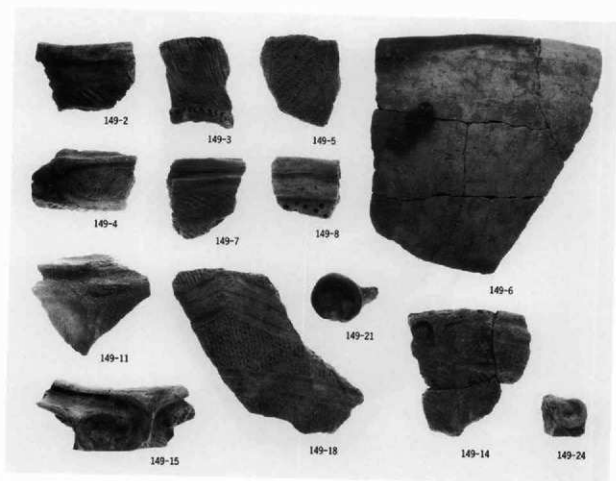
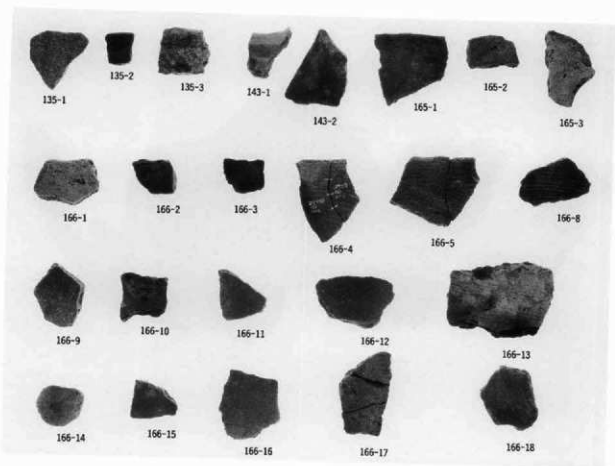
076-1

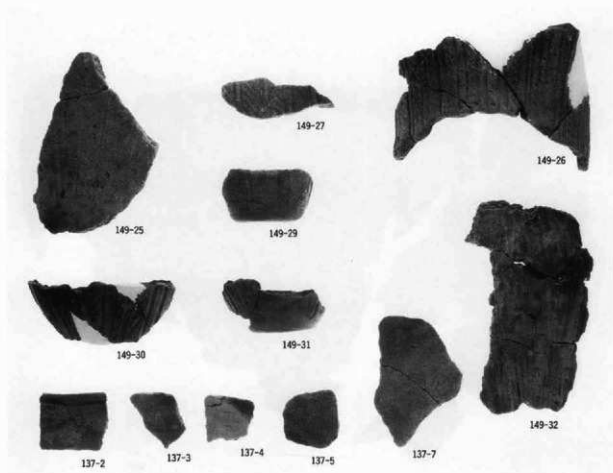
076-2

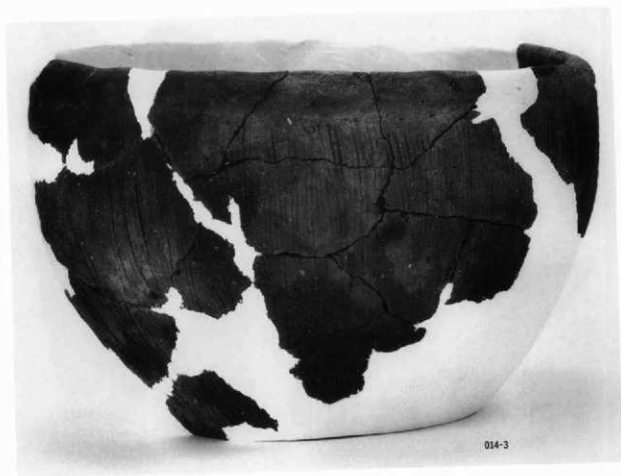
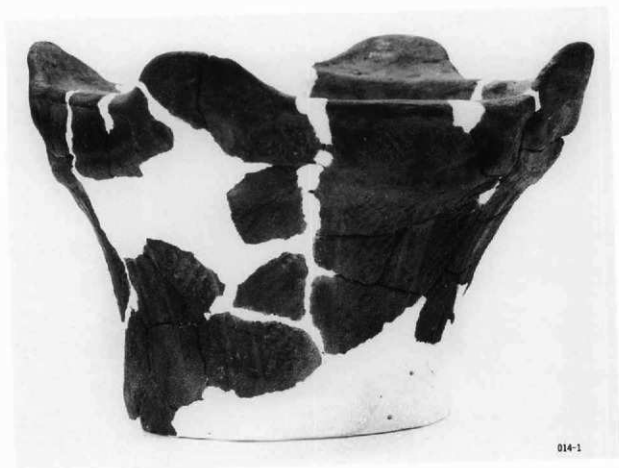
118-4

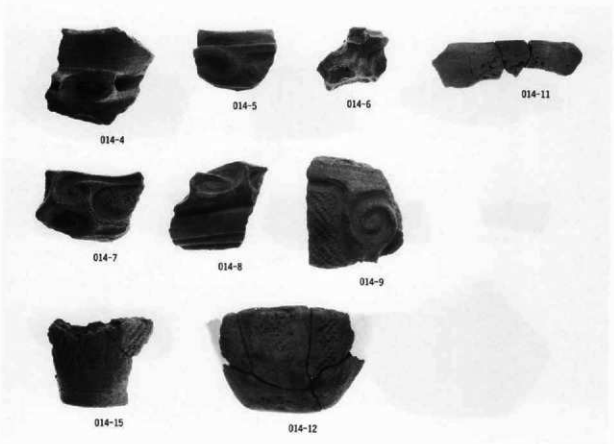
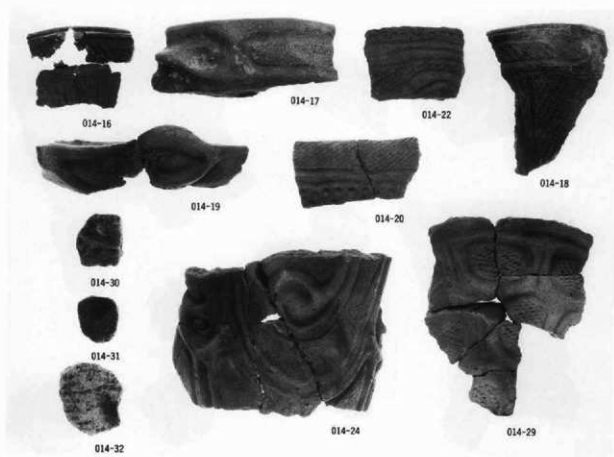
118-8

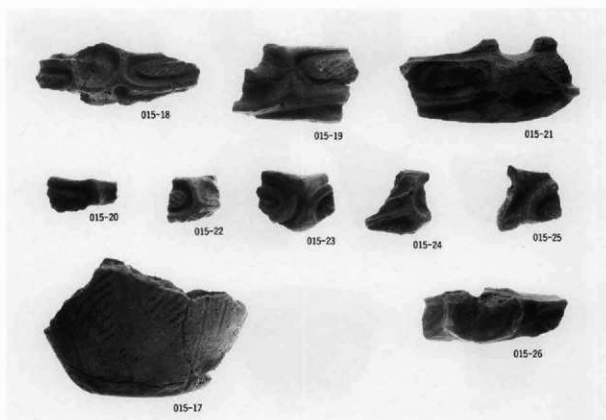
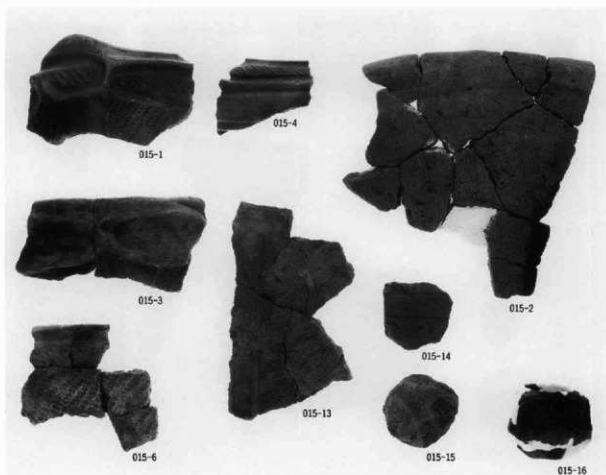


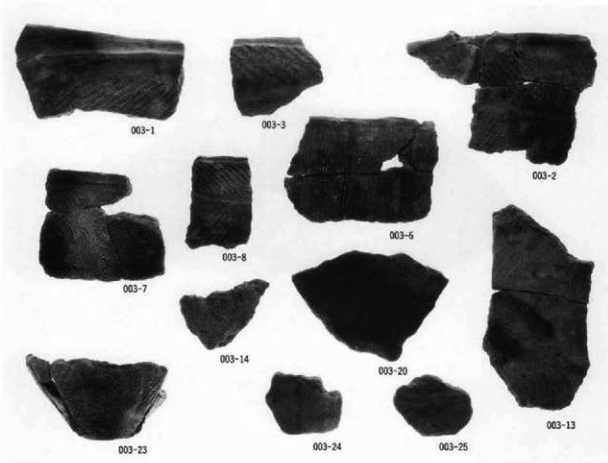
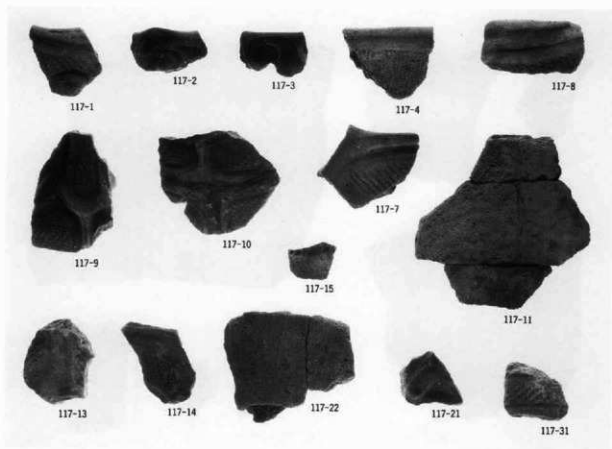


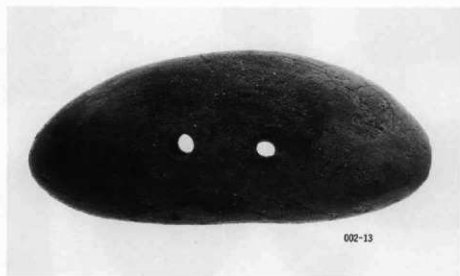
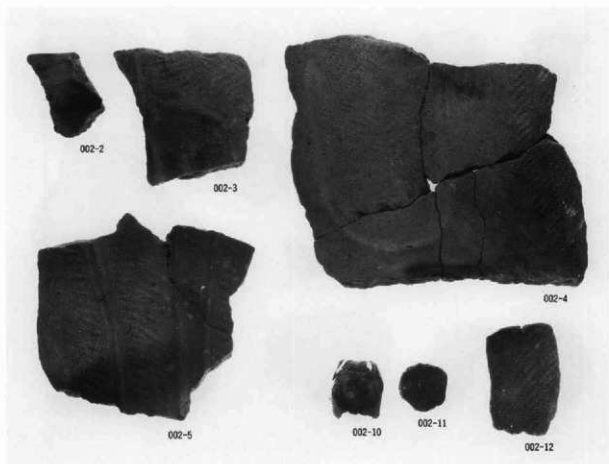














002-1



006-1



006-2



006-3



010-1



010-2



010-3



018-1



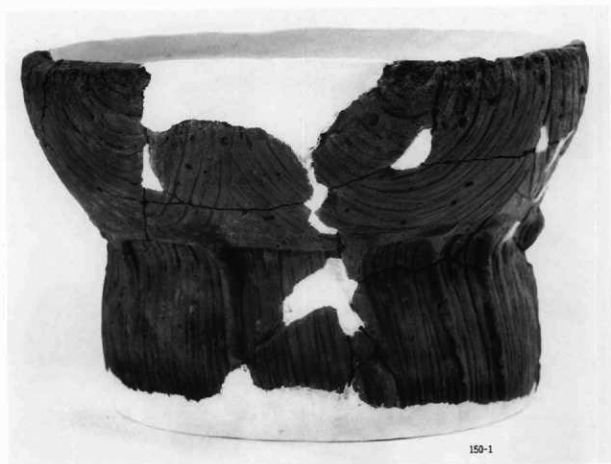
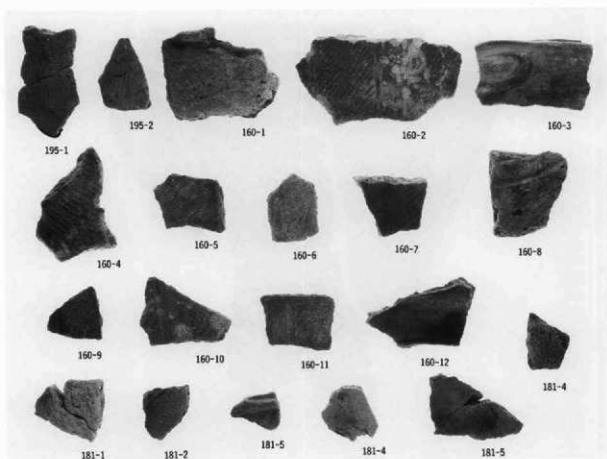
021-1

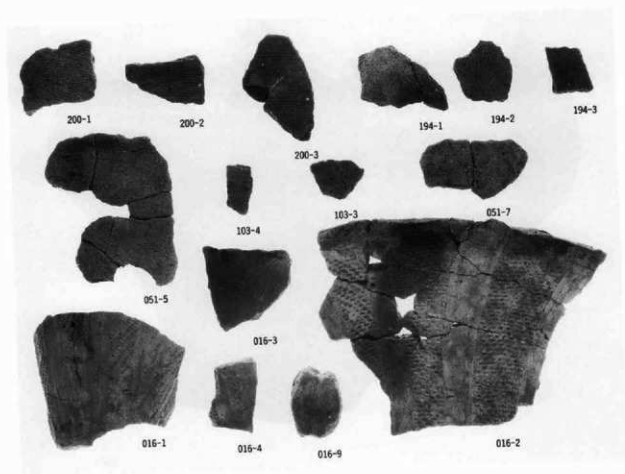
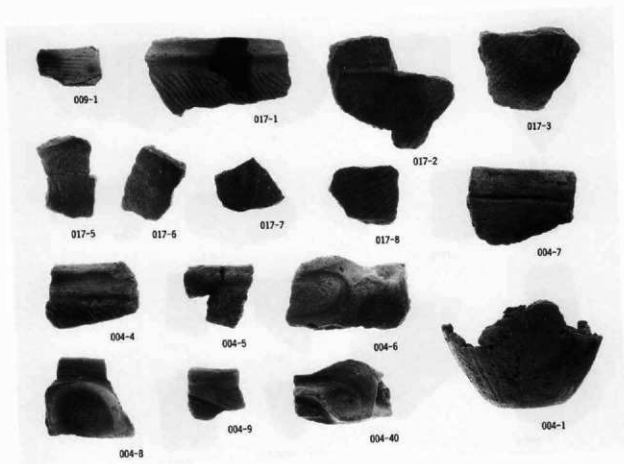


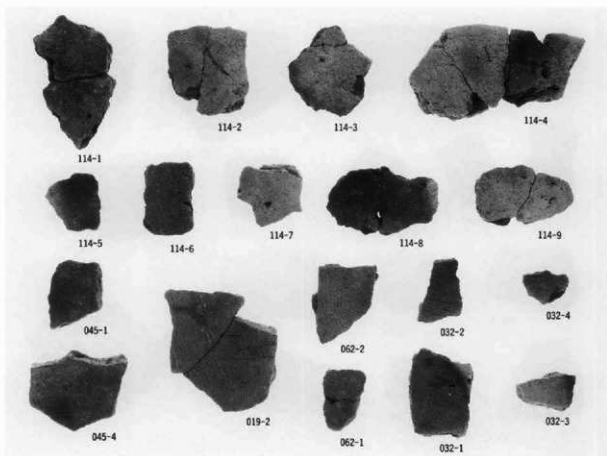
021-2

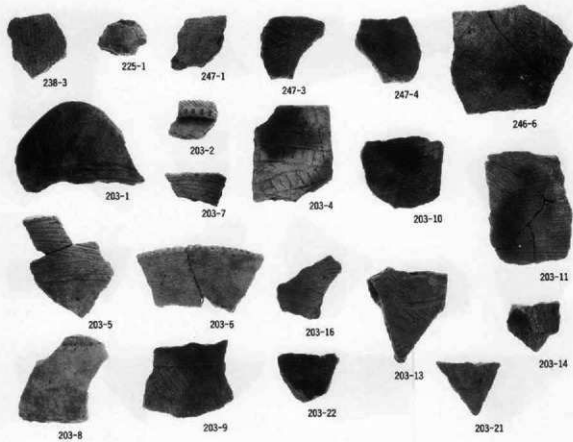


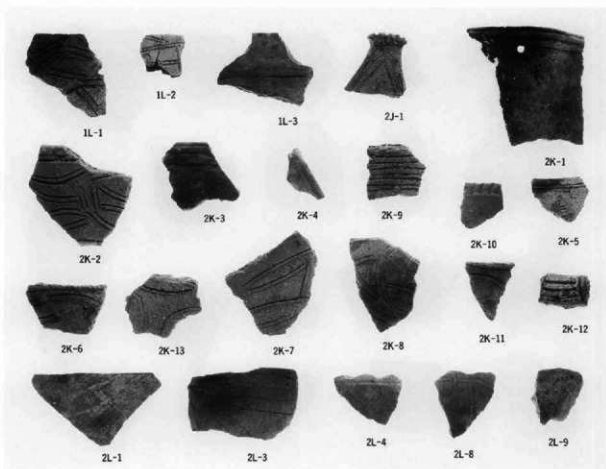
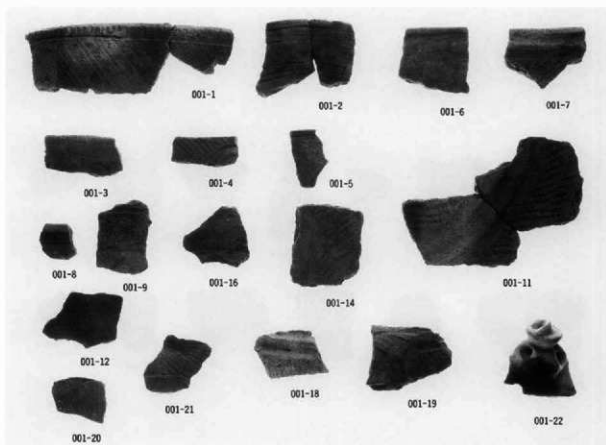
021-3

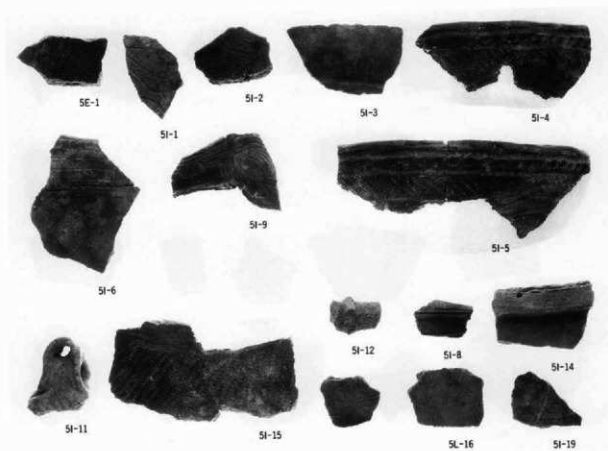
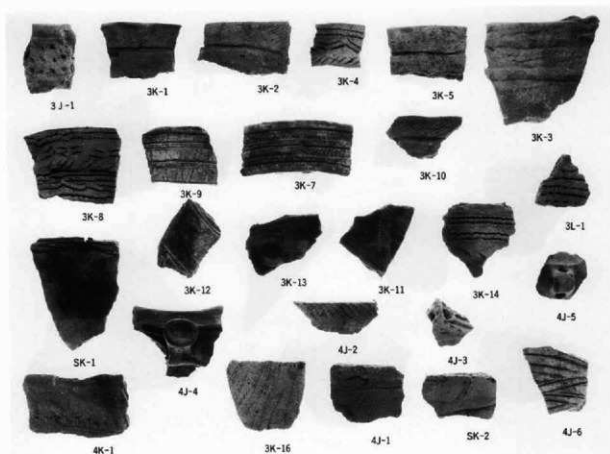


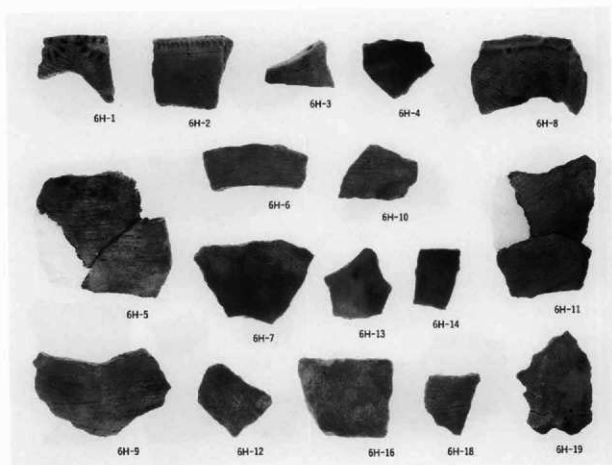
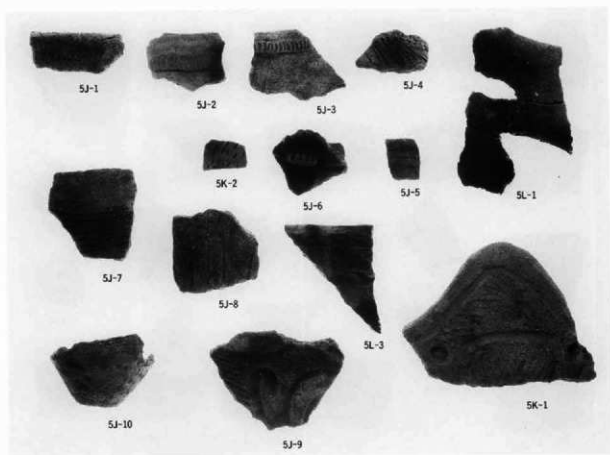


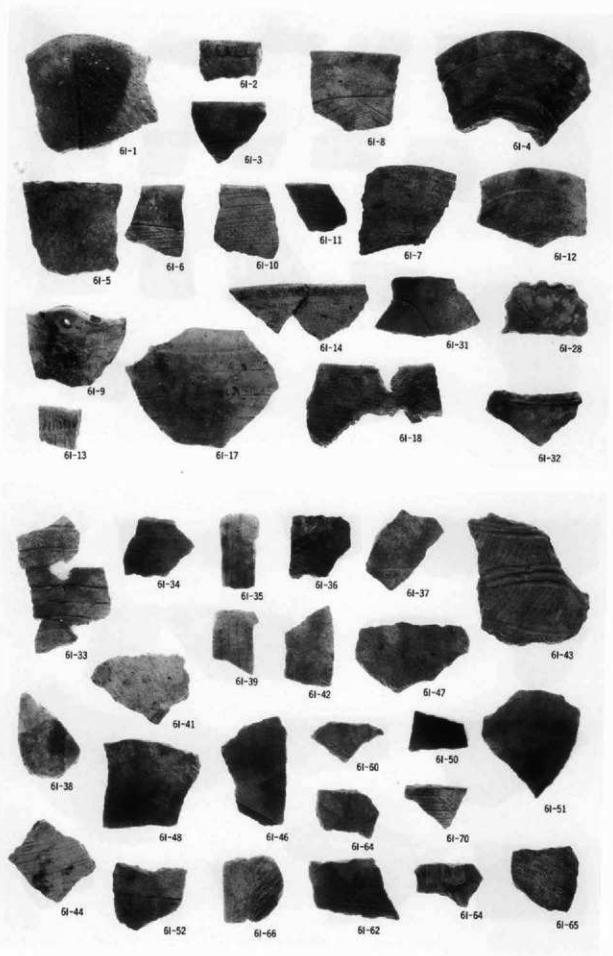


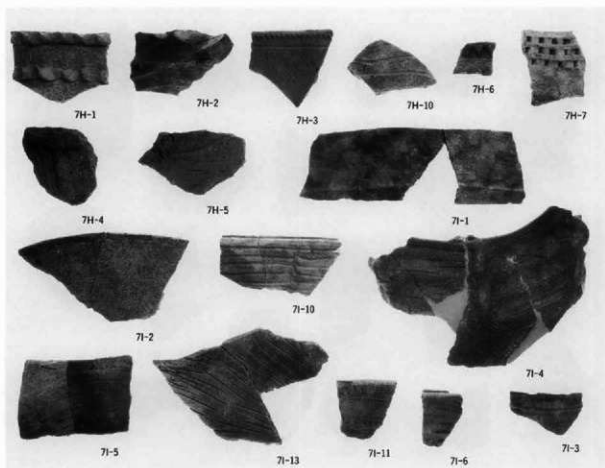
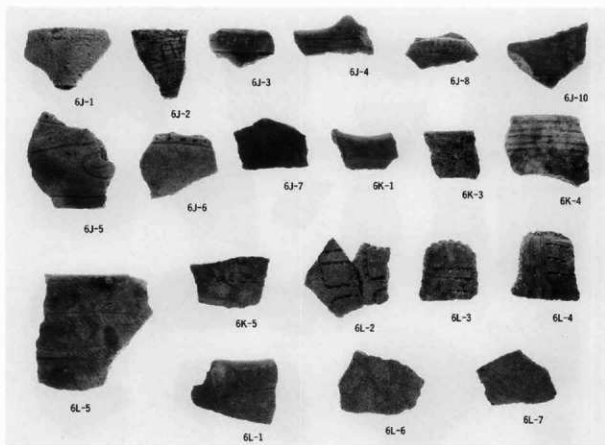


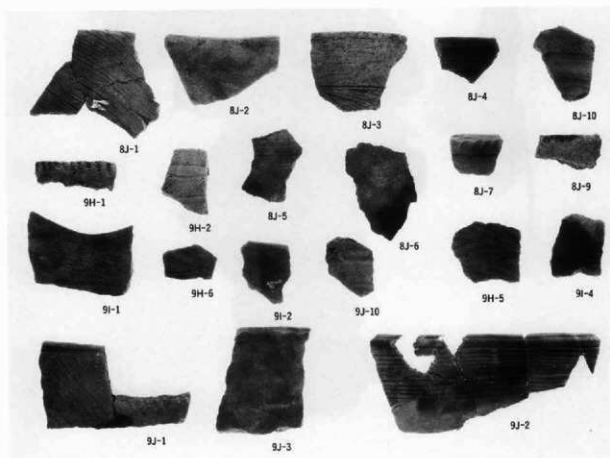
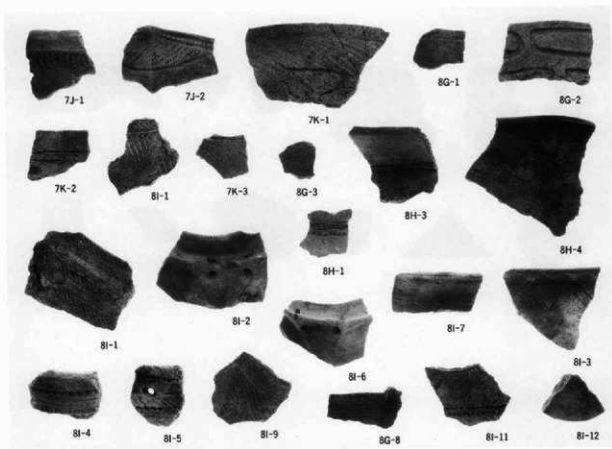


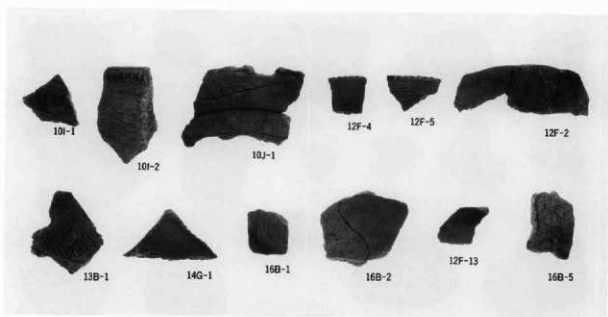










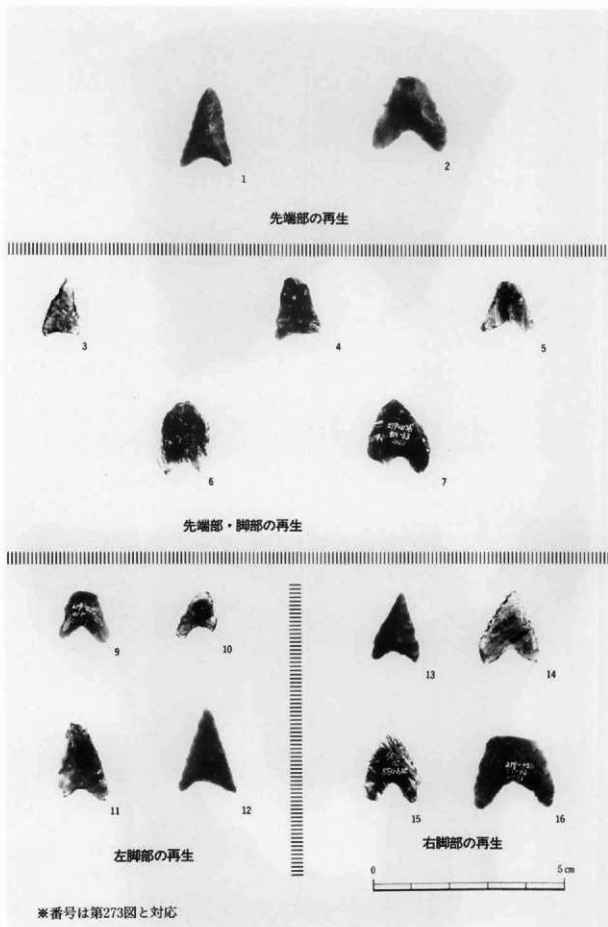


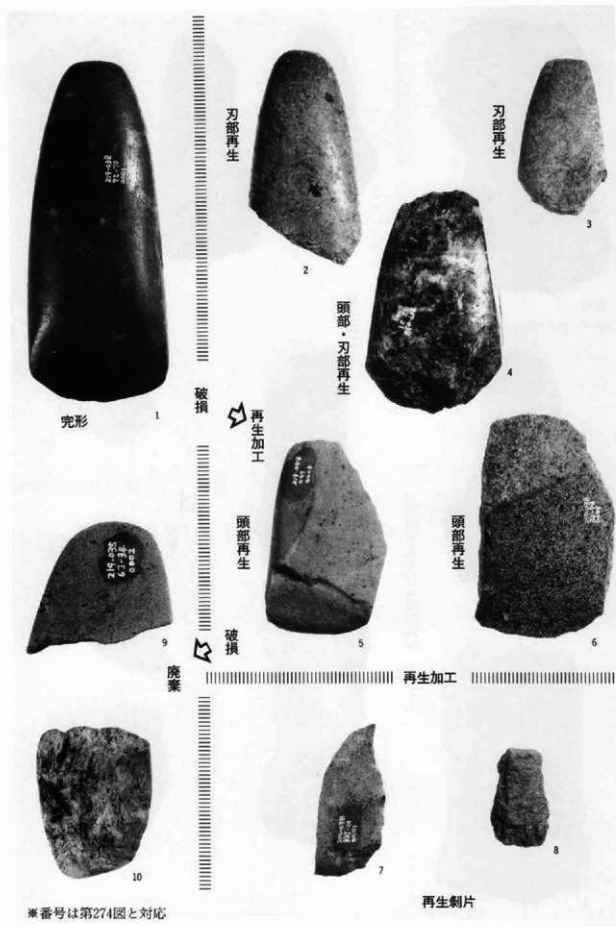


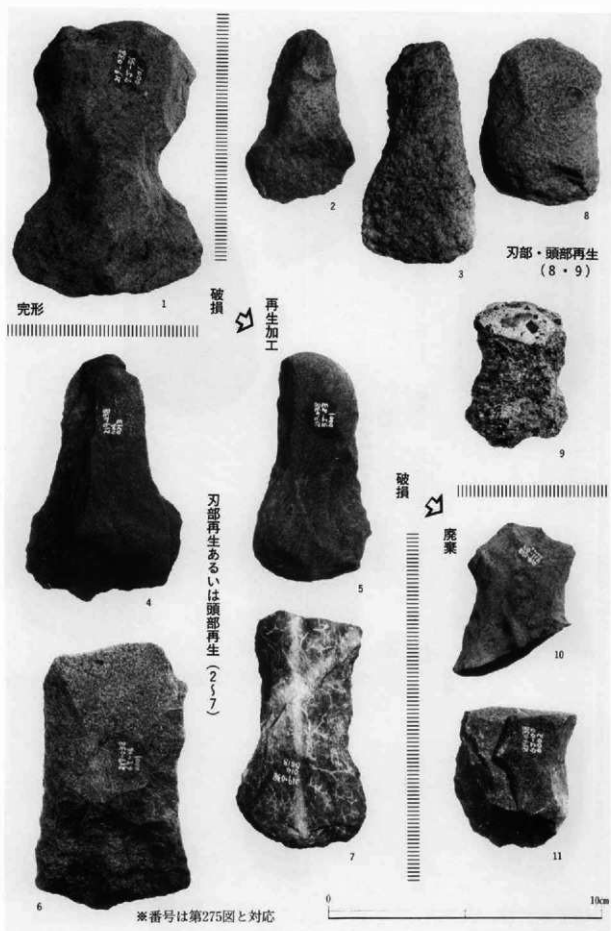
7K-4



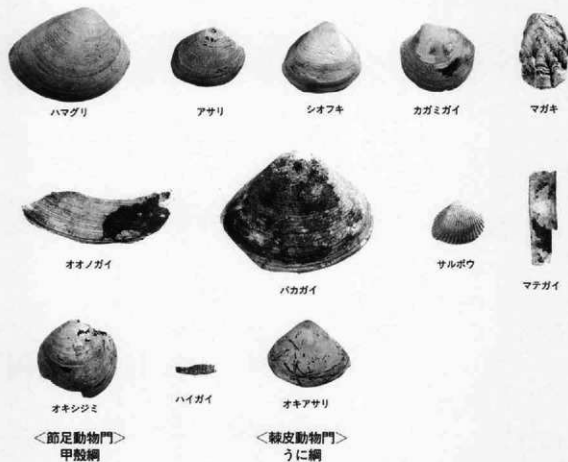
132-1







〈軟体動物門〉
腹足綱



貝層ブロック出土の自然遺物

報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう (ちば・ふつつせん) まいぞうふんかざいちょうきほうこくしょ							
書名	東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書1							
副書名	市原市海保野口遺跡							
巻次	1							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第335集							
編著者名	森本和男・新田浩三・川島利道							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2							
発行年	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かいほのくち 海保野口	ちばけんしげほのくち 千葉県市原市海保野口1,193-1ほか	219	038	35度 27分	140度 5分 14秒	19880501~ 19890331 19890401~ 19900331	9,000 9,500	道路(東関東自動車道)建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
海保野口	散布地 集落跡	旧石器	遺物集中地点 15か所		石刃、削器、撻器、 ナイフ形石器局部 磨製石斧		約310点の石器	
	墓 祭祀	縄文	炉穴	166基	縄文土器(早期・中期)・石器・大珠型土製品		竪穴住居跡、貯蔵穴に貝層が堆積していた	
			竪穴住居跡	16軒				
			貯蔵穴	28基				
			土壇	39基				
			埋壘	7基				
		奈良・平安	方形周溝状遺構	5基				
		近世	塚	1基				

千葉県文化財センター調査報告第335集

東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 1

－市原市海保野口遺跡－

平成10年3月31日発行

編	集	財団法人	千葉県文化財センター
発	行	日 本	道 路 公 団
			東京都港区虎ノ門1-18-1
		財団法人	千葉県文化財センター
			四街道市鹿渡809-2
印	刷	株式会社	弘 文 社
			市川市市川南2丁目7番2号
